

第二章 調査結果の概要

～単純集計結果をもとに～

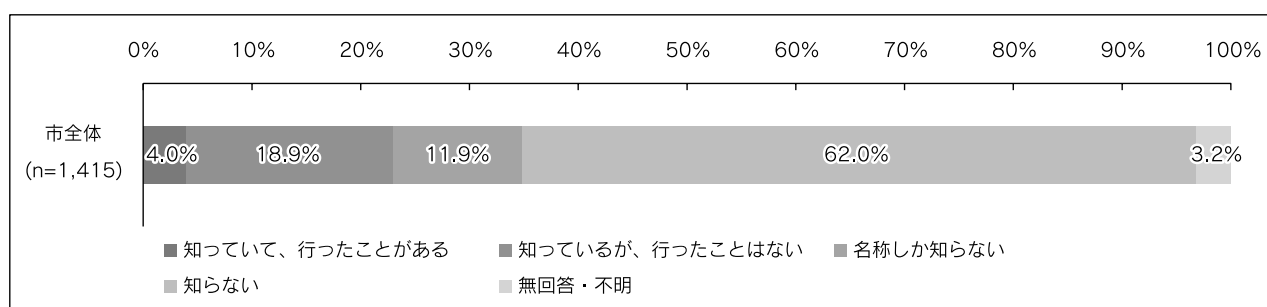
第二章 調査結果の概要～単純集計結果をもとに～

第1節 大分市の取組、宣言や法令等について

1 大分市の取組

問1 あなたは、2013年(平成25年)7月にJ:COMホルトホール大分1階に開館した「人権啓発センター(ヒューレおおいた)」をご存じですか。(○は1つだけ)

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

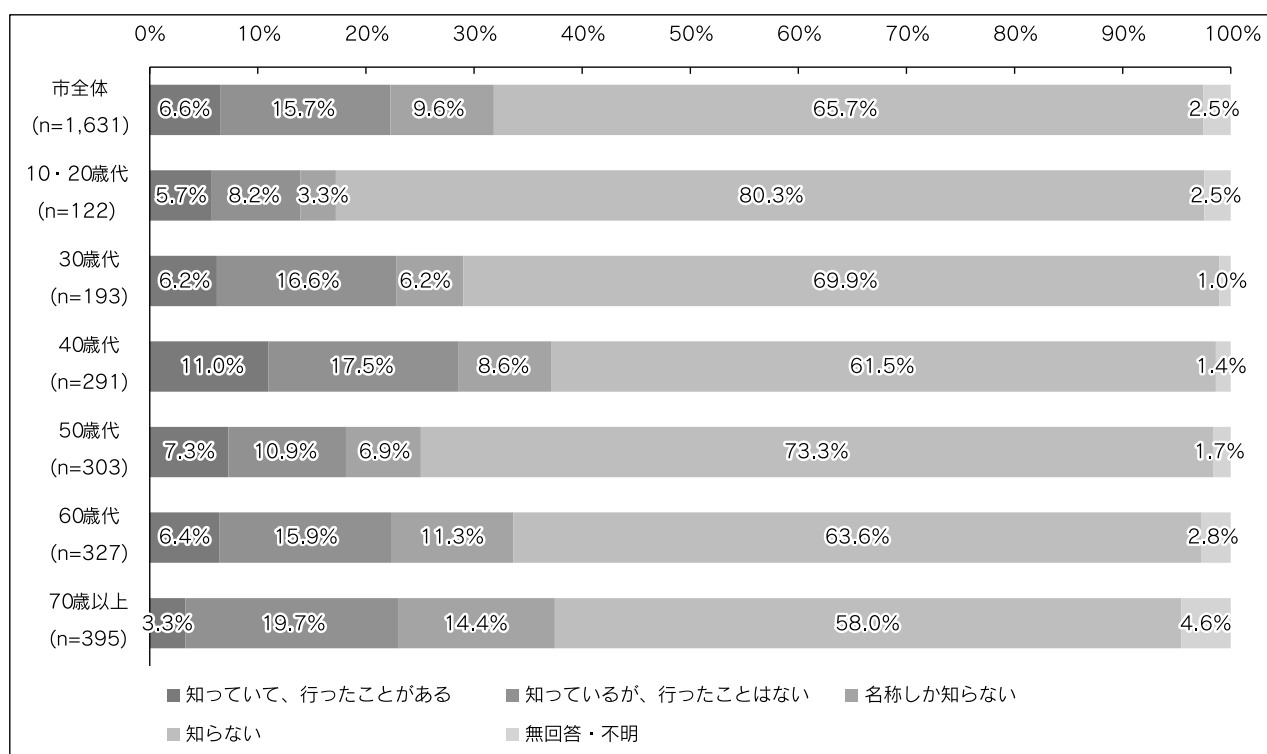


表2-1

		回答者数	知っていて、 行ったことがある	知っている が、行った ことはない	名称しか 知らない	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% (100.0)	107 6.6% (4.0)	256 15.7% (18.9)	156 9.6% (11.9)	1,071 65.7% (62.0)	41 2.5% (3.2)
性 別	男 性	637 100.0% (100.0)	40 6.3% (4.2)	86 13.5% (19.6)	59 9.3% (12.1)	439 68.9% (61.5)	13 2.0% (2.6)
	女 性	983 100.0% (100.0)	67 6.8% (4.0)	167 17.0% (18.5)	96 9.8% (11.8)	625 63.6% (62.3)	28 2.8% (3.5)
	そ の 他	11 100.0%	0 0.0%	3 27.3%	1 9.1%	7 63.6%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	122 100.0% (100.0)	7 5.7% (0.8)	10 8.2% (13.8)	4 3.3% (10.6)	98 80.3% (71.5)	3 2.5% (3.3)
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	12 6.2% (6.2)	32 16.6% (16.6)	12 6.2% (11.4)	135 69.9% (65.3)	2 1.0% (0.5)
	40 歳 代	291 100.0% (100.0)	32 11.0% (3.7)	51 17.5% (20.4)	25 8.6% (9.0)	179 61.5% (65.3)	4 1.4% (1.6)
	50 歳 代	303 100.0% (100.0)	22 7.3% (5.4)	33 10.9% (16.6)	21 6.9% (9.5)	222 73.3% (66.4)	5 1.7% (2.1)
	60 歳 代	327 100.0% (100.0)	21 6.4% (3.0)	52 15.9% (22.7)	37 11.3% (11.5)	208 63.6% (59.5)	9 2.8% (3.3)
	70 歳 以上	395 100.0% (100.0)	13 3.3% (4.3)	78 19.7% (19.1)	57 14.4% (17.7)	229 58.0% (51.8)	18 4.6% (7.1)

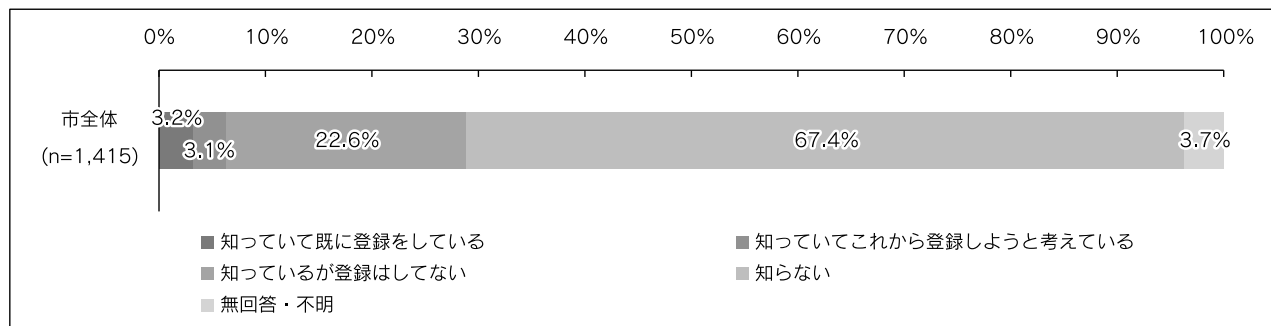
「人権啓発センター（ヒューレおおいた）」の認知度は、「知らない」が65.7%であることから、約3人に1人は「知っている」ということになります。「知っていて、行ったことがある」は6.6%で、前回調査と比較すると2.6ポイント高くなっています。

本センターは、2013年（平成25年）7月にJ:COMホルトホール大分1階に開設されました。開設以来、年間約5万人（累計、約36万人 ※2021年（令和3年）6月現在）が訪れています。また、高齢者や妊婦の擬似体験活動やバリアフリー施設見学、講話などを基にした体験的な人権学習の受け入れ事業を行うことで、毎年、市内全ての小・中学生など、約8千人（累計、約6万人 ※2021年（令和3年）6月現在）が訪れています。さらには、企業や各種団体が同様に活用する機会も増えています。

人権問題に関する常設・特別展示、図書・DVDの貸出、各種講座や講演会の実施、人権相談など、本センターは本市の人権・同和教育及び啓発の拠点施設として、人権に関する学習・交流の場として役割を果たしていることから、今後も多くの人に活用していただけるようにあらゆる機会を通じて周知を図っていくことが大切です。

問2 あなたは、2012年（平成24年）10月から大分市で始まった「本人通知制度」をご存じですか。（○は1つだけ）

前回調査（2015）



今回調査（2020）

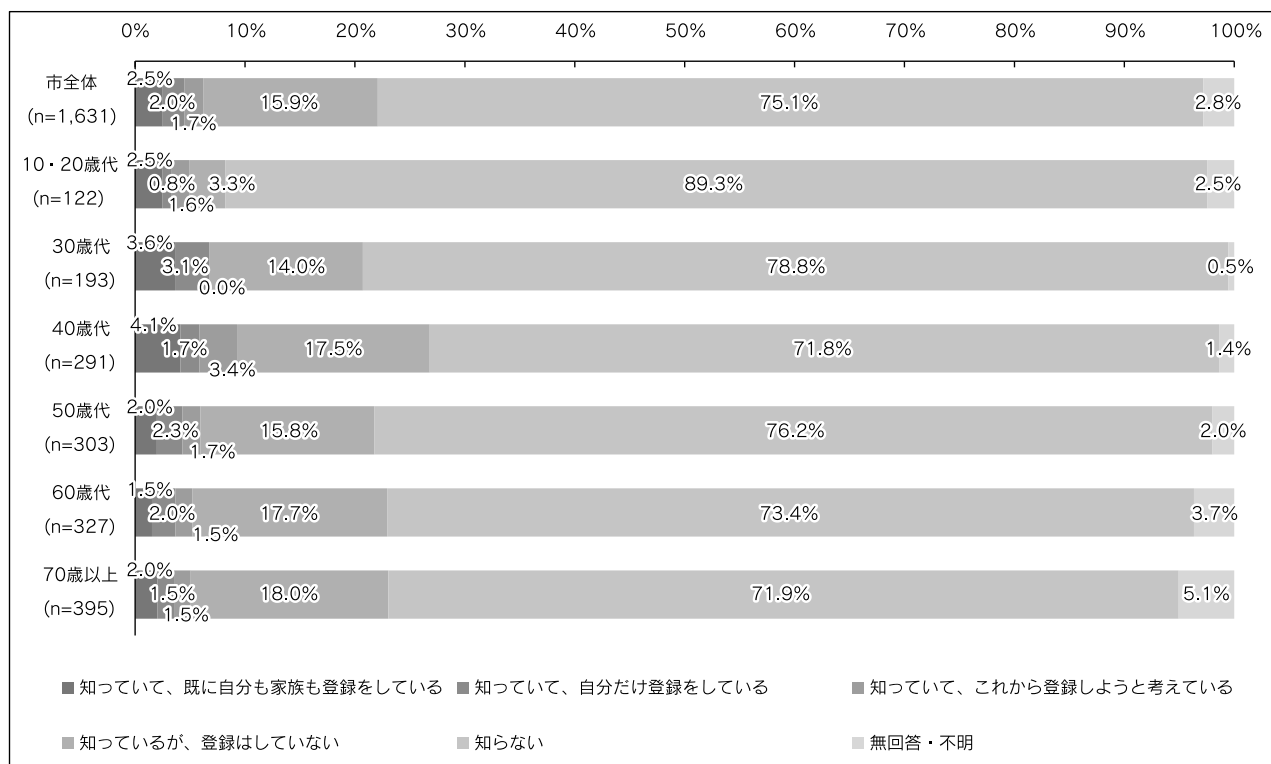


表2-2

		回答者数	知っていて、 既に自分も家 族も登録をし ている	知っていて、 自分だけ登録 をしている	知っていて、 これから登録 しようと思っ ている	知っている が、登録は していない	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% (100.0)	41 2.5%	32 2.0% (3.2)	28 1.7% (3.1)	259 15.9% (22.6)	1,225 75.1% (67.4)	46 2.8% (3.7)
性 別	男 性	637 100.0% (100.0)	16 2.5%	14 2.2% (4.2)	7 1.1% (3.2)	88 13.8% (22.8)	498 78.2% (67.2)	14 2.2% (2.6)
	女 性	983 100.0% (100.0)	24 2.4%	17 1.7% (2.6)	21 2.1% (3.1)	170 17.3% (22.5)	719 73.1% (67.6)	32 3.3% (4.3)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	8 72.7%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	122 100.0% (100.0)	3 2.5%	1 0.8% (2.4)	2 1.6% (1.6)	4 3.3% (14.6)	109 89.3% (78.0)	3 2.5% (3.3)
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	7 3.6%	6 3.1% (4.1)	0 0.0% (2.1)	27 14.0% (21.2)	152 78.8% (72.0)	1 0.5% (0.5)
	40 歳 代	291 100.0% (100.0)	12 4.1%	5 1.7% (1.2)	10 3.4% (3.3)	51 17.5% (20.0)	209 71.8% (73.5)	4 1.4% (2.0)
	50 歳 代	303 100.0% (100.0)	6 2.0%	7 2.3% (4.6)	5 1.7% (4.1)	48 15.8% (17.4)	231 76.2% (71.4)	6 2.0% (2.5)
	60 歳 代	327 100.0% (100.0)	5 1.5%	7 2.1% (2.7)	5 1.5% (3.6)	58 17.7% (27.8)	240 73.4% (62.2)	12 3.7% (3.6)
	70歳以上	395 100.0% (100.0)	8 2.0%	6 1.5% (3.9)	6 1.5% (2.8)	71 18.0% (27.7)	284 71.9% (57.1)	20 5.1% (8.5)

「本人通知制度」の認知度や登録状況は、「知っていて、既に自分も家族も登録をしている」2.5%、「知っていて、自分だけ登録をしている」2.0%を合わせると4.5%で、前回調査と比較すると若干高くなっています。「知らない」は75.1%で、前回調査と比較すると7.7ポイント高くなっており、多くの人がまだこの制度を知らないことがわかります。

大分市では、2012年（平成24年）10月から戸籍謄本や住民票の写しなどの不正請求の早期発見や、個人情報の不正利用の防止・抑制を目的とした「登録型本人通知制度」を開始しました。個人情報の不正利用から身を守り、差別につながる身元調査を未然に抑止する力を高める意味でも今後、制度とその趣旨について機会を捉えた更なる周知が求められます。

2 人権に関する宣言や法令などの認知度

問3 人権に関する宣言や法令等についてお答えください。

(1) あなたは、2016年（平成28年）に施行された差別をなくすための法律についてご存じですか。次のア～ウについてお答えください。（○はそれぞれ1つ）

※この設問は、前回調査にはありません。

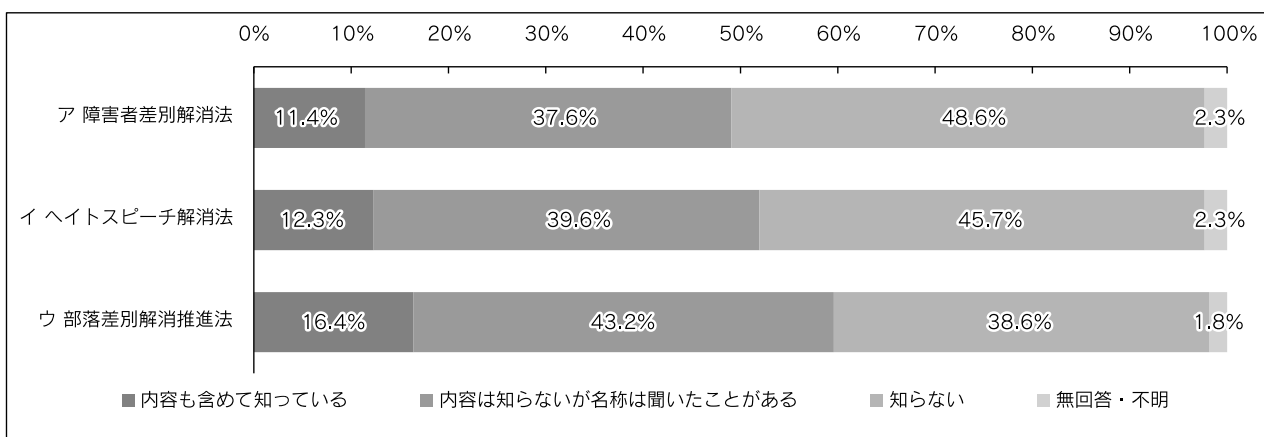


表2-3

	回答者数	内容も含めて知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
ア 障害者差別解消法 (障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)	1,631 100.0%	186 11.4%	614 37.6%	793 48.6%	38 2.3%
イ ヘイトスピーチ解消法 (本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律)	1,631 100.0%	201 12.3%	646 39.6%	746 45.7%	38 2.3%
ウ 部落差別解消推進法 (部落差別の解消の推進に関する法律)	1,631 100.0%	267 16.4%	704 43.2%	630 38.6%	30 1.8%

2016年（平成28年）に施行されたいわゆる「差別解消三法」の認知度は、「内容も含めて知っている」「内容は知らないが名称は聞いたことがある」を合わせた割合の高い順に「ウ 部落差別解消推進法」59.6%、「イ ヘイトスピーチ解消法」51.9%、「ア 障害者差別解消法」49.0%となっています。三法とも、約半数が認知していることになります。今後も、機会をとらえて法の周知のみならず目的や趣旨等を継続的に周知して、「内容も含めて知っている」の割合を高めていくことが大切です。

ア 障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）

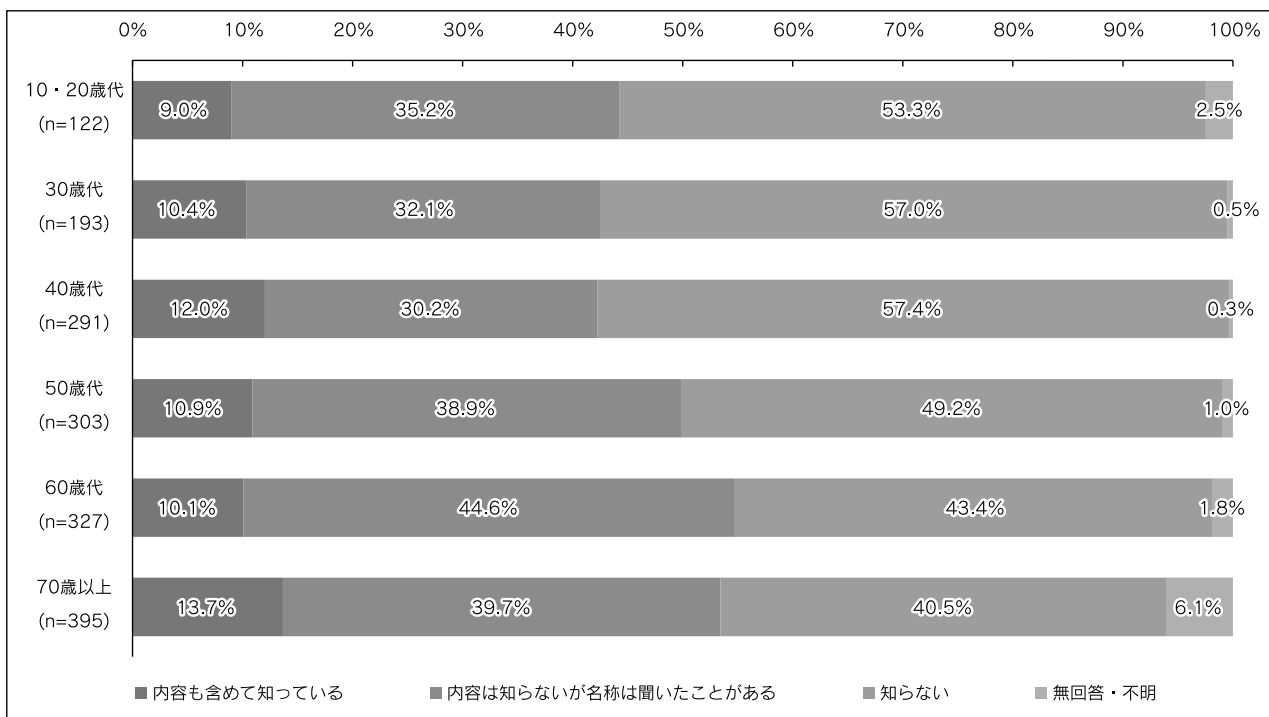
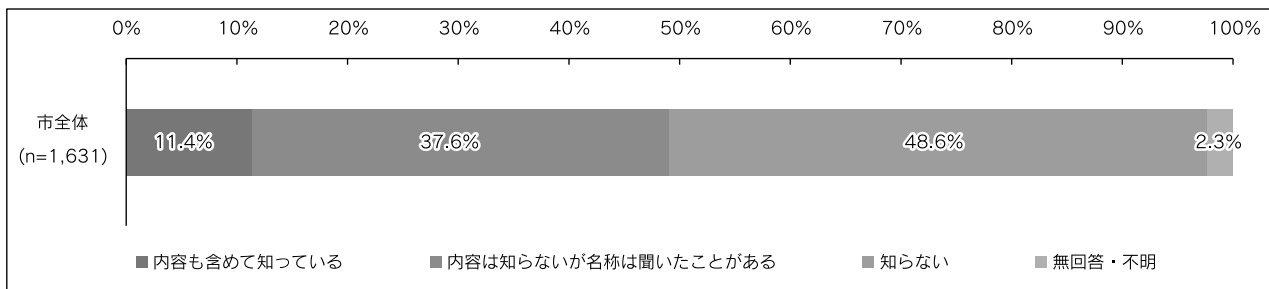


表2-4

		回答者数	内容も含めて知っている	内容は知らないが名称は聞いたことがある	知らない	無回答・不明
市全体		1,631 100.0%	186 11.4%	614 37.6%	793 48.6%	38 2.3%
性別	男性	637 100.0%	72 11.3%	229 35.9%	329 51.6%	7 1.1%
	女性	983 100.0%	114 11.6%	382 38.9%	457 46.5%	30 3.1%
	その他	11 100.0%	0 0.0%	3 27.3%	7 63.6%	1 9.1%
年齢別	10歳代	122	11	43	65	3
	20歳代	100.0%	9.0%	35.2%	53.3%	2.5%
	30歳代	193 100.0%	20 10.4%	62 32.1%	110 57.0%	1 0.5%
	40歳代	291 100.0%	35 12.0%	88 30.2%	167 57.4%	1 0.3%
	50歳代	303 100.0%	33 10.9%	118 38.9%	149 49.2%	3 1.0%
	60歳代	327 100.0%	33 10.1%	146 44.6%	142 43.4%	6 1.8%
	70歳以上	395 100.0%	54 13.7%	157 39.7%	160 40.5%	24 6.1%

「内容も含めて知っている」11.4%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」37.6%を合わせた割合は、49.0%となっています。

障害者差別解消法は、2016年（平成28年）4月に施行されました。障がいをもつ人を理由とする差別を禁止する対策を定めており、不当な差別的取扱いの禁止と合理的配慮の提供を求めています。障がいのある人もない人も互いがその人らしさを認め合いながら共に生きる社会を実現するために、今後も継続的な法律の周知が必要です。

イ ヘイトスピーチ解消法（本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律）

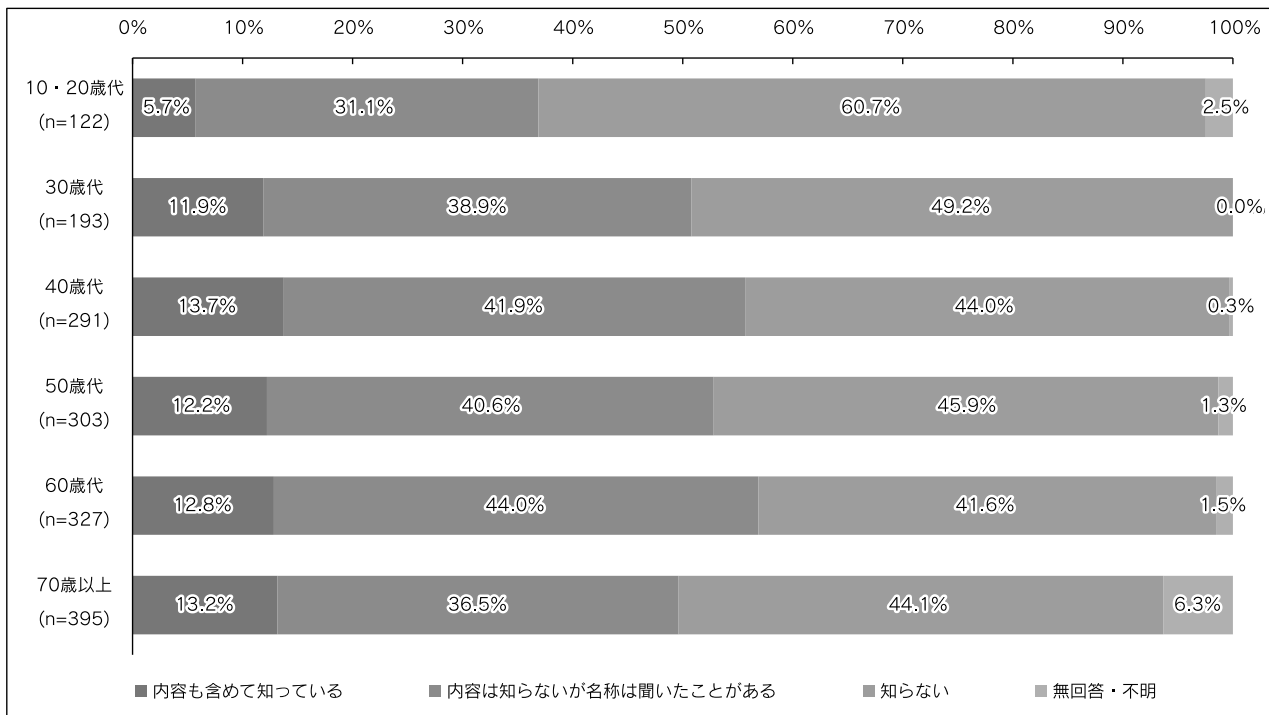
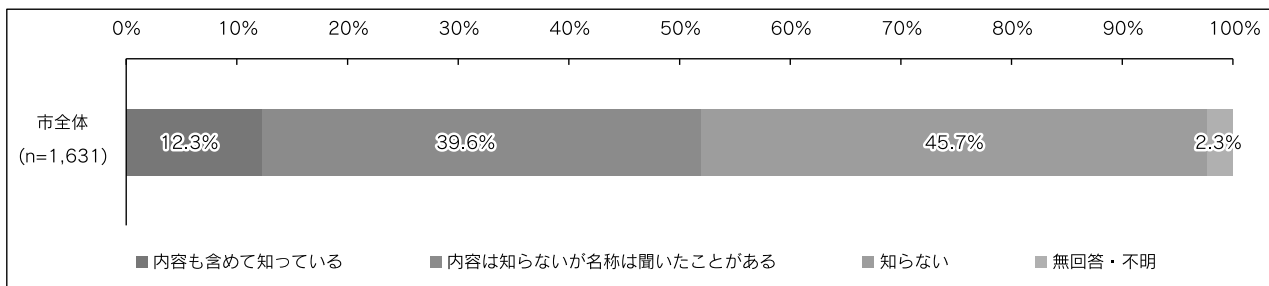


表2-5

		回 答 者 数	内容も含めて 知っている	内容は知らない が名称は聞いた ことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0%	201 12.3%	646 39.6%	746 45.7%	38 2.3%
性 別	男 性	637 100.0%	93 14.6%	267 41.9%	271 42.5%	6 0.9%
	女 性	983 100.0%	107 10.9%	374 38.0%	471 47.9%	31 3.2%
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	5 45.5%	4 36.4%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	7 5.7%	38 31.1%	74 60.7%	3 2.5%
	20 歳 代	193 100.0%	23 11.9%	75 38.9%	95 49.2%	0 0.0%
	30 歳 代	291 100.0%	40 13.7%	122 41.9%	128 44.0%	1 0.3%
	40 歳 代	303 100.0%	37 12.2%	123 40.6%	139 45.9%	4 1.3%
	50 歳 代	327 100.0%	42 12.8%	144 44.0%	136 41.6%	5 1.5%
	60 歳 代	395 100.0%	52 13.2%	144 36.5%	174 44.1%	25 6.3%

「内容も含めて知っている」12.3%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」39.6%を合わせた割合は、51.9%となっています。

ヘイトスピーチ解消法は、2016年（平成28年）6月に施行されました。特定の人種や民族を地域社会から排斥することを扇動するヘイトスピーチやインターネット上の差別的な書き込みを解消することを目的としています。互いの文化や習慣などを理解し、誰もが暮らしやすい多文化共生の社会を築くために、今後も継続的な法律の周知が必要です。

ウ 部落差別解消推進法（部落差別の解消の推進に関する法律）

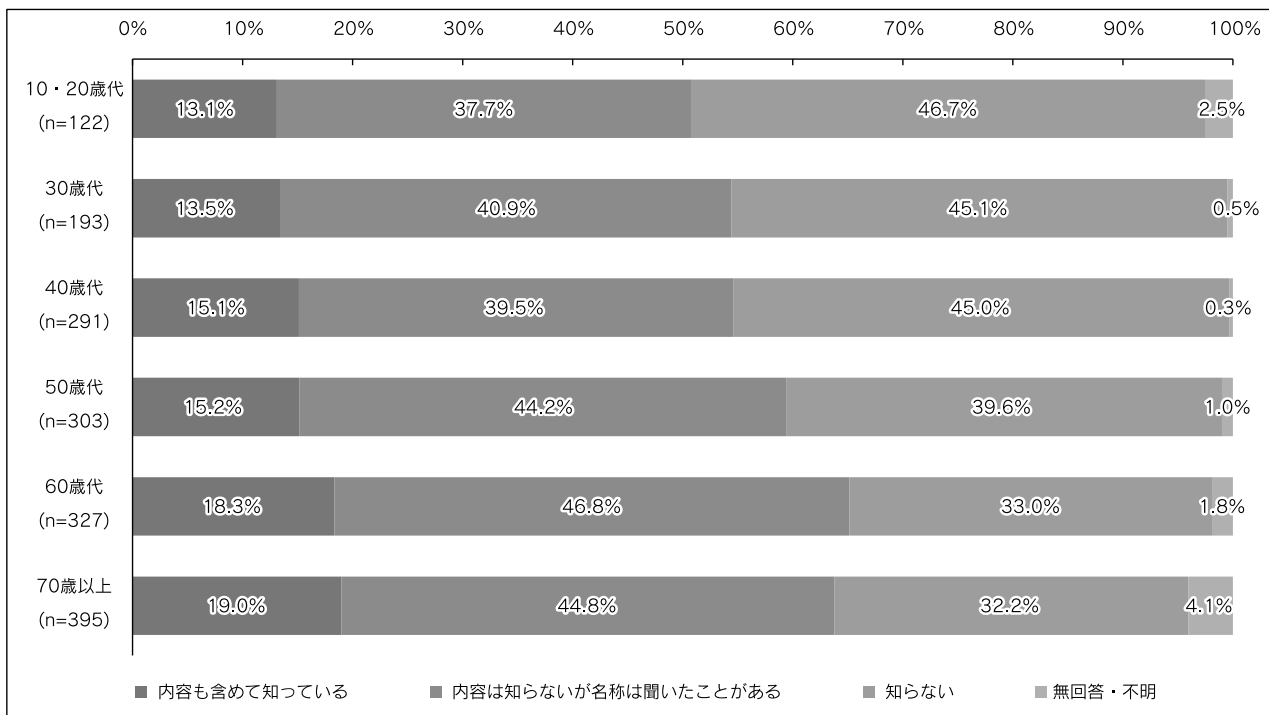
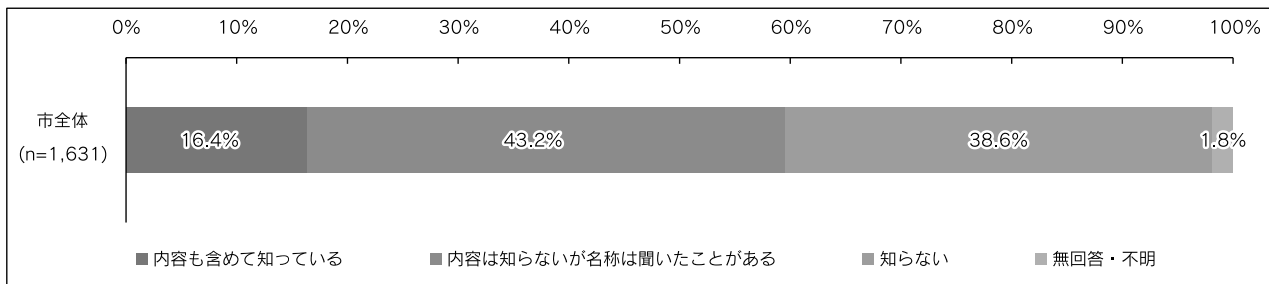


表2-6

		回 答 者 数	内容も含めて 知っている	内容は知らない が名称は聞いた ことがある	知らない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0%	267 16.4%	704 43.2%	630 38.6%	30 1.8%
性 別	男 性	637 100.0%	108 17.0%	264 41.4%	261 41.0%	4 0.6%
	女 性	983 100.0%	158 16.1%	435 44.3%	365 37.1%	25 2.5%
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	5 45.5%	4 36.4%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122	16	46	57	3
	20 歳 代	100.0%	13.1%	37.7%	46.7%	2.5%
	30 歳 代	193 100.0%	26 13.5%	79 40.9%	87 45.1%	1 0.5%
	40 歳 代	291 100.0%	44 15.1%	115 39.5%	131 45.0%	1 0.3%
	50 歳 代	303 100.0%	46 15.2%	134 44.2%	120 39.6%	3 1.0%
	60 歳 代	327 100.0%	60 18.3%	153 46.8%	108 33.0%	6 1.8%
	70 歳 以上	395 100.0%	75 19.0%	177 44.8%	127 32.2%	16 4.1%

「内容も含めて知っている」16.4%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」43.2%を合わせた割合は、59.6%となっています。

部落差別解消推進法は、2016年（平成28年）12月に施行されました。「現在もなお部落差別が存在する」との認識を示し、「基本的人権を保障する憲法の理念にのっとり、部落差別は許されない。解消することが重要な課題」としています。また、地方自治体の責務として、国と連携し、相談体制の充実や教育・啓発、実態調査等、部落差別の解消に向けて努めることとしています。

部落差別の解消を推進し部落差別のない社会を実現するため、今後も継続的な法律の周知が必要です。

問3 人権に関する宣言や法令等についてお答えください。

(2) あなたは、人権に関する宣言や法令等についてご存じですか。

次のア～ケについてお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

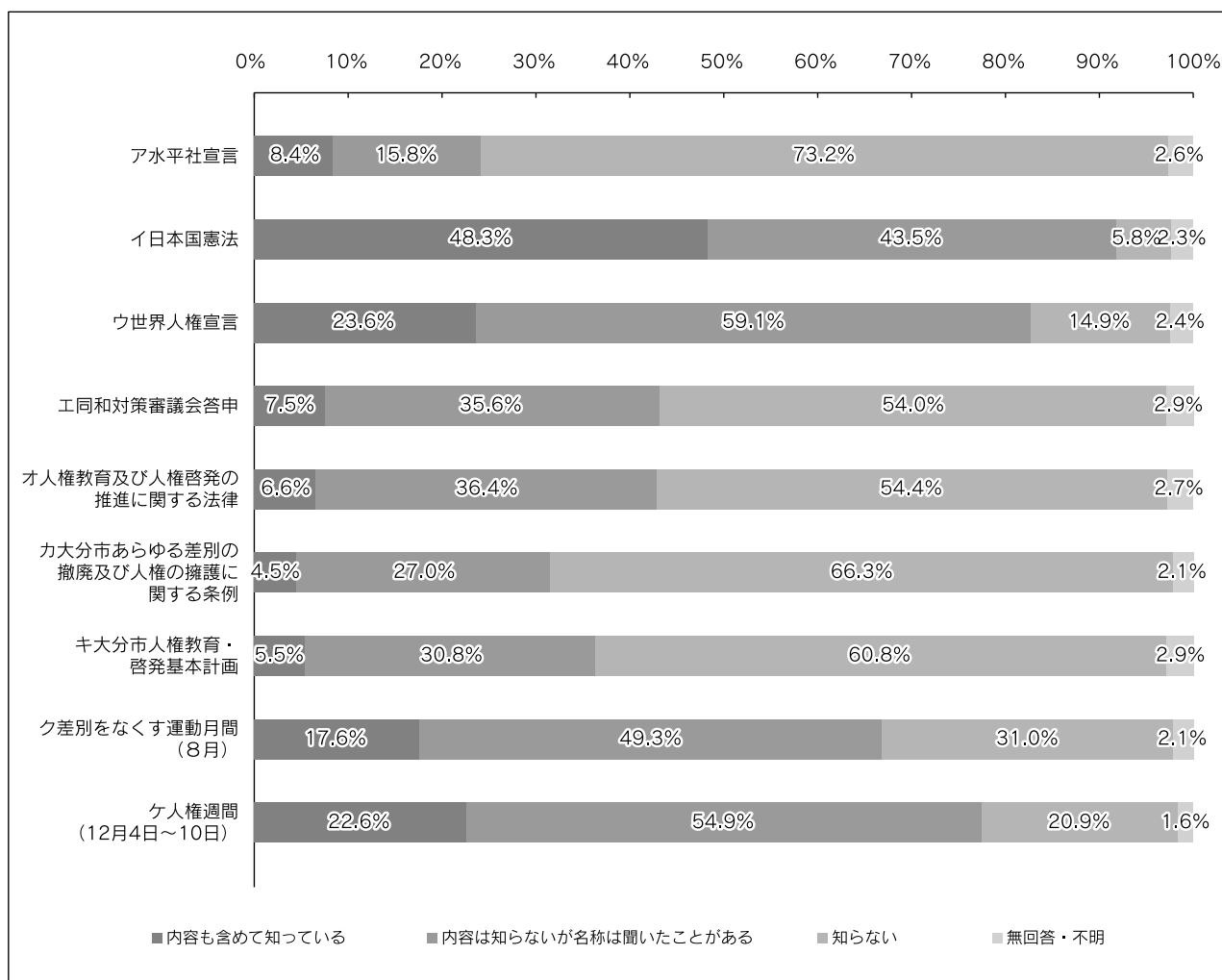


表2-7

	回 答 者 数	内容も含めて 知っている	内容は知ら ないが名称 は聞いたこ とがある	知らない	無回答・不明
ア 水平社宣言	1,631 100.0% 100.0%	137 8.4% (10.4)	257 15.8% (16.1)	1,194 73.2% (69.5)	43 2.6% (4.0)
イ 日本国憲法	1,631 100.0% 100.0%	788 48.3% (68.6)	710 43.5% (24.4)	95 5.8% (4.0)	38 2.3% (3.1)
ウ 世界人権宣言	1,631 100.0% 100.0%	385 23.6% (33.4)	964 59.1% (50.7)	243 14.9% (12.2)	39 2.4% (3.7)
エ 同和対策審議会答申	1,631 100.0% 100.0%	123 7.5% (14.6)	581 35.6% (33.7)	880 54.0% (47.8)	47 2.9% (3.8)
オ 人権教育及び人権啓発の 推進に関する法律	1,631 100.0% 100.0%	107 6.6% (8.7)	593 36.4% (30.2)	887 54.4% (57.5)	44 2.7% (3.6)
カ 大分市あらゆる差別の撤廃 及び人権の擁護に関する条例	1,631 100.0% 100.0%	74 4.5% (6.8)	441 27.0% (28.0)	1,081 66.3% (61.7)	35 2.1% (3.5)
キ 大分市人権教育・啓発基本 計画	1,631 100.0% 100.0%	89 5.5% (8.0)	503 30.8% (31.1)	992 60.8% (56.7)	47 2.9% (4.2)
ク 差別をなくす運動月間(8月)	1,631 100.0% 100.0%	287 17.6% (30.6)	804 49.3% (35.7)	505 31.0% (30.7)	35 2.1% (3.0)
ケ 人権週間(12月4日～10日)	1,631 100.0% 100.0%	368 22.6% (41.8)	896 54.9% (38.4)	341 20.9% (16.2)	26 1.6% (3.6)

※前回調査(2015)では、設問が「内容も含めて知っている」ではなく、「知っている」と聞いています。

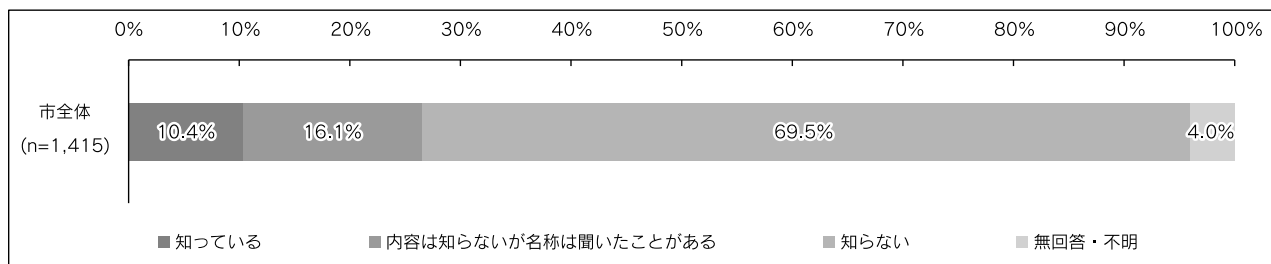
宣言や法令では、「内容も含めて知っている」「内容は知らないが名称は聞いたことがある」を合わせた割合の高い順に、「イ 日本国憲法」91.8%、「ウ 世界人権宣言」82.7%、「エ 同和対策審議会答申」43.1%となっています。

大分市の条例や計画については、「キ 大分市人権教育・啓発基本計画」36.3%、「カ 大分市あらゆる差別の撤廃及び人権の擁護に関する条例」31.5%となっています。

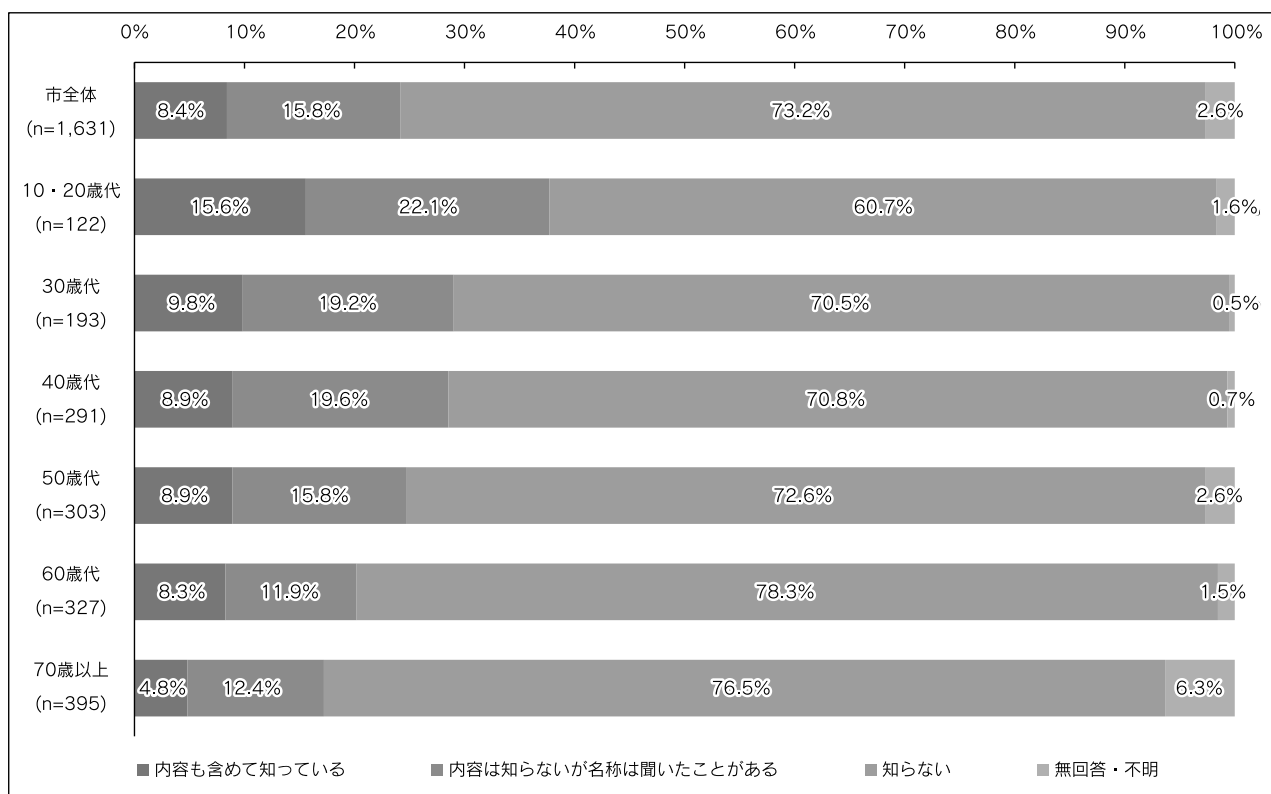
また、「ケ 人権週間(12月4日～10日)」は77.5%、「ク 差別をなくす運動月間(8月)」は66.9%となっています。

ア 水平社宣言 [1922年 (大正11年)]

前回調査 (2015)



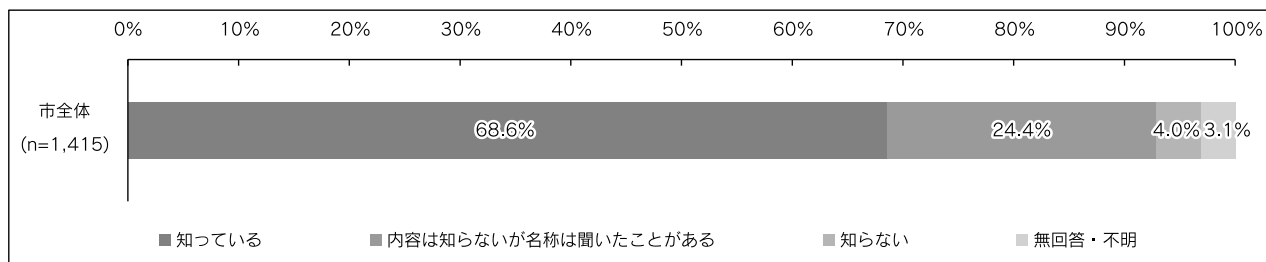
今回調査 (2020)



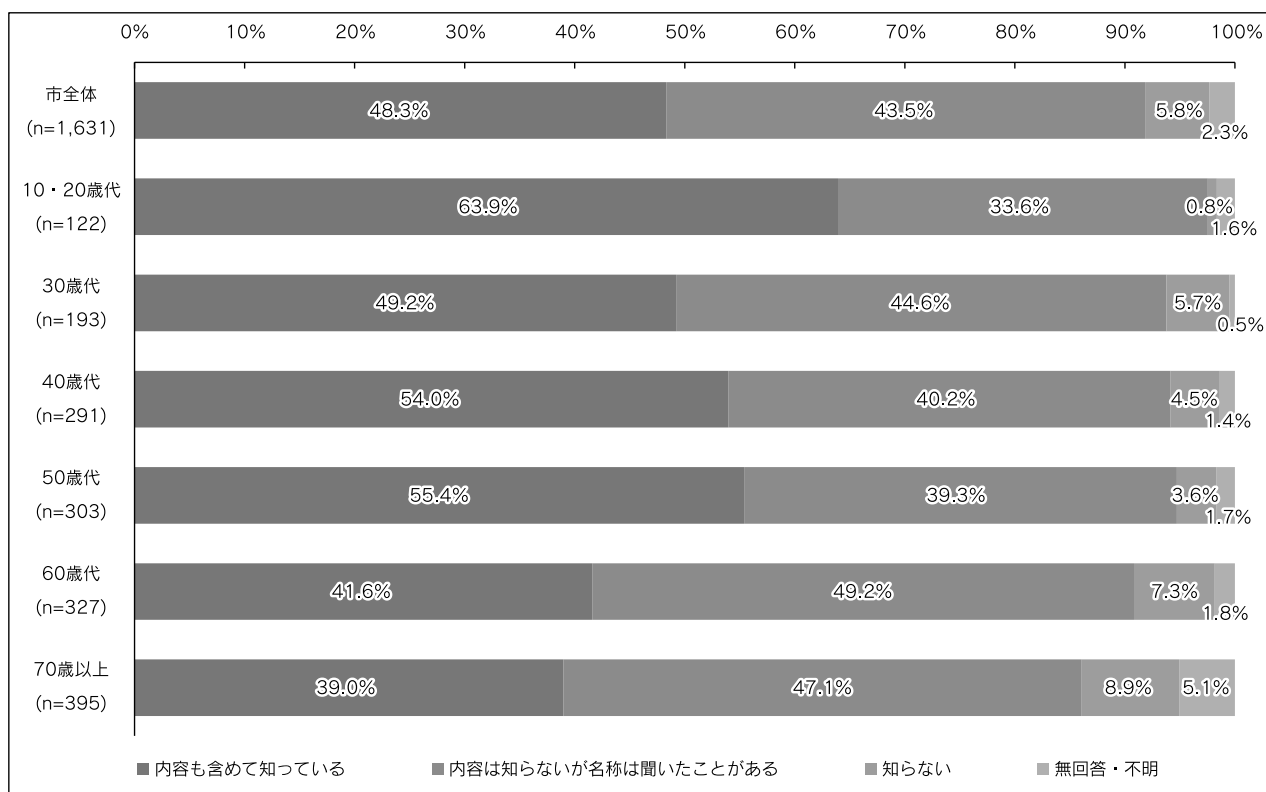
「内容も含めて知っている」8.4%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」15.8%を合わせた割合は、24.2%となっています。年齢別にみると、「内容も含めて知っている」は、10歳代・20歳代が最も割合が高くなっていることから学校教育の成果が出ていると考えることができます。

イ 日本国憲法 [1947年（昭和22年）]

前回調査（2015）



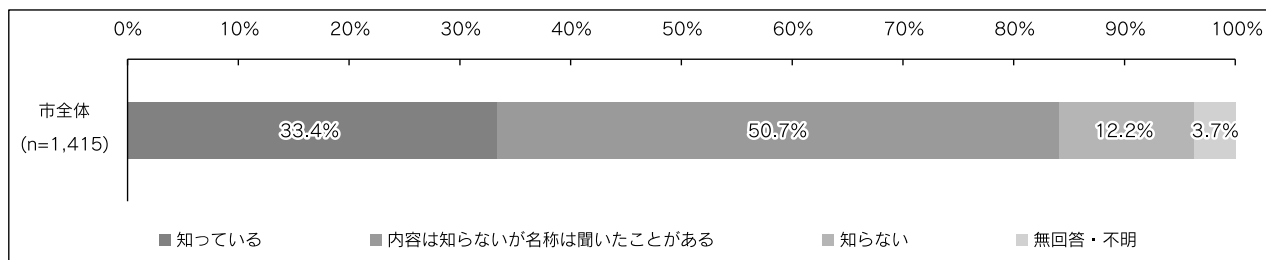
今回調査（2020）



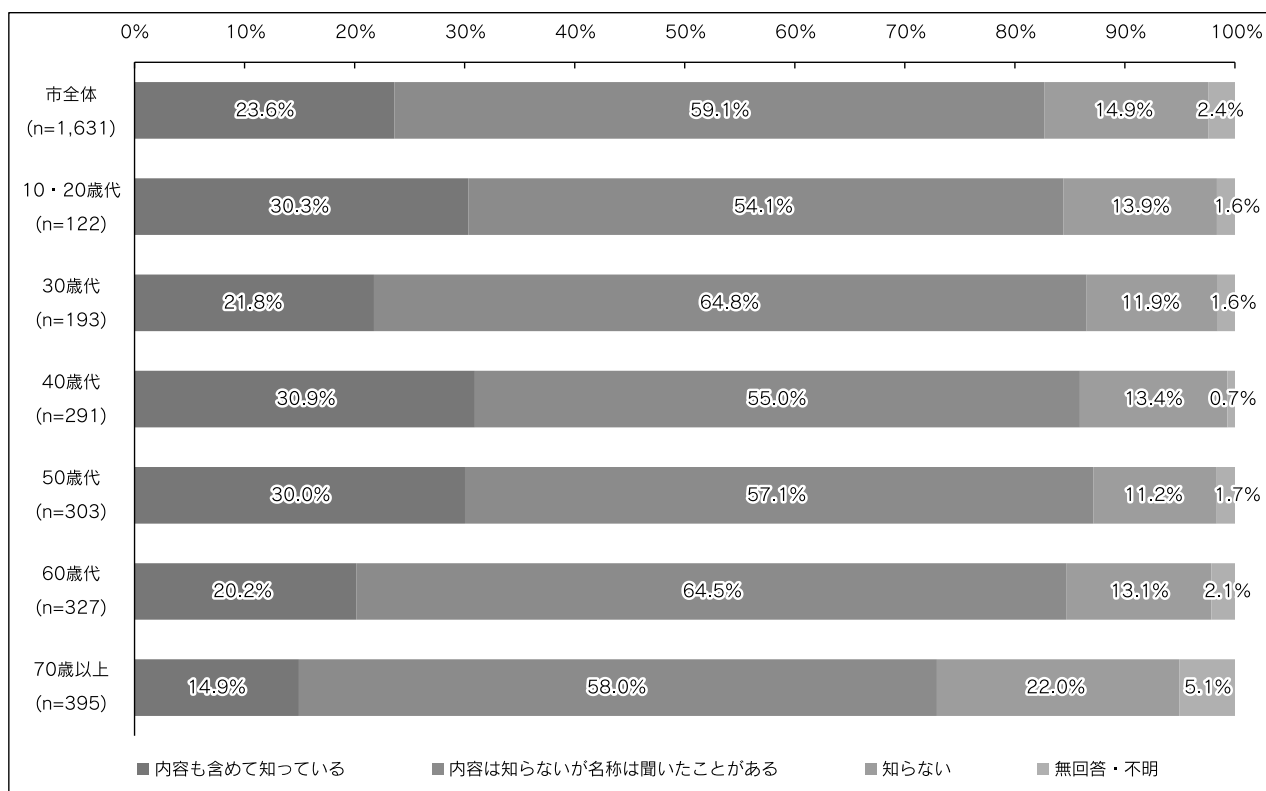
「内容も含めて知っている」48.3%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」43.5%を合わせた割合は、91.8%となっています。ほぼ認知されているように思われますが、これに満足することなく、差別を解消する取組の根幹となる「基本的人権の尊重」や「法の下での平等」などの内容について継続的に啓発を進めることが大切です。

ウ 世界人権宣言 [1948年 (昭和23年)]

前回調査 (2015)



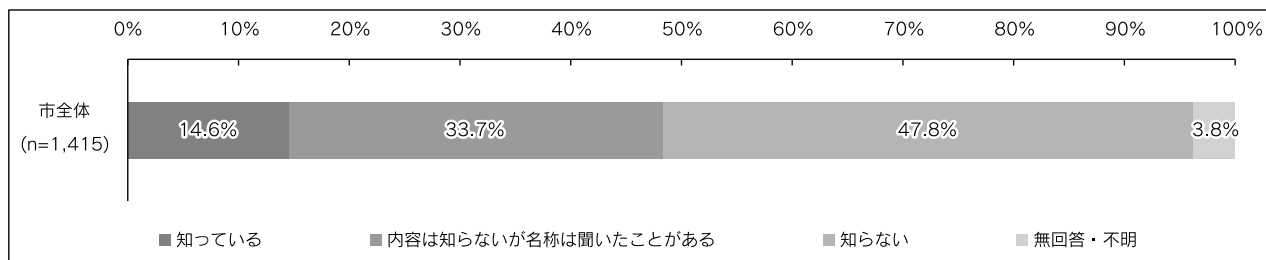
今回調査 (2020)



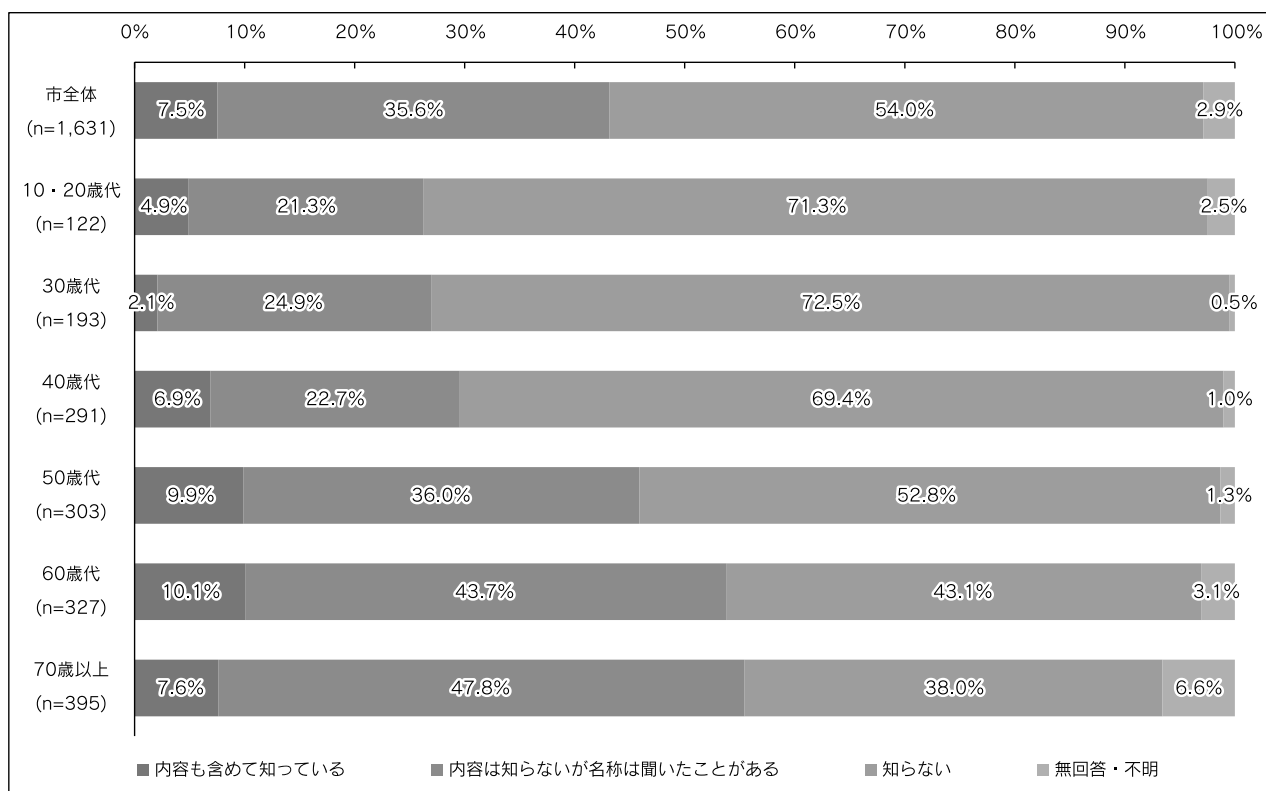
「内容も含めて知っている」23.6%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」59.1%を合わせた割合は、82.7%となっています。ほぼ認知されているように思われますが、これに満足することなく、更に啓発を進めることが大切です。

工 同和对策審議会答申 [1965年 (昭和40年)]

前回調査 (2015)



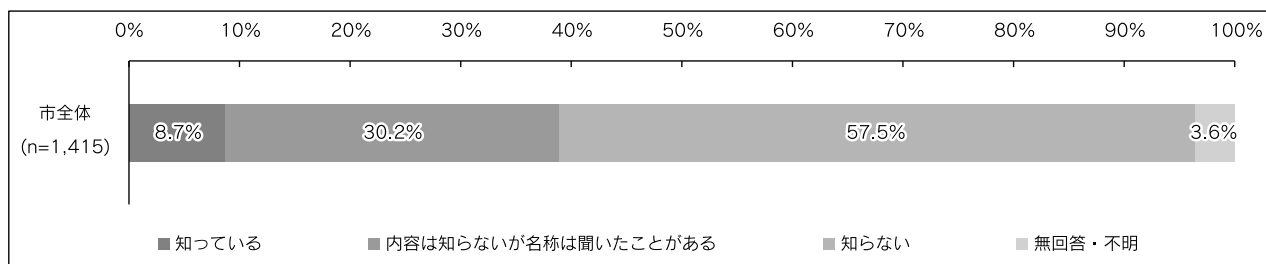
今回調査 (2020)



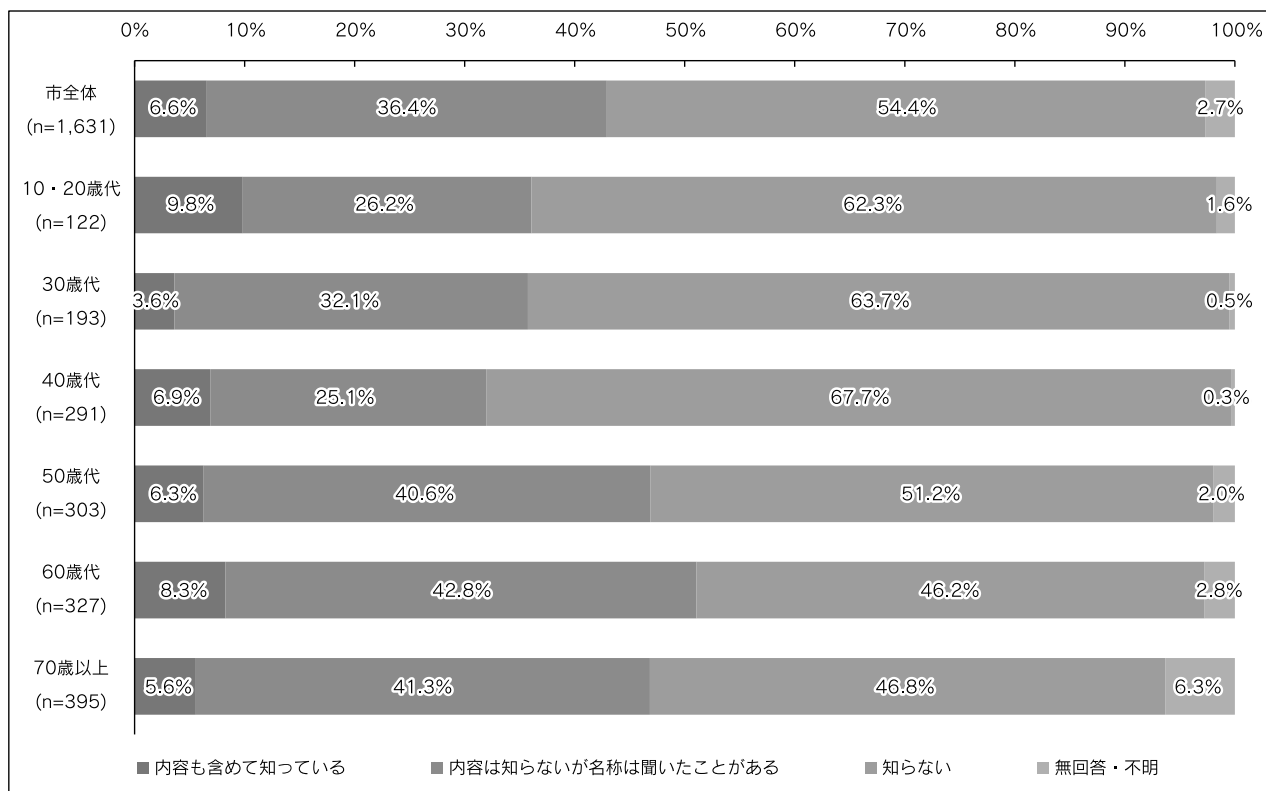
「内容も含めて知っている」7.5%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」35.6%を合わせた割合は、43.1%となっています。「知らない」は54.0%で、前回調査と比較すると6.2ポイント高くなっています。年齢別にみると、年齢層が低いほど、認知度の割合も低くなっています。あらゆる機会を通じて積極的に啓発をする必要があります。

オ 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 [2000年（平成12年）]

前回調査（2015）



今回調査（2020）

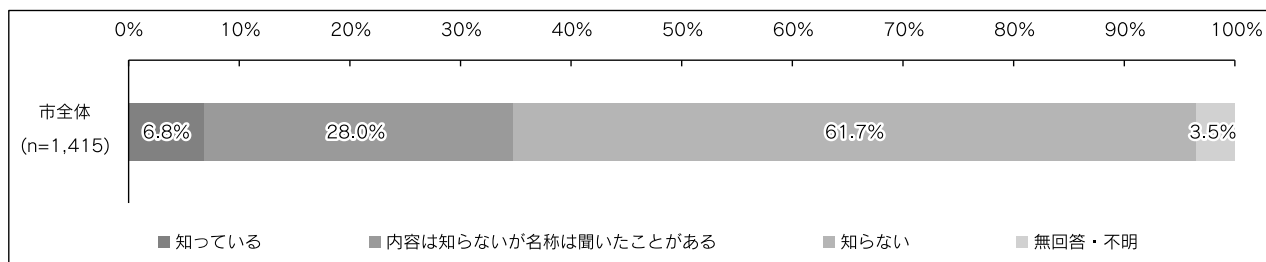


「内容も含めて知っている」6.6%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」36.4%を合わせた割合は、43.0%となっています。「知らない」は54.4%で、前回調査と比較すると3.1ポイント低くなっています。

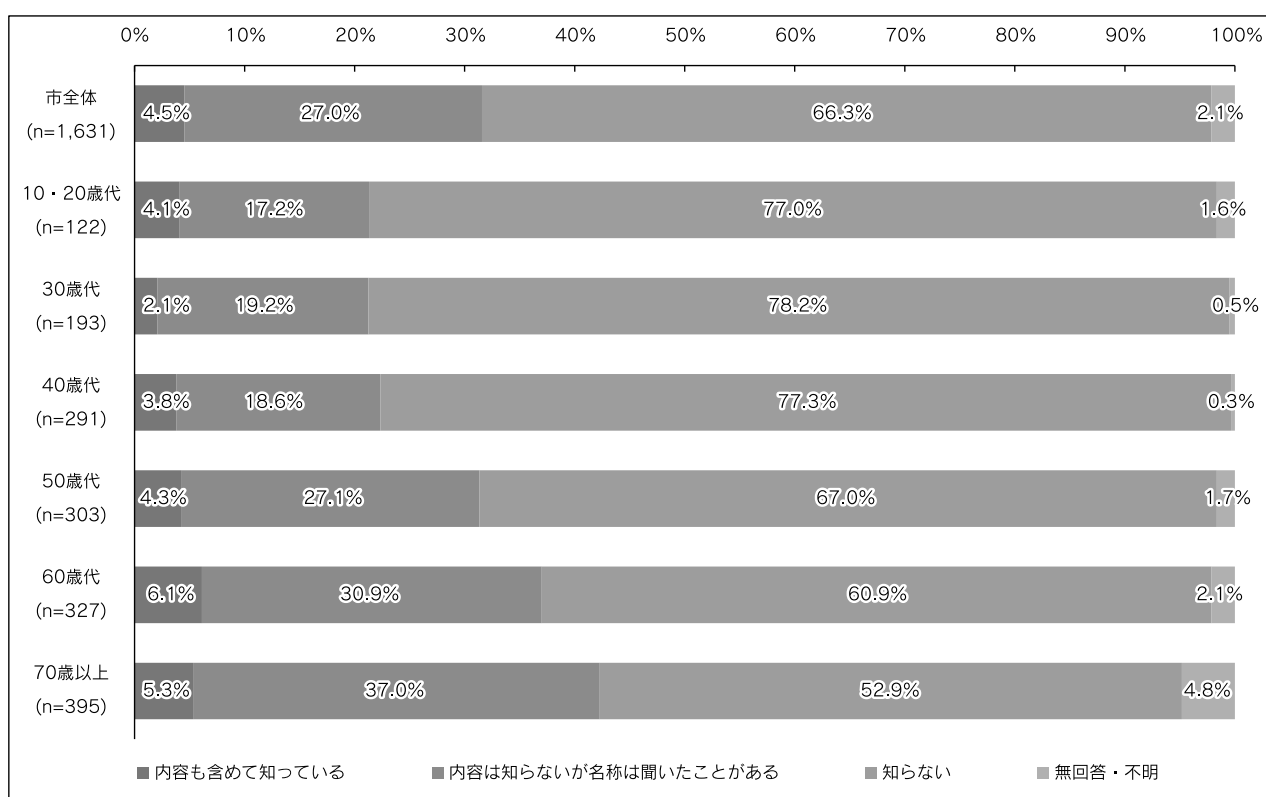
カ 大分市あらゆる差別の撤廃及び人権の擁護に関する条例 [1996年（平成8年）]

※2020年（令和2年）一部改正

前回調査（2015）



今回調査（2020）

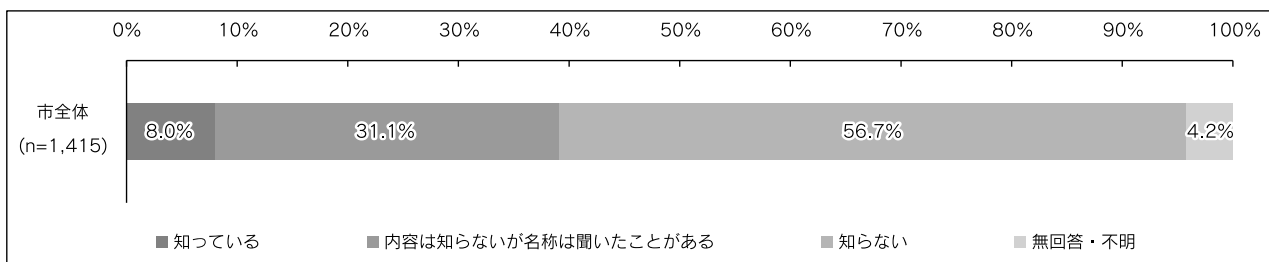


「内容も含めて知っている」4.5%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」27.0%を合わせた割合は、31.5%となっています。「知らない」は66.3%で、前回調査と比較すると4.6ポイント高くなっていることから、このような条例が制定されていることについて、あらゆる機会を通じて積極的に啓発をする必要があります。

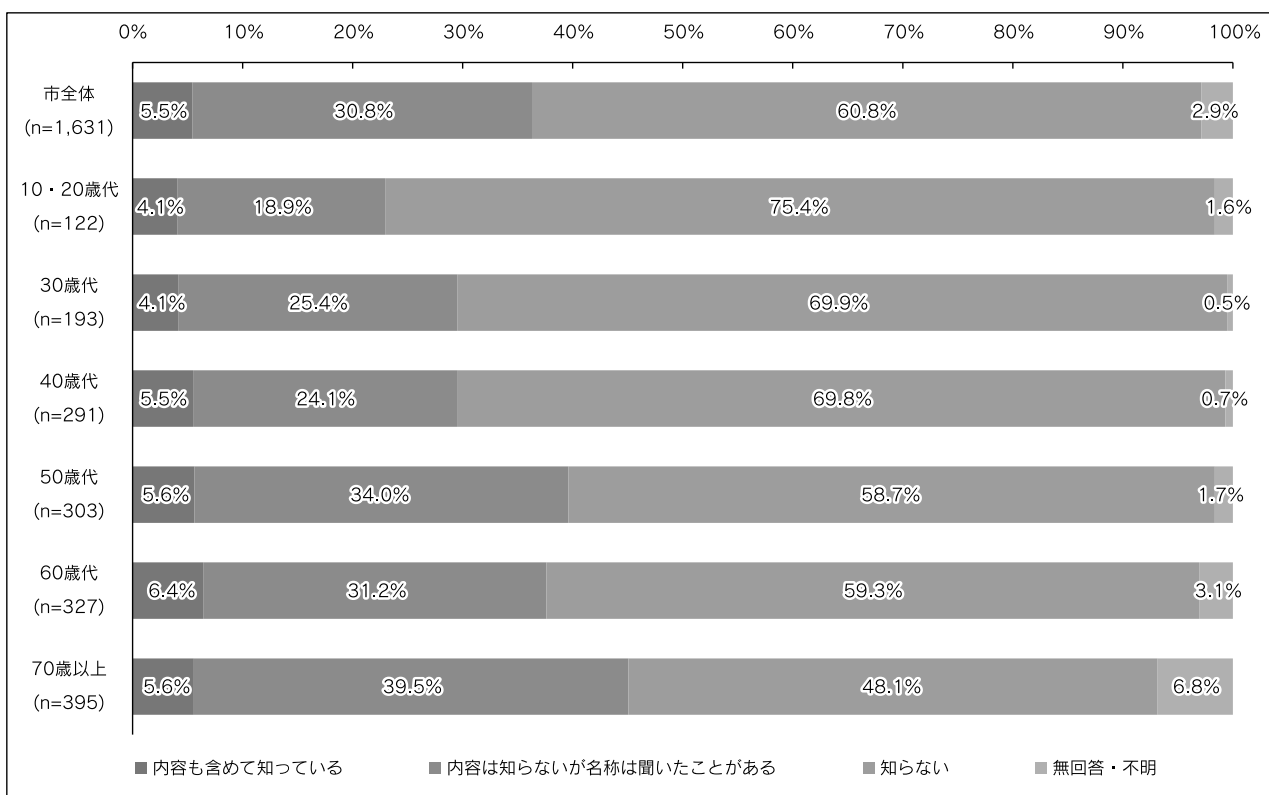
キ 大分市人権教育・啓発基本計画 [2004年（平成16年）]

※2017年（平成29年）改定

前回調査（2015）



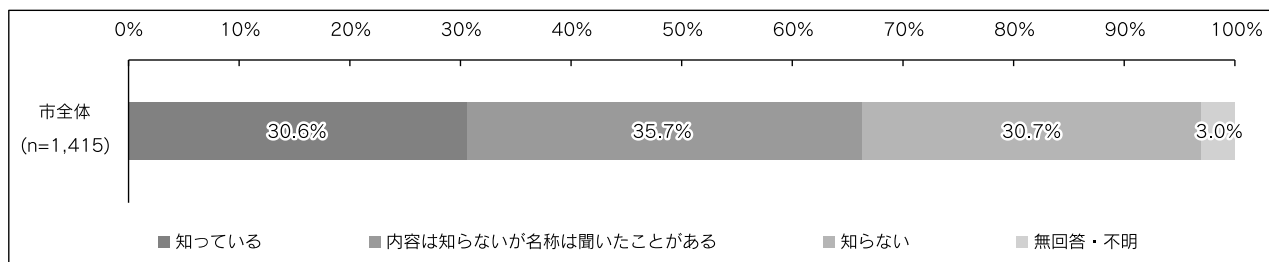
今回調査（2020）



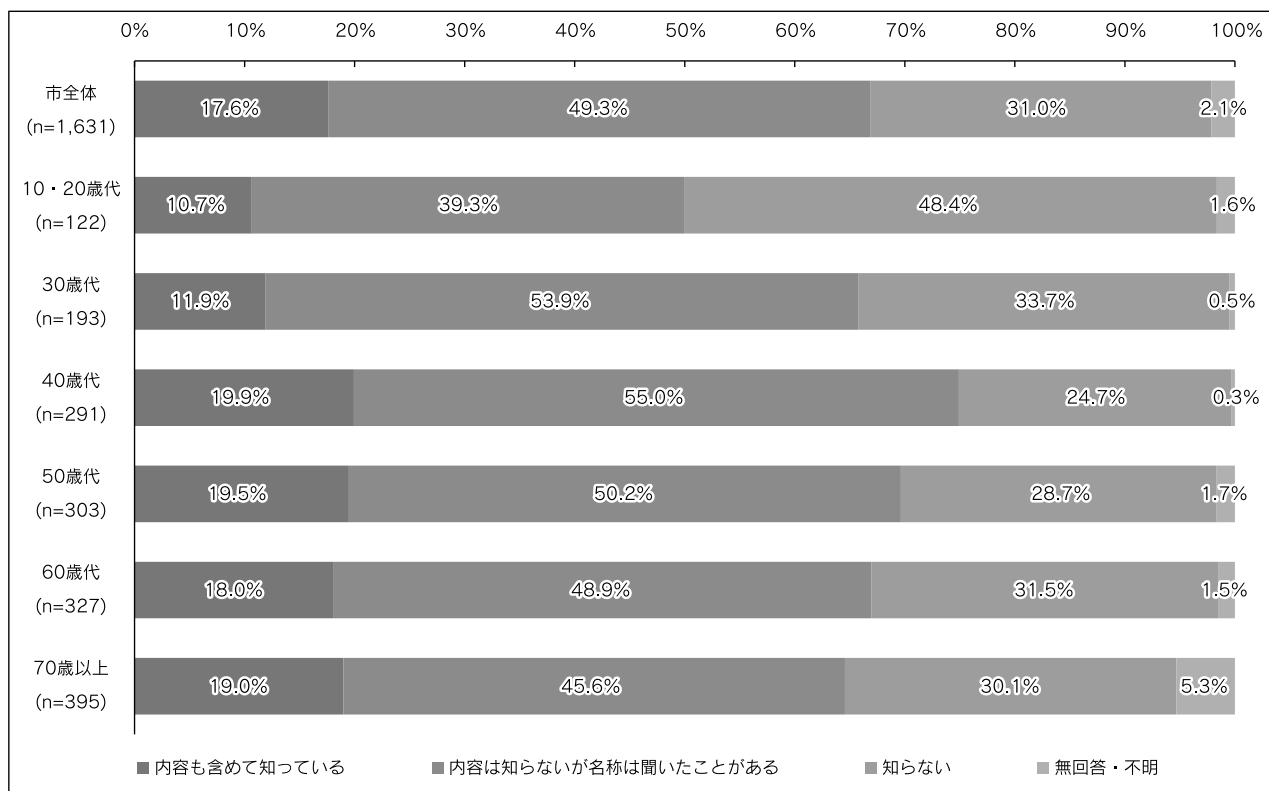
「内容も含めて知っている」5.5%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」30.8%を合わせた割合は、36.3%となっています。「知らない」は60.8%で、前回調査と比較すると4.1ポイント高くなっていることから、このような計画が策定されていることについて、あらゆる機会を通じて積極的に啓発をする必要があります。

ク 差別をなくす運動月間 [8月]

前回調査 (2015)



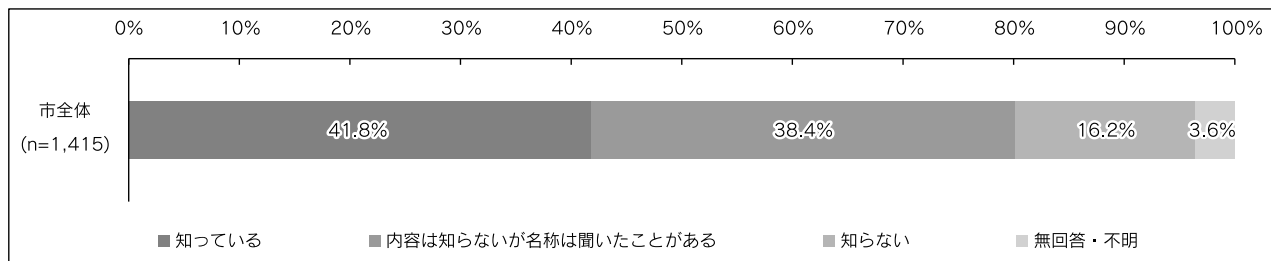
今回調査 (2020)



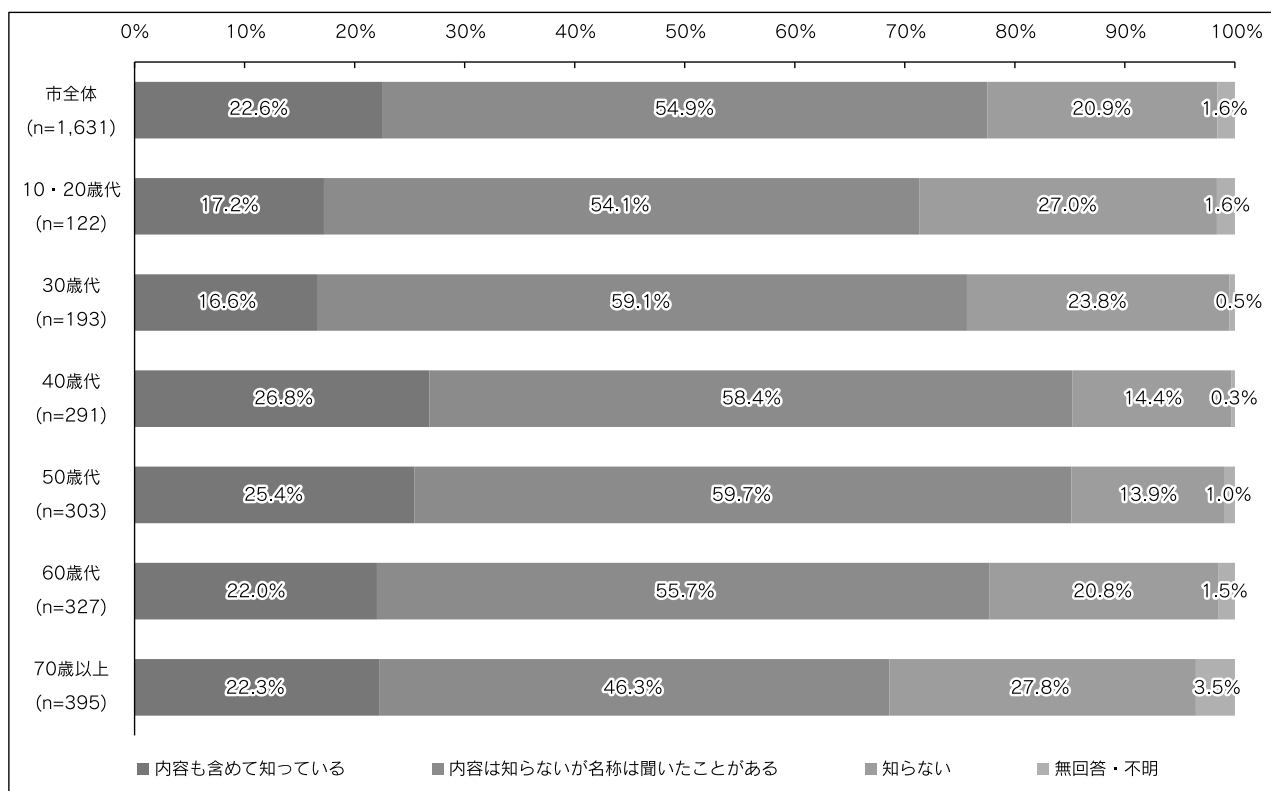
「内容も含めて知っている」17.6%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」49.3%を合わせた割合は、66.9%となっています。ほぼ認知されているように思われますが、これに満足することなく、更に啓発を進めることが大切です。

ケ 人権週間 [12月4日～10日]

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)



「内容も含めて知っている」22.6%、「内容は知らないが名称は聞いたことがある」54.9%を合わせた割合は77.5%となっています。ほぼ認知されているように思われますが、これに満足することなく、更に啓発を進めることが大切です。

3 社会教育における人権・同和問題に関する学習機会

問4 人権問題に関する学習機会についてお答えください。

(1) 次のうちで、最近、人権問題について読んだり、見たりしたものは何ですか。

(○はいくつでも)

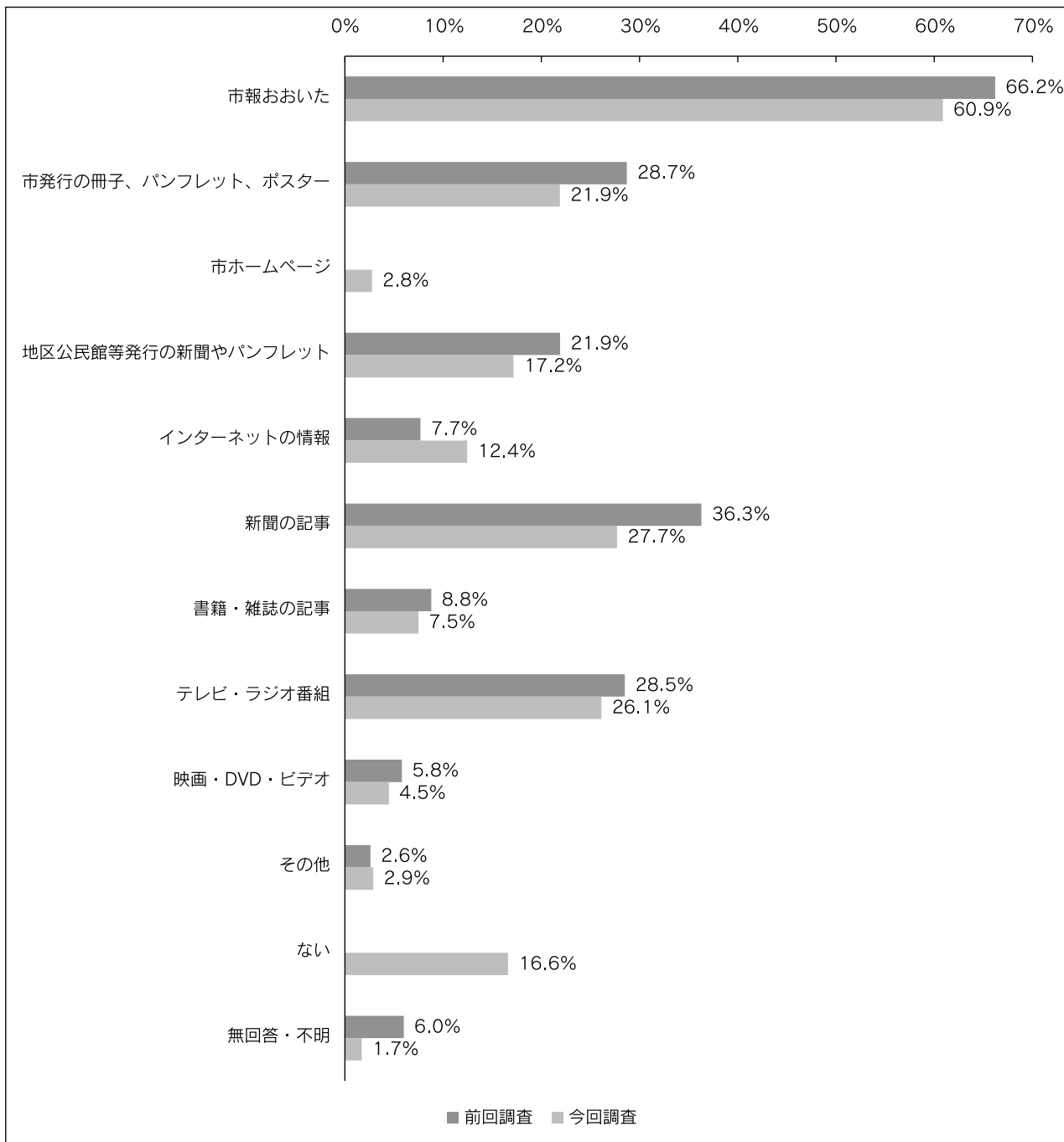


表2-8

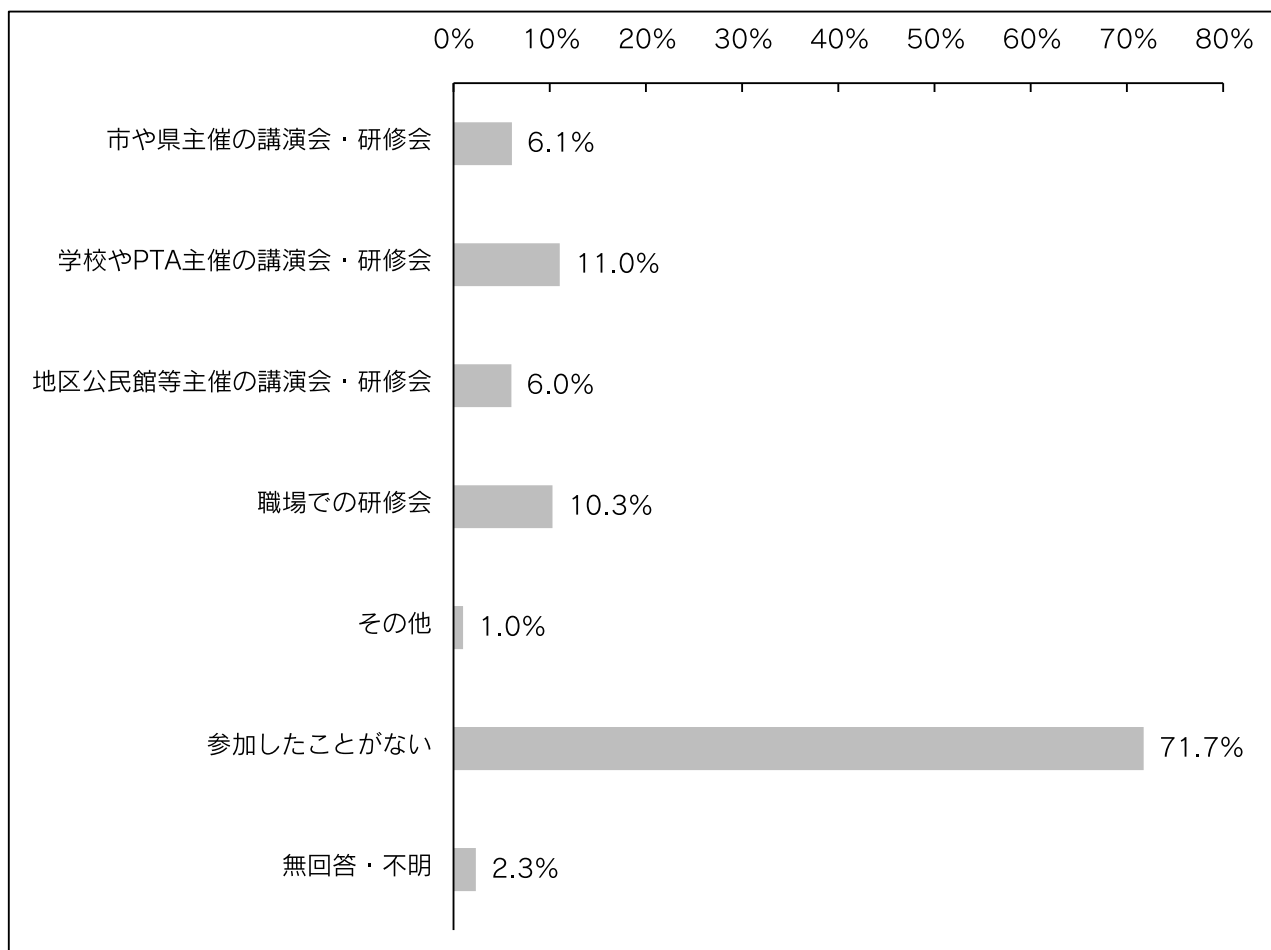
	回 答 者 数	市 報 お お い た	ポ ス タ ー	市 発 行 の 冊 子 、 パ ン フ レ ッ ト 、	市 ホ ー ム ペ ー ジ	新 聞 区 民 館 等 発 行 の	地 区 公 館 等 の	新 聞 の 記 事	書 籍 ・ 雑 誌 の 記 事	テ レ ビ ・ ラ ジ オ 番 組	映 画 ・ D V D ・ ビ デ オ	そ の 他	な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体	1,631 100.0% 100.0%	993 60.9% (66.2)	357 21.9% (28.7)	45 2.8%	280 17.2% (21.9)	203 12.4% (7.7)	452 27.7% (36.3)	122 7.5% (8.8)	426 26.1% (28.5)	73 4.5% (5.8)	47 2.9% (2.6)	271 16.6%	28 1.7% (6.0)	
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	322 50.5% (58.3)	112 17.6% (29.2)	21 3.3%	75 11.8% (20.2)	86 13.5% (9.8)	181 28.4% (39.8)	46 7.2% (9.8)	142 22.3% (28.3)	26 4.1% (5.5)	23 3.6% (3.2)	139 21.8% (5.8)	12 1.9% (5.8)
	女 性	983 100.0% 100.0%	669 68.1% (71.0)	244 24.8% (28.4)	23 2.3%	204 20.8% (22.9)	114 11.6% (6.4)	269 27.4% (34.1)	75 7.6% (8.2)	280 28.5% (28.6)	47 4.8% (6.0)	24 2.4% (2.3)	127 12.9% (6.1)	16 1.6% (6.1)
	そ の 他	11 100.0%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	3 27.3%	2 18.2%	1 9.1%	4 36.4%	0 0.0%	0 0.0%	5 45.5%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	27 22.1% (36.6)	8 6.6% (23.6)	3 2.5%	2 1.6% (8.9)	36 29.5% (21.1)	8 6.6% (18.7)	16 13.1% (7.3)	36 29.5% (30.9)	9 7.4% (9.8)	9 7.4% (4.1)	41 33.6% (10.6)	1 0.8% (10.6)
	20 歳 代	193 100.0%	97 50.3% (58.5)	29 15.0% (24.4)	6 3.1%	24 12.4% (19.7)	39 20.2% (10.9)	22 11.4% (25.4)	8 4.1% (7.3)	32 16.6% (20.7)	6 3.1% (6.2)	6 3.1% (4.1)	50 25.9% (7.8)	2 1.0% (7.8)
	30 歳 代	291 100.0%	160 55.0% (60.8)	58 19.9% (24.5)	9 3.1%	63 21.6% (25.7)	41 14.1% (10.6)	49 16.8% (26.1)	14 4.8% (7.3)	46 15.8% (22.0)	12 4.1% (4.5)	12 4.1% (2.9)	62 21.3% (6.1)	1 0.3% (6.1)
	40 歳 代	303 100.0%	176 58.1% (68.0)	72 23.8% (26.1)	11 3.6%	51 16.8% (25.3)	49 16.2% (10.0)	92 30.4% (41.5)	22 7.3% (8.7)	90 29.7% (29.0)	27 8.9% (5.4)	13 4.3% (1.2)	43 14.2% (5.0)	3 1.0% (5.0)
	50 歳 代	327 100.0%	236 72.2% (73.7)	80 24.5% (32.3)	6 1.8%	60 18.3% (17.8)	29 8.9% (2.7)	129 39.4% (39.6)	33 10.1% (9.1)	106 32.4% (29.6)	10 3.1% (5.4)	1 0.3% (2.7)	39 11.9% (6.3)	3 0.9% (6.3)
	60 歳 代	395 100.0%	297 75.2% (78.7)	110 27.8% (35.5)	10 2.5%	80 20.3% (27.7)	9 2.3% (1.1)	152 38.5% (51.8)	29 7.3% (11.7)	116 29.4% (36.5)	9 2.3% (5.7)	6 1.5% (1.8)	36 9.1% (3.2)	18 4.6% (3.2)
	70 歳 以上													

人権問題の情報源として活用度の割合が高い順に、「市報おおいた」60.9%、「新聞の記事」27.7%、「テレビ・ラジオ番組」26.1%、「市発行の冊子、パンフレット、ポスター」21.9%となっています。

前回調査と比較すると「インターネットの情報」は4.7ポイント高くなっています。また、「市報おおいた」は5.3ポイント、「市発行の冊子、パンフレット、ポスター」は6.8ポイント低くなっています。今後も、創意工夫を凝らしながら内容を充実させていくことが求められます。

問4 人権問題に関する学習機会についてお答えください。

(2) あなたは、過去5年間で、人権問題に関する次の講演会や研修会に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)



※前回調査(2015)の設問では、「これまでに、参加したことがありますか」でしたが、今回調査(2020)では「過去5年間で、参加したことがありますか」となっています。

表2-9

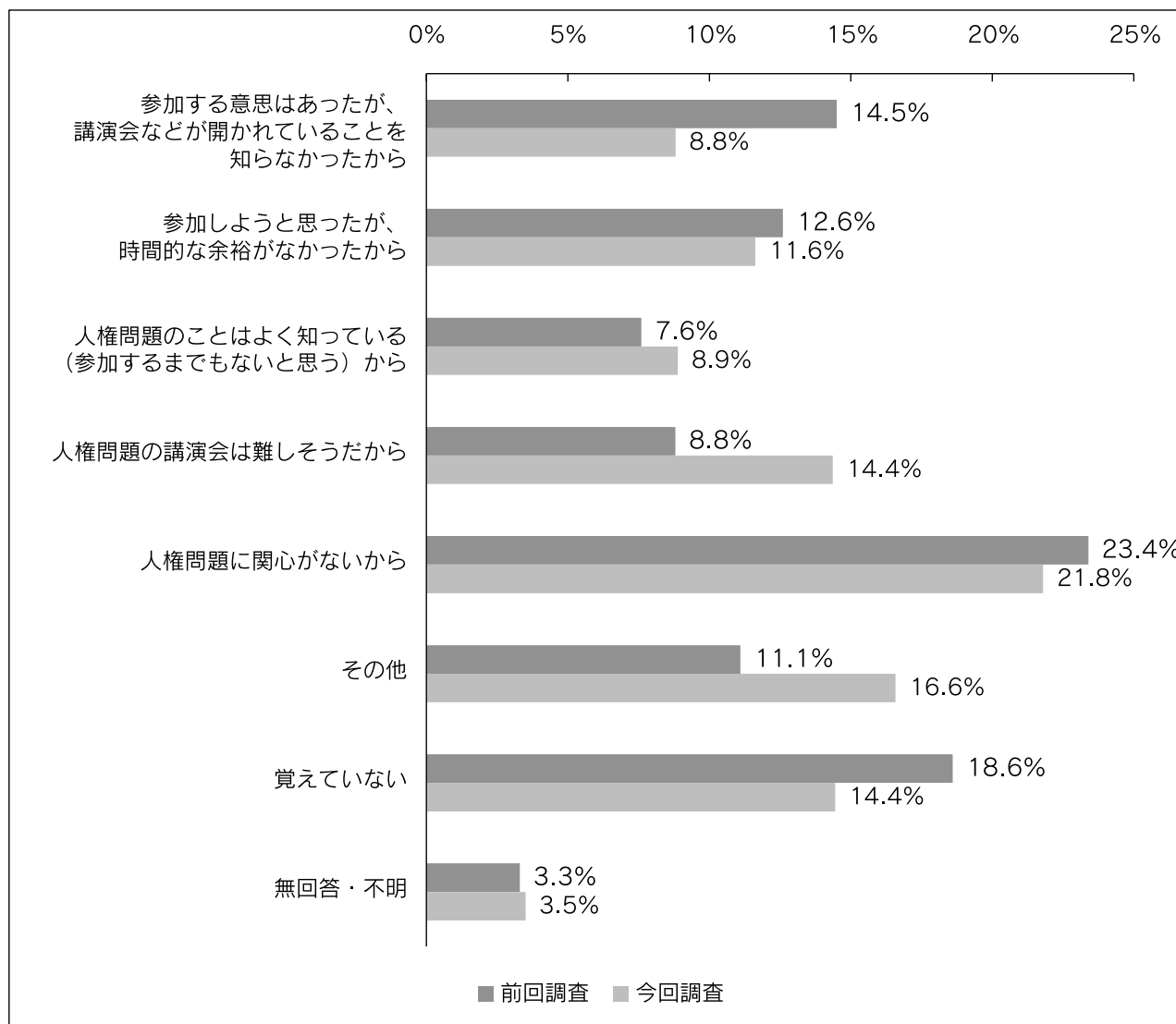
		回 答 者 数	市 や 県 主 催 の 講 演 会 ・ 研 修 会	学 校 や P T A 主 催 の 講 演 会 ・ 研 修 会	地 区 公 民 館 等 主 催 の 講 演 会 ・ 研 修 会	職 場 で の 研 修 会	そ の 他	参 加 し た こ と が な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,631 100.0%	99 6.1%	180 11.0%	98 6.0%	168 10.3%	16 1.0%	1,170 71.7%	38 2.3%
性 別	男 性	637 100.0%	38 6.0%	34 5.3%	34 5.3%	87 13.7%	8 1.3%	470 73.8%	19 3.0%
	女 性	983 100.0%	61 6.2%	145 14.8%	64 6.5%	80 8.1%	6 0.6%	692 70.4%	19 1.9%
	そ の 他	11 100.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	2 18.2%	8 72.7%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	7 5.7%	21 17.2%	1 0.8%	15 12.3%	1 0.8%	85 69.7%	1 0.8%
	20 歳 代	193 100.0%	9 4.7%	16 8.3%	5 2.6%	28 14.5%	0 0.0%	143 74.1%	2 1.0%
	30 歳 代	291 100.0%	25 8.6%	89 30.6%	14 4.8%	46 15.8%	5 1.7%	151 51.9%	2 0.7%
	40 歳 代	303 100.0%	15 5.0%	38 12.5%	12 4.0%	41 13.5%	3 1.0%	221 72.9%	6 2.0%
	50 歳 代	327 100.0%	21 6.4%	12 3.7%	23 7.0%	30 9.2%	3 0.9%	257 78.6%	7 2.1%
	60 歳 代	395 100.0%	22 5.6%	4 1.0%	43 10.9%	8 2.0%	4 1.0%	313 79.2%	20 5.1%
	70歳以上								

過去5年間と期限を区切った参加経験は、「参加したことがない」71.7%、「無回答・不明」2.3%を合わせると74.0%となり、このことから「参加したことがある」は26.0%で、3割弱となっています。

年齢別でみると、「参加したことがある」は、割合の高い順に40歳代が47.4%、10歳代・20歳代が29.5%、50歳代が25.1%となっています。

また、項目別でみると、地区公民館等主催の講演会・研修会は、年齢層が高くなるほど「参加したことがある」の割合が高くなっています。

★6（参加したことがない）に○をつけた方にお尋ねします。その理由をあげてください。
（○は1つだけ）（問4（2））



※前回調査（2015）の設問では、「これまでに、参加したことがない」理由でしたが、今回調査（2020）では「過去5年間で」となっています。

参加したことがない理由は、割合の高い順に「人権問題に関心がないから」21.8%、「その他」16.6%、「人権問題の講演会は難しそうだから」「覚えていない」14.4%となっています。

また、前回調査と比較すると、「講演会などが開かれていることを知らなかったから」は5.7ポイント低く、「人権問題の講演会は難しそうだから」は5.6ポイント高くなっています。

講演会や研修会が開催されていることを知らない割合は確実に低くなっているため、今後は無関心層へ関心を持ってもらうアプローチや創意工夫を凝らした周知方法などについて検討する必要があります。

表2-10

		回 答 者 数	参加する意思はあったが、講演会などが開かれていないことを知らなかったから	参加しようと思ったが、時間的な余裕がなかったから	（参加するまでもないと思う）から 人権問題のことはよく知っている	人権問題の講演会は 難しそうだから	人権問題に関心がないから	そ の 他	覚 え て い な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,170 100.0% 100.0%	103 8.8% (14.5)	136 11.6% (12.6)	104 8.9% (7.6)	168 14.4% (8.8)	255 21.8% (23.4)	194 16.6% (11.1)	169 14.4% (18.6)	41 3.5% (3.3)
性 別	男 性	470 100.0% 100.0%	44 9.4% (15.9)	42 8.9% (12.1)	56 11.9% (8.3)	56 11.9% (6.4)	127 27.0% (26.9)	54 11.5% (8.0)	79 16.8% (19.7)	12 2.6% (2.7)
	女 性	692 100.0% 100.0%	59 8.5% (13.6)	93 13.4% (13.0)	48 6.9% (7.0)	112 16.2% (10.6)	127 18.4% (20.9)	138 19.9% (13.3)	87 12.6% (17.9)	28 4.0% (3.8)
	そ の 他	8 100.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	2 25.0%	3 37.5%	1 12.5%
年 齢 別	10 歳 代	85 100.0% 100.0%	8 9.4% (19.0)	5 5.9% (6.3)	2 2.4% (3.2)	17 20.0% (15.9)	25 29.4% (19.0)	9 10.6% (4.8)	16 18.8% (28.6)	3 3.5% (3.2)
	20 歳 代	143 100.0% 100.0%	9 6.3% (12.2)	20 14.0% (11.2)	5 3.5% (3.1)	26 18.2% (11.2)	40 28.0% (17.3)	19 13.3% (14.3)	21 14.7% (27.6)	3 2.1% (3.1)
	30 歳 代	151 100.0% 100.0%	13 8.6% (11.7)	13 8.6% (11.7)	9 6.0% (2.1)	23 15.2% (9.6)	37 24.5% (33.0)	25 16.6% (13.8)	30 19.9% (16.0)	1 0.7% (2.1)
	40 歳 代	221 100.0% 100.0%	13 5.9% (18.0)	27 12.2% (16.9)	14 6.3% (4.5)	35 15.8% (6.7)	48 21.7% (18.0)	46 20.8% (13.5)	34 15.4% (21.3)	4 1.8% (1.1)
	50 歳 代	257 100.0% 100.0%	24 9.3% (14.6)	42 16.3% (12.0)	31 12.1% (10.1)	28 10.9% (7.6)	46 17.9% (28.5)	45 17.5% (10.8)	30 11.7% (12.0)	11 4.3% (4.4)
	60 歳 代	313 100.0% 100.0%	36 11.5% (13.7)	29 9.3% (15.3)	43 13.7% (16.0)	39 12.5% (6.1)	59 18.8% (20.6)	50 16.0% (8.4)	38 12.1% (15.3)	19 6.1% (4.6)
	70 歳 以上									

年齢別でみると「人権問題に関心がないから」、「人権問題の講演会は難しそうだから」では、年齢層が低いほど数値が高くなる傾向が顕著に表れています。

★1～5 に○をつけた方にお尋ねします。参加した講演会や研修会の人権課題は何でしたか？
(○はいくつでも) (問 4 (2))

※この設問は、前回調査にはありません。

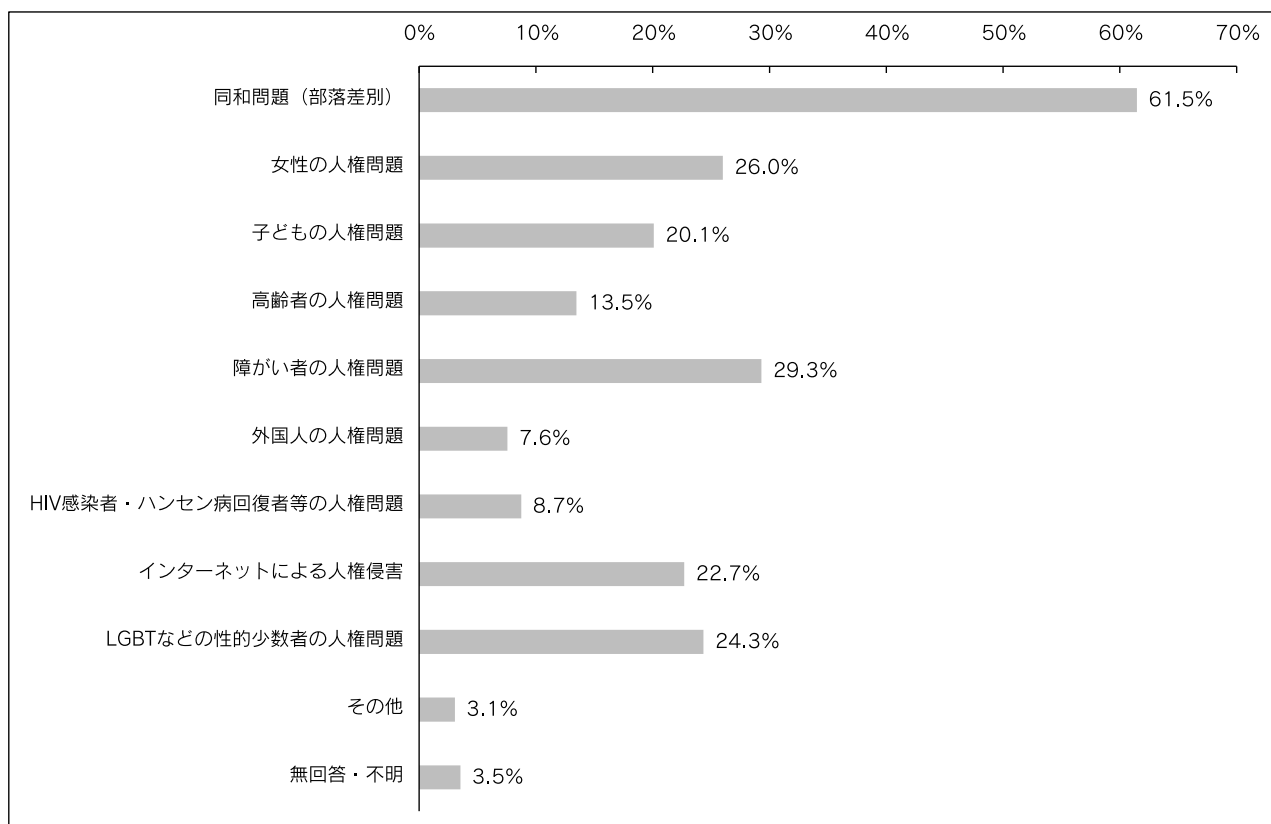


表2-11

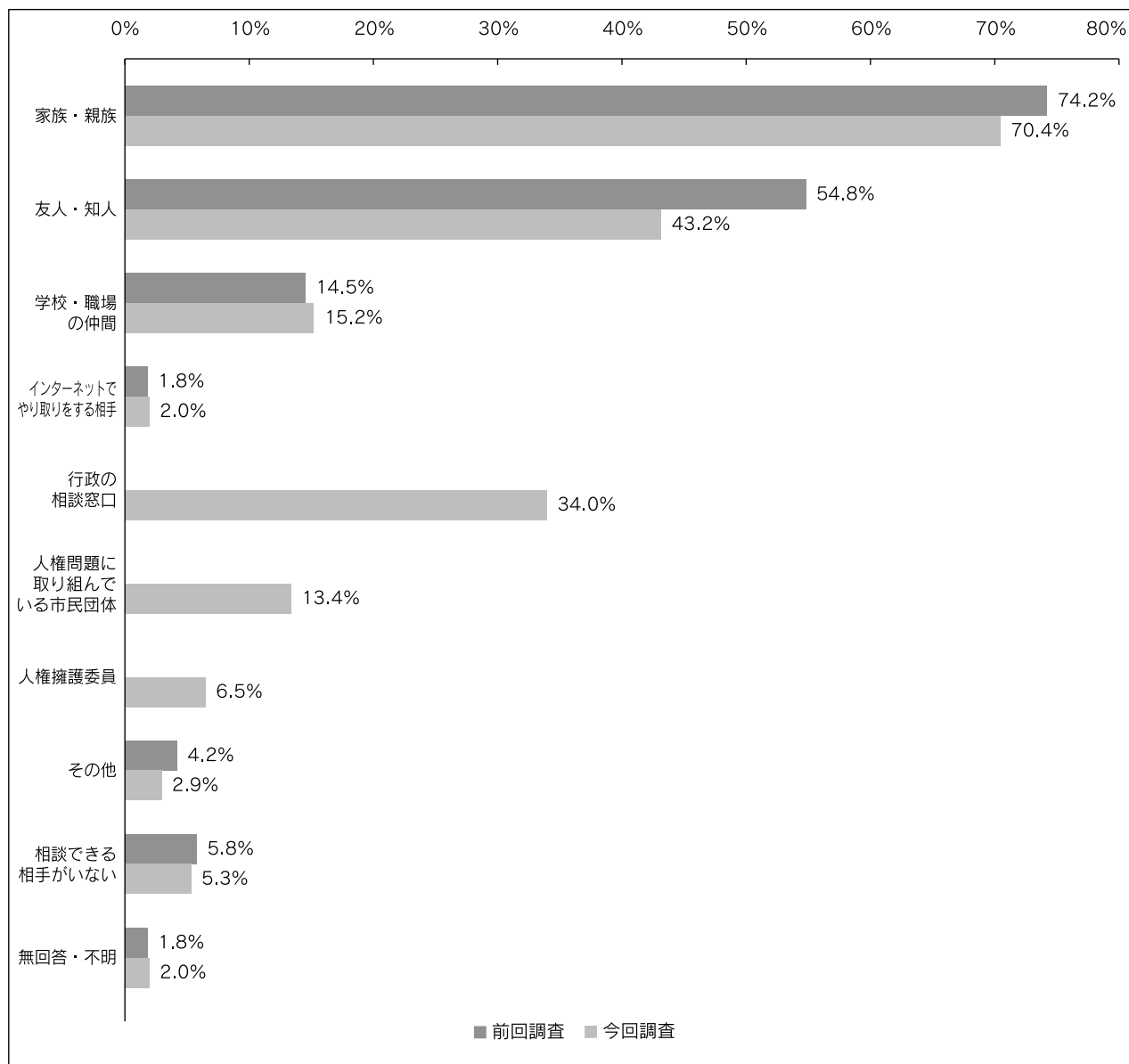
		回 答 者 数	（同 部 落 差 別 ） 問 題	女 性 の 人 権 問 題	子 ど も の 人 権 問 題	高 齢 者 の 人 権 問 題	障 が い 者 の 人 権 問 題	外 国 人 の 人 権 問 題	等 の 人 権 問 題 H I V 感 染 者 ・ ハ ン セ ン 病 回 復 者	イ ン タ ー ネ ッ ト に よ る 人 権 侵 害	人 権 問 題 L G B T な ど の 性 的 少 数 者 の	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		423 100.0%	260 61.5%	110 26.0%	85 20.1%	57 13.5%	124 29.3%	32 7.6%	37 8.7%	96 22.7%	103 24.3%	13 3.1%	15 3.5%
性 別	男 性	148 100.0%	96 64.9%	43 29.1%	23 15.5%	18 12.2%	51 34.5%	13 8.8%	12 8.1%	34 23.0%	40 27.0%	8 5.4%	5 3.4%
	女 性	272 100.0%	164 60.3%	66 24.3%	61 22.4%	38 14.0%	72 26.5%	18 6.6%	25 9.2%	61 22.4%	60 22.1%	5 1.8%	10 3.7%
	そ の 他	3 100.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	36 100.0%	16 44.4%	12 33.3%	9 25.0%	4 11.1%	14 38.9%	7 19.4%	9 25.0%	15 41.7%	14 38.9%	1 2.8%	1 2.8%
	20 歳 代	48 100.0%	29 60.4%	12 25.0%	9 18.8%	2 4.2%	14 29.2%	4 8.3%	2 4.2%	10 20.8%	14 29.2%	2 4.2%	1 2.1%
	30 歳 代	138 100.0%	79 57.2%	28 20.3%	29 21.0%	9 6.5%	30 21.7%	8 5.8%	4 2.9%	33 23.9%	34 24.6%	2 1.4%	6 4.3%
	40 歳 代	76 100.0%	46 60.5%	24 31.6%	19 25.0%	8 10.5%	20 26.3%	8 10.5%	8 10.5%	26 34.2%	25 32.9%	3 3.9%	1 1.3%
	50 歳 代	63 100.0%	50 79.4%	20 31.7%	10 15.9%	9 14.3%	26 41.3%	3 4.8%	7 11.1%	11 17.5%	12 19.0%	4 6.3%	2 3.2%
	60 歳 代	62 100.0%	40 64.5%	14 22.6%	9 14.5%	25 40.3%	20 32.3%	2 3.2%	7 11.3%	1 1.6%	4 6.5%	1 1.6%	4 6.5%

参加した講演会や研修会の人権課題は、割合の高い順に「同和問題（部落差別）」61.5%、「障がい者の人権問題」29.3%、「女性の人権問題」26.0%となっています。続いて、「インターネットによる人権侵害」22.7%、「LGBTなどの性的少数者の人権問題」24.3%となっており、近年関心の高い人権課題であることがうかがえます。

第2節 人権全般について

1 人権侵害を受けたときの対応

問5 あなたは、もし人権を侵害されたとしたら、誰に相談しますか。(〇はいくつでも)



※前回調査（2015）の設問は、「あなたは、悩みや不安があったとき、誰に相談しますか」であり、「行政の相談窓口」、「人権問題に取り組んでいる市民団体」、「人権擁護委員」の回答選択肢はありません。

表2-12

		回 答 者 数	家 族 ・ 親 族	友 人 ・ 知 人	学 校 ・ 職 場 の 仲 間	や い ん た ー ネ ッ ト で や り 取 り を す る 相 手 で	行 政 の 相 談 窓 口	市 人 権 問 題 に 取 り 組 ん で い る 市 民 団 体	人 権 擁 護 委 員	そ の 他	相 談 で き る 相 手 が い な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	1,149 70.4% (74.2)	704 43.2% (54.8)	248 15.2% (14.5)	32 2.0% (1.8)	554 34.0%	218 13.4%	106 6.5%	48 2.9% (4.2)	87 5.3% (5.8)	32 2.0% (1.8)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	386 60.6% (68.1)	218 34.2% (46.2)	99 15.5% (16.8)	8 1.3% (2.1)	254 39.9%	102 16.0%	58 9.1%	29 4.6% (6.0)	46 7.2% (7.0)	16 2.5% (1.7)
	女 性	983 100.0% 100.0%	759 77.2% (77.9)	481 48.9% (59.9)	147 15.0% (13.1)	22 2.2% (1.7)	297 30.2%	113 11.5%	46 4.7%	18 1.8% (3.1)	38 3.9% (5.1)	16 1.6% (1.8)
	そ の 他	11 100.0%	4 36.4%	5 45.5%	2 18.2%	2 18.2%	3 27.3%	3 27.3%	2 18.2%	1 9.1%	3 27.3%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	122 100.0% 100.0%	93 76.2% (58.5)	69 56.6% (74.8)	25 20.5% (22.0)	9 7.4% (3.3)	19 15.6%	5 4.1%	1 0.8%	4 3.3% (3.3)	9 7.4% (5.7)	1 0.8% (2.4)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	161 83.4% (79.3)	88 45.6% (63.2)	47 24.4% (22.8)	6 3.1% (4.7)	46 23.8%	14 7.3%	1 0.5%	3 1.6% (4.1)	8 4.1% (6.2)	2 1.0% (1.0)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	228 78.4% (74.7)	133 45.7% (56.7)	58 19.9% (23.7)	9 3.1% (2.4)	85 29.2%	27 9.3%	9 3.1%	7 2.4% (2.9)	16 5.5% (4.9)	3 1.0% (0.4)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	216 71.3% (77.2)	140 46.2% (64.3)	68 22.4% (21.2)	5 1.7% (1.2)	101 33.3%	42 13.9%	17 5.6%	10 3.3% (3.7)	12 4.0% (4.1)	4 1.3% (2.5)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	216 66.1% (72.5)	134 41.0% (46.8)	42 12.8% (6.0)	3 0.9% (0.6)	141 43.1%	63 19.3%	31 9.5%	11 3.4% (4.5)	18 5.5% (6.3)	5 1.5% (2.4)
	70歳以上	395 100.0% 100.0%	235 59.5% (76.6)	140 35.4% (39.7)	8 2.0% (1.8)	0 0.0% (0.7)	162 41.0%	67 17.0%	47 11.9%	13 3.3% (5.7)	24 6.1% (7.1)	17 4.3% (1.8)

人権を侵害された際の身近な相談相手は、割合の高い順に「家族・親族」70.4%、「友人・知人」43.2%、「学校・職場の仲間」15.2%となっています。身近な人以外での相談相手は、「行政の相談窓口」34.0%、「人権問題に取り組んでいる市民団体」13.4%、「人権擁護委員」6.5%となっています。また、「相談できる相手がない」5.3%となっています。

年齢別でみると、10・20歳代が「インターネットでやり取りをする相手」7.4%、「相談できる相手がない」7.4%となっています。また、「行政の相談窓口」「人権問題に取り組んでいる市民団体」「人権擁護委員」の割合も、他の年齢層と比較すると低くなっています。

今後も相談体制を充実するとともに、行政機関をはじめ相談機関等の周知を図る必要があります。

2 差別に関する考え方

問6 あなたは、次のア～キの差別に関する考え方について、どう思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

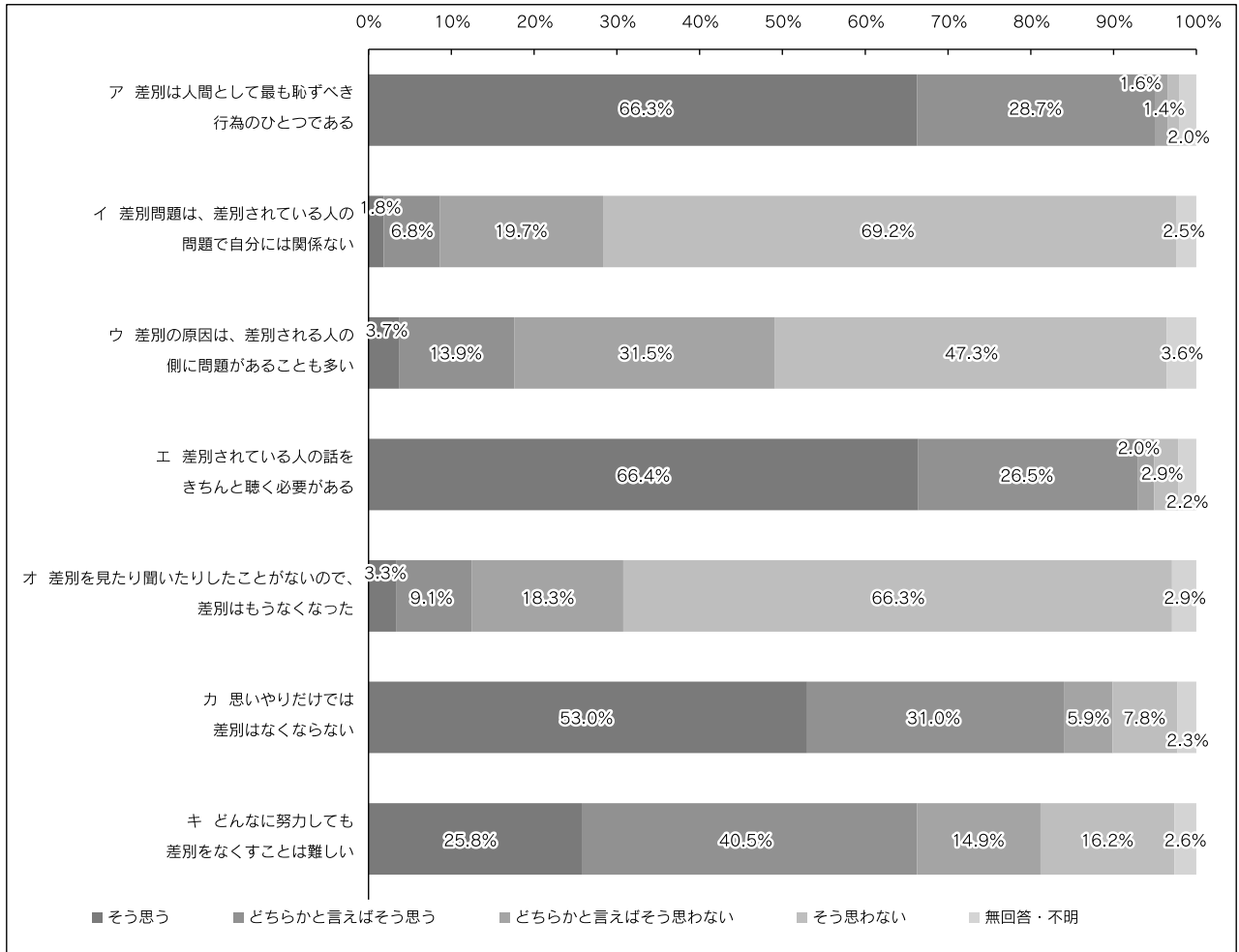


表2-13

	回 答 者 数	そ う 思 う	ど ち ら か と 言 え ば そ う 思 う	ど ち ら か と 言 え ば そ う 思 わ ない	そ う 思 わ な い	無 回 答 ・ 不 明
ア 差別は人間として最も恥ずべき行為のひとつである	1,631 100.0%	1,081 66.3% (51.9)	468 28.7% (34.3)	26 1.6% (1.1)	23 1.4% (1.3)	33 2.0% (2.0)
イ 差別問題は、差別されている人の問題で自分には関係ない	1,631 100.0%	30 1.8% (1.7)	111 6.8% (4.6)	321 19.7% (24.2)	1,129 69.2% (45.0)	40 2.5% (3.2)
ウ 差別の原因は、差別される人の側に問題があることも多い	1,631 100.0%	61 3.7% (5.9)	226 13.9% (9.7)	514 31.5% (16.6)	772 47.3% (26.9)	58 3.6% (2.8)
エ 差別されている人の話をきちんと聴く必要がある	1,631 100.0%	1,083 66.4% (45.6)	433 26.5% (34.7)	32 2.0% (2.3)	47 2.9% (2.5)	36 2.2% (2.8)
オ 差別を見たり聞いたりしたことがないので、差別はもうなくなった	1,631 100.0%	54 3.3%	149 9.1%	299 18.3%	1,081 66.3%	48 2.9%
カ 思いやりだけでは差別はなくなるらない	1,631 100.0%	864 53.0%	506 31.0%	96 5.9%	128 7.8%	37 2.3%
キ どんなに努力しても差別をなくすことは難しい	1,631 100.0%	420 25.8%	661 40.5%	243 14.9%	264 16.2%	43 2.6%

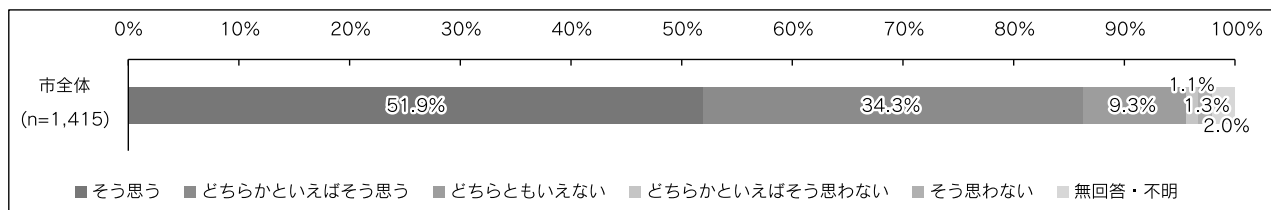
ア、エ、カの考え方について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、「ア 差別は人間として最も恥ずべき行為のひとつである」95.0%、「エ 差別されている人の話をきちんと聴く必要がある」92.9%、「カ 思いやりだけでは差別はなくなるらない」84.0%となっています。

イ、ウ、オ、キの考え方について、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合は、「イ 差別問題は、差別されている人の問題で自分には関係ない」88.9%、「ウ 差別の原因は、差別される人の側に問題があることも多い」78.8%、「オ 差別を見たり聞いたりしたことがないので、差別はもうなくなった」84.6%、「キ どんなに努力しても差別をなくすことは難しい」31.1%となっています。

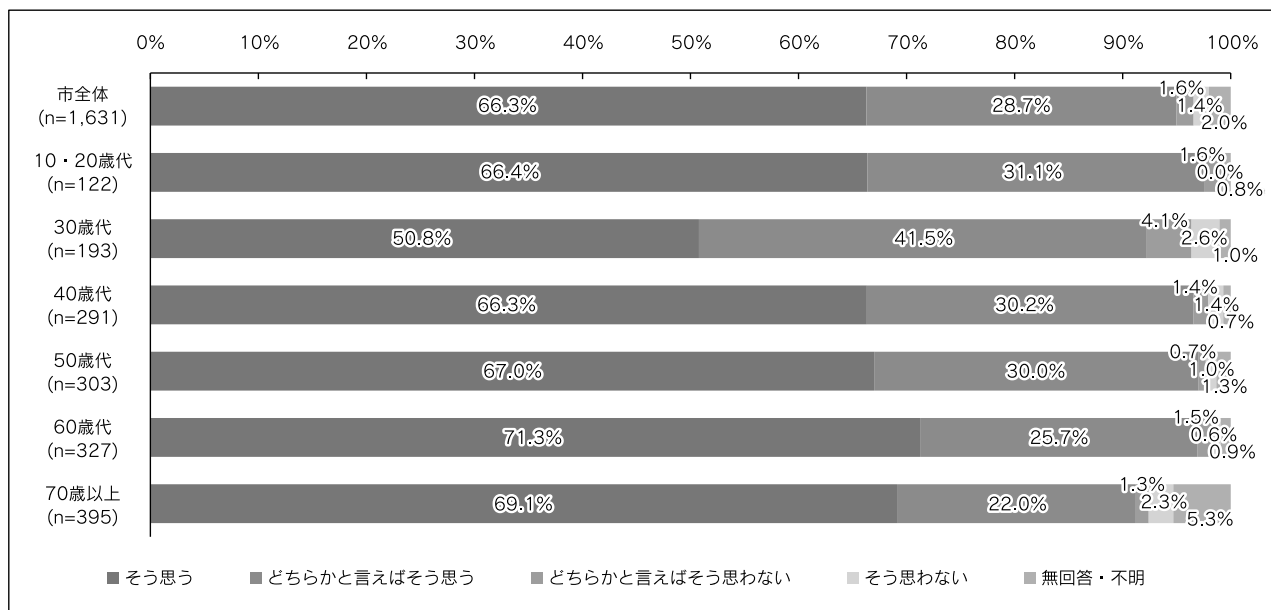
なお、前回調査は、「どちらともいえない」の回答項目があり、設問によっては4割弱が選択する結果となったことから、今回調査では削除することで肯定・否定どちらの立場であるのかが、よりはっきりと見えてくるようになっていきます。

ア 差別は人間として最も恥ずべき行為のひとつである

前回調査 (2015)



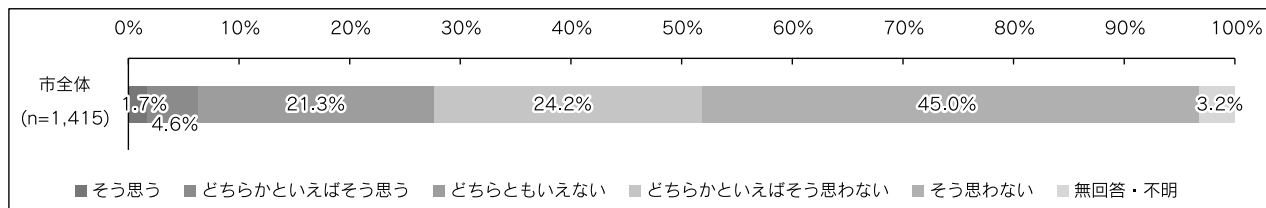
今回調査 (2020)



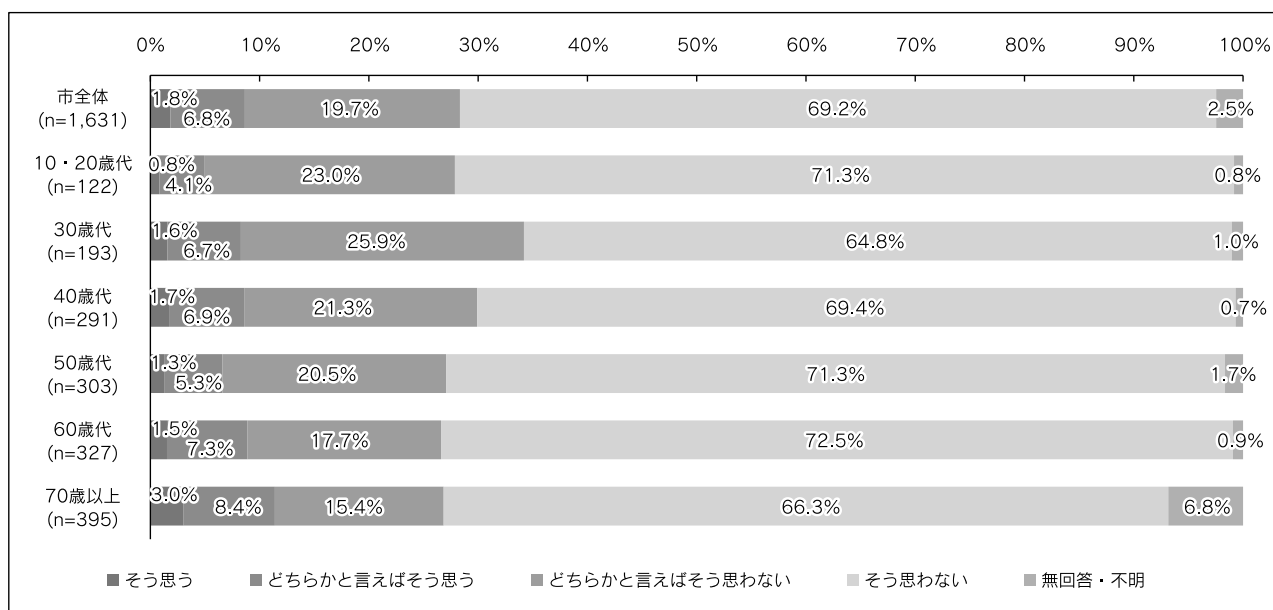
「そう思う」は66.3%で、前回調査と比較すると14.4ポイント高くなっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、95%となっています。差別は人間として最も恥ずべき行為であると、9割強が認識していることになります。

イ 差別問題は、差別されている人の問題で自分には関係ない

前回調査 (2015)



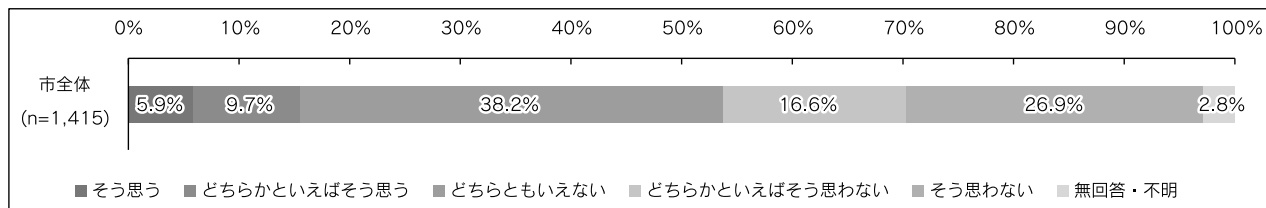
今回調査 (2020)



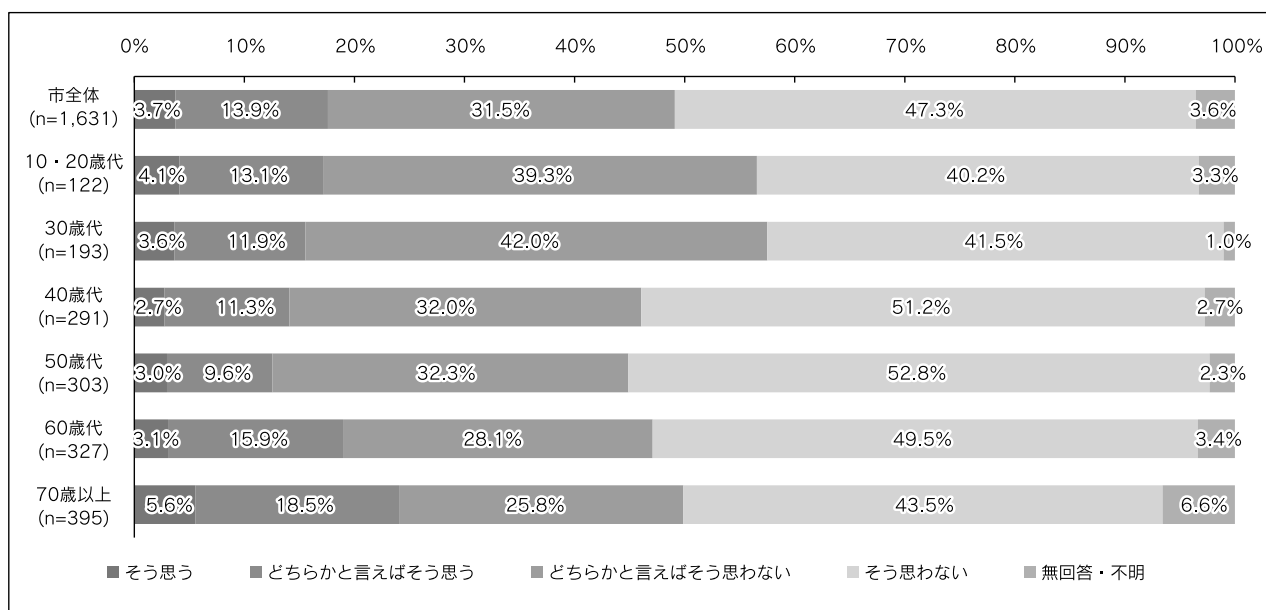
「そう思わない」は69.2%で、前回調査と比較すると24.2ポイント高くなっています。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は、88.9%となっています。差別の解消は差別する側の問題であると、9割弱が認識していることになります。

ウ 差別の原因は、差別される人の側に問題があることも多い

前回調査 (2015)



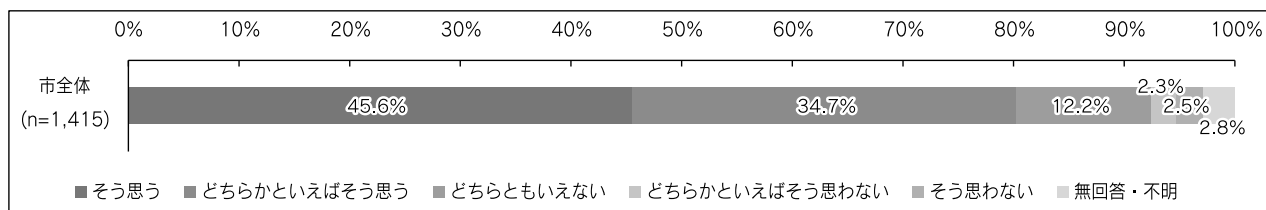
今回調査 (2020)



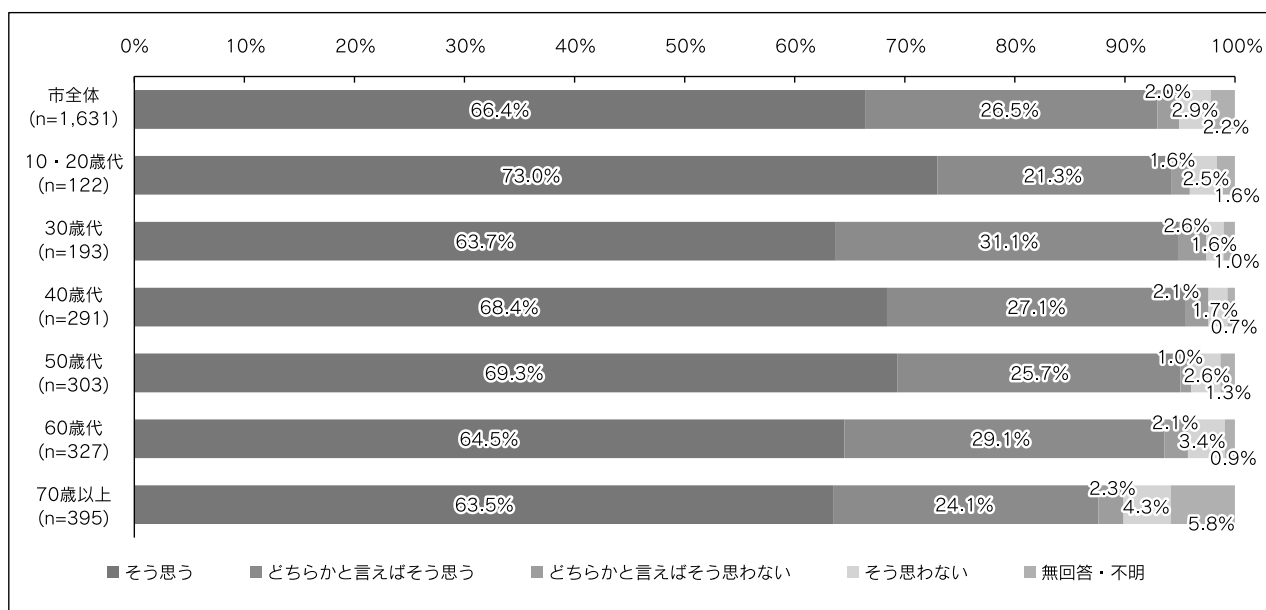
「そう思わない」は47.3%で、前回調査と比較すると20.4ポイント高くなっています。「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合は、78.8%となっています。差別は差別する側の問題であると、8割弱が認識していることとなりますが、「どちらかと言えばそう思う」13.9%、「そう思う」3.7%を合わせた割合の17.6%は、差別の原因を差別される側に求める認識であることを注視する必要があります。

エ 差別されている人の話をきちんと聴く必要がある

前回調査 (2015)



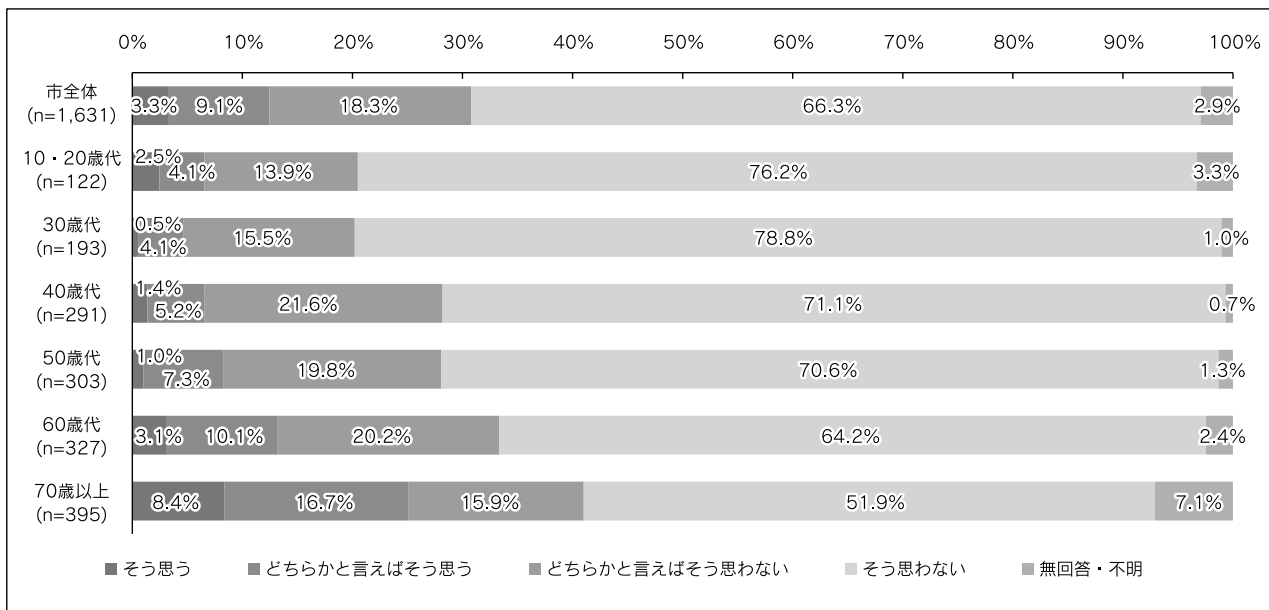
今回調査 (2020)



「そう思う」は66.4%で、前回調査と比較すると20.8ポイント高くなっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、92.9%となっています。差別されている人の話をきちんと聴く必要性を、9割強が認識していることとなります。

オ 差別を見たり聞いたりしたことがないので、差別はもうなくなった

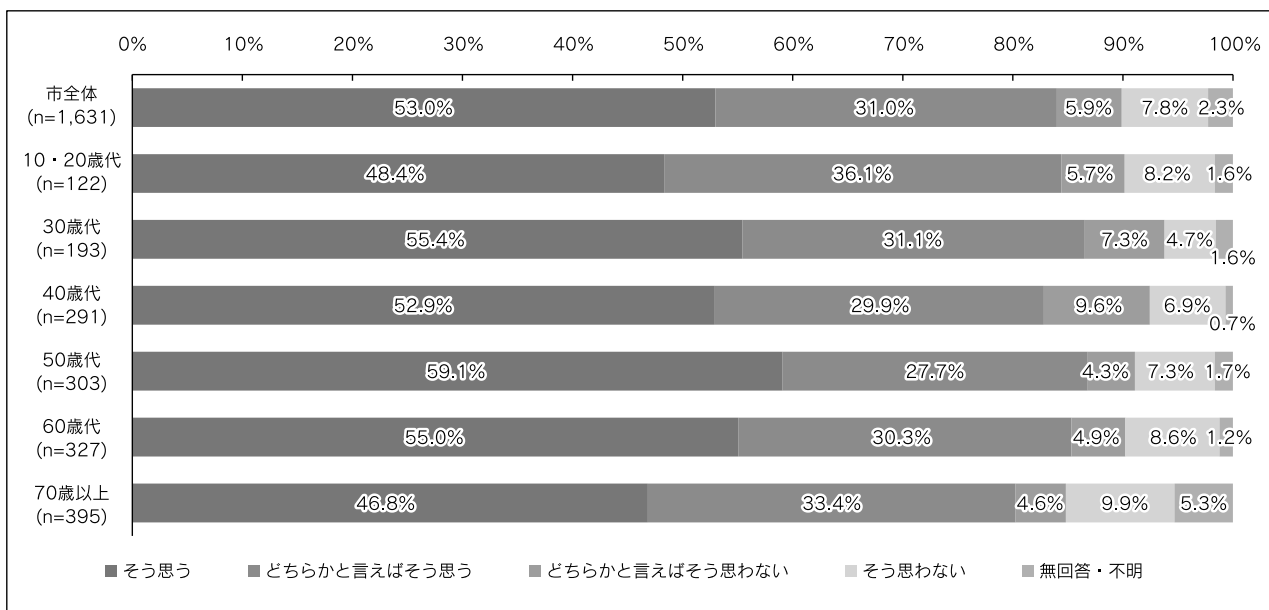
※この設問は、前回調査にはありません。



「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合は、84.6%となっています。「そう思う」3.3%、「どちらかと言えばそう思う」9.1%を合わせた割合は12.4%となっていて、差別の現状を実感していない人が一定数いることがわかります。

カ 思いやりだけでは差別はなくなる

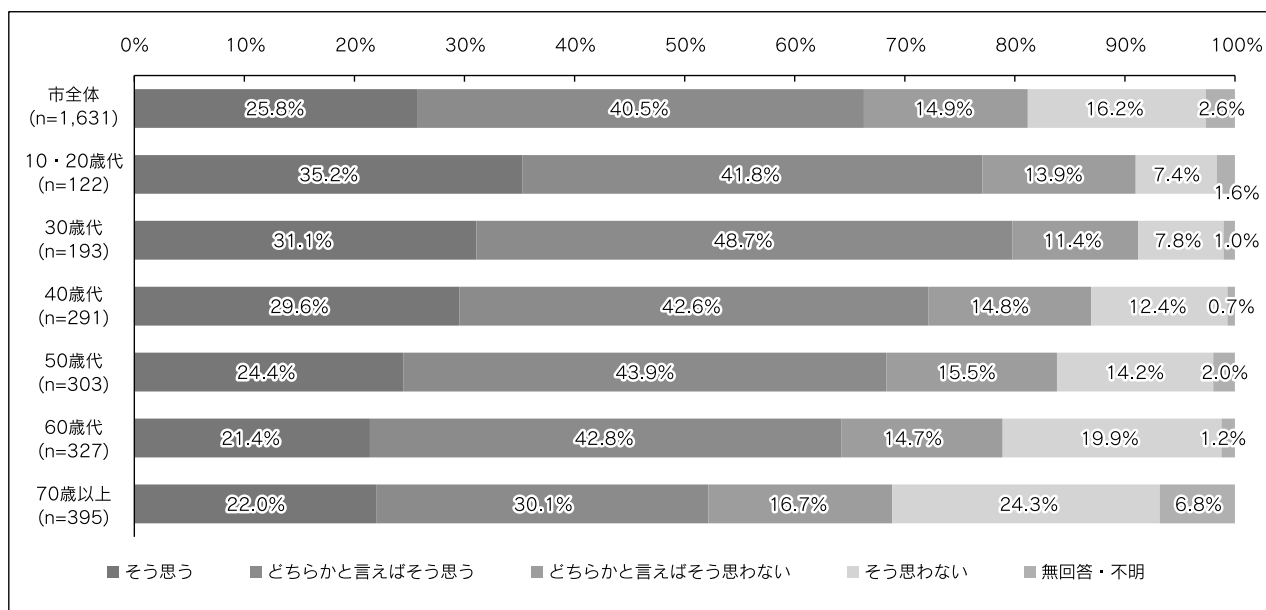
※この設問は、前回調査にはありません。



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、84.0%となっています。差別の解消に向けては、思いやりの心を大切にしながらも、心の問題だけにとどまらず差別をなくすための行動が重要であるということを、8割強が認識していると捉えることができます。

キ どんなに努力しても差別をなくすことは難しい

※この設問は、前回調査にはありません。



「そう思わない」16.2%、「どちらかと言えばそう思わない」14.9%を合わせた割合は、31.1%となっています。厳しい差別の現状を認識し、その解消方法に悩んだうえでの考えであるとの捉えもできますが、差別の解消に向けては「差別はなくすことができる」との展望を持つことは、必要不可欠と言えます。今後の教育や啓発の方向性として重視する必要があります。

3 交流

問7 あなたは、これまでの生活の中で、次のア～エの方と一緒に生活したり、働いたり、活動したりするなど、何らかの交流がありましたか。（○はそれぞれ1つ）

※この設問は、前回調査にはありません。

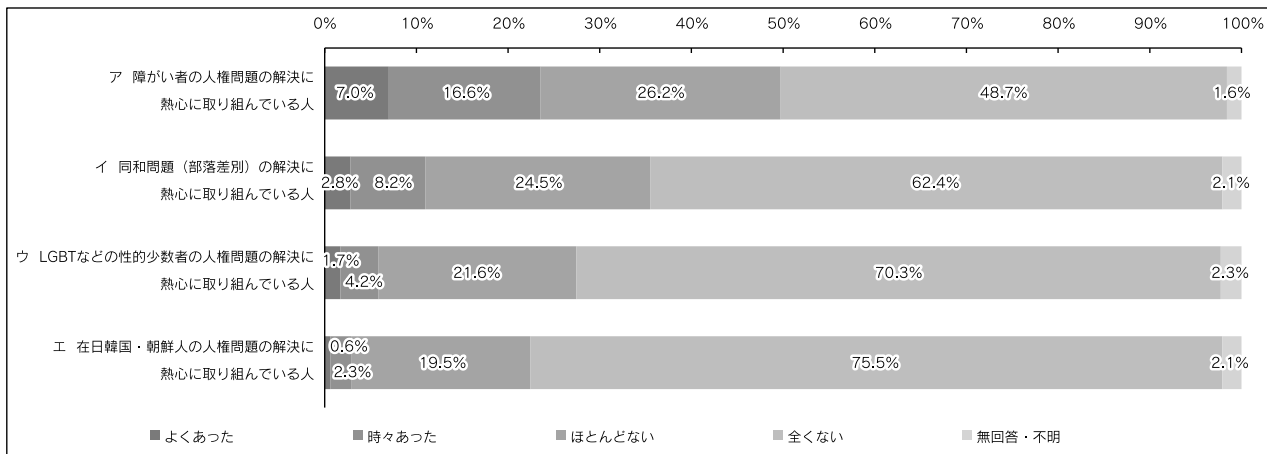
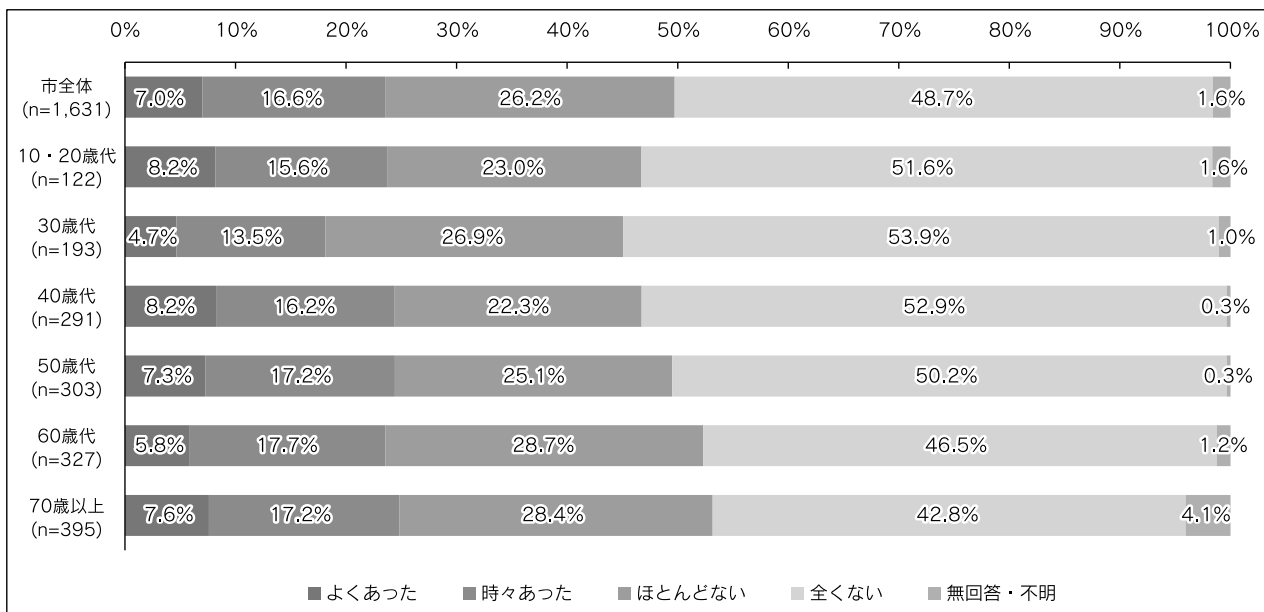


表2-14

	回 答 者 数	よ く あ っ た	時 々 あ っ た	ほ と ん ど な い	全 く な い	無 回 答 ・ 不 明
ア 障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人	1,631 100.0%	114 7.0%	270 16.6%	427 26.2%	794 48.7%	26 1.6%
イ 同和問題（部落差別）の解決に熱心に取り組んでいる人	1,631 100.0%	46 2.8%	133 8.2%	400 24.5%	1,018 62.4%	34 2.1%
ウ LGBTなどの性的少数者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人	1,631 100.0%	28 1.7%	68 4.2%	352 21.6%	1,146 70.3%	37 2.3%
エ 在日韓国・朝鮮人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人	1,631 100.0%	10 0.6%	38 2.3%	318 19.5%	1,231 75.5%	34 2.1%

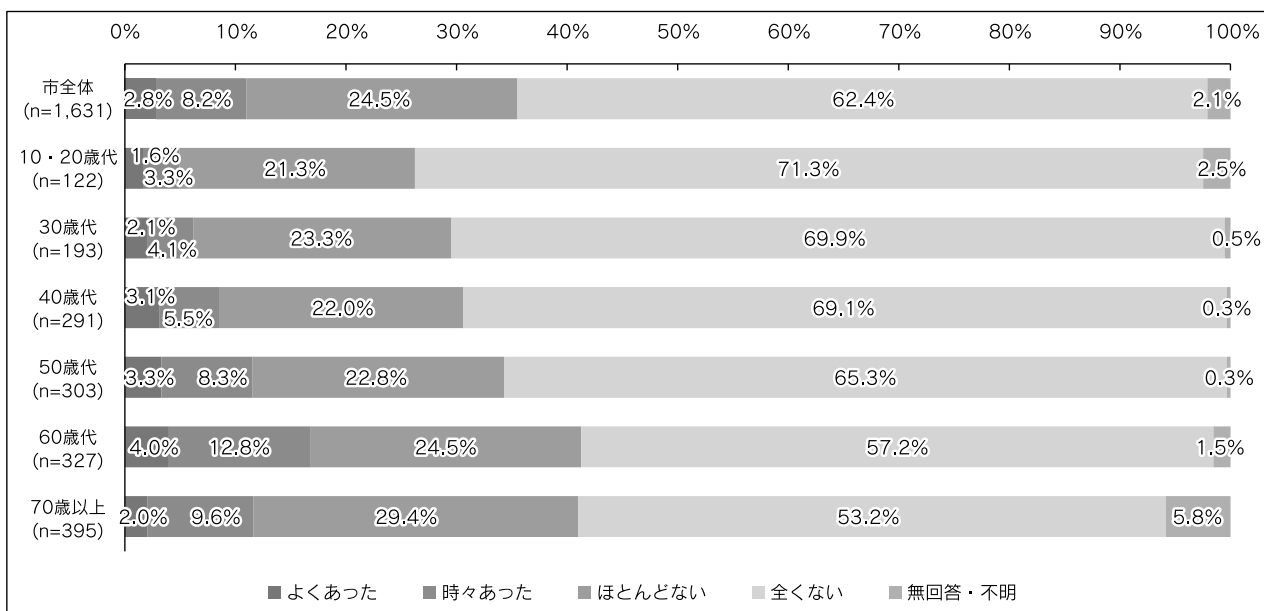
人権問題の解決に熱心な人との交流が、「よくあった」「時々あった」を合わせた割合は、高い順に「ア 障がい者」23.6%、「イ 同和問題（部落差別）」11.0%、「ウ LGBTなどの性的少数者」5.9%、「エ 在日韓国・朝鮮人」2.9%となっています。

ア 障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人



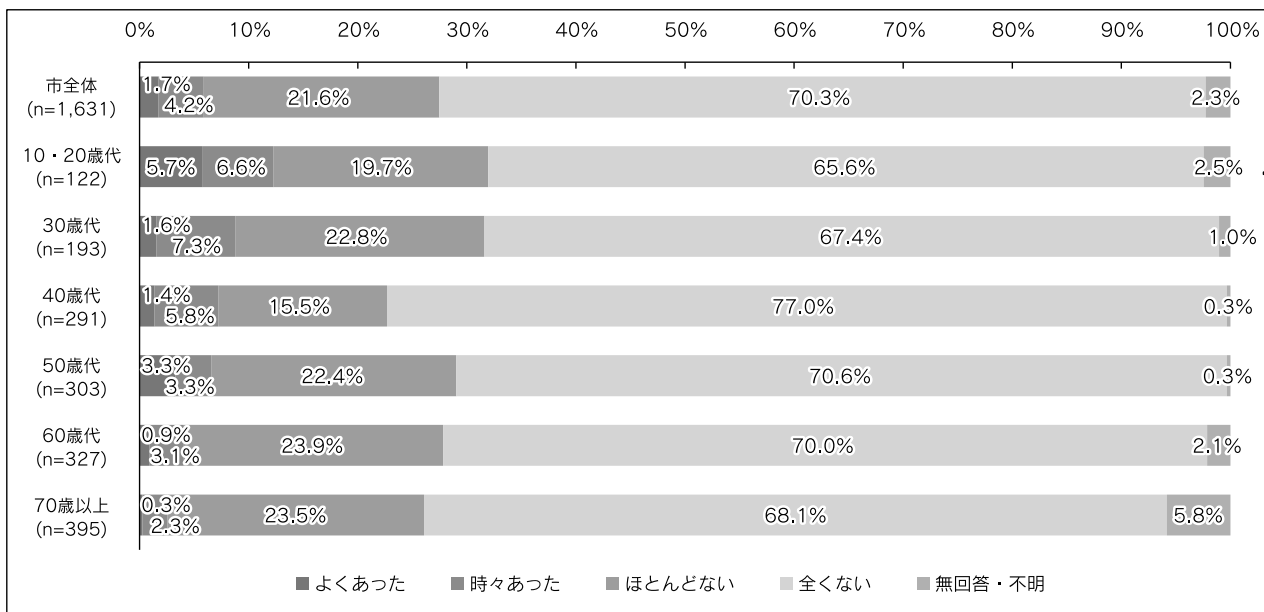
「全くない」48.7%となっていて、5割強の人が障がい者の人権問題に熱心に取り組んでいる人と何らかの交流があることがわかります。

イ 同和問題（部落差別）の解決に熱心に取り組んでいる人



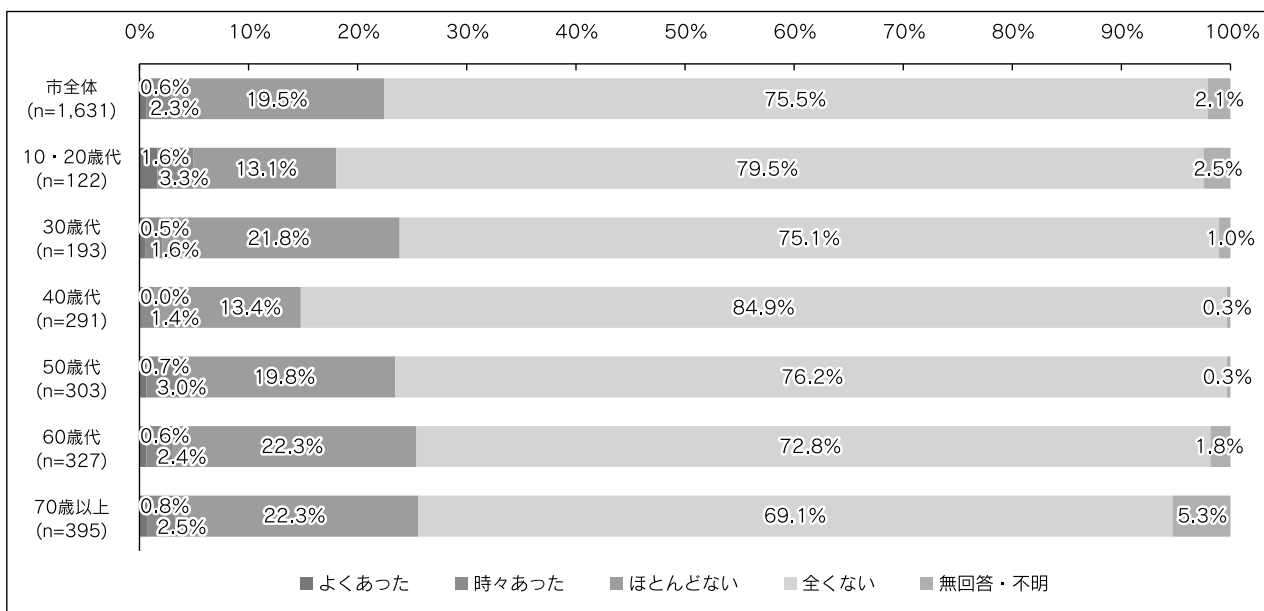
「全くない」62.4%となっていて、4割弱の人が同和問題（部落差別）の解決に熱心に取り組んでいる人と何らかの交流があることがわかります。

ウ LGBTなどの性的少数者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人



「全くない」70.3%となっていて、約3割の人がLGBTなどの性的少数者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と何らかの交流があることがわかります。

エ 在日韓国・朝鮮人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人

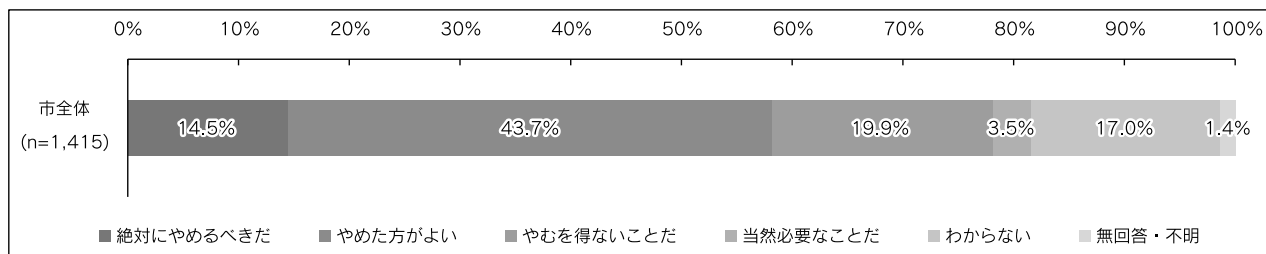


「全くない」75.5%となっていて、3割弱の人が在日韓国・朝鮮人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人と何らかの交流があることがわかります。

4 就職や結婚の際の身元調査

問8 あなたは、就職や結婚の時に、その相手方などの身元調査をすることについて、どう思いますか。（〇は1つだけ）

前回調査（2015）



今回調査（2020）

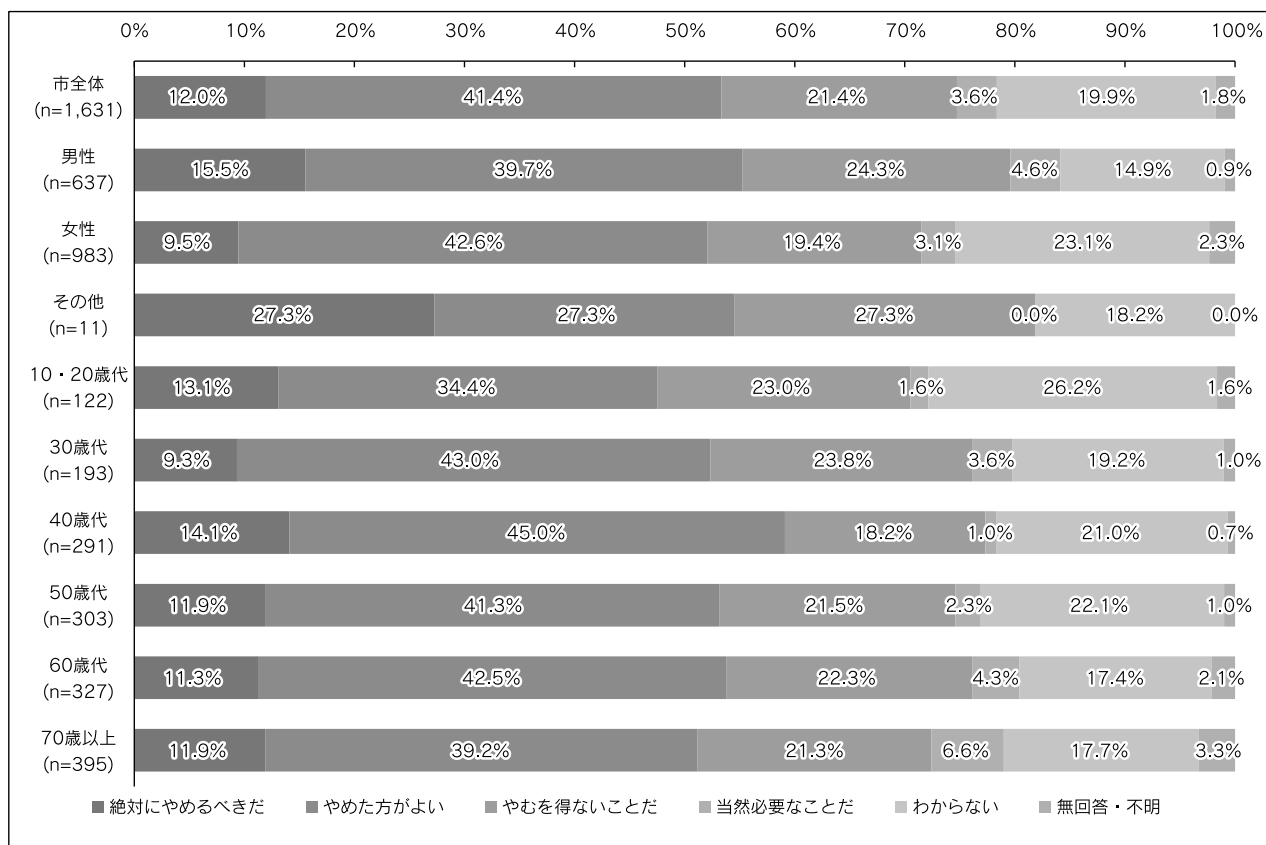


表2-15

		回 答 者 数	絶 対 に や め る べ き だ	や め た 方 が よ い	や む を 得 な い こ と だ	当 然 必 要 な こ と だ	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	195 12.0% (14.5)	675 41.4% (43.7)	349 21.4% (19.9)	59 3.6% (3.5)	324 19.9% (17.0)	29 1.8% (1.4)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	99 15.5% (16.2)	253 39.7% (43.0)	155 24.3% (21.9)	29 4.6% (4.5)	95 14.9% (12.8)	6 0.9% (1.5)
	女 性	983 100.0% 100.0%	93 9.5% (13.4)	419 42.6% (44.1)	191 19.4% (18.6)	30 3.1% (2.9)	227 23.1% (19.5)	23 2.3% (1.4)
	そ の 他	11 100.0%	3 27.3%	3 27.3%	3 27.3%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	16 13.1%	42 34.4%	28 23.0%	2 1.6%	32 26.2%	2 1.6%
	20 歳 代	100.0%	(16.3)	(38.2)	(17.9)	(3.3)	(22.0)	(2.4)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	18 9.3% (17.6)	83 43.0% (48.7)	46 23.8% (13.0)	7 3.6% (4.1)	37 19.2% (16.1)	2 1.0% (0.5)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	41 14.1% (16.3)	131 45.0% (44.9)	53 18.2% (20.8)	3 1.0% (2.4)	61 21.0% (14.7)	2 0.7% (0.8)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	36 11.9% (14.1)	125 41.3% (46.9)	65 21.5% (20.7)	7 2.3% (2.5)	67 22.1% (15.4)	3 1.0% (0.4)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	37 11.3% (13.0)	139 42.5% (46.8)	73 22.3% (21.1)	14 4.3% (3.0)	57 17.4% (15.4)	7 2.1% (0.6)
	70歳以上	395 100.0% 100.0%	47 11.9% (12.1)	155 39.2% (35.1)	84 21.3% (22.3)	26 6.6% (5.7)	70 17.7% (20.9)	13 3.3% (3.9)

就職や結婚の際の身元調査についての認識は、「絶対にやめるべきだ」12.0%、「やめた方がよい」41.4%を合わせた割合は53.4%であり、5割強が否定的であることがわかります。一方、年齢別で前回調査と比較すると、「絶対にやめるべきだ」「やめた方がよい」を合わせた割合が、10歳代・20歳代では47.5%で7.0ポイント、30歳代では52.3%で14ポイント低くなっています。また、「やむを得ないことだ」が10歳代・20歳代では23.0%で5.1ポイント、30歳代では23.8%で10.8ポイント高くなっています。年齢層が低い世代で、肯定する割合が高くなっていることが気になります。

偏見や差別意識に基づく身元調査は重大な差別行為であり、決して許されるものではないということについて、今後も啓発を継続して行う必要があります。

5 住居購入や入居の意向

問9 あなたが、住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望にあっても、次のア～キの条件の場合、避けることがありますか。

(○はそれぞれ1つ)

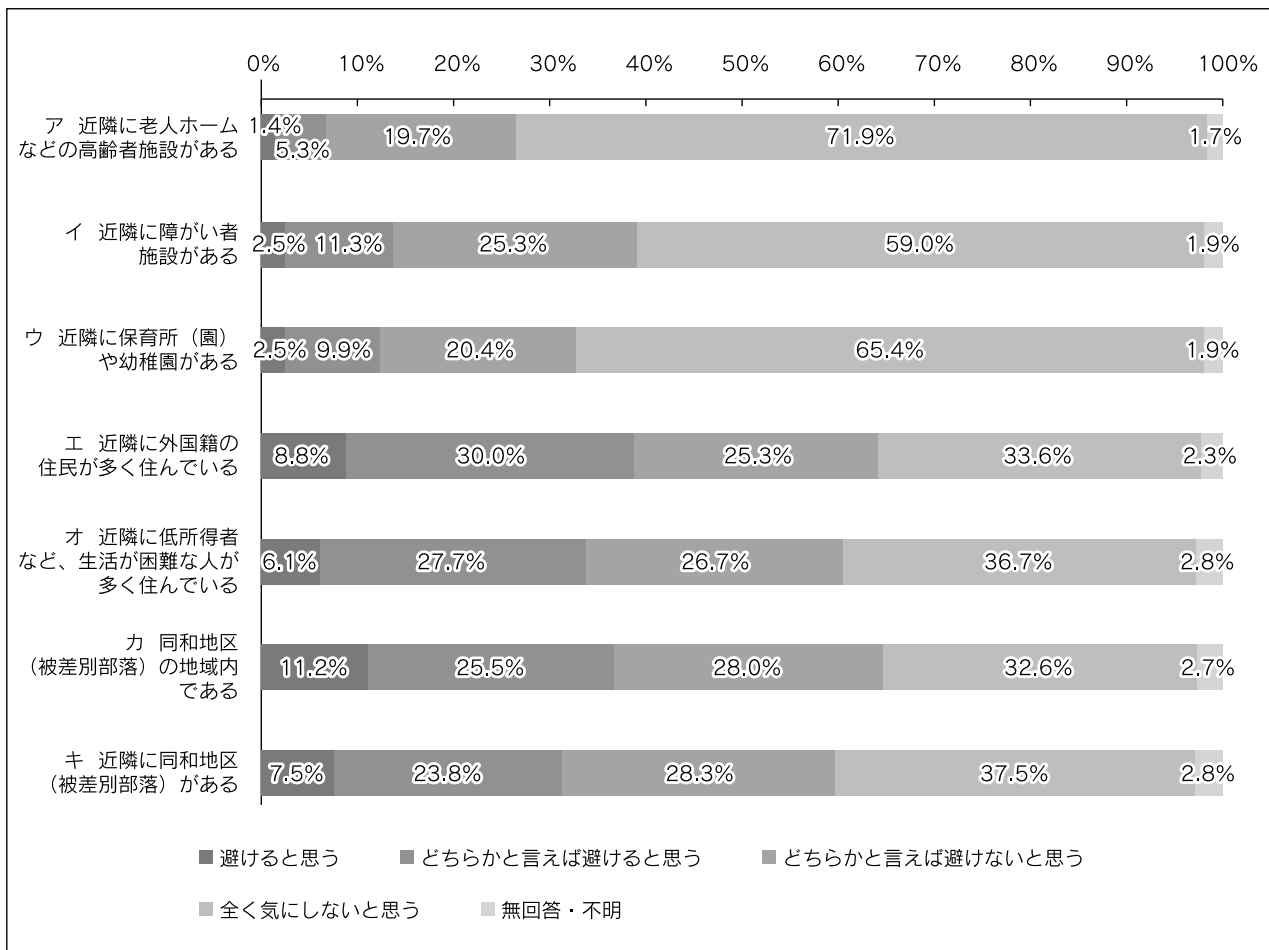


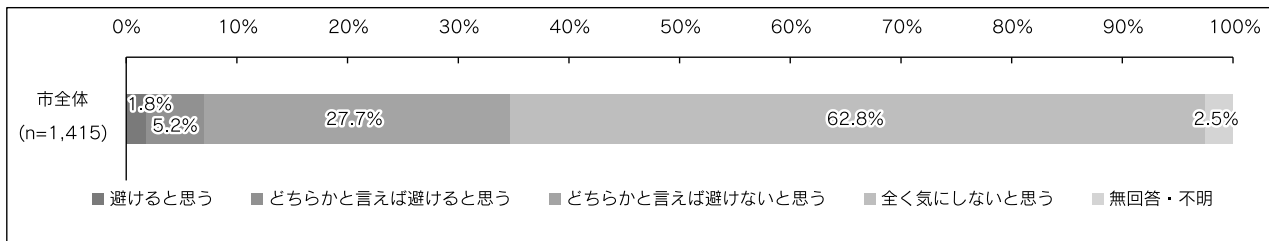
表2-16

	回答者数	避けると 思う	どちらか と言え ば避け ると 思う	どちらか と言え ば避け ない と思 う	全く 気に しな い と思 う	無回答・不明
ア 近隣に老人ホームなどの 高齢者施設がある	1,631 100.0% 100.0%	23 1.4% (1.8)	87 5.3% (5.2)	322 19.7% (27.7)	1,172 71.9% (62.8)	27 1.7% (2.5)
イ 近隣に障がい者施設がある	1,631 100.0% 100.0%	40 2.5% (9.6)	184 11.3% (25.2)	413 25.3% (29.3)	963 59.0% (32.7)	31 1.9% (3.2)
ウ 近隣に保育所(園)や幼稚園 がある	1,631 100.0% 100.0%	41 2.5% (1.7)	161 9.9% (8.3)	332 20.4% (22.6)	1,066 65.4% (65.0)	31 1.9% (2.4)
エ 近隣に外国籍の住民が多く 住んでいる	1,631 100.0% 100.0%	143 8.8% (10.9)	490 30.0% (31.2)	413 25.3% (30.5)	548 33.6% (24.3)	37 2.3% (3.1)
オ 近隣に低所得者など、生活が 困難な人が多く住んでいる	1,631 100.0% 100.0%	100 6.1% (9.2)	451 27.7% (30.0)	436 26.7% (27.1)	599 36.7% (30.0)	45 2.8% (3.6)
カ 同和地区(被差別部落)の 地域内である	1,631 100.0% 100.0%	182 11.2% (17.1)	416 25.5% (28.3)	457 28.0% (22.9)	532 32.6% (28.6)	44 2.7% (3.1)
キ 近隣に同和地区(被差別部落) がある	1,631 100.0% 100.0%	123 7.5% (10.5)	388 23.8% (23.0)	462 28.3% (27.6)	612 37.5% (35.1)	46 2.8% (3.7)

住居を探す際に、価格や立地条件があってもア～キの条件がある場合どんな態度をとるかに
ついて、「避けると思う」「どちらかと言えれば避けると思う」を合わせた割合の高い順に「エ 近
隣に外国籍の住民が多く住んでいる」38.8%、「カ 同和地区(被差別部落)の地域内である」
36.7%、「オ 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる」33.8%、「キ 近隣に
同和地区(被差別部落)がある」31.3%となっています。また、「イ 近隣に障がい者施設があ
る」13.8%、「ウ 近隣に保育所(園)や幼稚園がある」12.4%となっていて1割以上の人が「避
けたい」と思っていることがわかります。

ア 近隣に老人ホームなどの高齢者施設がある

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

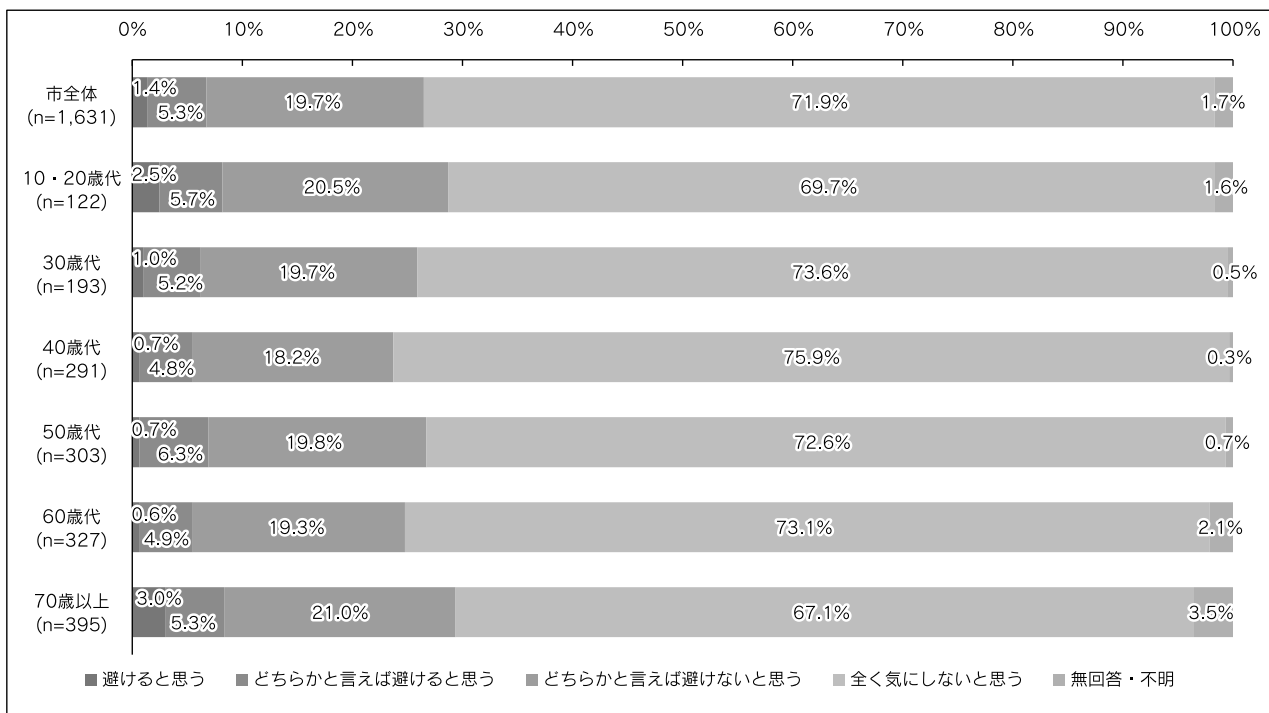


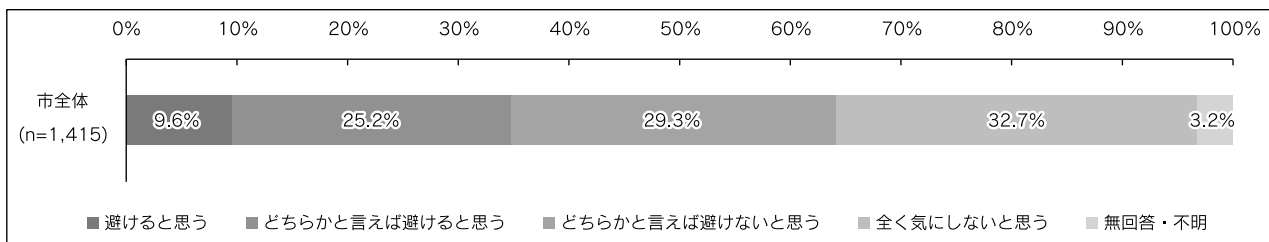
表2-17

		回答者数	避けると思う	どちらかと言えば避けると思う	どちらかと言えば避けないと思う	全く気にしないと思う	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	23 1.4% (1.8)	87 5.3% (5.2)	322 19.7% (27.7)	1,172 71.9% (62.8)	27 1.7% (2.5)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	10 1.6% (0.6)	46 7.2% (5.7)	114 17.9% (30.8)	460 72.2% (60.2)	7 1.1% (2.8)
	女 性	983 100.0% 100.0%	13 1.3% (2.5)	40 4.1% (5.0)	208 21.2% (25.9)	702 71.4% (64.4)	20 2.0% (2.3)
	そ の 他	11 100.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	10 90.9%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	3 2.5%	7 5.7%	25 20.5%	85 69.7%	2 1.6%
	20 歳 代	100.0%	(0.0)	(9.8)	(15.4)	(72.4)	(2.4)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	2 1.0% (1.0)	10 5.2% (4.7)	38 19.7% (31.6)	142 73.6% (61.7)	1 0.5% (1.0)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	2 0.7% (2.0)	14 4.8% (2.0)	53 18.2% (35.1)	221 75.9% (59.6)	1 0.3% (1.2)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	2 0.7% (1.7)	19 6.3% (6.2)	60 19.8% (28.6)	220 72.6% (60.6)	2 0.7% (2.9)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	2 0.6% (2.4)	16 4.9% (4.8)	63 19.3% (28.4)	239 73.1% (62.2)	7 2.1% (2.1)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	12 3.0% (2.1)	21 5.3% (6.0)	83 21.0% (22.3)	265 67.1% (64.9)	14 3.5% (4.6)

近隣に老人ホームなどの高齢者施設がある場合は、「全く気にしないと思う」が71.9%であり、前回調査と比較すると9.1ポイント高くなっています。年齢別にみても、「全く気にしない」の割合は、前回調査と比較すると大きく変化していて、特に40歳代は16.3ポイント高くなっています。

イ 近隣に障がい者施設がある

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

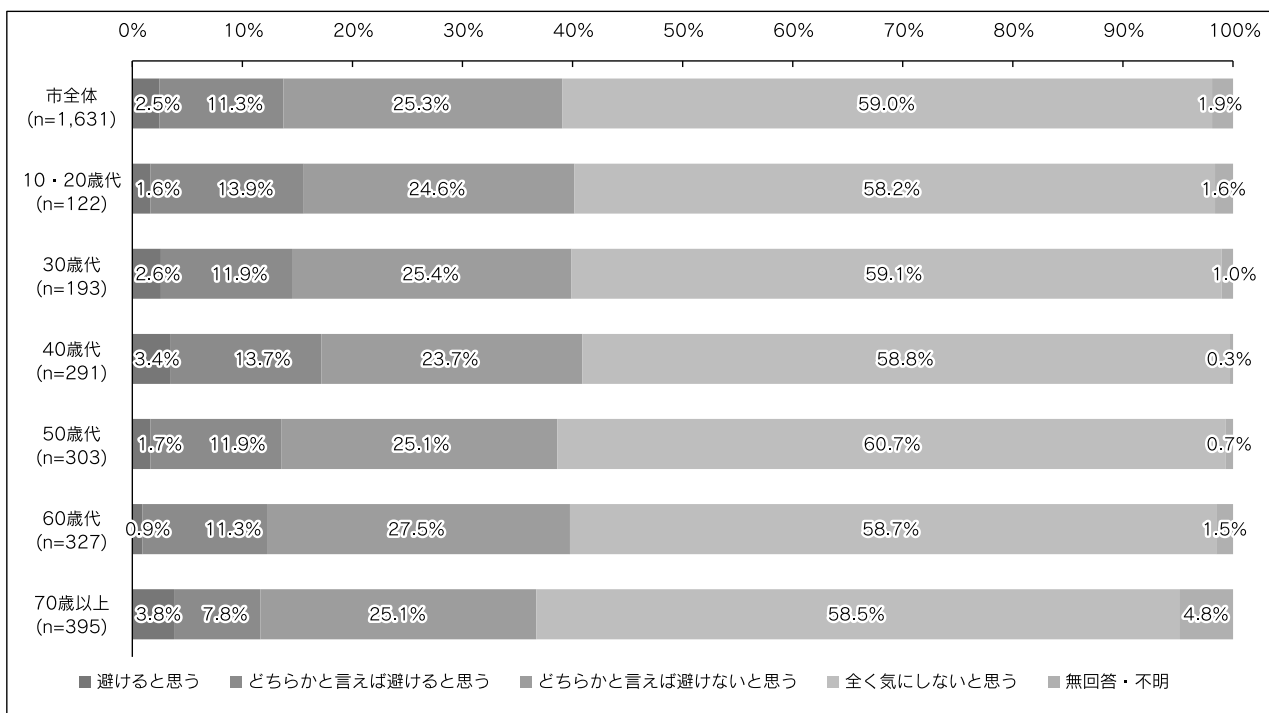


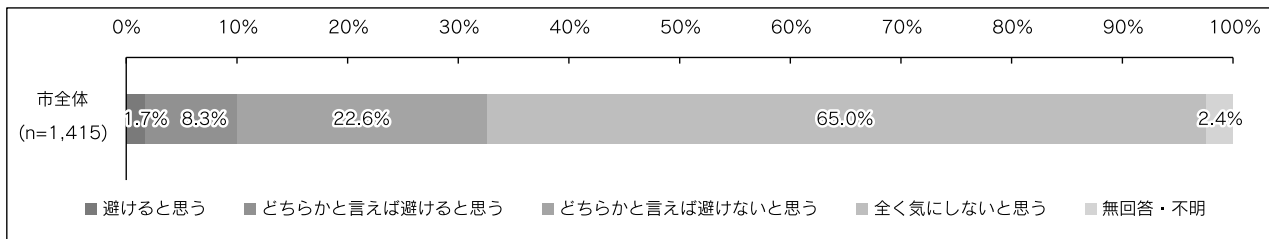
表2-18

		回答者数	避けると思う	どちらかと言え ば避けると思う	どちらかと言え ば避けないと思う	全く気にしない と思う	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	40 2.5% (9.6)	184 11.3% (25.2)	413 25.3% (29.3)	963 59.0% (32.7)	31 1.9% (3.2)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	23 3.6% (8.7)	72 11.3% (25.8)	145 22.8% (28.3)	389 61.1% (34.0)	8 1.3% (3.2)
	女 性	983 100.0% 100.0%	17 1.7% (10.2)	111 11.3% (24.9)	268 27.3% (29.8)	564 57.4% (32.0)	23 2.3% (3.2)
	そ の 他	11 100.0%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%	10 90.9%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	2 1.6%	17 13.9%	30 24.6%	71 58.2%	2 1.6%
	20 歳 代	100.0%	(8.1)	(22.0)	(25.2)	(41.5)	(3.3)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	5 2.6% (10.9)	23 11.9% (26.4)	49 25.4% (28.0)	114 59.1% (33.2)	2 1.0% (1.6)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	10 3.4% (13.1)	40 13.7% (29.8)	69 23.7% (29.4)	171 58.8% (26.5)	1 0.3% (1.2)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	5 1.7% (9.1)	36 11.9% (26.1)	76 25.1% (28.2)	184 60.7% (32.4)	2 0.7% (4.1)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	3 0.9% (9.1)	37 11.3% (24.8)	90 27.5% (32.0)	192 58.7% (32.0)	5 1.5% (2.1)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	15 3.8% (7.4)	31 7.8% (21.6)	99 25.1% (29.4)	231 58.5% (35.1)	19 4.8% (6.4)

近隣に障がい者施設がある場合は、「全く気にしないと思う」が59.0%であり、前回調査と比較すると26.3ポイント高くなっています。前回調査と比較すると、「避けると思う」「どちらかと言え
ば避けると思う」を合わせた割合は13.8%で21.0ポイント低く、「どちらかと言え
ば避けないと思う」「全く気にしないと思う」を合わせた割合は84.3%で、22.3ポイント高くなっています。教育や啓発の効果が出ていると捉えることができます。

ウ 近隣に保育所（園）や幼稚園がある

前回調査（2015）



今回調査（2020）

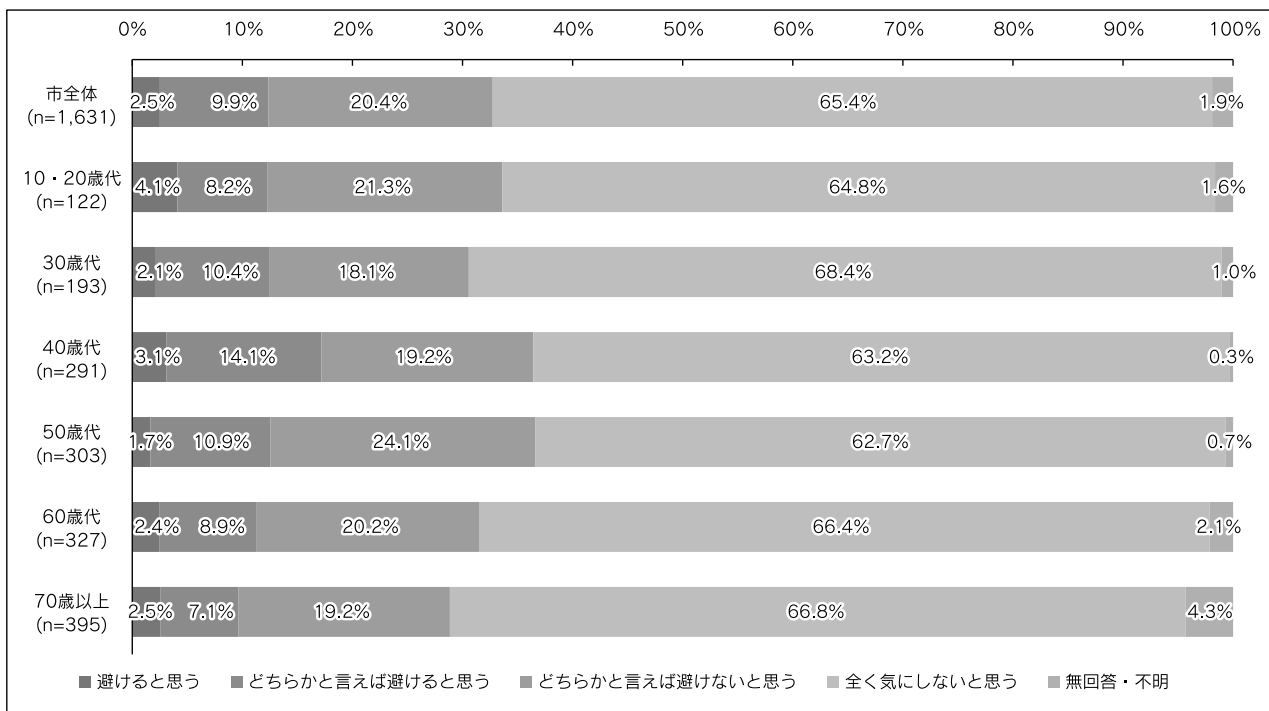


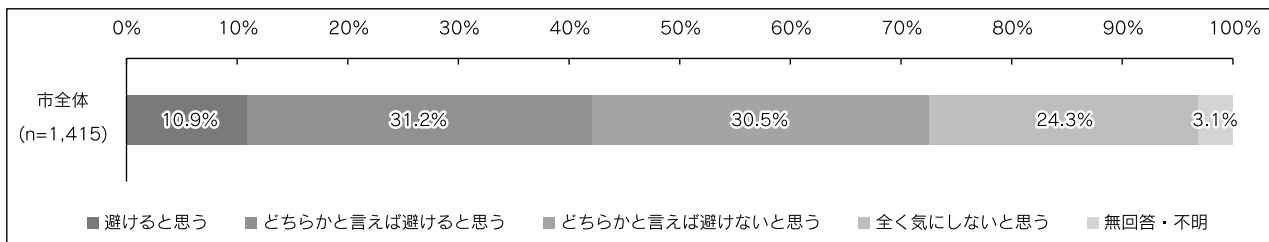
表2-19

		回答者数	避けると思う	どちらかと言え ば避けると思 う	どちらかと言 えば避けな いと思う	全く気にしな いと思う	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	41 2.5% (1.7)	161 9.9% (8.3)	332 20.4% (22.6)	1,066 65.4% (65.0)	31 1.9% (2.4)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	17 2.7% (1.1)	55 8.6% (7.2)	121 19.0% (21.9)	437 68.6% (67.2)	7 1.1% (2.6)
	女 性	983 100.0% 100.0%	24 2.4% (2.0)	103 10.5% (8.9)	211 21.5% (23.1)	621 63.2% (63.7)	24 2.4% (2.3)
	そ の 他	11 100.0%	0 0.0%	3 27.3%	0 0.0%	8 72.7%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	5 4.1%	10 8.2%	26 21.3%	79 64.8%	2 1.6%
	20 歳 代	100.0%	(1.6)	(4.9)	(16.3)	(74.8)	(2.4)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	4 2.1% (1.0)	20 10.4% (6.2)	35 18.1% (18.7)	132 68.4% (72.5)	2 1.0% (1.6)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	9 3.1% (1.6)	41 14.1% (10.2)	56 19.2% (30.6)	184 63.2% (56.3)	1 0.3% (1.2)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	5 1.7% (2.5)	33 10.9% (10.0)	73 24.1% (27.0)	190 62.7% (57.7)	2 0.7% (2.9)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	8 2.4% (2.4)	29 8.9% (9.1)	66 20.2% (19.9)	217 66.4% (66.5)	7 2.1% (2.1)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	10 2.5% (0.7)	28 7.1% (7.1)	76 19.2% (20.6)	264 66.8% (67.7)	17 4.3% (3.9)

近隣に保育所（園）や幼稚園がある場合は、「どちらかと言えれば避けないと思う」「全く気にしないと思う」を合わせた割合は85.8%となっています。前回調査と比較しても大きく変化はありません。

エ 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

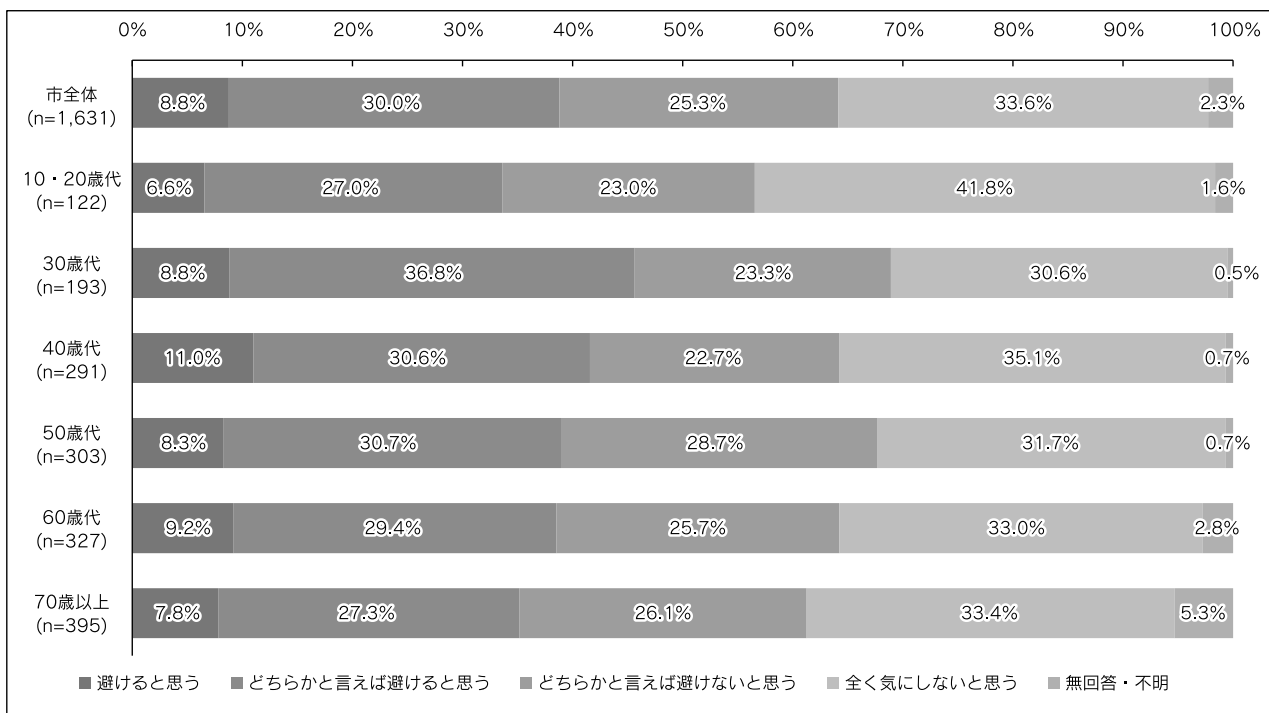


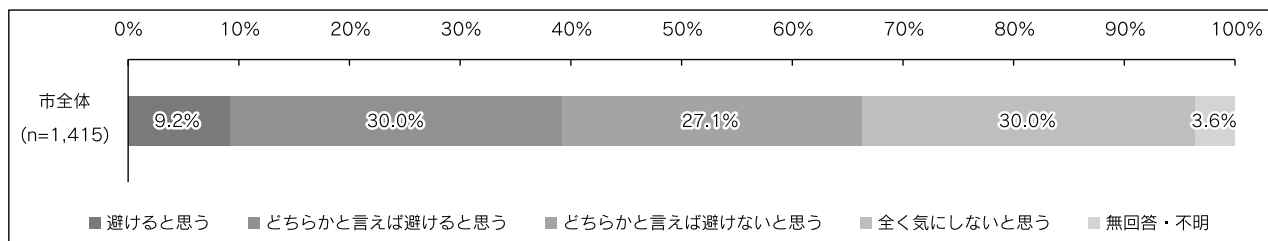
表2-20

		回答者数	避けると思う	どちらかと言え ば避けると 思う	どちらかと言 えば避けな いと思う	全く気にしな いと思う	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	143 8.8% (10.9)	490 30.0% (31.2)	413 25.3% (30.5)	548 33.6% (24.3)	37 2.3% (3.1)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	67 10.5% (11.5)	189 29.7% (32.1)	151 23.7% (27.5)	223 35.0% (25.7)	7 1.1% (3.2)
	女 性	983 100.0% 100.0%	73 7.4% (10.5)	301 30.6% (30.7)	261 26.6% (32.2)	318 32.3% (23.5)	30 3.1% (3.1)
	そ の 他	11 100.0%	3 27.3%	0 0.0%	1 9.1%	7 63.6%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	8 6.6%	33 27.0%	28 23.0%	51 41.8%	2 1.6%
	20 歳 代	100.0%	(5.7)	(26.0)	(30.9)	(34.1)	(3.3)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	17 8.8% (13.5)	71 36.8% (34.2)	45 23.3% (29.5)	59 30.6% (21.2)	1 0.5% (1.6)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	32 11.0% (13.1)	89 30.6% (37.1)	66 22.7% (31.4)	102 35.1% (17.1)	2 0.7% (1.2)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	25 8.3% (9.1)	93 30.7% (35.7)	87 28.7% (30.7)	96 31.7% (22.4)	2 0.7% (2.1)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	30 9.2% (10.6)	96 29.4% (27.8)	84 25.7% (32.3)	108 33.0% (26.3)	9 2.8% (3.0)
70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	31 7.8% (11.3)	108 27.3% (26.6)	103 26.1% (27.7)	132 33.4% (27.7)	21 5.3% (6.7)	

近隣に外国籍の住民が多く住んでいる場合は、「全く気にしないと思う」は33.6%であり、前回調査と比較すると9.3ポイント高くなっています。一方、「どちらかと言えれば避けないと思う」「全く気にしないと思う」を合わせた割合は58.9%にとどまり、外国籍の人に対しての偏見や差別意識が未だに潜在化している現状がうかがえます。

オ 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

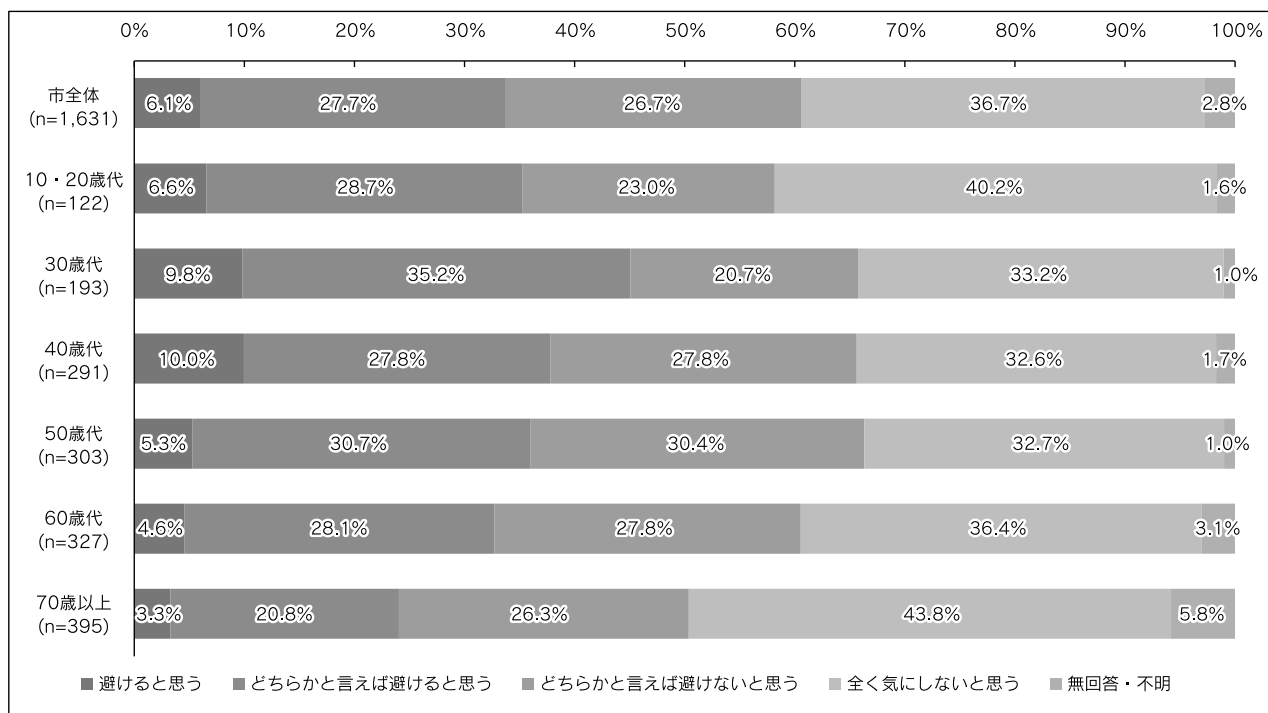


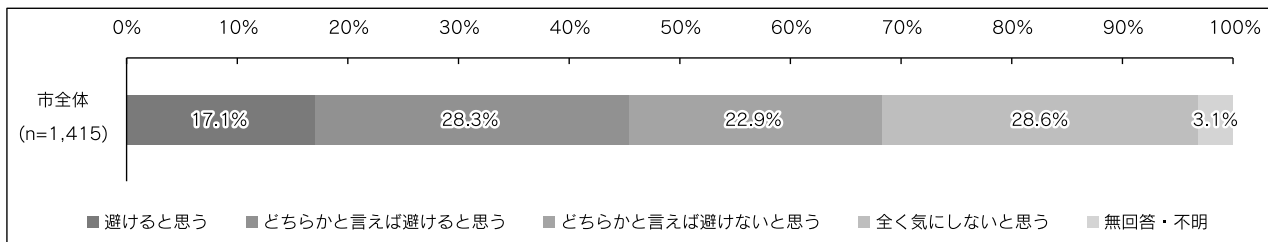
表2-21

		回答者数	避けると思う	どちらかと言え ば避けると思う	どちらかと言え ば避けないと思う	全く気にしない と思う	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	100 6.1% (9.2)	451 27.7% (30.0)	436 26.7% (27.1)	599 36.7% (30.0)	45 2.8% (3.6)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	45 7.1% (8.9)	166 26.1% (30.2)	168 26.4% (25.7)	247 38.8% (31.5)	11 1.7% (3.8)
	女 性	983 100.0% 100.0%	53 5.4% (9.4)	283 28.8% (29.9)	268 27.3% (28.0)	345 35.1% (29.2)	34 3.5% (3.5)
	そ の 他	11 100.0%	2 18.2%	2 18.2%	0 0.0%	7 63.6%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	8 6.6%	35 28.7%	28 23.0%	49 40.2%	2 1.6%
	20 歳 代	100.0%	(10.6)	(26.8)	(21.1)	(38.2)	(3.3)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	19 9.8% (9.3)	68 35.2% (40.4)	40 20.7% (24.4)	64 33.2% (24.4)	2 1.0% (1.6)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	29 10.0% (13.5)	81 27.8% (34.3)	81 27.8% (26.5)	95 32.6% (24.5)	5 1.7% (1.2)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	16 5.3% (10.8)	93 30.7% (33.6)	92 30.4% (28.2)	99 32.7% (24.1)	3 1.0% (3.3)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	15 4.6% (8.8)	92 28.1% (26.3)	91 27.8% (30.5)	119 36.4% (29.9)	10 3.1% (4.5)
70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	13 3.3% (3.9)	82 20.8% (22.0)	104 26.3% (27.3)	173 43.8% (40.4)	23 5.8% (6.4)	

近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる場合は、「全く気にしないと思う」は36.7%であり、前回調査と比較すると6.7ポイント高くなっています。一方、「どちらかと言えれば避けないと思う」「全く気にしないと思う」を合わせた割合は63.4%にとどまり、低所得者など、生活が困難な人に対する偏見や差別意識がある現状がうかがえます。

カ 同和地区（被差別部落）の地域内である

前回調査（2015）



今回調査（2020）

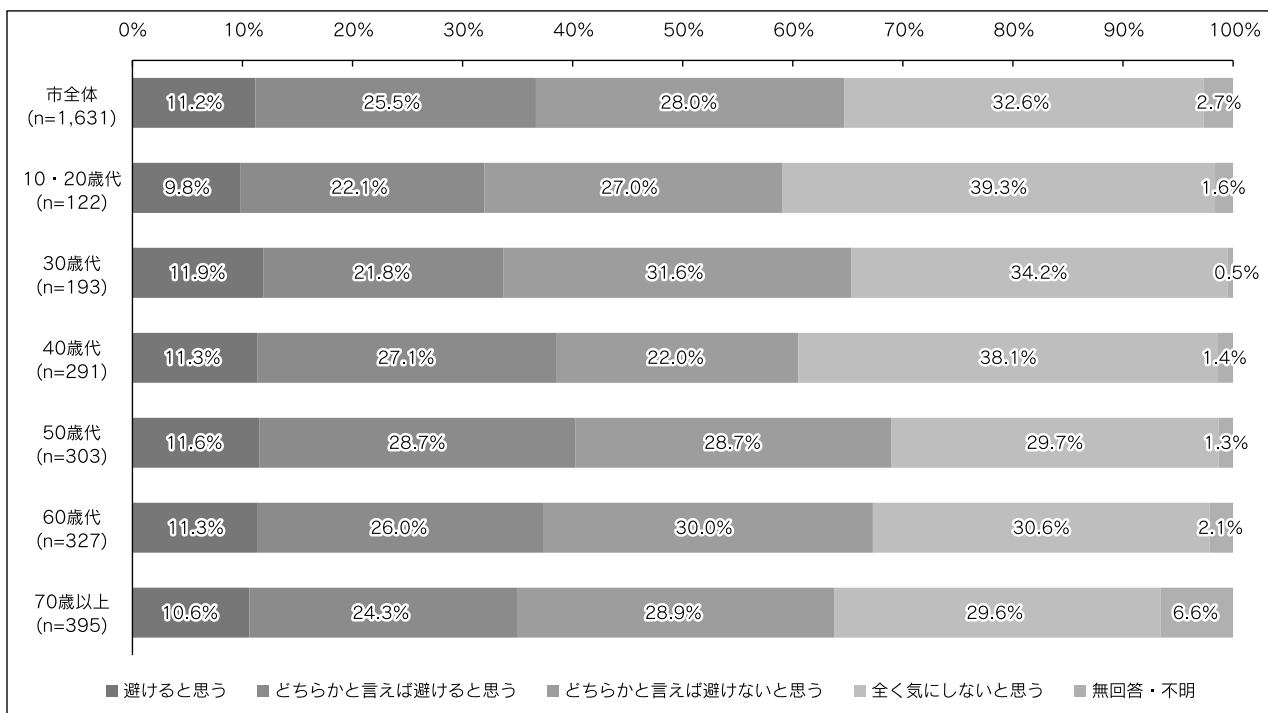


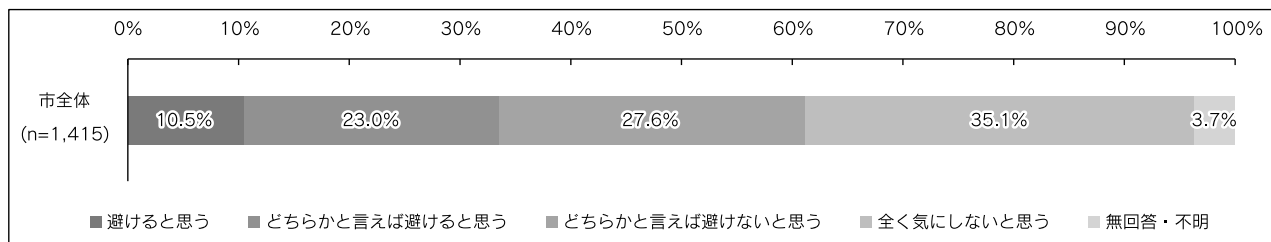
表2-22

		回答者数	避けると思う	どちらかと言えば避けると思う	どちらかと言えば避けないと思う	全く気にしないと思う	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	182 11.2% (17.1)	416 25.5% (28.3)	457 28.0% (22.9)	532 32.6% (28.6)	44 2.7% (3.1)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	75 11.8% (17.0)	152 23.9% (27.9)	177 27.8% (21.1)	223 35.0% (30.8)	10 1.6% (3.2)
	女 性	983 100.0% 100.0%	106 10.8% (17.2)	262 26.7% (28.6)	280 28.5% (24.0)	302 30.7% (27.2)	33 3.4% (3.1)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%	7 63.6%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	12 9.8%	27 22.1%	33 27.0%	48 39.3%	2 1.6%
	20 歳 代	100.0%	(9.8)	(20.3)	(23.6)	(42.3)	(4.1)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	23 11.9% (13.5)	42 21.8% (30.6)	61 31.6% (23.3)	66 34.2% (31.1)	1 0.5% (1.6)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	33 11.3% (19.2)	79 27.1% (28.2)	64 22.0% (20.8)	111 38.1% (29.8)	4 1.4% (2.0)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	35 11.6% (19.9)	87 28.7% (30.7)	87 28.7% (24.9)	90 29.7% (22.0)	4 1.3% (2.5)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	37 11.3% (21.8)	85 26.0% (27.8)	98 30.0% (23.0)	100 30.6% (24.2)	7 2.1% (3.3)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	42 10.6% (13.1)	96 24.3% (29.1)	114 28.9% (22.3)	117 29.6% (30.5)	26 6.6% (5.0)

同和地区（被差別部落）の地域内である場合は、「全く気にしないと思う」は32.6%であり、前回調査と比較すると4.0ポイント高くなっていますが、前述のア～オの設問に比べて変化が小さく、同和地区（被差別部落）に対しての偏見や差別意識の根深さを感じる結果と言えます。一方、年齢別にみると、40歳～60歳代は「避けると思う」の割合が7～10ポイント低くなり、「全く気にしないと思う」が6～8ポイント高くなっていることから、啓発の効果が出ていると捉えることができます。

キ 近隣に同和地区（被差別部落）がある

前回調査（2015）



今回調査（2020）

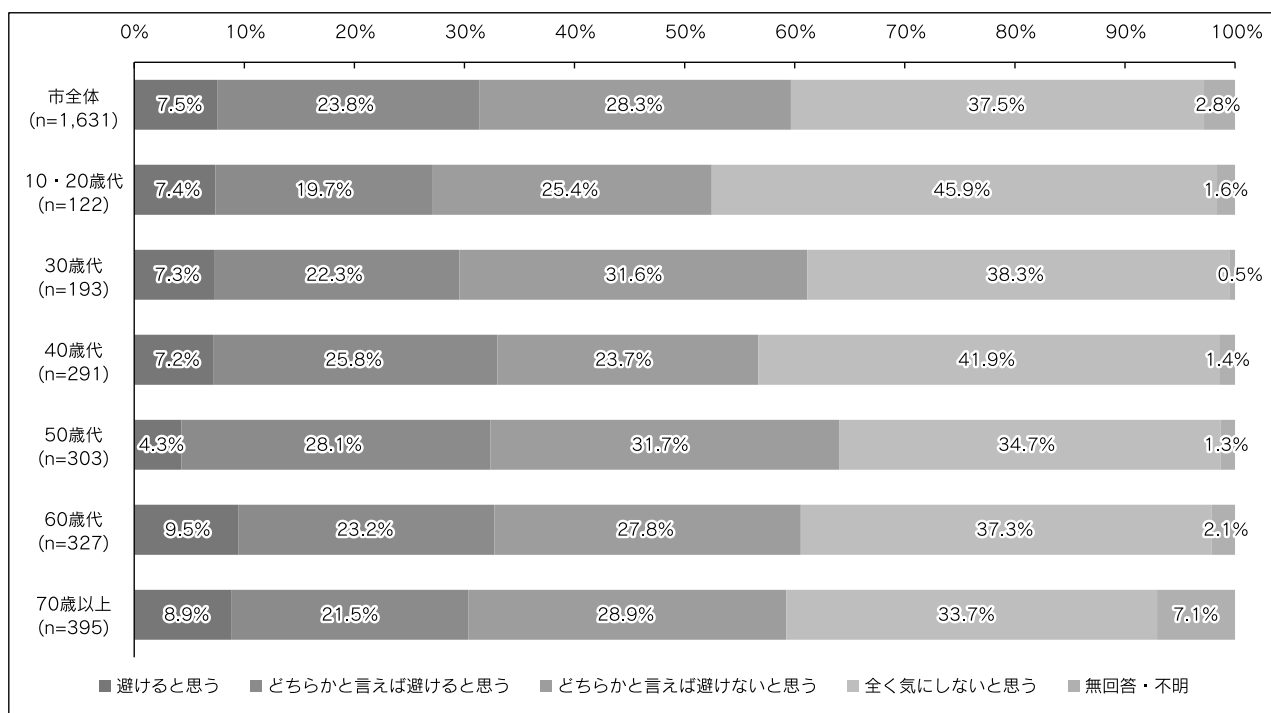


表2-23

		回答者数	避けると思う	どちらかと言え ば避けると思う	どちらかと言え ば避けないと思う	全く気にしない と思う	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	123 7.5% (10.5)	388 23.8% (23.0)	462 28.3% (27.6)	612 37.5% (35.1)	46 2.8% (3.7)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	49 7.7% (10.9)	153 24.0% (23.2)	172 27.0% (24.9)	252 39.6% (37.7)	11 1.7% (3.2)
	女 性	983 100.0% 100.0%	73 7.4% (10.2)	233 23.7% (22.9)	290 29.5% (29.3)	353 35.9% (33.6)	34 3.5% (4.1)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%	7 63.6%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	9 7.4%	24 19.7%	31 25.4%	56 45.9%	2 1.6%
	20 歳 代	100.0%	(7.3)	(16.3)	(23.6)	(48.8)	(4.1)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	14 7.3% (7.8)	43 22.3% (19.7)	61 31.6% (34.2)	74 38.3% (36.8)	1 0.5% (1.6)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	21 7.2% (12.7)	75 25.8% (22.4)	69 23.7% (27.8)	122 41.9% (35.1)	4 1.4% (2.0)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	13 4.3% (13.3)	85 28.1% (24.1)	96 31.7% (29.0)	105 34.7% (29.5)	4 1.3% (4.1)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	31 9.5% (12.7)	76 23.2% (24.8)	91 27.8% (27.5)	122 37.3% (30.8)	7 2.1% (4.2)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	35 8.9% (6.7)	85 21.5% (25.9)	114 28.9% (23.8)	133 33.7% (37.9)	28 7.1% (5.7)

近隣に同和地区（被差別部落）がある場合は、「全く気にしないと思う」は37.5%であり、前回調査と比較すると2.4ポイント高くなっています。前述の力の設問同様、他の設問と比べて変化が小さく、同和地区（被差別部落）に対するの偏見や差別意識の根深さを感じる結果と言えます。一方、年齢別にみると、前述の力の設問同様、40歳～60歳代は、「避けると思う」の割合が低くなり、「全く気にしないと思う」の割合が高くなっています。

6 日常生活の場面における人権意識

問10 あなたは、普段の生活の中で、次のア～ケの考え方について、どう思いますか。

(○はそれぞれ1つ)

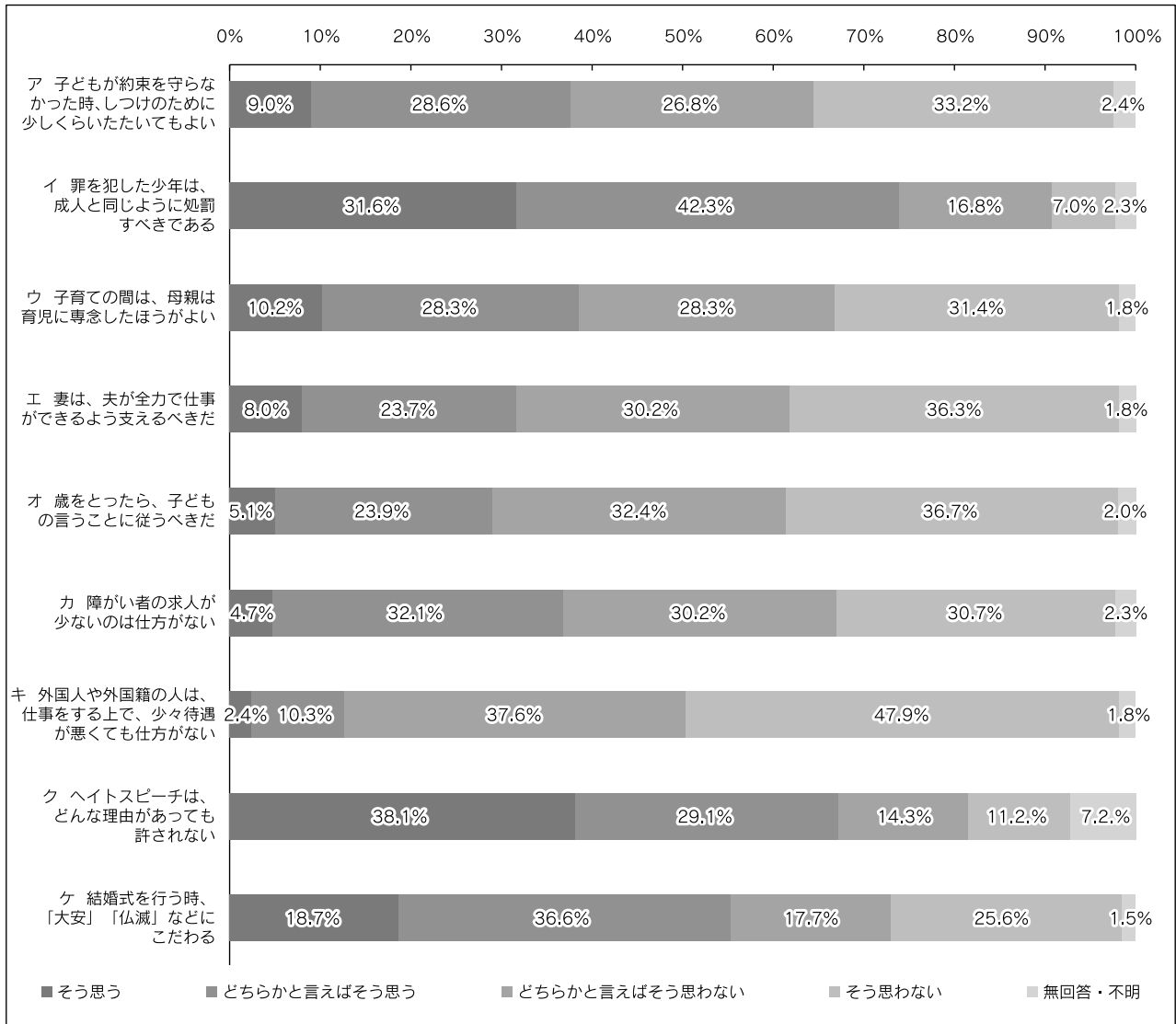


表2-24

	回答者数	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	無回答・不明
ア 子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい	1,631 100.0% 100.0%	147 9.0% (20.8)	467 28.6% (33.8)	437 26.8% (19.5)	541 33.2% (23.1)	39 2.4% (2.8)
イ 罪を犯した少年は、成人と同じように処罰すべきである	1,631 100.0% 100.0%	516 31.6% (44.0)	690 42.3% (38.6)	274 16.8% (11.1)	114 7.0% (3.5)	37 2.3% (2.8)
ウ 子育ての間は、母親は育児に専念したほうがよい	1,631 100.0% 100.0%	166 10.2% (18.6)	462 28.3% (39.3)	462 28.3% (19.0)	512 31.4% (20.4)	29 1.8% (2.7)
エ 妻は、夫が全力で仕事ができるよう支えるべきだ	1,631 100.0% 100.0%	130 8.0% (16.2)	386 23.7% (32.9)	493 30.2% (24.2)	592 36.3% (23.9)	30 1.8% (2.9)
オ 歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ	1,631 100.0% 100.0%	83 5.1% (4.0)	390 23.9% (19.6)	528 32.4% (31.2)	598 36.7% (42.5)	32 2.0% (2.8)
カ 障がい者の求人が少ないのは仕方がない	1,631 100.0% 100.0%	77 4.7% (5.9)	523 32.1% (34.0)	493 30.2% (28.6)	501 30.7% (28.5)	37 2.3% (3.0)
キ 外国人や外国籍の人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない	1,631 100.0% 100.0%	39 2.4% (2.7)	168 10.3% (9.5)	614 37.6% (38.8)	781 47.9% (46.3)	29 1.8% (2.8)
ク ヘイトスピーチは、どんな理由があっても許されない	1,631 100.0% 100.0%	622 38.1% (53.6)	474 29.1% (22.0)	234 14.3% (2.3)	183 11.2% (3.7)	118 7.2% (3.1)
ケ 結婚式を行う時、「大安」「仏滅」などにこだわる	1,631 100.0% 100.0%	305 18.7% (18.7)	597 36.6% (36.6)	288 17.7% (17.7)	417 25.6% (25.6)	24 1.5% (1.5)

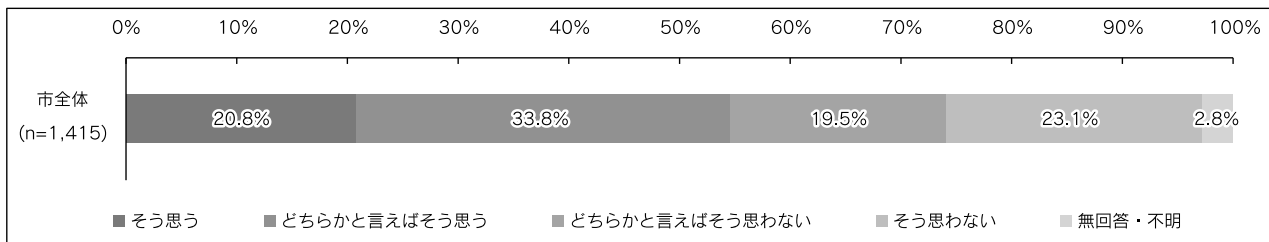
日常生活の場面における人権意識について、前回調査と比較して改善方向に変わったのは、「ア 子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい」、「イ 罪を犯した少年は、成人と同様に処罰すべきである」、「ウ 子育ての間は、母親は育児に専念したほうがよい」、「エ 妻は、夫が全力で仕事ができるよう支えるべきだ」の4設問です。子どもの人権問題と女性の人権問題については、教育や啓発の成果が出ていると考えることができます。

「カ 障がい者の求人が少ないのは仕方がない」、「キ 外国人や外国籍の人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない」は、わずかに改善方向に変わった2設問です。障がい者や外国人に対する理解をさらに教育や啓発で進めていく必要があります。

「オ 歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ」は、日常生活の場面において唯一改善方向に変わらなかった設問です。総合的に見て、日常生活場面における人権意識は少しずつ改善していると思われます。

ア 子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

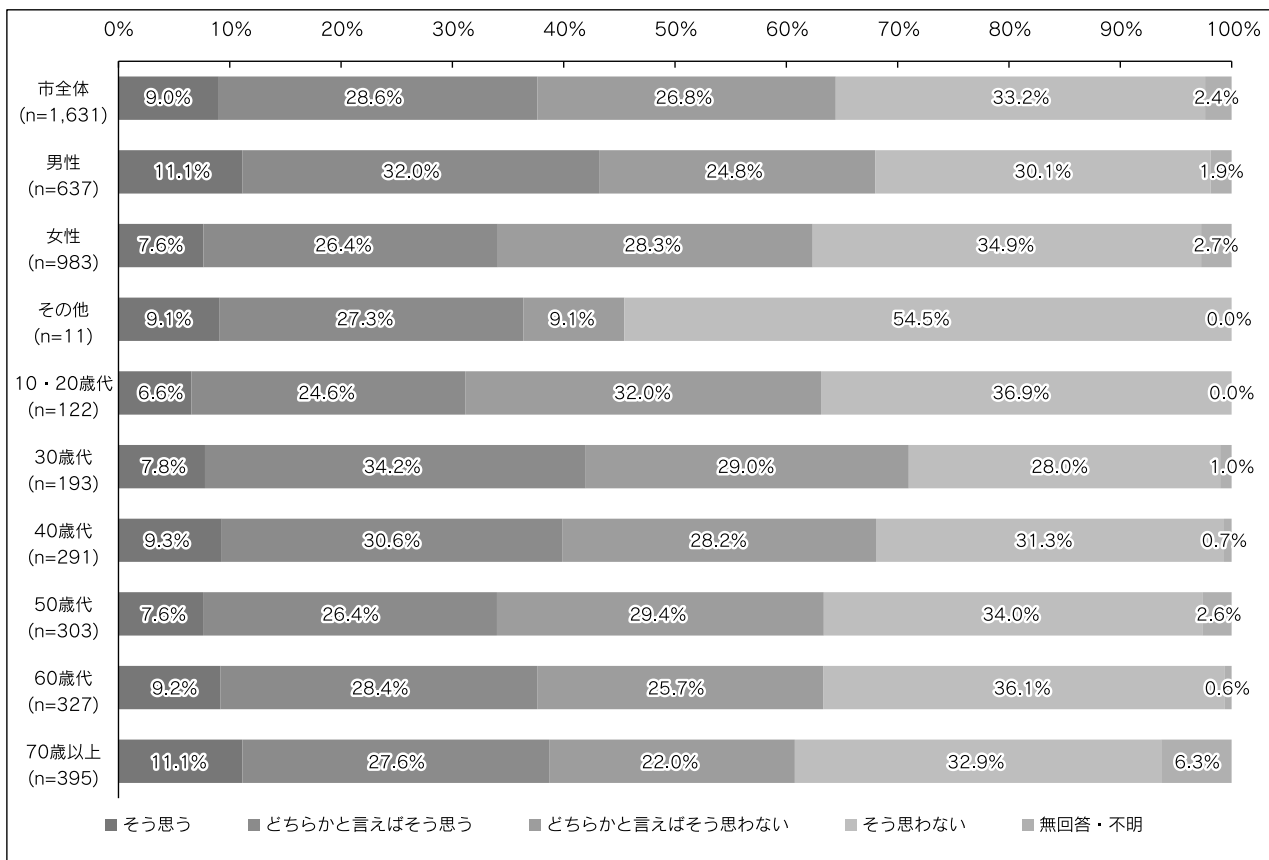


表2-25

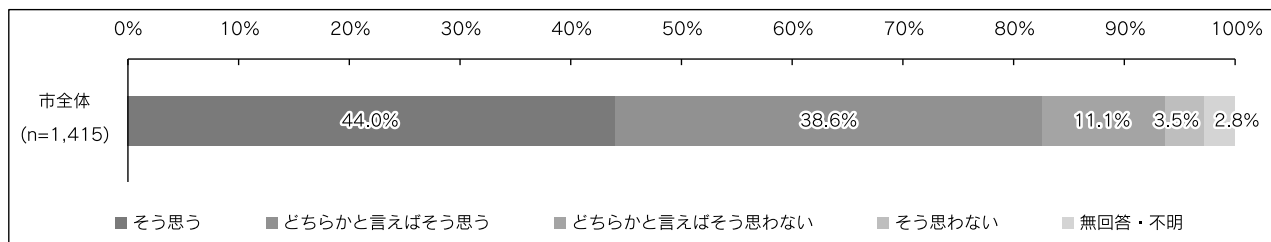
		回答者数	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	147 9.0% (20.8)	467 28.6% (33.8)	437 26.8% (19.5)	541 33.2% (23.1)	39 2.4% (2.8)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	71 11.1% (25.7)	204 32.0% (34.5)	158 24.8% (17.9)	192 30.1% (19.6)	12 1.9% (2.3)
	女 性	983 100.0% 100.0%	75 7.6% (17.9)	260 26.4% (33.3)	278 28.3% (20.5)	343 34.9% (25.2)	27 2.7% (3.2)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	3 27.3%	1 9.1%	6 54.5%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	8 6.6% (19.5)	30 24.6% (30.9)	39 32.0% (24.4)	45 36.9% (23.6)	0 0.0% (1.6)
	20 歳 代	193 100.0% 100.0%	15 7.8% (19.2)	66 34.2% (38.9)	56 29.0% (18.1)	54 28.0% (21.2)	2 1.0% (2.6)
	30 歳 代	291 100.0% 100.0%	27 9.3% (20.4)	89 30.6% (37.1)	82 28.2% (21.6)	91 31.3% (19.2)	2 0.7% (1.6)
	40 歳 代	303 100.0% 100.0%	23 7.6% (22.0)	80 26.4% (27.8)	89 29.4% (21.2)	103 34.0% (26.6)	8 2.6% (2.5)
	50 歳 代	327 100.0% 100.0%	30 9.2% (19.0)	93 28.4% (34.4)	84 25.7% (18.7)	118 36.1% (24.5)	2 0.6% (3.3)
	60 歳 代	395 100.0% 100.0%	44 11.1% (23.8)	109 27.6% (33.0)	87 22.0% (16.0)	130 32.9% (23.0)	25 6.3% (4.3)
	70 歳 以上						

「そう思わない」33.2%、「どちらかと言えばそう思わない」26.8%を合わせた割合は60.0%で、前回調査と比較すると17.4ポイント高くなっています。

2020年（令和2年）には、児童福祉法と児童虐待の防止等に関する法律が改正され、「体罰を加えることはできない」ことが明記されました。今後、法の趣旨等の周知を行うとともに、社会全体で体罰等によらない子育ての推進に向けた理解を広げていくために、教育や啓発を更に充実させていくことが大切です。

イ 罪を犯した少年は、成人と同じように処罰すべきである

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

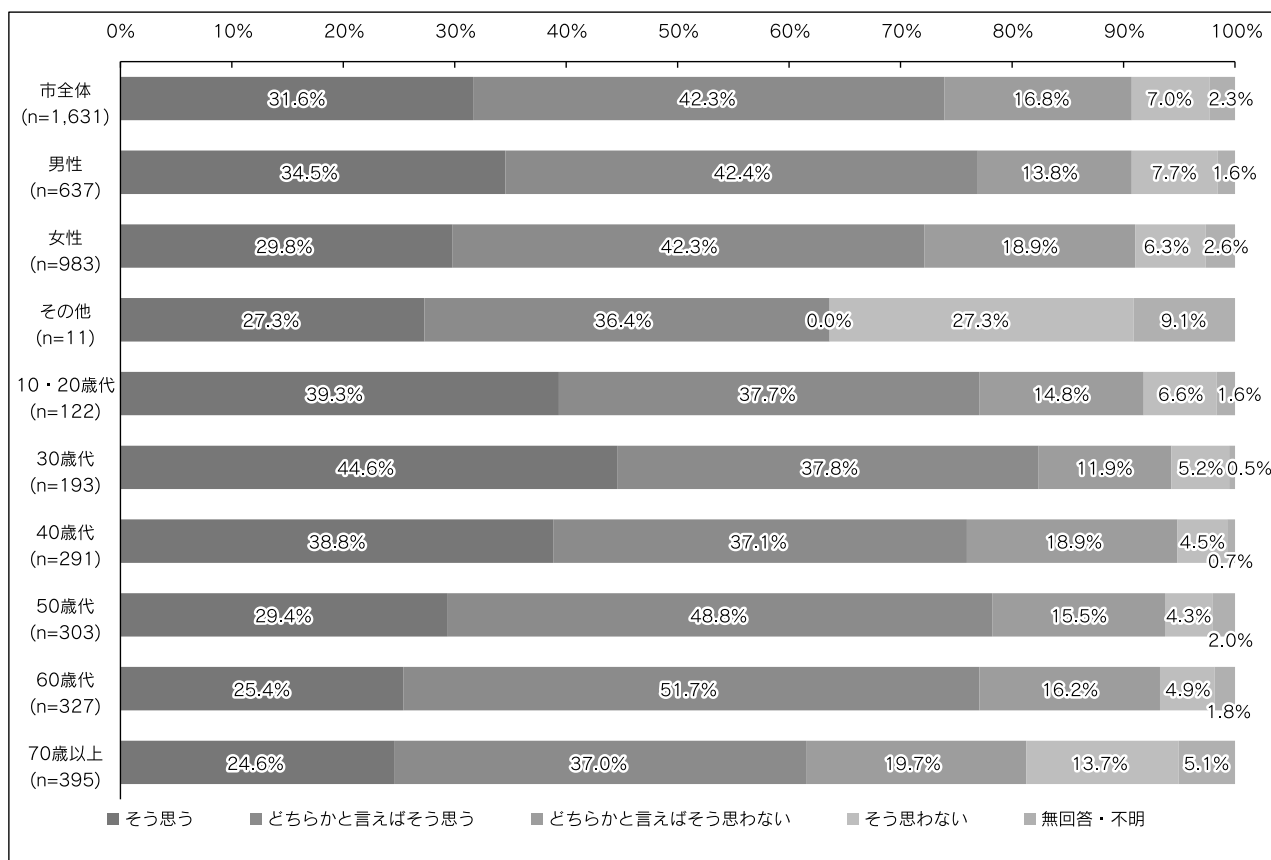


表2-26

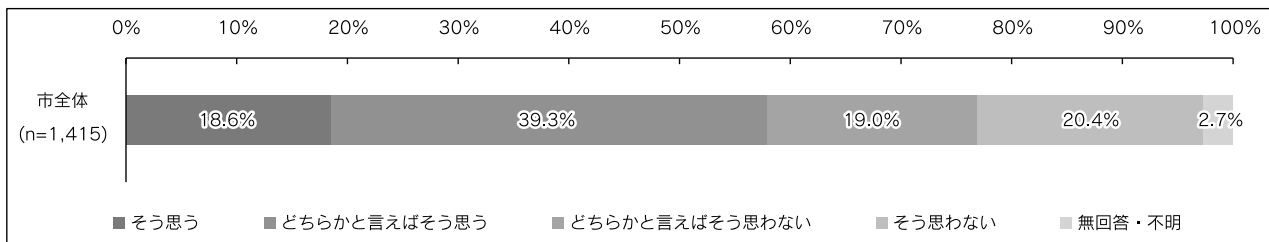
		回答者数	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	516 31.6% (44.0)	690 42.3% (38.6)	274 16.8% (11.1)	114 7.0% (3.5)	37 2.3% (2.8)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	220 34.5% (43.6)	270 42.4% (38.7)	88 13.8% (10.4)	49 7.7% (5.3)	10 1.6% (2.1)
	女 性	983 100.0% 100.0%	293 29.8% (44.2)	416 42.3% (38.5)	186 18.9% (11.5)	62 6.3% (2.5)	26 2.6% (3.3)
	そ の 他	11 100.0%	3 27.3%	4 36.4%	0 0.0%	3 27.3%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	48 39.3% (48.0)	46 37.7% (43.9)	18 14.8% (6.5)	8 6.6% (0.8)	2 1.6% (0.8)
	20 歳 代	193 100.0% 100.0%	86 44.6% (50.3)	73 37.8% (36.8)	23 11.9% (7.8)	10 5.2% (3.1)	1 0.5% (2.1)
	30 歳 代	291 100.0% 100.0%	113 38.8% (53.5)	108 37.1% (33.1)	55 18.9% (10.6)	13 4.5% (1.6)	2 0.7% (1.2)
	40 歳 代	303 100.0% 100.0%	89 29.4% (49.0)	148 48.8% (36.9)	47 15.5% (10.0)	13 4.3% (0.8)	6 2.0% (3.3)
	50 歳 代	327 100.0% 100.0%	83 25.4% (36.3)	169 51.7% (39.6)	53 16.2% (14.2)	16 4.9% (6.3)	6 1.8% (3.6)
	60 歳 代	395 100.0% 100.0%	97 24.6% (34.4)	146 37.0% (42.6)	78 19.7% (13.1)	54 13.7% (5.7)	20 5.1% (4.3)
	70 歳 以上						

「そう思わない」7.0%、「どちらかと言えばそう思わない」16.8%を合わせた割合は23.8%で、前回調査と比較すると9.2ポイント高くなっています。一方、肯定する考え方の割合は73.9%で、前回調査と比較すると8.7ポイント低くなっているものの、依然高い数値です。年齢別で見ると、「そう思う」の割合が、40歳代では14.7ポイント、50歳代では19.6ポイント低くなっている、大きく改善の方向に変化しています。

罪を犯すことは決して許されることではありません。しかし、子どもの非行や犯罪には原因となる背景があります。社会の仕組みづくりや子どもの健全育成など、様々な視点をもとに、厳罰化については社会全体で議論を進めていく必要があります。

ウ 子育ての間は、母親は育児に専念したほうがよい

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

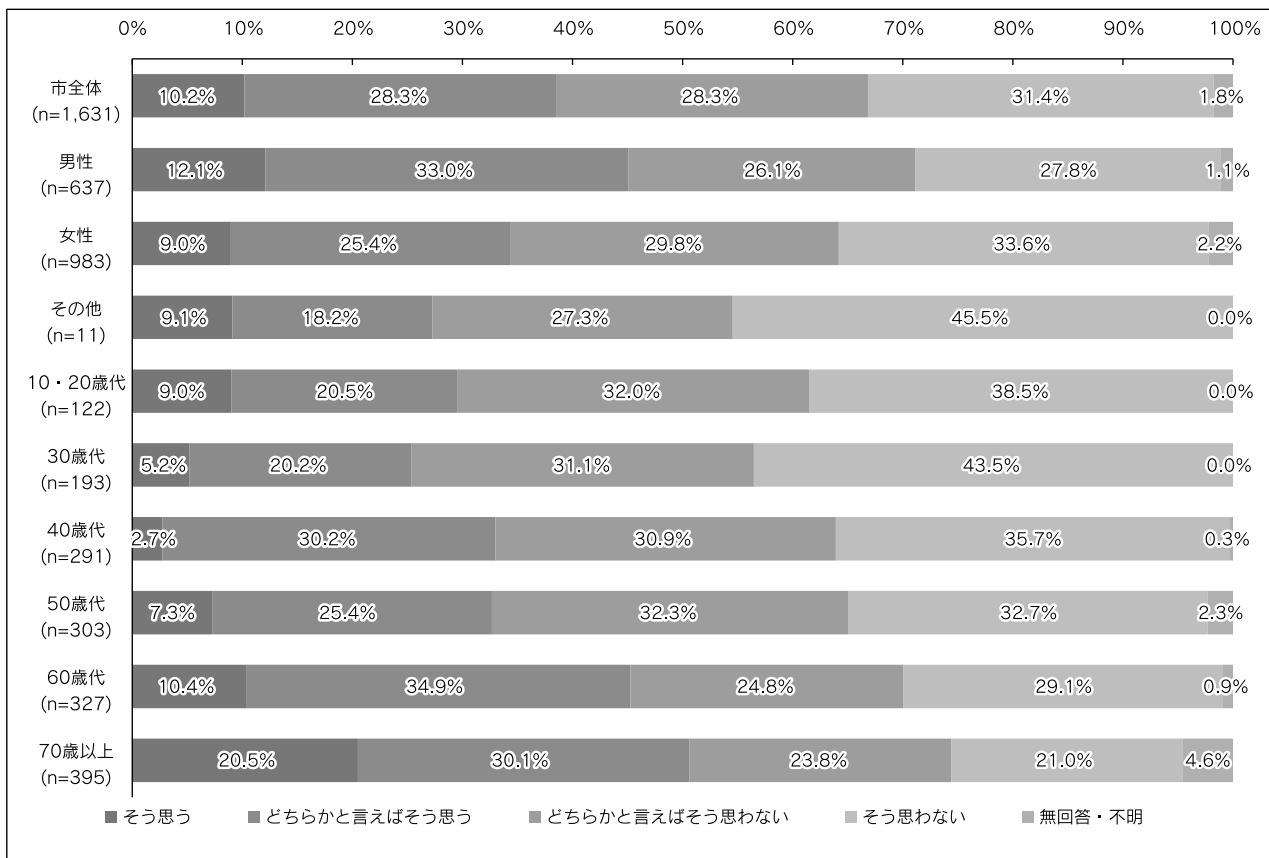


表2-27

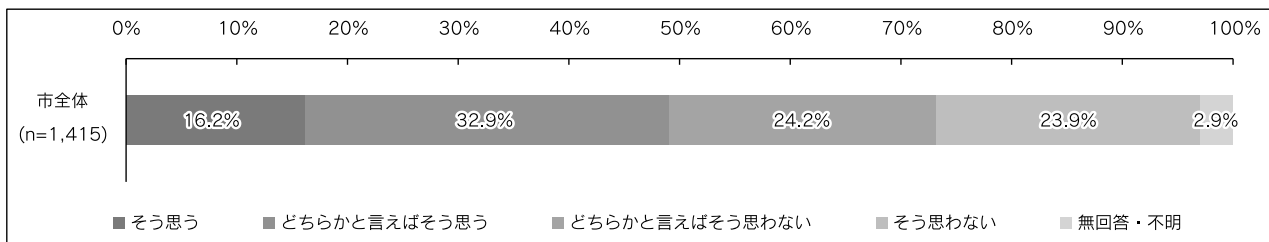
		回答者数	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	166 10.2% (18.6)	462 28.3% (39.3)	462 28.3% (19.0)	512 31.4% (20.4)	29 1.8% (2.7)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	77 12.1% (21.7)	210 33.0% (39.1)	166 26.1% (19.1)	177 27.8% (17.7)	7 1.1% (2.5)
	女 性	983 100.0% 100.0%	88 9.0% (16.7)	250 25.4% (39.4)	293 29.8% (19.0)	330 33.6% (22.0)	22 2.2% (2.8)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	2 18.2%	3 27.3%	5 45.5%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	11 9.0%	25 20.5%	39 32.0%	47 38.5%	0 0.0%
	20 歳 代	100.0%	(8.1)	(35.0)	(27.6)	(28.5)	(0.8)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	10 5.2% (10.4)	39 20.2% (42.5)	60 31.1% (22.3)	84 43.5% (22.8)	0 0.0% (2.1)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	8 2.7% (13.1)	88 30.2% (35.5)	90 30.9% (21.6)	104 35.7% (28.2)	1 0.3% (1.6)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	22 7.3% (19.1)	77 25.4% (36.9)	98 32.3% (18.7)	99 32.7% (22.8)	7 2.3% (2.5)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	34 10.4% (21.5)	114 34.9% (42.3)	81 24.8% (15.7)	95 29.1% (17.8)	3 0.9% (2.7)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	81 20.5% (29.8)	119 30.1% (40.8)	94 23.8% (14.9)	83 21.0% (9.6)	18 4.6% (5.0)

「そう思わない」31.4%、「どちらかと言えばそう思わない」28.3%を合わせた割合は59.7%で、前回調査と比較すると20.3ポイント高くなっています。

「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合を性別でみると、男性53.9%、女性63.4%で約10ポイント女性が高くなっています。年齢別で割合の高い順では、30歳代74.6%、10歳代・20歳代70.5%、40歳代66.6%、50歳代65.0%、60歳代53.9%となっています。また、70歳以上は44.8%で、30歳代と比べると約30ポイントのひらきがみられます。

エ 妻は、夫が全力で仕事ができるよう支えるべきだ

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

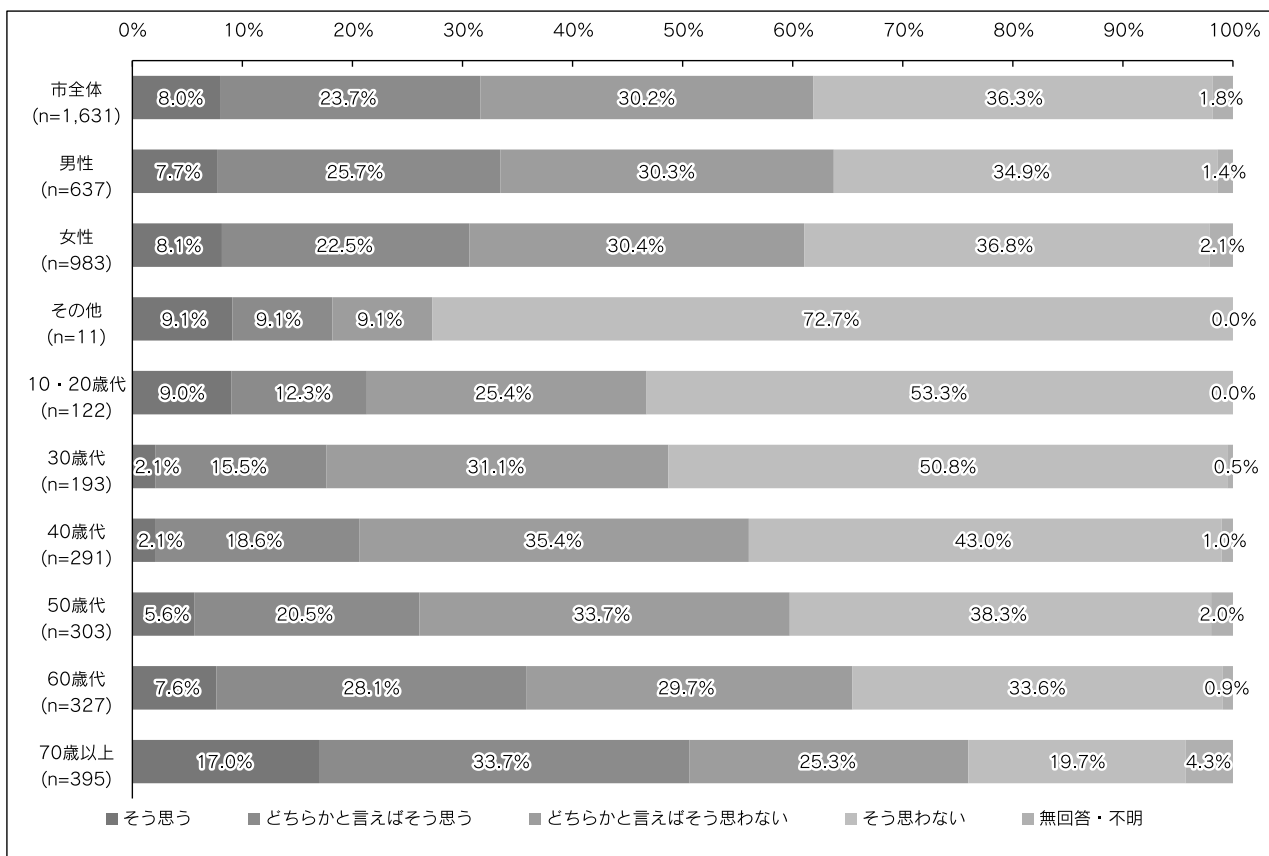


表2-28

		回答者数	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	130 8.0% (16.2)	386 23.7% (32.9)	493 30.2% (24.2)	592 36.3% (23.9)	30 1.8% (2.9)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	49 7.7% (14.5)	164 25.7% (33.8)	193 30.3% (24.2)	222 34.9% (24.9)	9 1.4% (2.6)
	女 性	983 100.0% 100.0%	80 8.1% (17.2)	221 22.5% (32.3)	299 30.4% (24.2)	362 36.8% (23.3)	21 2.1% (3.1)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	8 72.7%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	11 9.0%	15 12.3%	31 25.4%	65 53.3%	0 0.0%
	20 歳 代	100.0%	(3.3)	(29.3)	(27.6)	(39.0)	(0.8)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	4 2.1% (7.8)	30 15.5% (34.2)	60 31.1% (24.9)	98 50.8% (30.6)	1 0.5% (2.6)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	6 2.1% (11.8)	54 18.6% (31.4)	103 35.4% (24.1)	125 43.0% (31.4)	3 1.0% (1.2)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	17 5.6% (13.7)	62 20.5% (32.8)	102 33.7% (27.0)	116 38.3% (24.5)	6 2.0% (2.1)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	25 7.6% (19.6)	92 28.1% (36.0)	97 29.7% (19.6)	110 33.6% (20.8)	3 0.9% (3.9)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	67 17.0% (29.4)	133 33.7% (31.2)	100 25.3% (25.2)	78 19.7% (9.2)	17 4.3% (5.0)

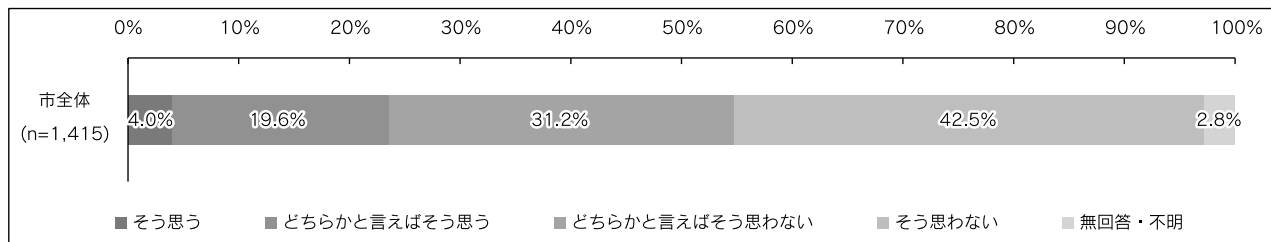
「そう思わない」36.3%、「どちらかと言えればそう思わない」30.2%を合わせた割合は66.5%で、前回調査と比較すると18.4ポイント高くなっています。

「そう思わない」「どちらかと言えればそう思わない」を合わせた割合を性別で見ると、男性65.2%、女性67.2%で、2ポイント女性が高くなっています。年齢別で見ると、60歳代63.3%、70歳以上45.0%と他の年齢層に比べて低い数値となっています。

前述のウの設問を含めた結果から、性別により「～すべき、～あるべき」などの考え方は、改善の方向にあることがわかります。今後も性別にとらわれることなく、その人らしさを発揮できる社会の実現に向けて、継続して教育や啓発を行っていくことが大切です。

オ 歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

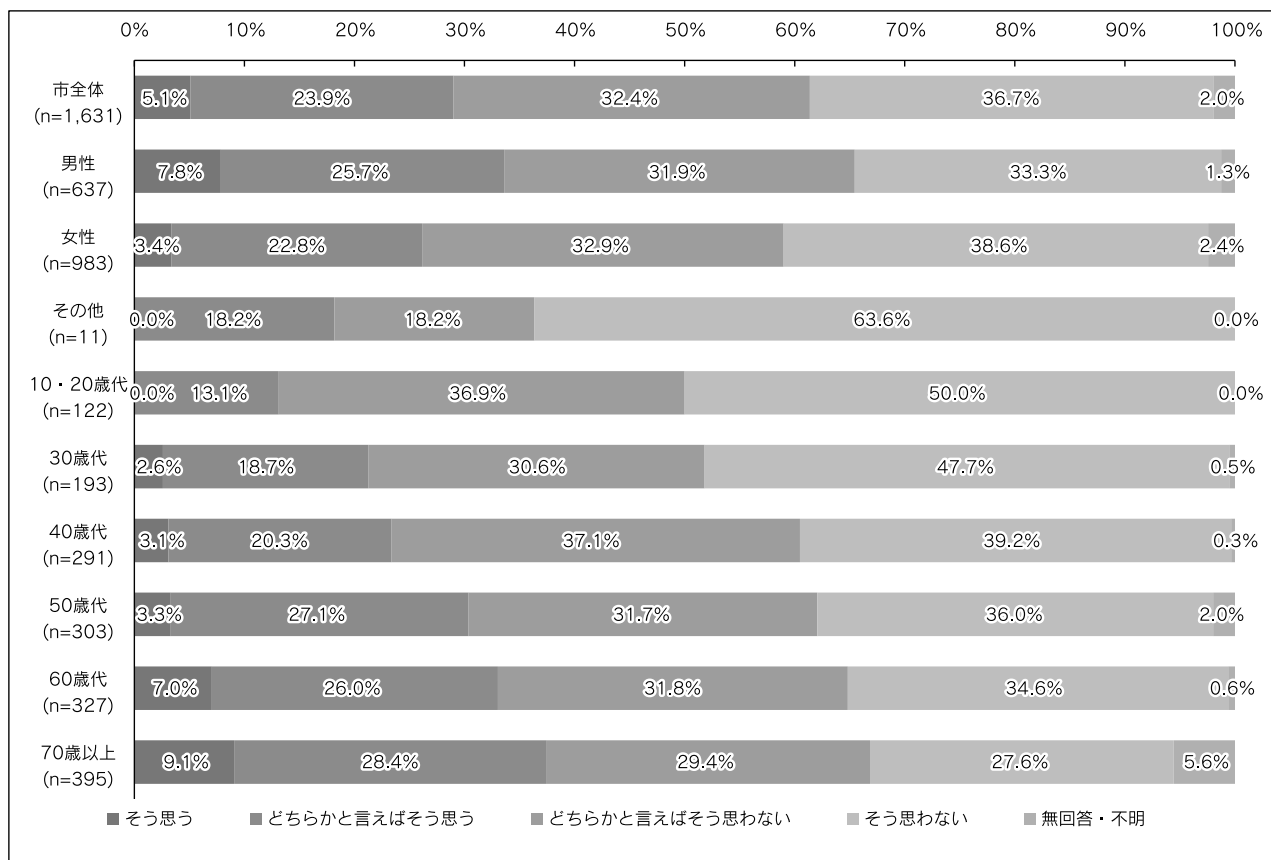


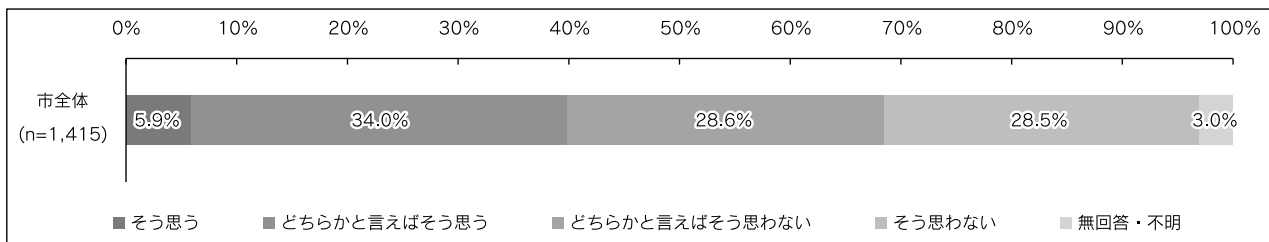
表2-29

		回答者数	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	83 5.1% (4.0)	390 23.9% (19.6)	528 32.4% (31.2)	598 36.7% (42.5)	32 2.0% (2.8)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	50 7.8% (4.2)	164 25.7% (20.8)	203 31.9% (33.6)	212 33.3% (38.9)	8 1.3% (2.6)
	女 性	983 100.0% 100.0%	33 3.4% (4.0)	224 22.8% (18.9)	323 32.9% (29.7)	379 38.6% (44.6)	24 2.4% (2.8)
	そ の 他	11 100.0%	0 0.0%	2 18.2%	2 18.2%	7 63.6%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	0 0.0%	16 13.1%	45 36.9%	61 50.0%	0 0.0%
	20 歳 代	100.0%	(1.6)	(8.9)	(37.4)	(51.2)	(0.8)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	5 2.6% (2.6)	36 18.7% (15.5)	59 30.6% (34.2)	92 47.7% (44.6)	1 0.5% (3.1)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	9 3.1% (3.7)	59 20.3% (20.8)	108 37.1% (27.8)	114 39.2% (46.5)	1 0.3% (1.2)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	10 3.3% (3.3)	82 27.1% (22.0)	96 31.7% (29.9)	109 36.0% (42.7)	6 2.0% (2.1)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	23 7.0% (2.7)	85 26.0% (19.9)	104 31.8% (30.5)	113 34.6% (43.5)	2 0.6% (3.3)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	36 9.1% (8.5)	112 28.4% (23.4)	116 29.4% (31.2)	109 27.6% (32.3)	22 5.6% (4.6)

「そう思わない」36.7%、「どちらかと言えばそう思わない」32.4%を合わせた割合は69.1%で、前回調査と比較すると4.6ポイント低くなっています。年齢別にみると、年齢が低いほど否定的に、年齢が高いほど肯定的に捉える特徴があります。教育や啓発を継続的に進めると同時に、年齢が高くなっても自分の能力を發揮しながら生活できる環境や制度等の整備を進めていく必要性が見えてきます。

カ 障がい者の求人が少ないのは仕方がない

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

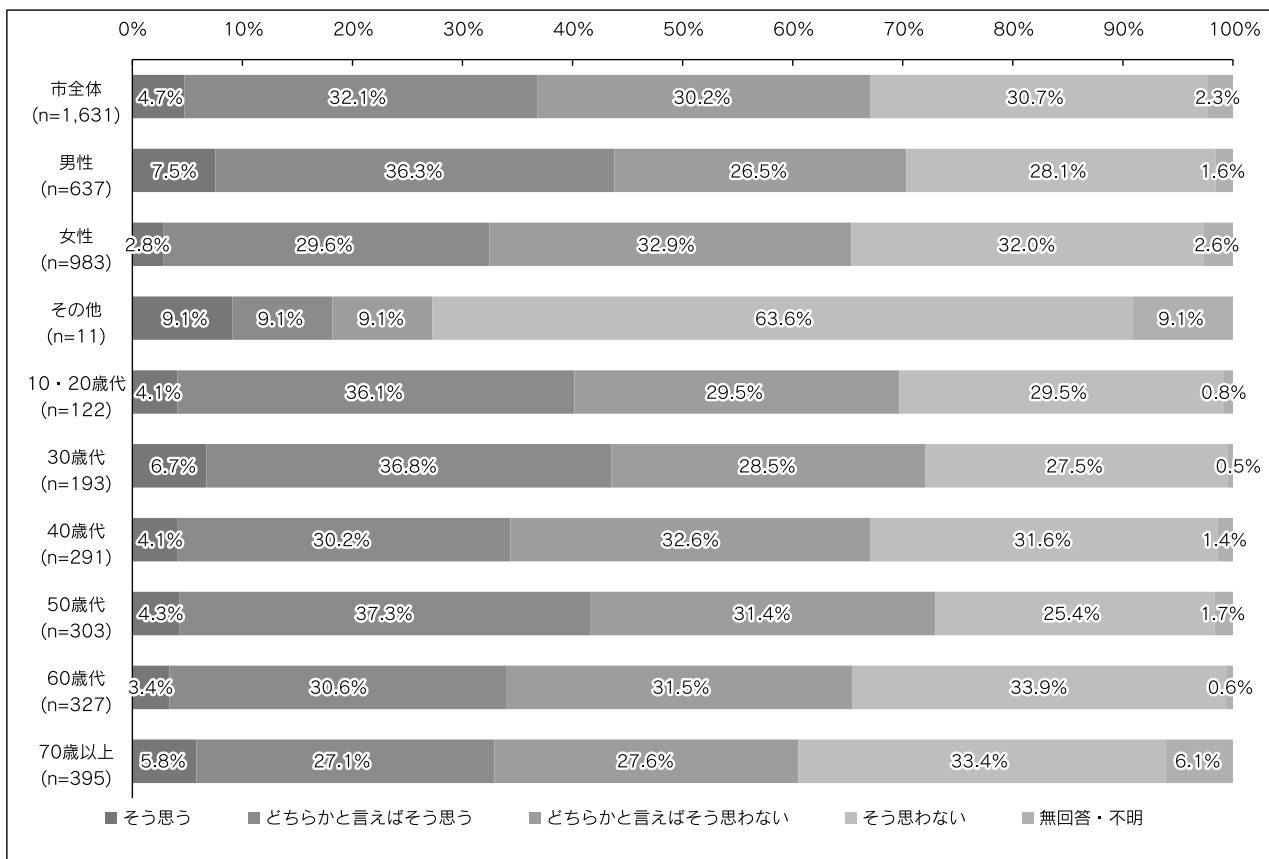


表2-30

		回答者数	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	77 4.7% (5.9)	523 32.1% (34.0)	493 30.2% (28.6)	501 30.7% (28.5)	37 2.3% (3.0)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	48 7.5% (6.4)	231 36.3% (38.5)	169 26.5% (28.5)	179 28.1% (24.2)	10 1.6% (2.5)
	女 性	983 100.0% 100.0%	28 2.8% (5.5)	291 29.6% (31.3)	323 32.9% (28.7)	315 32.0% (31.1)	26 2.6% (3.4)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	7 63.6%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	5 4.1%	44 36.1%	36 29.5%	36 29.5%	1 0.8%
	20 歳 代	100.0%	(6.5)	(29.3)	(25.2)	(38.2)	(0.8)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	13 6.7% (3.1)	71 36.8% (36.3)	55 28.5% (29.0)	53 27.5% (29.5)	1 0.5% (2.1)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	12 4.1% (4.1)	88 30.2% (41.2)	95 32.6% (27.3)	92 31.6% (26.1)	4 1.4% (1.2)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	13 4.3% (7.5)	113 37.3% (36.5)	95 31.4% (27.8)	77 25.4% (25.3)	5 1.7% (2.9)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	11 3.4% (5.7)	100 30.6% (29.0)	103 31.5% (30.8)	111 33.9% (30.2)	2 0.6% (4.2)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	23 5.8% (7.8)	107 27.1% (31.9)	109 27.6% (29.1)	132 33.4% (26.2)	24 6.1% (5.0)

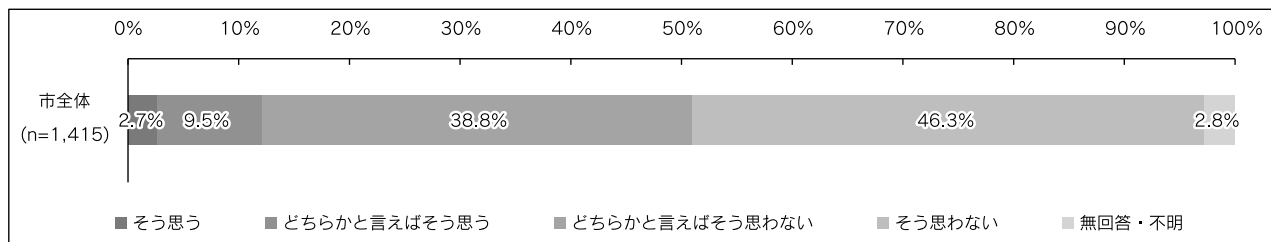
「そう思わない」30.7%、「どちらかと言えばそう思わない」30.2%を合わせた割合は60.9%で、前回調査と比較すると3.8ポイント高くなっています。

「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合を性別で見ると、男性54.6%、女性64.9%で、約10ポイント女性が高くなっています。年齢別では大きな差異はありませんが、どの年齢層でも「求人が少ないのは仕方がない」と考える人が約4割存在しています。

障がいのある人でも、環境の整備や適切なサポートによりできなかったことが、できるようになることがあります。どのようにすれば障がいのある人もない人も、お互いにその人らしさを認め合いながら共に生きることができるかを、社会全体で考えていくことが大切です。

キ 外国人や外国籍の人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

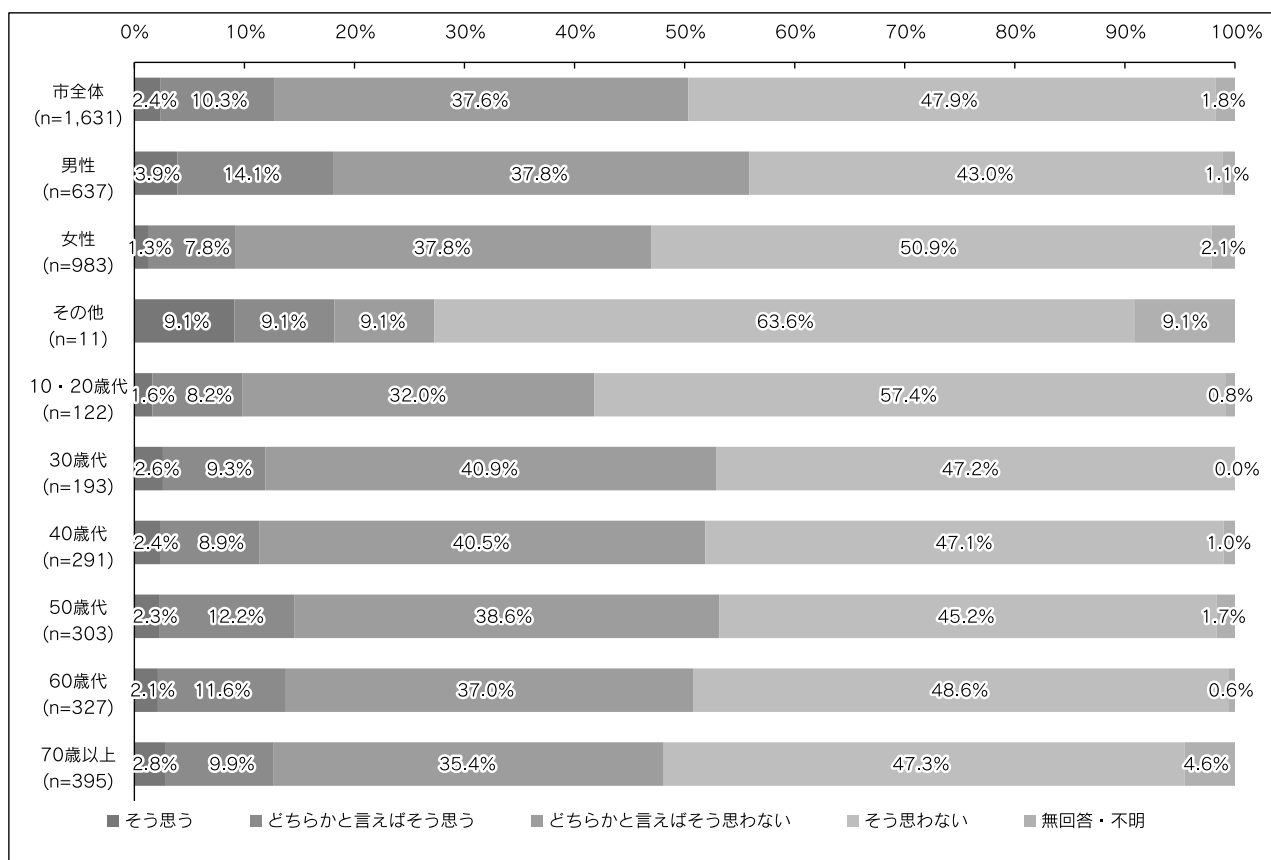


表2-31

		回答者数	そう思う	どちらかと言 えばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	39 2.4% (2.7)	168 10.3% (9.5)	614 37.6% (38.8)	781 47.9% (46.3)	29 1.8% (2.8)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	25 3.9% (2.8)	90 14.1% (10.9)	241 37.8% (41.5)	274 43.0% (42.3)	7 1.1% (2.5)
	女 性	983 100.0% 100.0%	13 1.3% (2.6)	77 7.8% (8.6)	372 37.8% (37.2)	500 50.9% (48.7)	21 2.1% (2.9)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	7 63.6%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	2 1.6% (0.0)	10 8.2% (10.6)	39 32.0% (31.7)	70 57.4% (56.9)	1 0.8% (0.8)
	20 歳 代	193 100.0% 100.0%	5 2.6% (2.6)	18 9.3% (10.4)	79 40.9% (43.5)	91 47.2% (41.5)	0 0.0% (2.1)
	30 歳 代	291 100.0% 100.0%	7 2.4% (1.2)	26 8.9% (8.2)	118 40.5% (41.6)	137 47.1% (47.8)	3 1.0% (1.2)
	40 歳 代	303 100.0% 100.0%	7 2.3% (2.1)	37 12.2% (8.3)	117 38.6% (36.9)	137 45.2% (49.8)	5 1.7% (2.9)
	50 歳 代	327 100.0% 100.0%	7 2.1% (3.3)	38 11.6% (7.9)	121 37.0% (40.5)	159 48.6% (45.0)	2 0.6% (3.3)
	60 歳 代	395 100.0% 100.0%	11 2.8% (5.0)	39 9.9% (12.4)	140 35.4% (35.8)	187 47.3% (42.2)	18 4.6% (4.6)
	70 歳 以上						

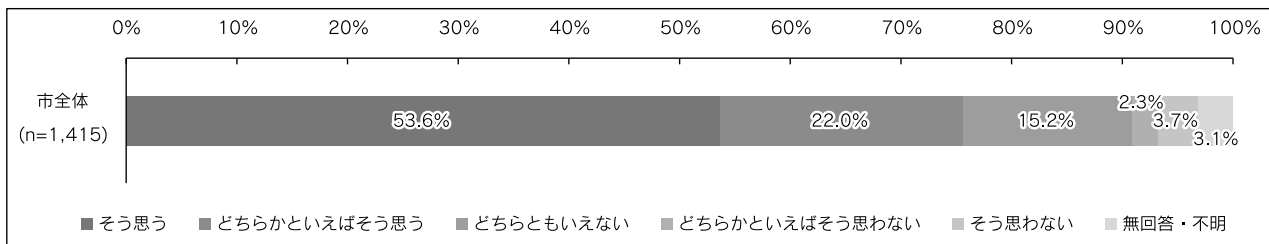
「そう思わない」47.9%、「どちらかと言えばそう思わない」37.6%を合わせた割合は85.5%で、前回調査と比較するとほぼ同様となっていますが、8割強が否定する考え方です。

年齢別でみると、大きな差異はありませんが、どの年齢層でも「少々待遇が悪くても仕方がない」と考える人が約1割存在しています。外国人や外国籍の人というだけの理由で、「少々待遇が悪くても仕方がない」と考えるのは、背景に偏見や差別意識が根強くあると想像できます。

性別でみると「そう思わない」、「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合が、男性80.8%、女性88.7%で約8ポイント女性が高くなっています。

ク ヘイトスピーチは、どんな理由があっても許されない

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

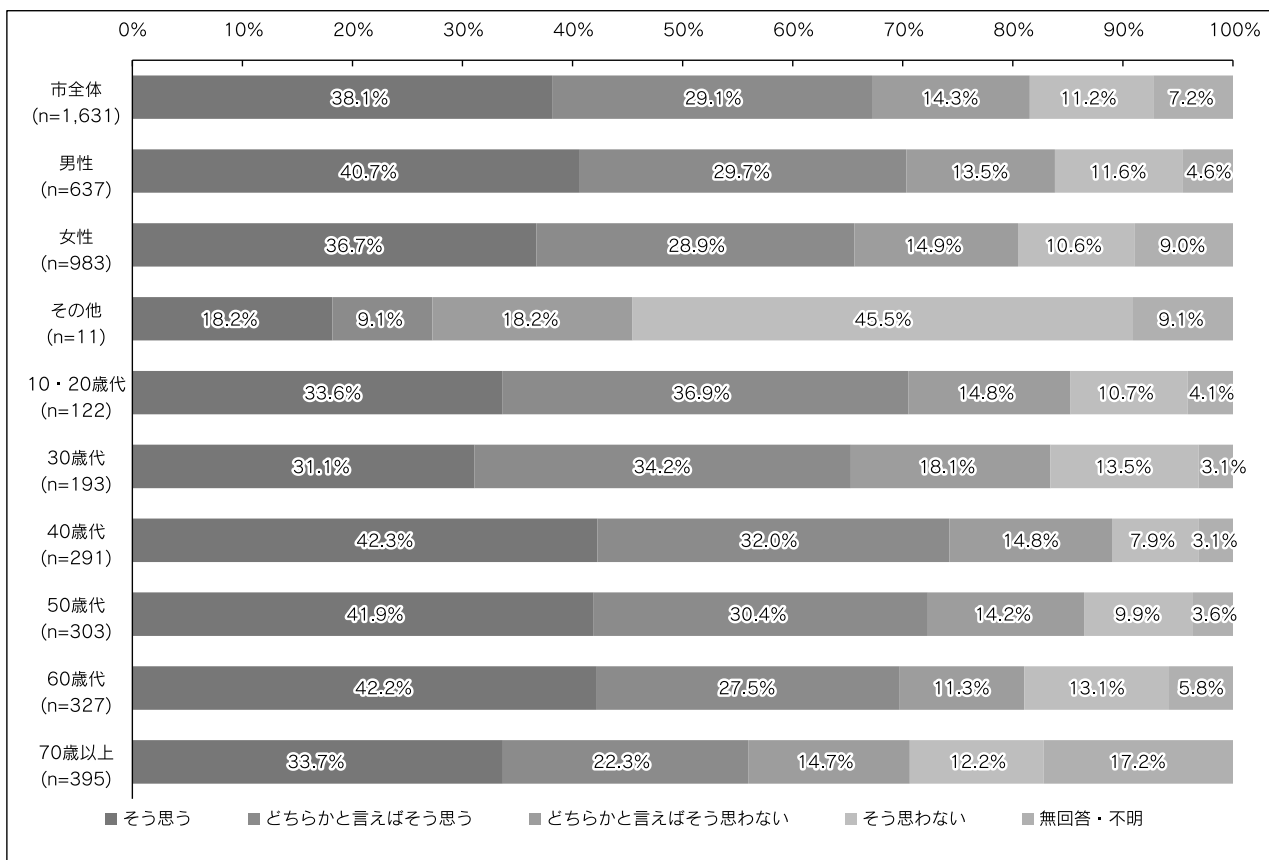


表2-32

		回答者数	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言 えばそう思わ ない	そう思わない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	622 38.1% (53.6)	474 29.1% (22.0)	234 14.3% (2.3)	183 11.2% (3.7)	118 7.2% (3.1)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	259 40.7% (47.9)	189 29.7% (24.7)	86 13.5% (2.5)	74 11.6% (4.2)	29 4.6% (2.8)
	女 性	983 100.0% 100.0%	361 36.7% (56.9)	284 28.9% (20.5)	146 14.9% (2.3)	104 10.6% (3.5)	88 9.0% (3.3)
	そ の 他	11 100.0%	2 18.2%	1 9.1%	2 18.2%	5 45.5%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	41 33.6% (39.0)	45 36.9% (29.3)	18 14.8% (2.4)	13 10.7% (3.3)	5 4.1% (2.4)
	20 歳 代	193 100.0% 100.0%	60 31.1% (50.3)	66 34.2% (23.8)	35 18.1% (2.6)	26 13.5% (2.6)	6 3.1% (3.1)
	30 歳 代	291 100.0% 100.0%	123 42.3% (51.4)	93 32.0% (24.5)	43 14.8% (3.3)	23 7.9% (2.4)	9 3.1% (1.6)
	40 歳 代	303 100.0% 100.0%	127 41.9% (60.6)	92 30.4% (23.7)	43 14.2% (2.1)	30 9.9% (3.3)	11 3.6% (2.5)
	50 歳 代	327 100.0% 100.0%	138 42.2% (57.4)	90 27.5% (21.1)	37 11.3% (2.4)	43 13.1% (3.3)	19 5.8% (2.4)
	60 歳 代	395 100.0% 100.0%	133 33.7% (53.5)	88 22.3% (15.2)	58 14.7% (1.4)	48 12.2% (6.7)	68 17.2% (6.0)

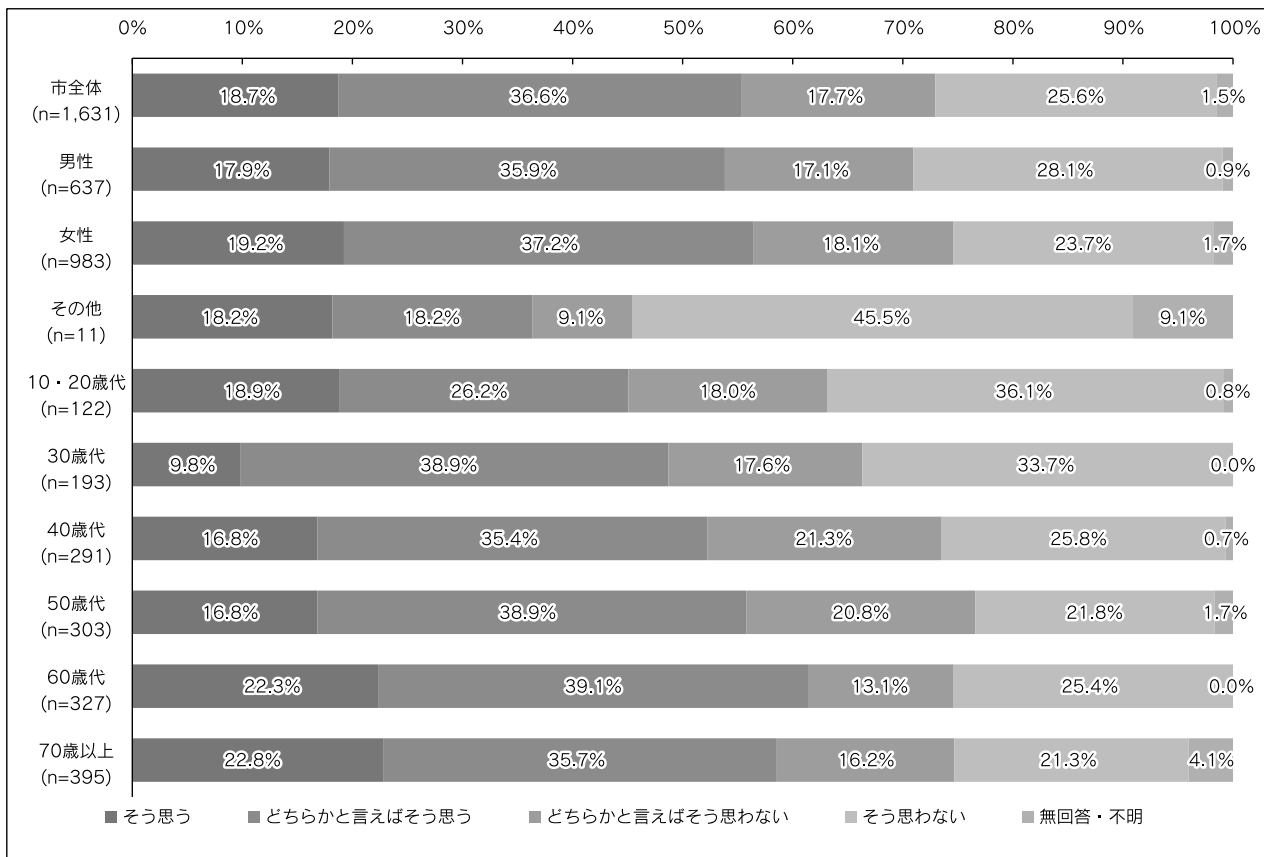
※この設問については、前回調査には「どちらともいえない」の回答項目がありましたが、今回調査では、「どちらともいえない」の回答項目を削除して、肯定・否定の立場がはっきりとすようになっています。

前回調査と比較すると、「そう思う」「どちらかと言えればそう思う」を合わせた割合は67.2%で、8.4ポイント低く、「そう思わない」「どちらかと言えればそう思わない」を合わせた割合は、25.5%で、19.5ポイント高くなっています。残念ながら、理由があれば許されると考える人の割合が約4人に1人という結果になりました。

特定の民族や国籍の人々を排斥する不当な差別的言動は、人としての尊厳を傷つけ、差別意識を生じさせることにつながります。「ヘイトスピーチ解消法」の周知とともに、違いを認め合い、互いの人権を尊重し合う社会を築くための教育や啓発を重点的に行っていく必要があります。

ケ 結婚式を行う時、「大安」「仏滅」などにこだわる

今回調査（2020）



「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合は43.3%で、約半数がこだわらないと回答しています。年齢別にみると、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合は、10歳代・20歳代が54.1%、30歳代が51.3%、40歳代が47.1%で、こだわらないと考える割合が約半数となっています。年齢層が低くなるほど、こだわらない割合は高くなります。

この設問については、回答項目が今回調査とは異なりますが、前回調査では、「間違っていると思う」の割合は、14.3%でした。こだわらないと考える人の割合が高くなってきていると捉えることもできます。

第3節 個別の人権課題について

1 インターネット上（SNS等を含む）の人権侵害

問11 インターネット（SNS等を含む）による人権侵害について、お答えください。

(1) あなたは、インターネットに関する事柄について、どのような人権侵害があると思いますか。（〇はいくつでも）

※この設問は、前回調査にはありません。

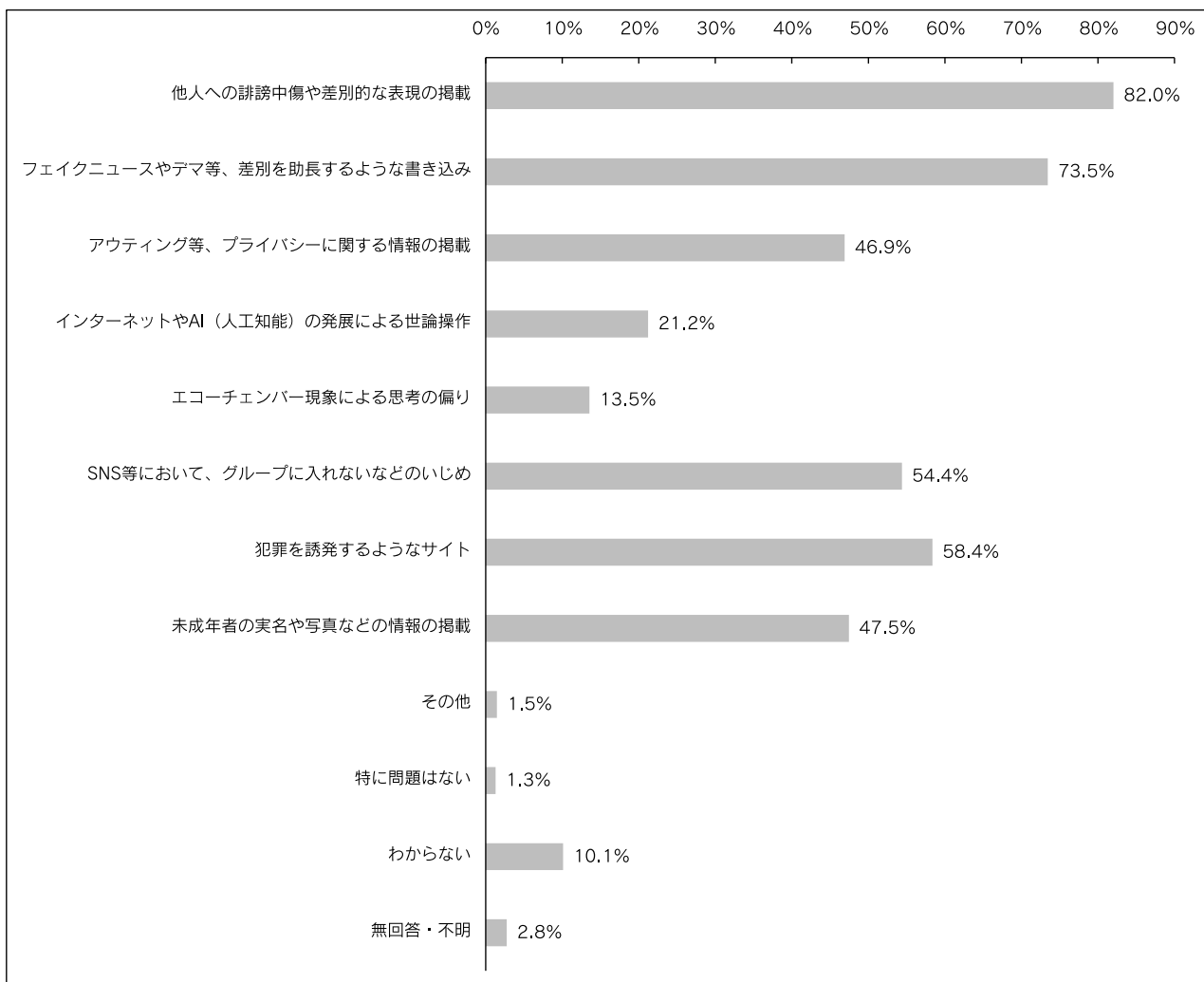


表2-33

	回 答 者 数	差 別 的 な 表 現 の 掲 載 や	他 人 へ の 誹 謗 中 傷 や	差 別 を 助 長 す る よ う な 書 き 込 み	フ ェ イ ク ニ ュ ー ス や デ マ 等 、	ア ウ テ ィ ン グ 等 、 プ ラ イ バ シ ー に 関 す る 情 報 の 掲 載	イ ン タ ー ネ ッ ト や A I (人 工 知 能) の 発 展 に よ る 世 論 操 作	エ コ ー チ ェ ン バ ー 現 象 に よ る 思 考 の 偏 り	入 れ な い な ど の い じ め	S N S 等 に お い て 、 グ ル ー プ に	犯 罪 を 誘 発 す る よ う な サ イ ト	未 成 年 者 の 実 名 や 写 真 な ど の 情 報 の 掲 載	そ の 他	特 に 問 題 は な い	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体	1,631 100.0%	1,338 82.0%	1,198 73.5%	765 46.9%	346 21.2%	221 13.5%	887 54.4%	952 58.4%	774 47.5%	24 1.5%	21 1.3%	165 10.1%	45 2.8%			
性 別	男 性	637 100.0%	498 78.2%	454 71.3%	269 42.2%	145 22.8%	77 12.1%	291 45.7%	341 53.5%	247 38.8%	11 1.7%	12 1.9%	70 11.0%	13 2.0%		
	女 性	983 100.0%	833 84.7%	737 75.0%	491 49.9%	198 20.1%	142 14.4%	590 60.0%	607 61.7%	521 53.0%	13 1.3%	8 0.8%	93 9.5%	31 3.2%		
	そ の 他	11 100.0%	7 63.6%	7 63.6%	5 45.5%	3 27.3%	2 18.2%	6 54.5%	4 36.4%	6 54.5%	0 0.0%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%		
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	116 95.1%	95 77.9%	66 54.1%	30 24.6%	14 11.5%	78 63.9%	72 59.0%	64 52.5%	2 1.6%	1 0.8%	3 2.5%	1 0.8%		
	20 歳 代	193 100.0%	175 90.7%	159 82.4%	107 55.4%	46 23.8%	29 15.0%	133 68.9%	106 54.9%	106 54.9%	2 1.0%	5 2.6%	4 2.1%	0 0.0%		
	30 歳 代	291 100.0%	268 92.1%	235 80.8%	155 53.3%	63 21.6%	40 13.7%	199 68.4%	187 64.3%	162 55.7%	5 1.7%	2 0.7%	11 3.8%	3 1.0%		
	40 歳 代	303 100.0%	264 87.1%	246 81.2%	161 53.1%	75 24.8%	62 20.5%	185 61.1%	200 66.0%	155 51.2%	4 1.3%	4 1.3%	19 6.3%	6 2.0%		
	50 歳 代	327 100.0%	273 83.5%	259 79.2%	157 48.0%	71 21.7%	52 15.9%	170 52.0%	211 64.5%	156 47.7%	7 2.1%	3 0.9%	28 8.6%	2 0.6%		
	60 歳 代	395 100.0%	242 61.3%	204 51.6%	119 30.1%	61 15.4%	24 6.1%	122 30.9%	176 44.6%	131 33.2%	4 1.0%	6 1.5%	100 25.3%	33 8.4%		
	70歳以上															

インターネット上の人権侵害についての現状認識は、割合の高い順に「他人への誹謗中傷や差別的な表現の掲載」82.0%、「フェイクニュースやデマ等、差別を助長するような書き込み」73.5%となっています。「アウティング等、プライバシーに関する情報の掲載」、「SNS等において、グループに入れられないなどのいじめ」、「犯罪を誘発するようなサイト」、「未成年者の実名や写真などの情報の掲載」については約半数に認識があります。

一方、「インターネットやAI（人工知能）の発展による世論操作」、「エコーチェンバー現象による思考の偏り」は2割程度であり、まだまだ市民には認識されていないことがわかります。「特に問題はない」1.3%、「わからない」10.1%を合わせた11.4%も気になる数値です。年齢別にみると、年齢層が高くなるほど「わからない」の割合が高くなり、70歳以上は25.3%となっています。今後も、さらにわかりやすい啓発に努めていく必要があります。

問11 インターネット（SNS等を含む）による人権侵害について、お答えください。

(2) インターネット上の誹謗中傷などの人権侵害についての次のア～オの意見について、あなたの考えに近いのはどれですか。（○はそれぞれ1つ）

※この設問は、前回調査にはありません。

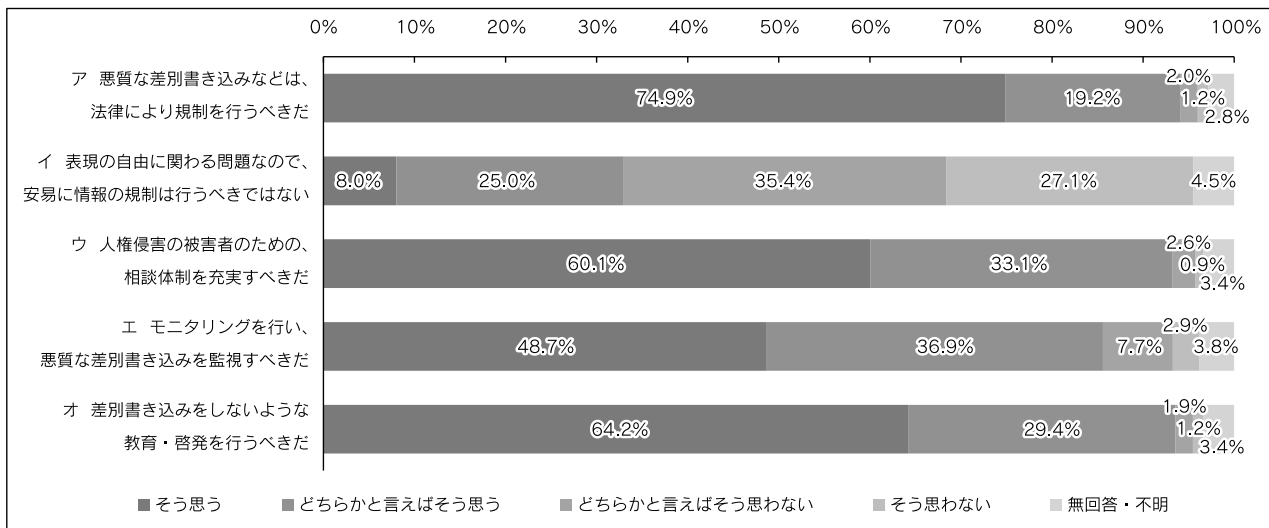


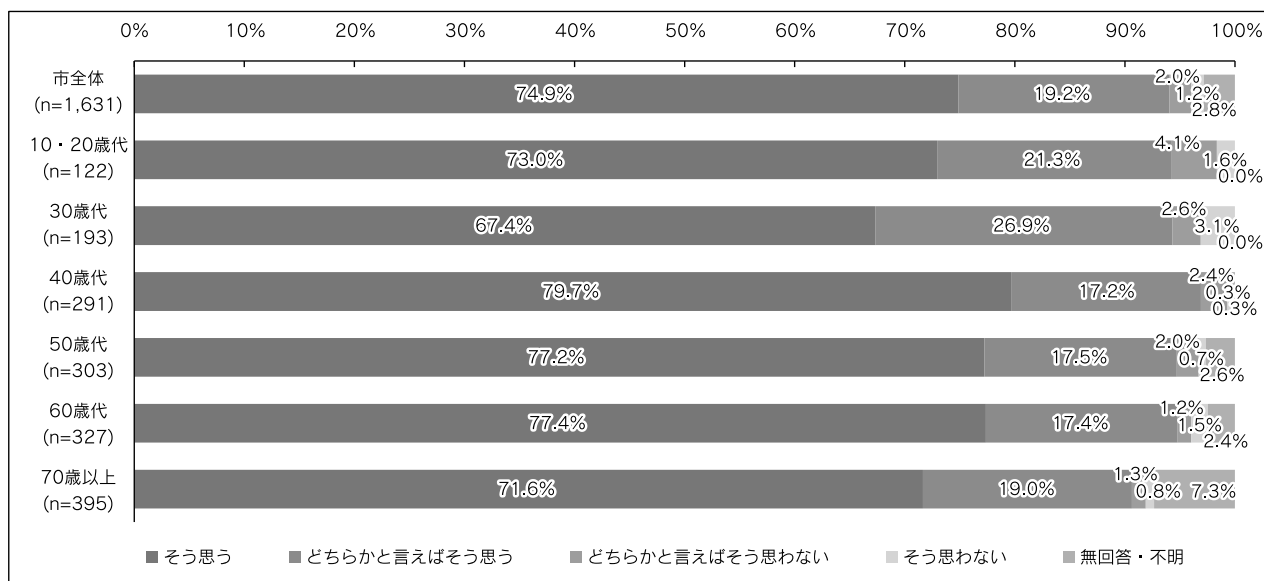
表2-34

	回答者数	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	無回答・不明
ア 悪質な差別書き込みなどは、法律により規制を行うべきだ	1,631	1,221	313	32	19	46
	100.0%	74.9%	19.2%	2.0%	1.2%	2.8%
イ 表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない	1,631	131	407	578	442	73
	100.0%	8.0%	25.0%	35.4%	27.1%	4.5%
ウ 人権侵害の被害者のための、相談体制を充実すべきだ	1,631	980	540	42	14	55
	100.0%	60.1%	33.1%	2.6%	0.9%	3.4%
エ モニタリングを行い、悪質な差別書き込みを監視すべきだ	1,631	794	602	125	48	62
	100.0%	48.7%	36.9%	7.7%	2.9%	3.8%
オ 差別書き込みをしないような教育・啓発を行うべきだ	1,631	1,047	479	31	19	55
	100.0%	64.2%	29.4%	1.9%	1.2%	3.4%

インターネット上の人権侵害への対応に対する考えは、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が、「ア 悪質な差別書き込みなどは、法律により規制を行うべきだ」94.1%、「ウ 人権侵害の被害者のための、相談体制を充実すべきだ」93.2%、「エ モニタリングを行い、悪質な差別書き込みを監視すべきだ」85.6%、「オ 差別書き込みをしないような教育・啓発を行うべきだ」93.6%となっています。「イ 表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない」の設問は33.0%で7割弱が否定的な考え方です。

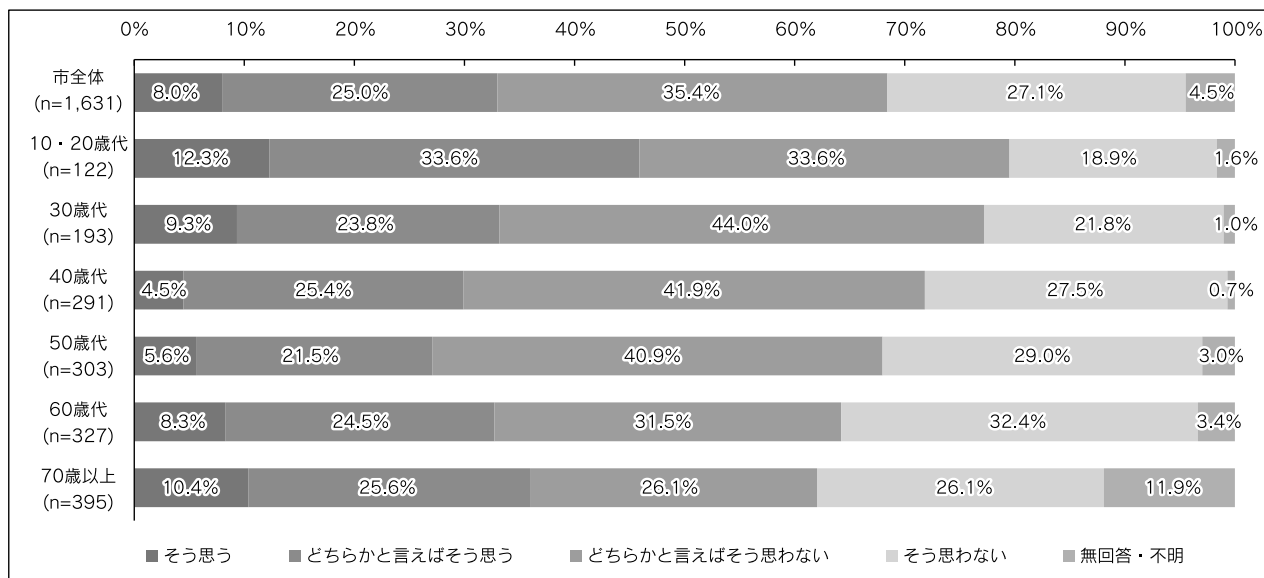
インターネット上における誹謗中傷などの人権侵害について、多くの人が許してはならないという認識を持っていることに加えて、何らかの対策が必要であると考えていることがわかります。

ア 悪質な差別書き込みなどは、法律により規制を行うべきだ



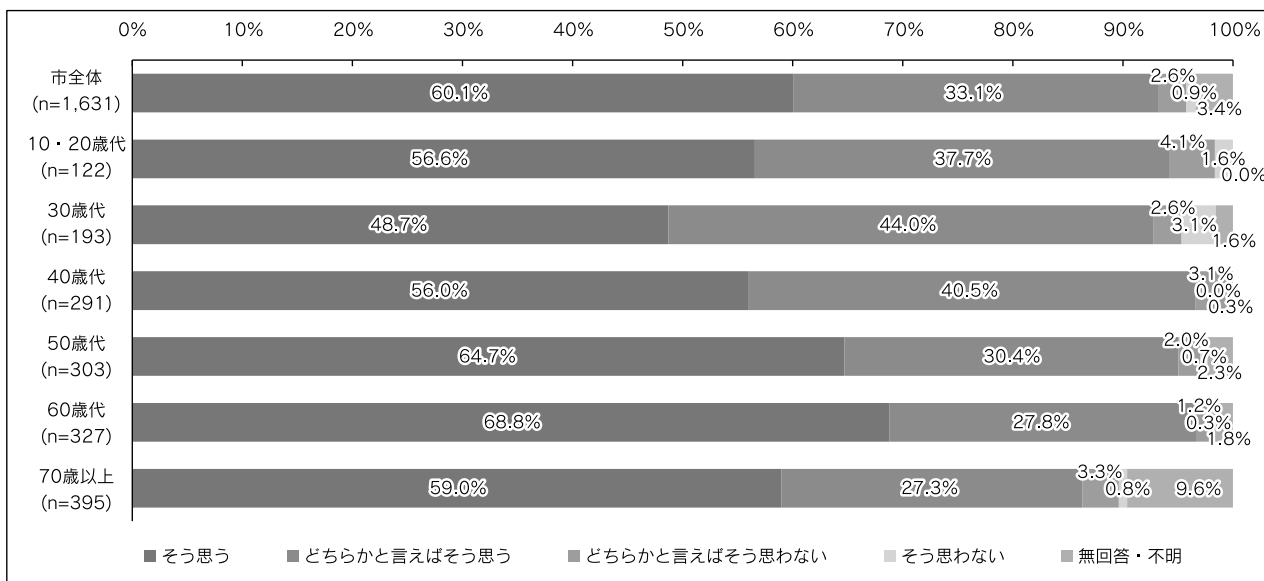
「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、9割強となっています。「そう思う」74.9%であり、法整備の必要性を強く感じていることがわかります。一人一人のモラルを高めることと両輪で取組を進めていくことが大切です。

イ 表現の自由に関わる問題なので、安易に情報の規制は行うべきではない



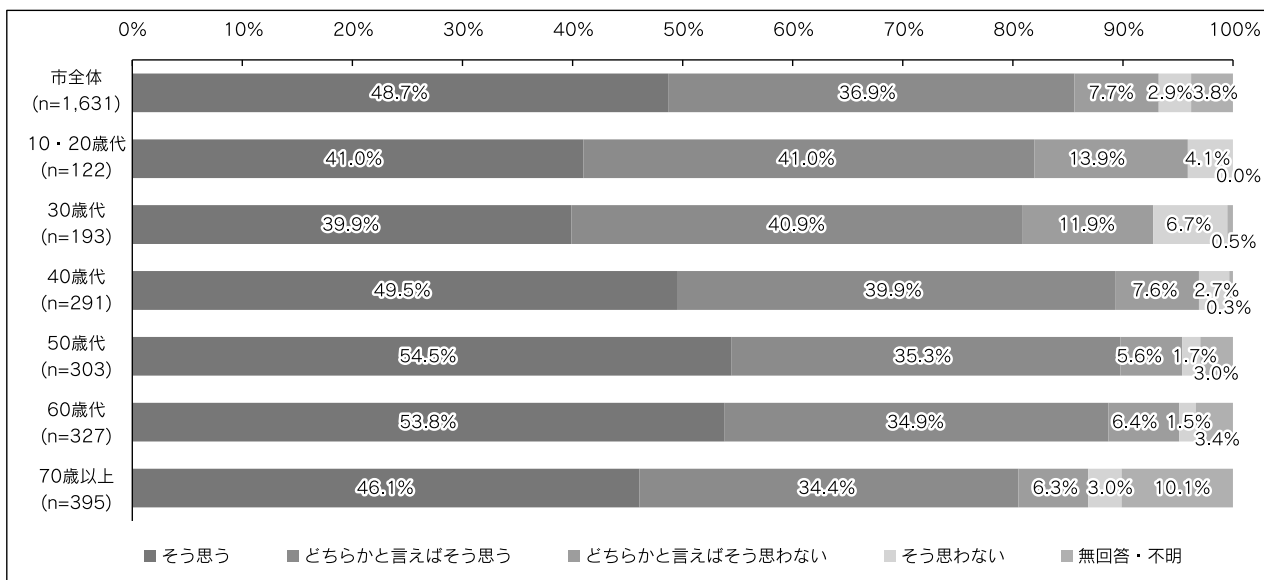
「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、3割強となっています。表現の自由は、基本的人権の尊重が守られてこそその権利であるという認識を、さらに多くの人に広げることがヘイトスピーチなどの解消へ向けても必要となってきます。

ウ 人権侵害の被害者のための、相談体制を充実すべきだ



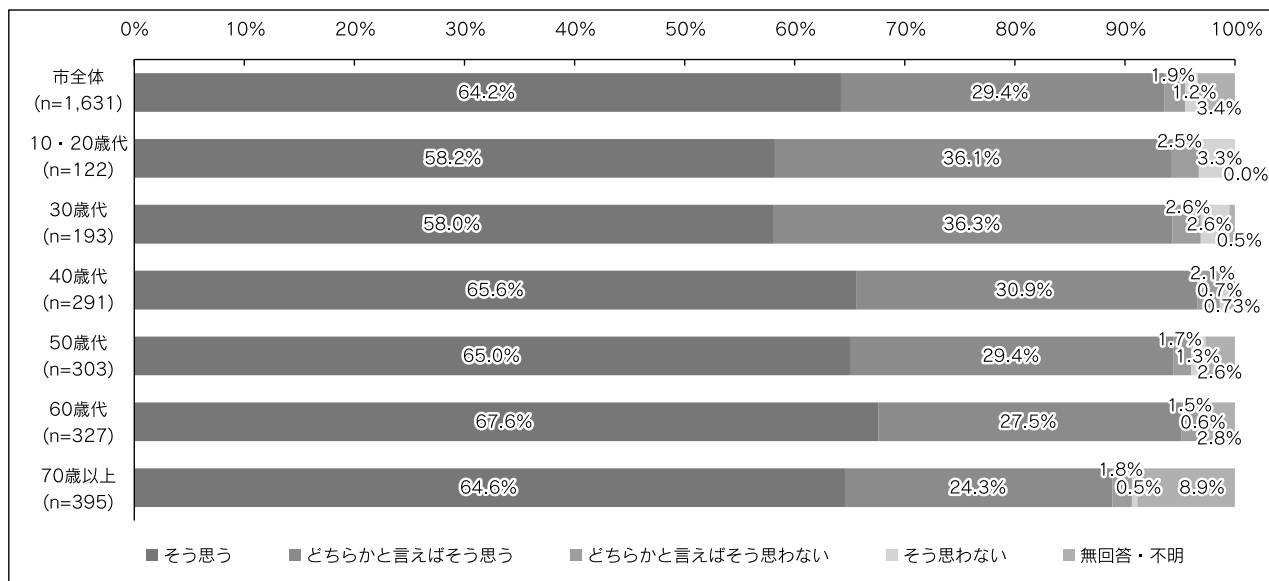
「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、9割強となっています。大分市においても、インターネット上での誹謗・中傷等相談専用窓口を開設しています。周知をさらに進めて、人権侵害に迅速に対応していくことが求められます。

エ モニタリングを行い、悪質な差別書き込みを監視すべきだ



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、9割弱となっています。大分市においても、差別情報の早期発見や削除要請を行う「モニタリング事業」を実施しています。今後も継続するとともに、教育や啓発をさらに充実させる中、誤った情報等に気付いた人が声を上げ、差別を許さない雰囲気づくりにつなげていくことが大切です。

オ 差別書き込みをしないような教育・啓発を行うべきだ



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、9割強となっています。教育・啓発に対する期待の高さをうかがえます。学校教育から社会教育へと、全世代を対象にした継続した教育及び啓発を展開していくことが大切です。

2 LGBTなどの性的少数者の人権問題

問12 LGBTなどの性的少数者の人権問題についてお答えください。

(1) あなたは、LGBTなどの性的少数者の人権問題について、次のア～イについてどう思いますか。(○はそれぞれ1つ)

※この設問は、前回調査にはありません。

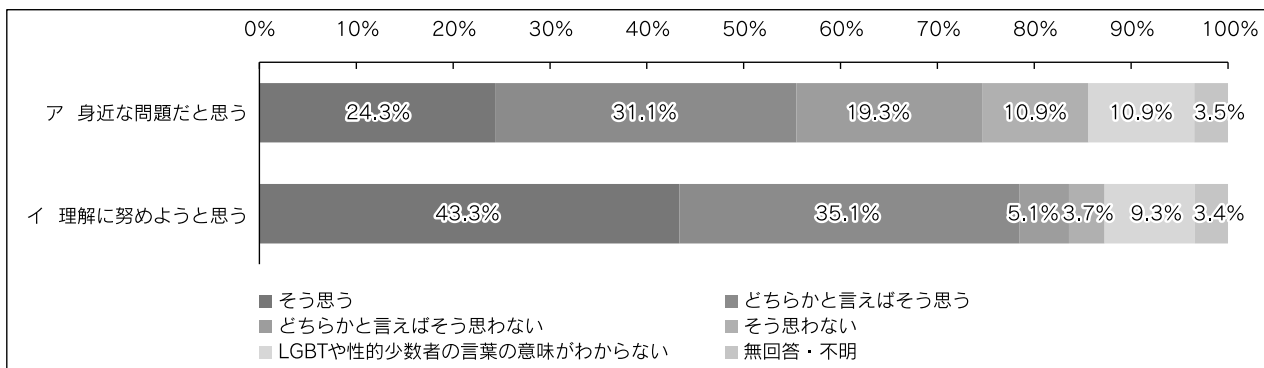


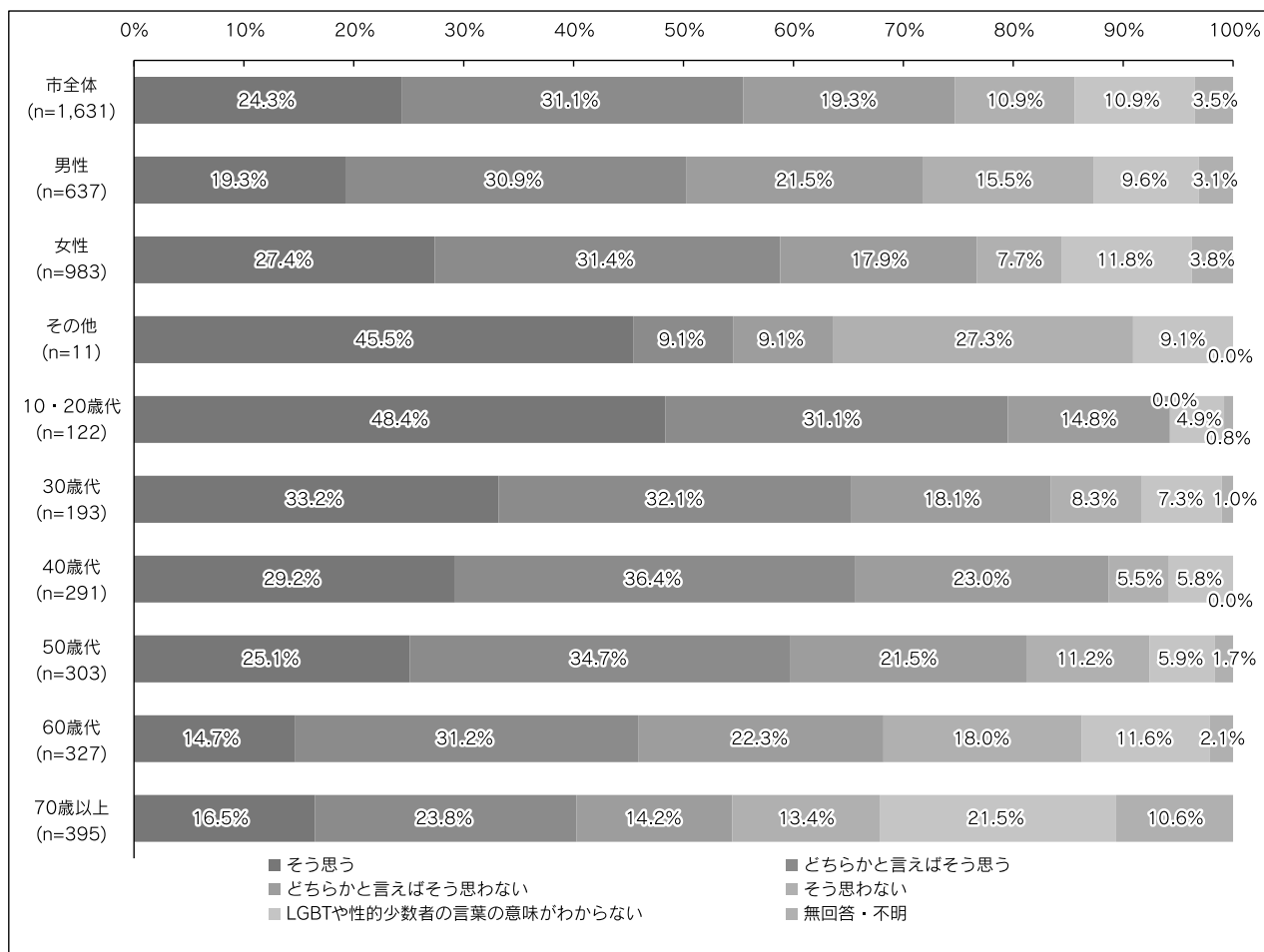
表2-35

	回答者数	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	LGBTや性的少数者の言葉の意味がわからない	無回答・不明
ア 身近な問題だと思う	1,631 100.0%	397 24.3%	507 31.1%	314 19.3%	178 10.9%	178 10.9%	57 3.5%
イ 理解に努めようと思う	1,631 100.0%	707 43.3%	573 35.1%	83 5.1%	60 3.7%	152 9.3%	56 3.4%

LGBTなどの性的少数者の人権問題への回答は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が、「ア 身近な問題だと思う」55.4%、「イ 理解に努めようと思う」78.4%となっています。また、どちらの設問も「LGBTや性的少数者の言葉の意味がわからない」の割合は、約10%となっています。

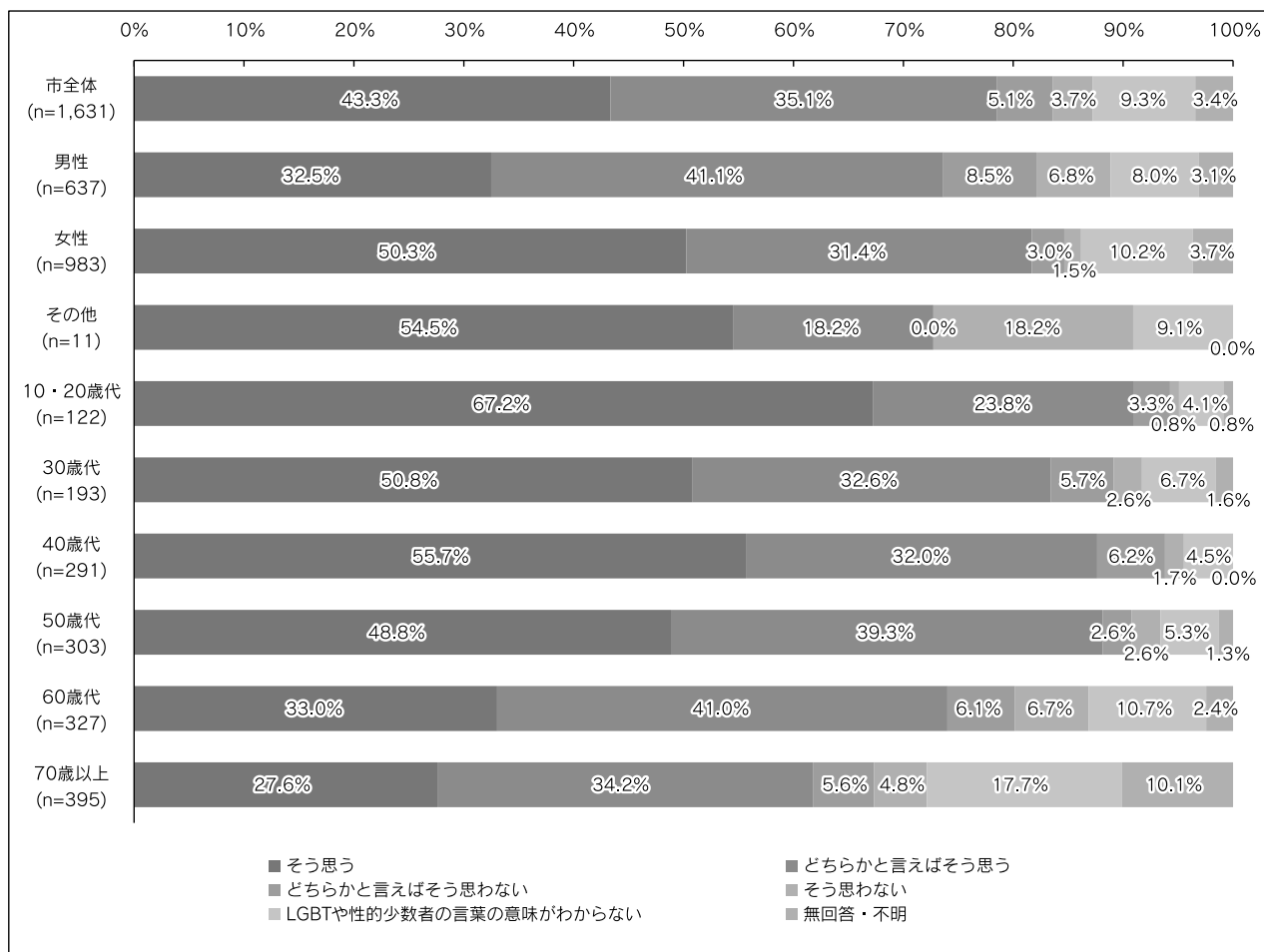
今後も、LGBTなどの性的少数者への理解を深める講演会や研修会等の学習機会を充実させ、LGBTなどの性的少数者の人権問題は身近な問題であるとの認識が広まってくると、理解はさらに深まってくると考えられます。

ア 身近な問題だと思う



年齢別で見ると、年齢層が低いほど、身近な問題であると感じる傾向にあることがわかります。10・20歳代は「そう思う」48.4%、「どちらかと言えばそう思う」31.1%を合わせると79.5%で8割弱が身近な問題であると感じています。

イ 理解に努めようと思う



年齢別でみると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が、10・20歳代では91.0%と高い数値です。60歳代・70歳以上は、他の年齢層に比べて数値が低くなっています。

問12 LGBTなどの性的少数者の人権問題についてお答えください。

(2) 友人から LGBTなどの性的少数者であると打ち明けられた場合、次のア～ウについて、あなたの気持ちに近いのはどれですか？（○はそれぞれ1つ）

※この設問は、前回調査にはありません。

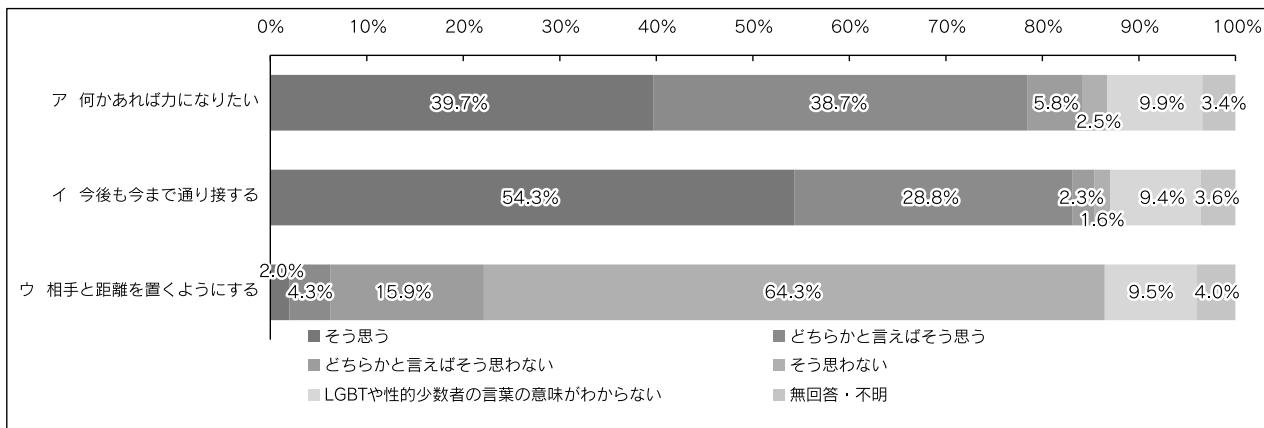
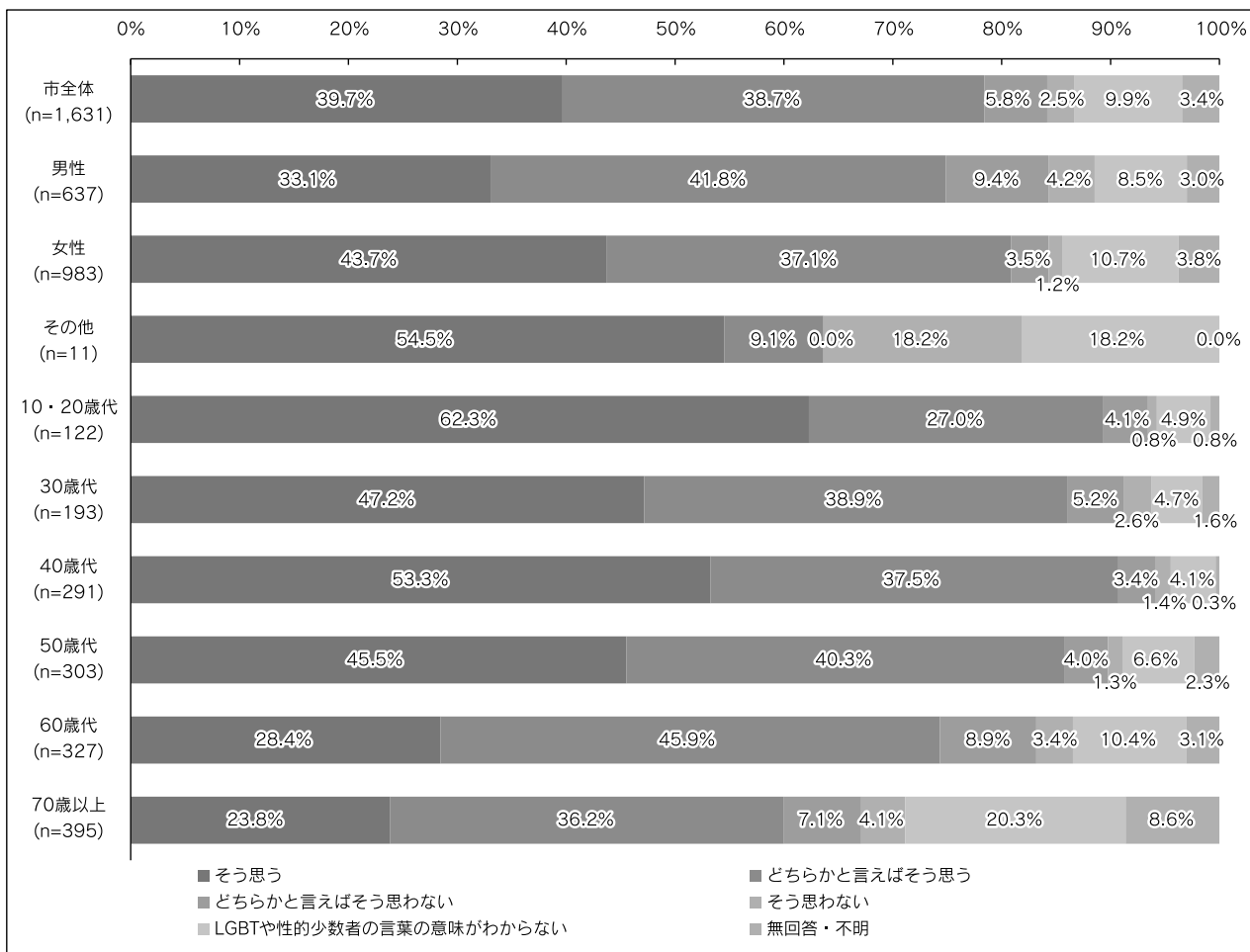


表2-36

	回答者数	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	LGBTや性的少数者の言葉の意味がわからない	無回答・不明
ア 何かあれば力になりたい	1,631	647	632	94	41	161	56
	100.0%	39.7%	38.7%	5.8%	2.5%	9.9%	3.4%
イ 今後も今まで通り接する	1,631	886	469	38	26	153	59
	100.0%	54.3%	28.8%	2.3%	1.6%	9.4%	3.6%
ウ 相手と距離を置くようにする	1,631	32	70	259	1,049	155	66
	100.0%	2.0%	4.3%	15.9%	64.3%	9.5%	4.0%

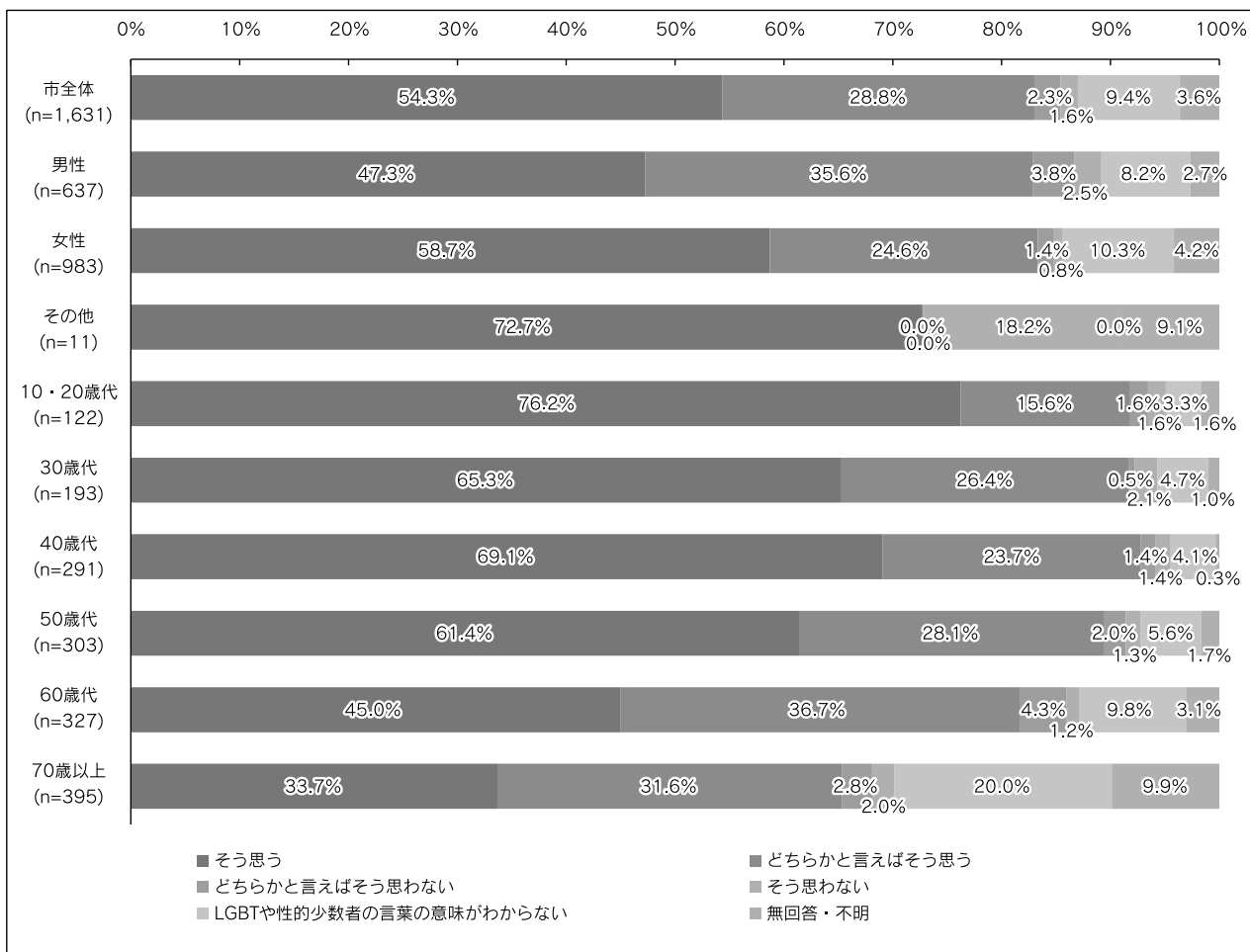
友人からLGBTなどの性的少数者であると打ち明けられた場合の感じ方は、「ア 何かあれば力になりたい」、「イ 今後も今まで通り接する」、「ウ 相手と距離を置くようにする」の3設問とも、約8割の人が「寄り添う」姿勢となっています。カミングアウトを受けた具体的な場面を設定した設問においても、前述の(1)の設問と同様、高い数値となりました。今後、性の多様性への理解が深まるにつれ、数値がさらに上がっていくことが期待されます。

ア 何かあれば力になりたい



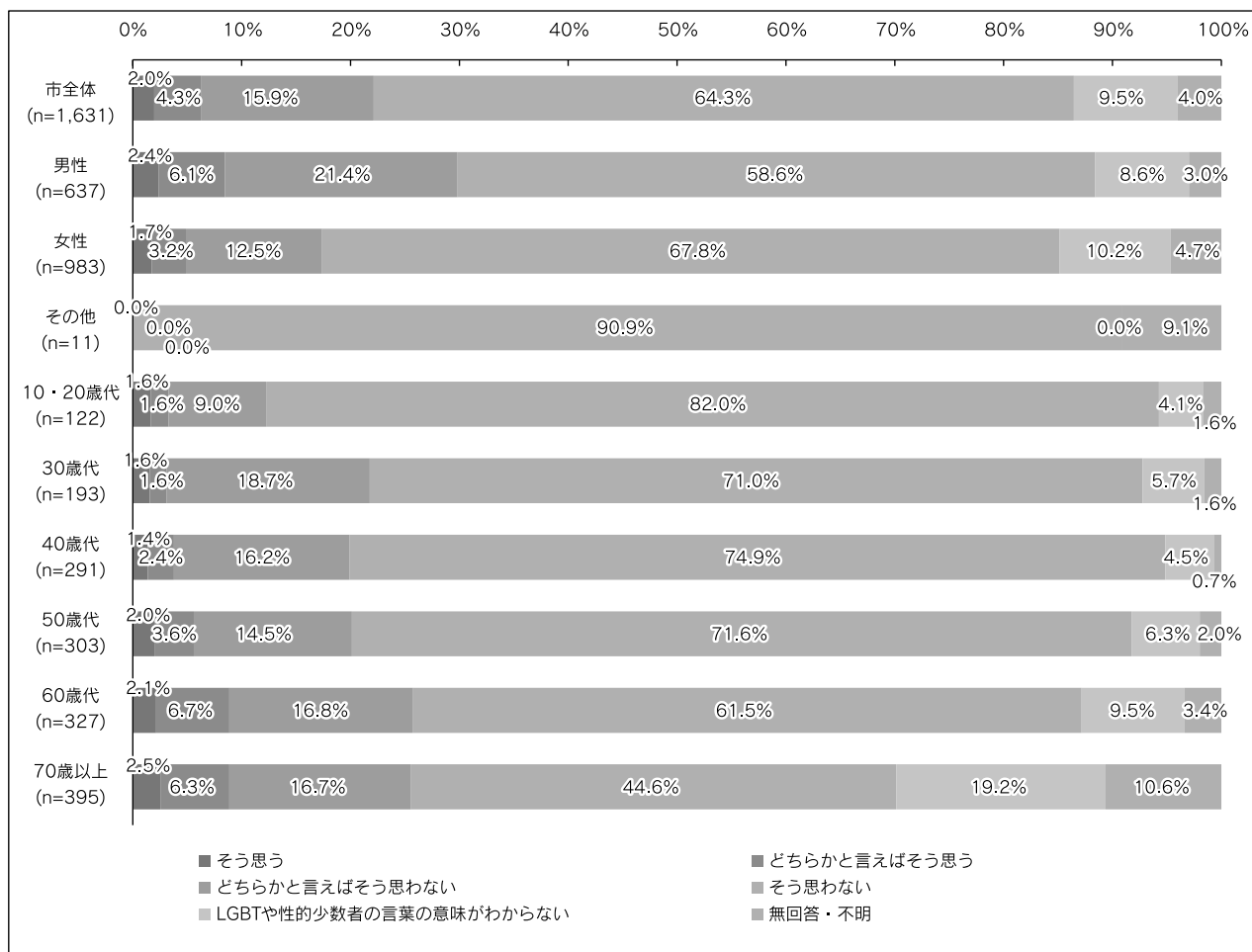
年齢別で見ると、年齢層が低いほど、力になりたいと感じる割合が高いことがわかります。10・20歳代は「そう思う」62.3%、「どちらかと言えばそう思う」27.0%を合わせると89.3%で、9割弱が力になりたいと感じています。

イ 今後も今まで通り接する



年齢別で見ると、年齢層が低いほど、今まで通り接したいと感じる割合が高いことがわかります。10・20歳代は「そう思う」76.2%、「どちらかと言えばそう思う」15.6%を合わせると91.8%で、9割強の人が今まで通り接したいと感じています。

ウ 相手と距離を置くようにする



年齢別でみると、年齢層が低いほど、相手と距離をおかないと感じる割合が高いことがわかります。この傾向は、前述の2設問（ア・イ）に比べると、年齢層で大きな差はありません。

問12全体を通して、年齢層が高い世代への啓発が課題としてみえてきます。年齢層が高くなるほど、「参加したことがある」の割合が高くなっている地区公民館等主催の講演会・研修会等において、性の多様性についての理解を深める啓発を意識して取り入れていくことが求められます。

（問4 P.31参照）

3 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題

問13 新型コロナウイルス感染症に関して、次のような事例が起きました。

【事例:近所に住むAさんは看護師をしているが、勤め先の病院に新型コロナウイルスの感染者が入院していることが分かった。それから、近所の人たちはAさん避けるようになり、ついには「帰宅せずに病院に寝泊まりせよ」といった投書がされたという】

近所の人たちの対応について、あなたの考えに近いのはどれですか。(○は1つだけ)

※この設問は、前回調査にはありません。

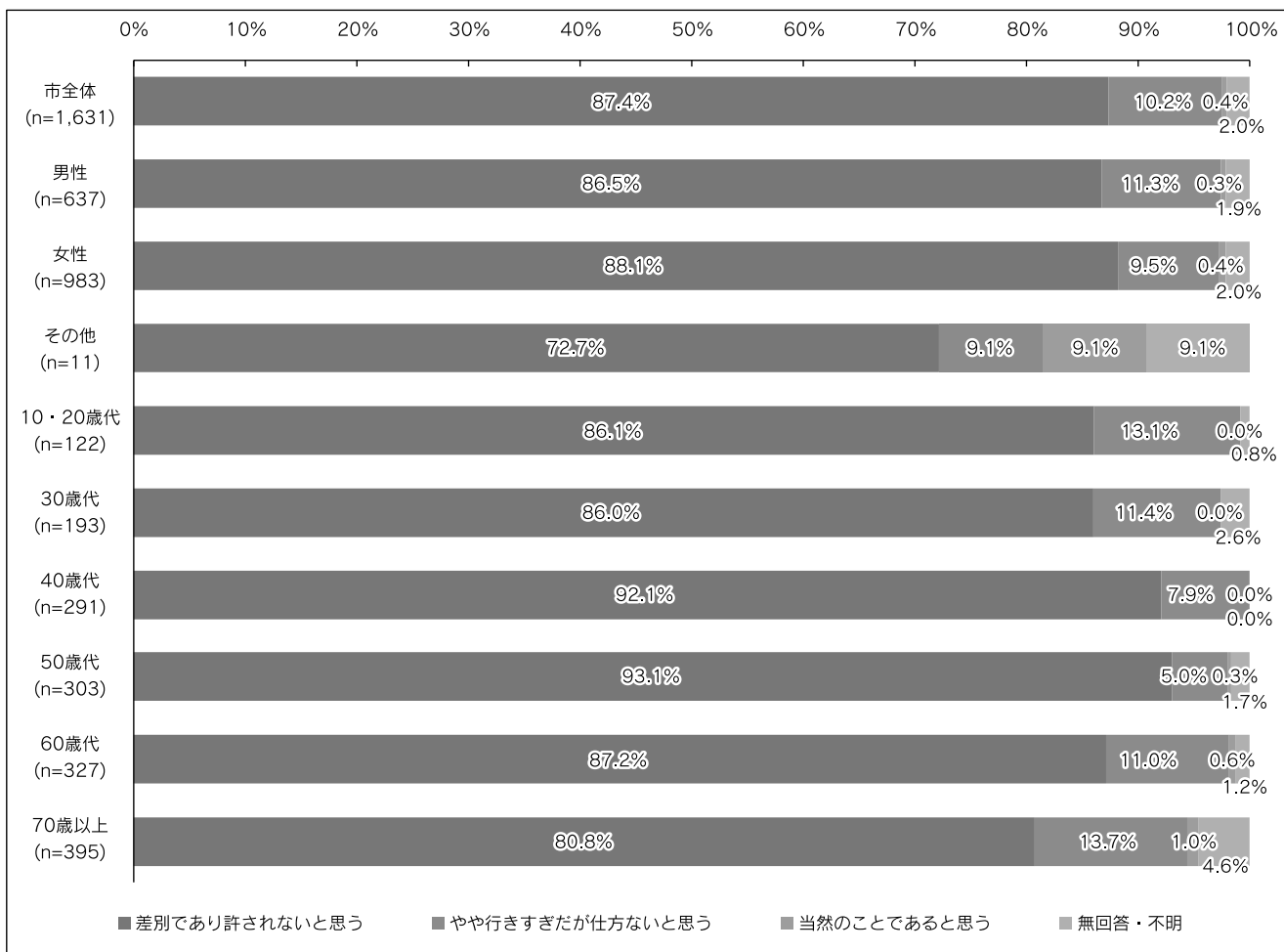


表2-37

		回 答 者 数	差別であり許されないと 思う	やや行きすぎだが仕方ない と思う	当然のことである と思う	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0%	1,425 87.4%	166 10.2%	7 0.4%	33 2.0%
性 別	男 性	637 100.0%	551 86.5%	72 11.3%	2 0.3%	12 1.9%
	女 性	983 100.0%	866 88.1%	93 9.5%	4 0.4%	20 2.0%
	そ の 他	11 100.0%	8 72.7%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	105 86.1%	16 13.1%	0 0.0%	1 0.8%
	20 歳 代	193 100.0%	166 86.0%	22 11.4%	0 0.0%	5 2.6%
	30 歳 代	291 100.0%	268 92.1%	23 7.9%	0 0.0%	0 0.0%
	40 歳 代	303 100.0%	282 93.1%	15 5.0%	1 0.3%	5 1.7%
	50 歳 代	327 100.0%	285 87.2%	36 11.0%	2 0.6%	4 1.2%
	60 歳 代	395 100.0%	319 80.8%	54 13.7%	4 1.0%	18 4.6%

『コロナ差別』については、「差別であり許されないとと思う」87.4%となっています。一方、「やや行きすぎだが仕方ないと思う」10.2%、「当然のことであると思う」0.4%を合わせた割合は10.6%で、約10人に1人が肯定する考え方であることがわかります。

新型コロナウイルス感染症は、本来誰もが感染する可能性があります。また、感染者は患者であり、加害者ではありません。しかし、ウイルスに対しての不安や恐れから、そのことが見えなくなり、感染者を責めたり、排除したりする言動などが起こっています。偏見や差別は、今わたしたちがすべきことである「感染を広げないこと」にはつながっていきません。差別意識の早急な解消が課題です。

第4節 同和問題（部落差別）について

1 学習機会

問14 あなたが、同和問題（部落差別）をはじめて知ったきっかけは何ですか。

（○は1つだけ）

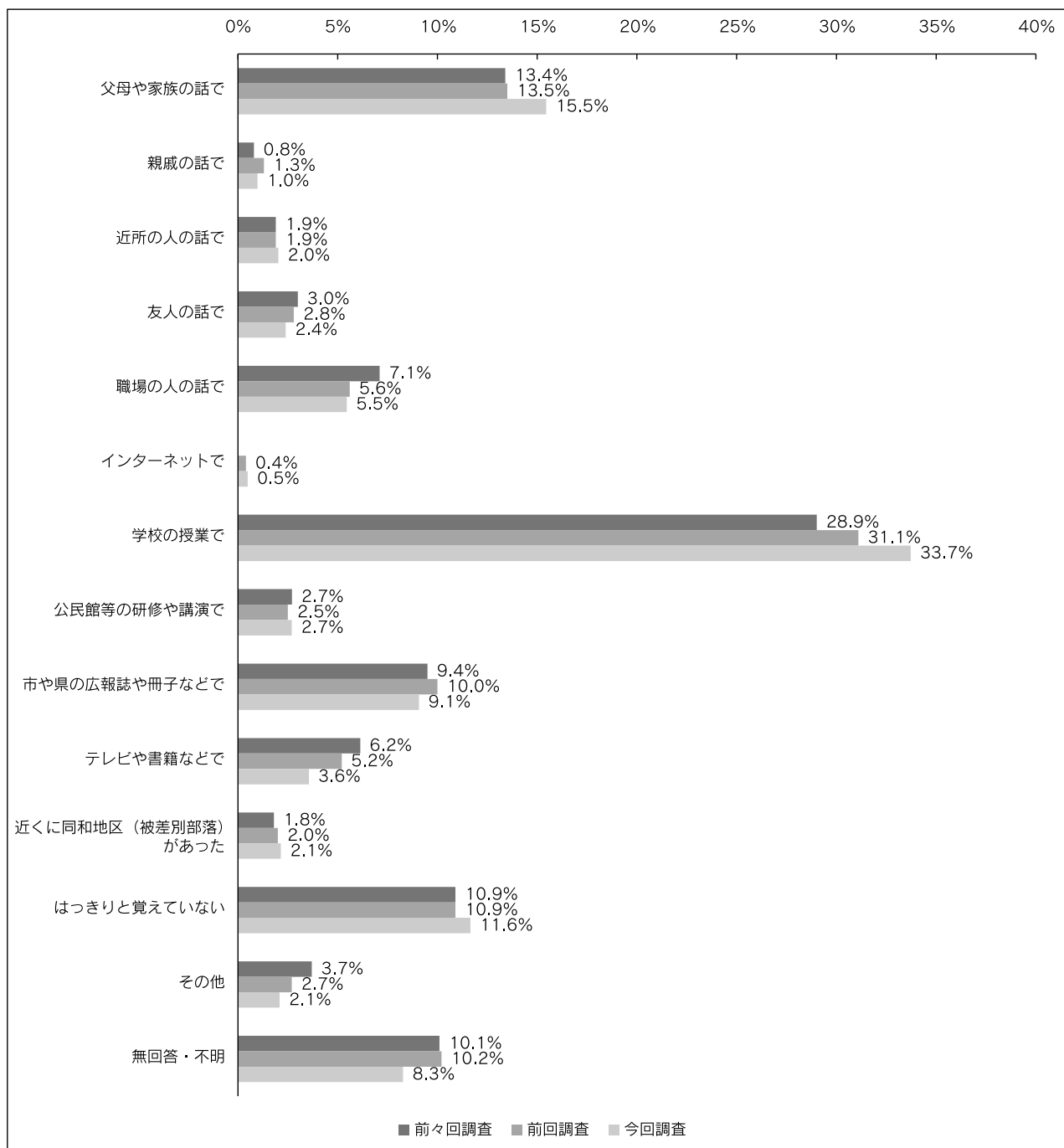


表2-38

	回 答 者 数	父 母 や 家 族 の 話 で	親 戚 の 話 で	近 所 の 人 の 話 で	友 人 の 話 で	職 場 の 人 の 話 で	イ ン タ ー ネ ッ ト で	学 校 の 授 業 で	公 民 館 等 の 研 修 や 講 演 で	市 や 県 の 広 報 誌 や 冊 子 など で	テ レ ビ や 書 籍 など で	(近 く に 同 和 地 区 が あ っ た) 被 差 別 部 落	は っ き り と 覚 え て い な い	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明	
市 全 体	1,631 100.0% 100.0%	252 15.5% (13.5)	16 1.0% (1.3)	33 2.0% (1.9)	39 2.4% (2.8)	89 5.5% (5.6)	8 0.5% (0.4)	550 33.7% (31.1)	44 2.7% (2.5)	148 9.1% (10.0)	58 3.6% (5.2)	35 2.1% (2.0)	190 11.6% (10.9)	34 2.1% (2.7)	135 8.3% (10.2)	
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	94 14.8% (11.5)	6 0.9% (1.5)	7 1.1% (1.7)	16 2.5% (3.8)	58 9.1% (9.4)	1 0.2% (0.4)	201 31.6% (26.6)	12 1.9% (1.9)	53 8.3% (9.1)	38 6.0% (6.6)	13 2.0% (2.1)	75 11.8% (12.1)	18 2.8% (3.2)	45 7.1% (10.2)
	女 性	983 100.0% 100.0%	157 16.0% (14.7)	10 1.0% (1.1)	26 2.6% (2.0)	23 2.3% (2.1)	31 3.2% (3.3)	6 0.6% (0.3)	343 34.9% (33.8)	32 3.3% (2.9)	95 9.7% (10.5)	20 2.0% (4.4)	22 2.2% (2.0)	114 11.6% (10.2)	14 1.4% (2.4)	90 9.2% (10.2)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	6 54.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	6 4.9%	0 0.0%	1 0.8%	3 2.5%	2 1.6%	4 3.3%	62 50.8%	2 1.6%	3 2.5%	7 5.7%	0 0.0%	23 18.9%	3 2.5%	6 4.9%
	20 歳 代	193 100.0%	18 9.3%	1 0.5%	0 0.0%	2 1.0%	8 4.1%	0 0.0%	100 51.8%	5 2.6%	6 3.1%	2 1.0%	0 0.0%	33 17.1%	6 3.1%	12 6.2%
	30 歳 代	291 100.0%	35 12.0%	1 0.3%	0 0.0%	2 0.7%	5 1.7%	2 0.7%	163 56.0%	10 3.4%	14 4.8%	4 1.4%	1 0.3%	29 10.0%	2 0.7%	23 7.9%
	40 歳 代	303 100.0%	42 13.9%	2 0.7%	3 1.0%	8 2.6%	15 5.0%	1 0.3%	153 50.5%	2 0.7%	13 4.3%	4 1.3%	7 2.3%	30 9.9%	3 1.0%	20 6.6%
	50 歳 代	327 100.0%	77 23.5%	5 1.5%	6 1.8%	12 3.7%	30 9.2%	0 0.0%	50 15.3%	10 3.1%	39 11.9%	22 6.7%	9 2.8%	28 8.6%	8 2.4%	31 9.5%
	60 歳 代	395 100.0%	74 18.7%	7 1.8%	23 5.8%	12 3.0%	29 7.3%	1 0.3%	22 5.6%	15 3.8%	73 18.5%	19 4.8%	18 4.6%	47 11.9%	12 3.0%	43 10.9%
	70 歳 以上	100.0%	(17.0)	(1.4)	(5.0)	(3.5)	(7.4)	(0.0)	(5.0)	(6.7)	(19.1)	(7.4)	(5.0)	(11.0)	(2.1)	(9.2)

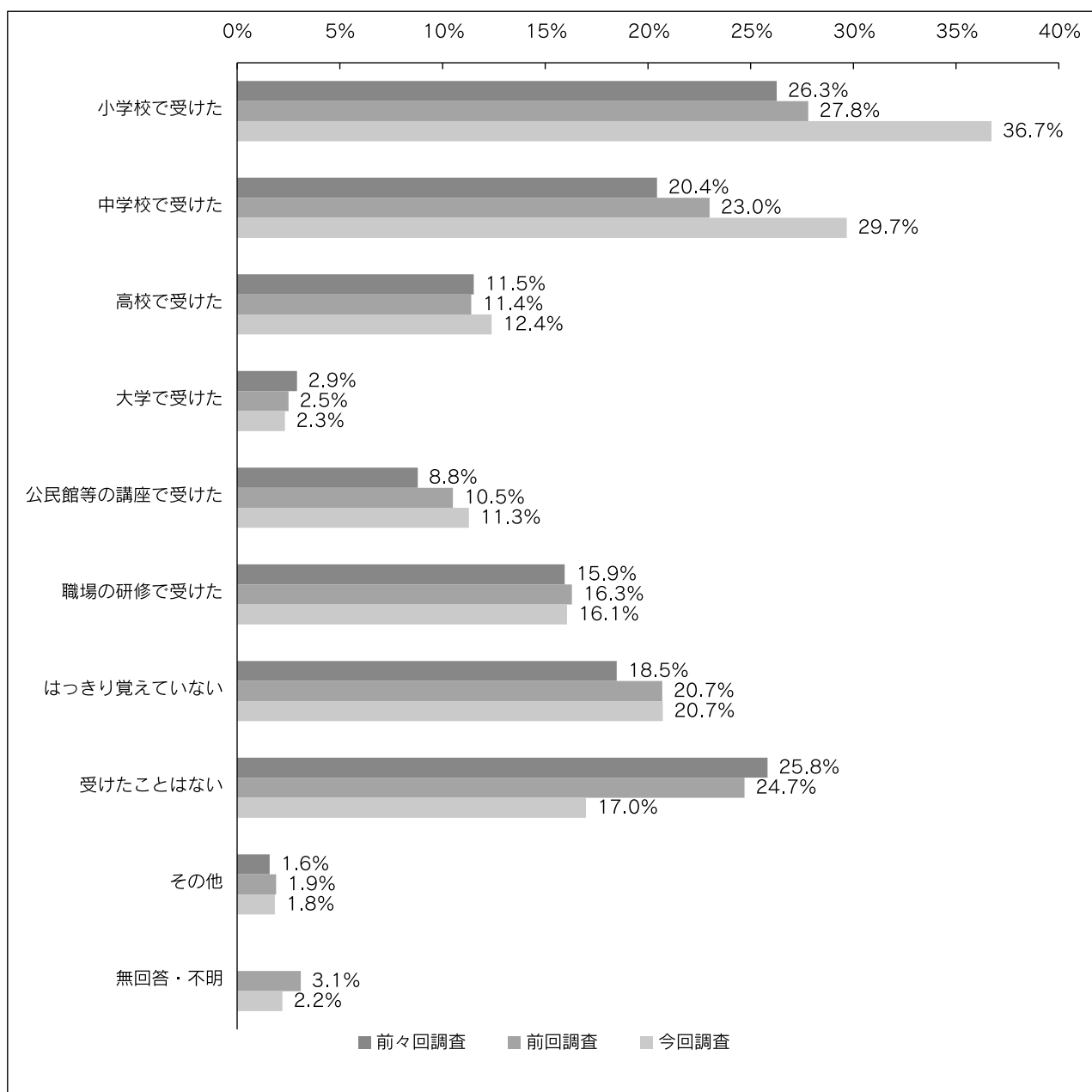
同和問題（部落差別）との出会いは、「学校の授業で」33.7%、「父母や家族の話で」15.5%を合わせた割合は、49.2%となっています。前回調査と比較すると大きな変化はありませんが、前々回調査と比較すると、「学校の授業で」が4.8ポイント高く、「父母や家族の話で」が2.1ポイント高くなっています。また、「テレビや書籍などで」は3.6%で2.6ポイント低くなっています。

年齢別でみると、年齢層が低いほど「父母や家族の話で」の割合が低くなり、10歳代・20歳代～50歳代は「学校の授業で」が5割強となっています。

この傾向から考えると、「学校の授業で」以外で同和問題（部落差別）と出会う人が、いかに正しく出会うことができるかが大切です。多くの人々が、同和問題（部落差別）に対する正しい認識を持つことができる啓発や資料等の発行を、今後も継続して取り組んでいく必要があります。

問15 同和問題（部落差別）についての学習経験等についてお答えください。

(1) あなたは、これまで、学校・職場・地域などで、同和問題（部落差別）についての学習を受けたことがありますか。（〇はいくつでも）



同和問題（部落差別）についての学習経験は、前回調査と比較すると「小学校で受けた」は36.7%で8.9ポイント高く、「中学校で受けた」は29.7%で6.7ポイント高く、「受けたことがない」は17.0%で7.7ポイント低くなっています。

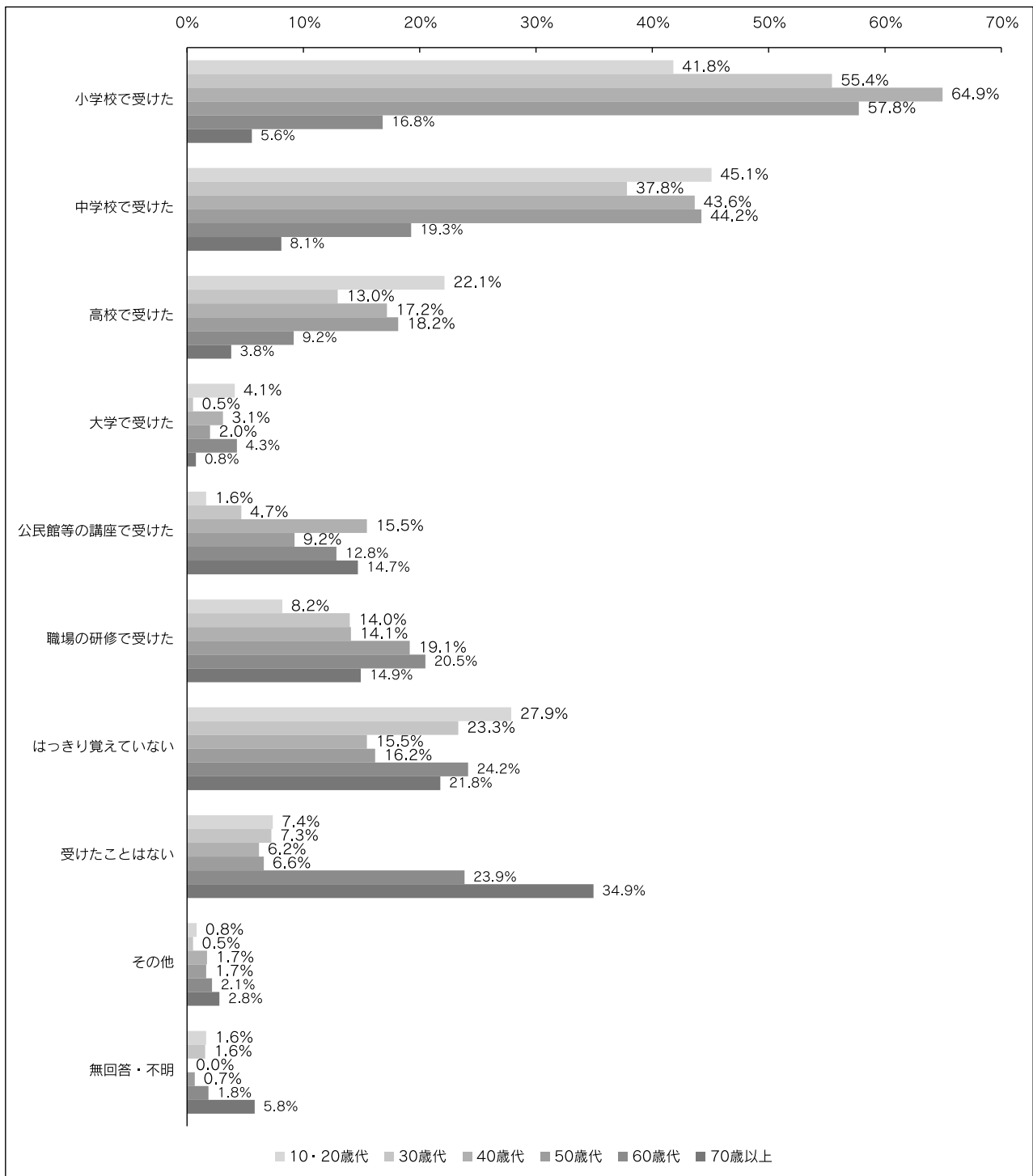


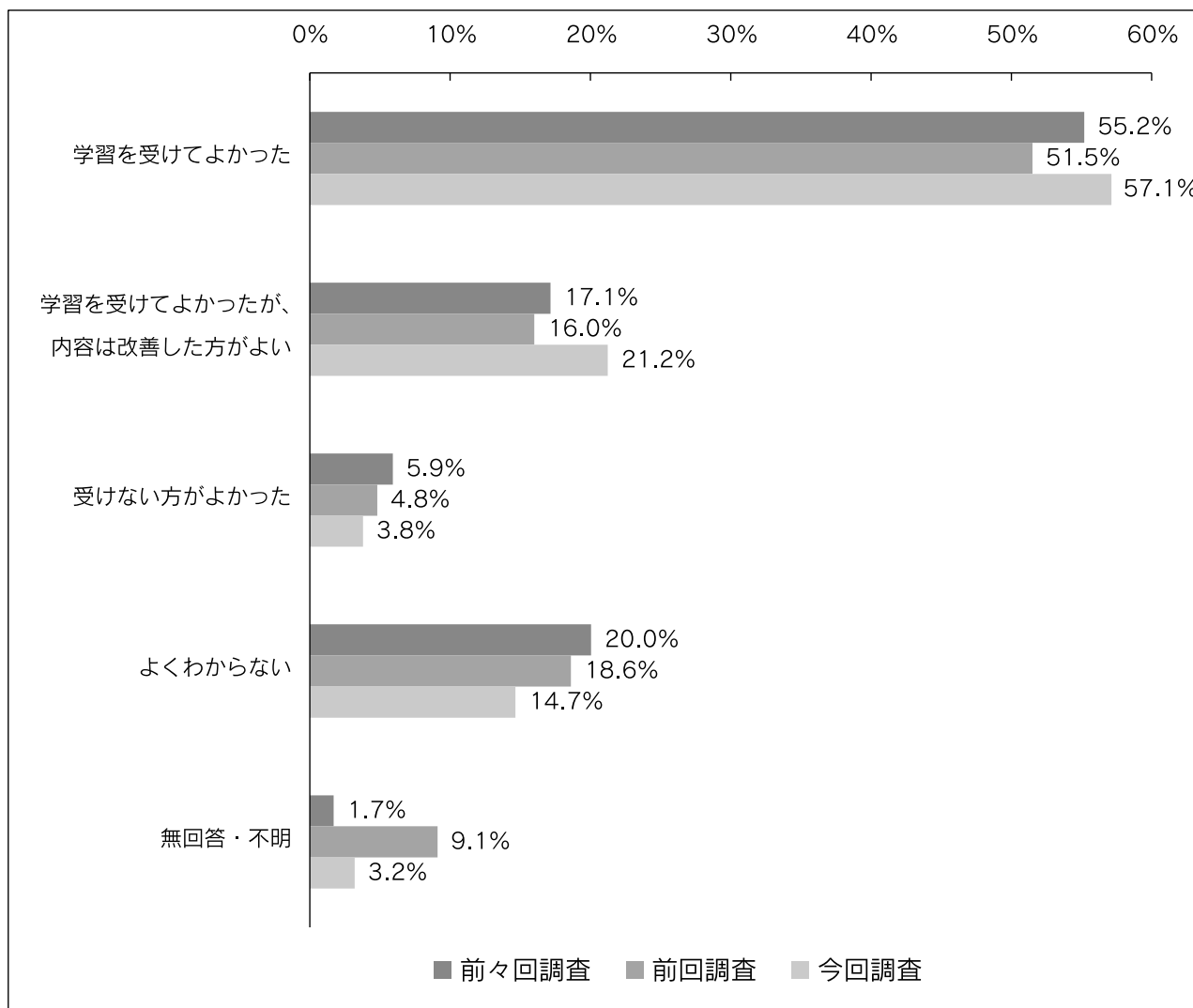
表2-39

	回 答 者 数	小 学 校 で 受 け た	中 学 校 で 受 け た	高 校 で 受 け た	大 学 で 受 け た	公 民 館 等 の 講 座 で 受 け た	職 場 の 研 修 で 受 け た	は っ き り 覚 え て い な い	受 け た こ と は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明	
市 全 体	1,631 100.0% 100.0%	599 36.7% (27.8)	484 29.7% (23.0)	202 12.4% (11.4)	38 2.3% (2.5)	184 11.3% (10.5)	262 16.1% (16.3)	338 20.7% (20.7)	277 17.0% (24.7)	30 1.8% (1.9)	36 2.2% (3.1)	
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	219 34.4% (22.8)	181 28.4% (21.3)	76 11.9% (11.1)	14 2.2% (2.1)	45 7.1% (7.0)	138 21.7% (24.5)	122 19.2% (18.5)	131 20.6% (28.7)	6 0.9% (0.9)	7 1.1% (2.5)
	女 性	983 100.0% 100.0%	372 37.8% (30.8)	297 30.2% (24.0)	125 12.7% (11.5)	23 2.3% (2.7)	139 14.1% (12.5)	123 12.5% (11.4)	215 21.9% (22.0)	146 14.9% (22.4)	23 2.3% (2.5)	29 3.0% (3.5)
	そ の 他	11 100.0%	8 72.7%	6 54.5%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	122 100.0% 100.0%	51 41.8% (33.3)	55 45.1% (37.4)	27 22.1% (16.3)	5 4.1% (4.1)	2 1.6% (0.0)	10 8.2% (8.9)	34 27.9% (24.4)	9 7.4% (26.0)	1 0.8% (0.8)	2 1.6% (0.8)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	107 55.4% (59.1)	73 37.8% (36.3)	25 13.0% (17.1)	1 0.5% (5.7)	9 4.7% (6.2)	27 14.0% (14.5)	45 23.3% (20.7)	14 7.3% (11.4)	1 0.5% (1.6)	3 1.6% (1.0)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	189 64.9% (59.6)	127 43.6% (40.0)	50 17.2% (17.6)	9 3.1% (0.8)	45 15.5% (10.2)	41 14.1% (15.9)	45 15.5% (16.3)	18 6.2% (11.0)	5 1.7% (0.8)	0 0.0% (0.8)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	175 57.8% (24.5)	134 44.2% (25.3)	55 18.2% (12.4)	6 2.0% (3.3)	28 9.2% (8.7)	58 19.1% (18.7)	49 16.2% (26.1)	20 6.6% (17.8)	5 1.7% (2.9)	2 0.7% (5.0)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	55 16.8% (7.9)	63 19.3% (11.5)	30 9.2% (6.6)	14 4.3% (2.1)	42 12.8% (10.9)	67 20.5% (19.0)	79 24.2% (22.1)	78 23.9% (34.1)	7 2.1% (1.5)	6 1.8% (3.6)
	70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	22 5.6% (2.8)	32 8.1% (4.3)	15 3.8% (4.6)	3 0.8% (0.7)	58 14.7% (19.1)	59 14.9% (16.0)	86 21.8% (16.7)	138 34.9% (40.1)	11 2.8% (3.2)	23 5.8% (5.3)

年齢別にみると、10歳代・20歳代は、「小学校で受けた」は41.8%で、前回調査と比較すると8.5ポイント、「中学校で受けた」は45.1%で7.7ポイント高くなっています。また、「受けたことがない」は7.4%で18.6ポイント低くなっています。2016年（平成28年）12月に施行された「部落差別解消推進法」第5条教育及び啓発の充実の具現化に向けて、学校教育が真摯に取り組んできた成果と言えます。一方、10歳代・20歳代は、「はっきりと覚えていない」が27.9%になっていることから、学習内容についての課題が見えてきます。

問15 同和問題（部落差別）についての学習経験等についてお答えください。

(2) 学習を受けたことについて、今どう感じていますか。（○は1つだけ）



同和問題（部落差別）の学習経験の印象については、前回調査と比較すると「学習を受けてよかった」は57.1%で、5.6ポイント高くなっています。また、「受けない方がよかった」は3.8%であり、学習を受けてよかったとの印象を持っている人が多いことがわかります。

一方、「学習を受けてよかったが、内容は改善した方がよい」は21.2%で、前回調査と比較すると5.2ポイント高くなっています。

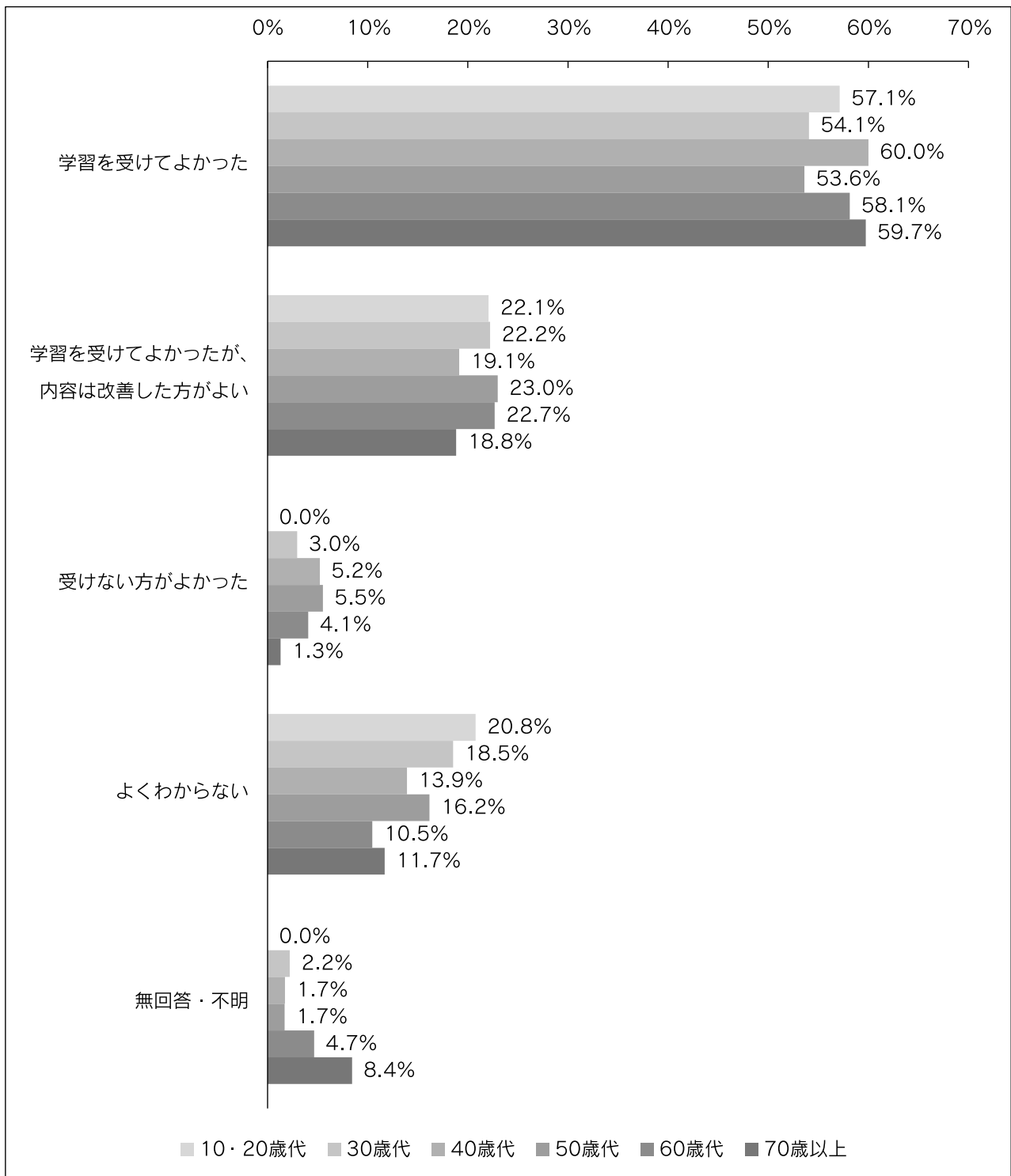


表2-40

		回 答 者 数	学 習 を 受 け て よ か っ た	学 習 を 受 け て よ か っ た が、 内 容 は 改 善 し た 方 が よ い	受 け な い 方 が よ か っ た	よ く わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,003 100.0% 100.0%	573 57.1% (51.5)	213 21.2% (16.0)	38 3.8% (4.8)	147 14.7% (18.6)	32 3.2% (9.1)
性 別	男 性	388 100.0% 100.0%	220 56.7% (55.2)	94 24.2% (19.9)	12 3.1% (3.4)	48 12.4% (15.3)	14 3.6% (6.1)
	女 性	605 100.0% 100.0%	349 57.7% (49.4)	117 19.3% (13.7)	26 4.3% (5.7)	95 15.7% (20.4)	18 3.0% (10.8)
	そ の 他	10 100.0%	4 40.0%	2 20.0%	0 0.0%	4 40.0%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	77 100.0%	44 57.1% (77.6)	17 22.1% (9.0)	0 0.0% (3.0)	16 20.8% (6.0)	0 0.0% (4.5)
	20 歳 代	135 100.0%	73 54.1% (49.2)	30 22.2% (18.9)	4 3.0% (5.3)	25 18.5% (25.0)	3 2.2% (1.5)
	30 歳 代	230 100.0%	138 60.0% (50.5)	44 19.1% (19.0)	12 5.2% (4.3)	32 13.9% (21.7)	4 1.7% (4.3)
	40 歳 代	235 100.0%	126 53.6% (49.1)	54 23.0% (15.4)	13 5.5% (4.7)	38 16.2% (21.3)	4 1.7% (9.5)
	50 歳 代	172 100.0%	100 58.1% (50.5)	39 22.7% (17.9)	7 4.1% (5.4)	18 10.5% (15.2)	8 4.7% (10.9)
	60 歳 代	154 100.0%	92 59.7% (47.1)	29 18.8% (11.1)	2 1.3% (5.2)	18 11.7% (15.7)	13 8.4% (20.9)
	70 歳 以上						

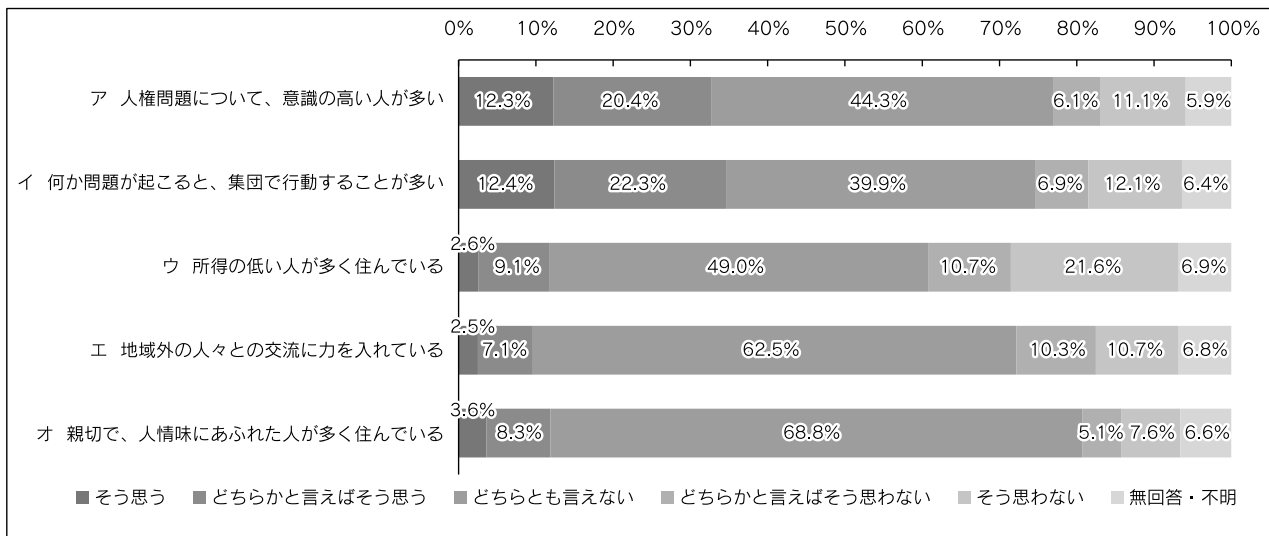
年齢別にみると、どの年齢層も「学習を受けてよかったが、内容は改善した方がよい」の割合が高くなっています。

差別を解消する取組は、被差別当事者の思いや願いを抜きに進めることはできません。しかし、同和問題（部落差別）の学習が、そのような差別の現状や厳しさのみを知ることだけにとどまると、解消の道筋が見えなくなってしまうのかもしれません。「差別をする側が変われば、差別は解消に向かう」そのような展望をしめす内容を、今後、教育や啓発の場で意識して取り入れていく必要があります。

2 同和地区（被差別部落）に対するイメージ

問16 あなたは、同和地区（被差別部落）について、どのようなイメージをお持ちですか。次のア～カについてお答えください。（○はそれぞれ1つ）

前回調査（2015）



今回調査（2020）

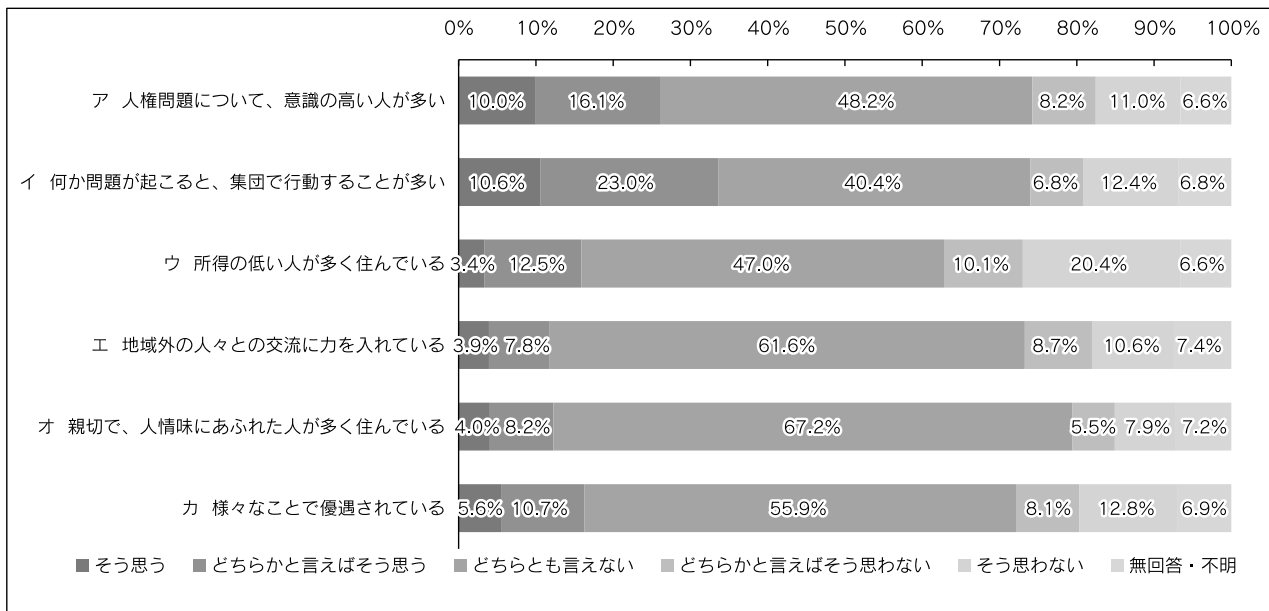


表2-41

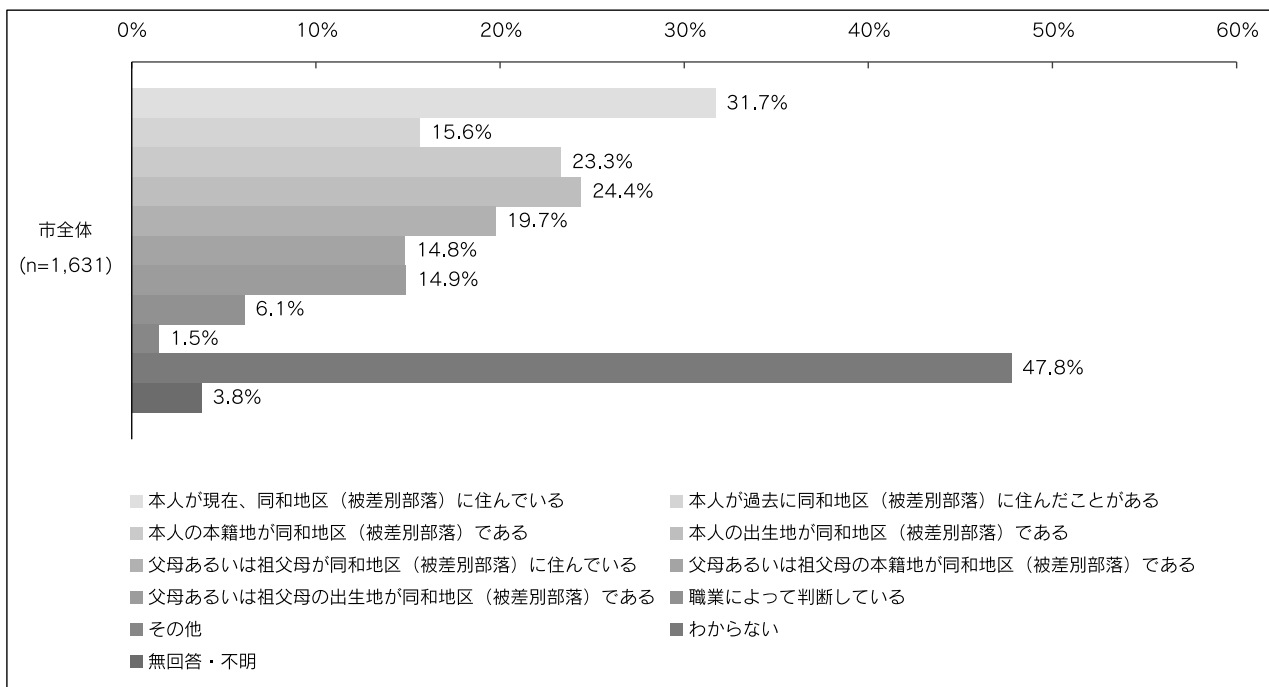
	回答者数	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わ ない	無回答・ 不明
ア 人権問題について、意識の 高い人が多い	1,631 100.0% 100.0%	163 10.0% (12.3)	262 16.1% (20.4)	786 48.2% (44.3)	134 8.2% (6.1)	179 11.0% (11.1)	107 6.6% (5.9)
イ 何か問題が起こると、集団 で行動することが多い	1,631 100.0% 100.0%	173 10.6% (12.4)	375 23.0% (22.3)	659 40.4% (39.9)	111 6.8% (6.9)	202 12.4% (12.1)	111 6.8% (6.4)
ウ 所得の低い人が多く住んで いる	1,631 100.0% 100.0%	55 3.4% (2.6)	204 12.5% (9.1)	767 47.0% (49.0)	165 10.1% (10.7)	332 20.4% (21.6)	108 6.6% (6.9)
エ 地域外の人々との交流に 力を入れている	1,631 100.0% 100.0%	64 3.9% (2.5)	127 7.8% (7.1)	1,004 61.6% (62.5)	142 8.7% (10.3)	173 10.6% (10.7)	121 7.4% (6.8)
オ 親切で、人情味にあふれた 人が多く住んでいる	1,631 100.0% 100.0%	66 4.0% (3.6)	134 8.2% (8.3)	1,096 67.2% (68.8)	89 5.5% (5.1)	129 7.9% (7.6)	117 7.2% (6.6)
カ 様々なことで優遇されて いる	1,631 100.0%	91 5.6%	175 10.7%	912 55.9%	132 8.1%	208 12.8%	113 6.9%

同和地区（被差別部落）に対するイメージは、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合を肯定、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合を否定とすると、「ア 人権問題について、意識の高い人が多い」は肯定が6.9ポイント高く、「イ 何か問題が起こると、集団で行動することが多い」は肯定が14.4ポイント高く、「ウ 所得の低い人が多く住んでいる」は否定が14.6ポイント高く、「エ 地域外の人々との交流に力を入れている」は否定が7.6ポイント高く、「オ 親切で、人情味にあふれた人が多く住んでいる」は否定が1.2ポイント高く、「カ 様々なことで優遇されている」は否定が4.6ポイント高くなっています。

また、どの設問も「どちらとも言えない」の割合が最も高く、特別な場所（集団）としてみる傾向は強くないことがわかります。しかし、マイナスイメージは、同和問題（部落差別）の解決をばむ要因の1つであり、改善してくための啓発を継続していく必要があります。

3 同和地区（被差別部落）出身者と判断する基準

問17 あなたは、世間ではどのようなことで同和地区（被差別部落）出身者と判断していると思いますか。（○はいくつでも）



同和地区（被差別部落）出身者と判断する基準は、割合の高い順に、「わからない」47.8%、「本人が現在、同和地区（被差別部落）に住んでいる」31.7%、「本人の出生地が同和地区（被差別部落）である」24.4%、「本人の本籍地が同和地区（被差別部落）である」23.3%となっており、3割強の人が本人の居住地で判断し、2割強の人が本人の本籍地や出生地で判断するとなっています。また、2割弱が父母あるいは祖父母の居住地、本籍地、出生地で判断していることがわかります。「職業によって判断している」も6.1%の割合で存在しています。

表2-42

		回 答 者 数	本人が現在、同和地区 (被差別部落)に住んでいる	本人が過去に同和地区 (被差別部落)に住んだことがある	本人の本籍地が同和地区 (被差別部落)である	本人の出生地が同和地区 (被差別部落)である	父母あるいは祖父母が同和地区 (被差別部落)に住んでいる	父母あるいは祖父母の本籍地が 同和地区(被差別部落)である	父母あるいは祖父母の出生地が 同和地区(被差別部落)である	職業によって判断している	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	517 31.7% (27.3)	255 15.6% (11.3)	380 23.3% (21.9)	398 24.4% (22.8)	322 19.7% (13.9)	242 14.8% (14.1)	243 14.9% (13.4)	100 6.1% (5.8)	24 1.5% (3.6)	779 47.8% (47.2)	62 3.8% (2.1)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	195 30.6% (28.3)	94 14.8% (10.0)	145 22.8% (20.9)	153 24.0% (23.0)	128 20.1% (11.5)	94 14.8% (11.5)	91 14.3% (11.5)	40 6.3% (6.4)	11 1.7% (4.7)	311 48.8% (46.8)	15 2.4% (2.1)
	女 性	983 100.0% 100.0%	321 32.7% (26.8)	159 16.2% (12.1)	234 23.8% (22.5)	243 24.7% (22.7)	194 19.7% (15.3)	147 15.0% (15.6)	151 15.4% (14.6)	60 6.1% (5.4)	12 1.2% (2.9)	461 46.9% (47.5)	47 4.8% (2.1)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	2 18.2%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	7 63.6%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	122 100.0% 100.0%	31 25.4% (13.0)	20 16.4% (8.1)	27 22.1% (16.3)	28 23.0% (11.4)	18 14.8% (7.3)	11 9.0% (5.7)	10 8.2% (8.9)	4 3.3% (3.3)	2 1.6% (1.6)	71 58.2% (67.5)	3 2.5% (1.6)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	57 29.5% (22.8)	34 17.6% (11.9)	52 26.9% (21.8)	54 28.0% (24.4)	43 22.3% (14.5)	41 21.2% (14.0)	42 21.8% (13.5)	9 4.7% (3.6)	0 0.0% (3.1)	106 54.9% (53.4)	4 2.1% (1.6)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	108 37.1% (29.4)	61 21.0% (13.9)	91 31.3% (24.1)	94 32.3% (26.5)	68 23.4% (15.9)	49 16.8% (14.3)	49 16.8% (13.5)	15 5.2% (5.3)	3 1.0% (1.6)	133 45.7% (47.8)	3 1.0% (1.2)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	110 36.3% (33.6)	57 18.8% (14.9)	84 27.7% (30.7)	85 28.1% (30.3)	75 24.8% (18.7)	59 19.5% (21.6)	52 17.2% (19.1)	17 5.6% (6.6)	2 0.7% (2.9)	132 43.6% (39.4)	7 2.3% (1.7)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	119 36.4% (32.6)	44 13.5% (10.9)	77 23.5% (21.8)	85 26.0% (23.3)	70 21.4% (15.1)	56 17.1% (15.1)	55 16.8% (14.8)	22 6.7% (6.9)	10 3.1% (4.8)	128 39.1% (39.3)	19 5.8% (1.8)
	70歳以上	395 100.0% 100.0%	92 23.3% (23.4)	39 9.9% (7.4)	49 12.4% (15.2)	52 13.2% (16.7)	48 12.2% (8.9)	26 6.6% (9.9)	35 8.9% (8.9)	33 8.4% (6.7)	7 1.8% (5.7)	209 52.9% (49.6)	26 6.6% (4.3)

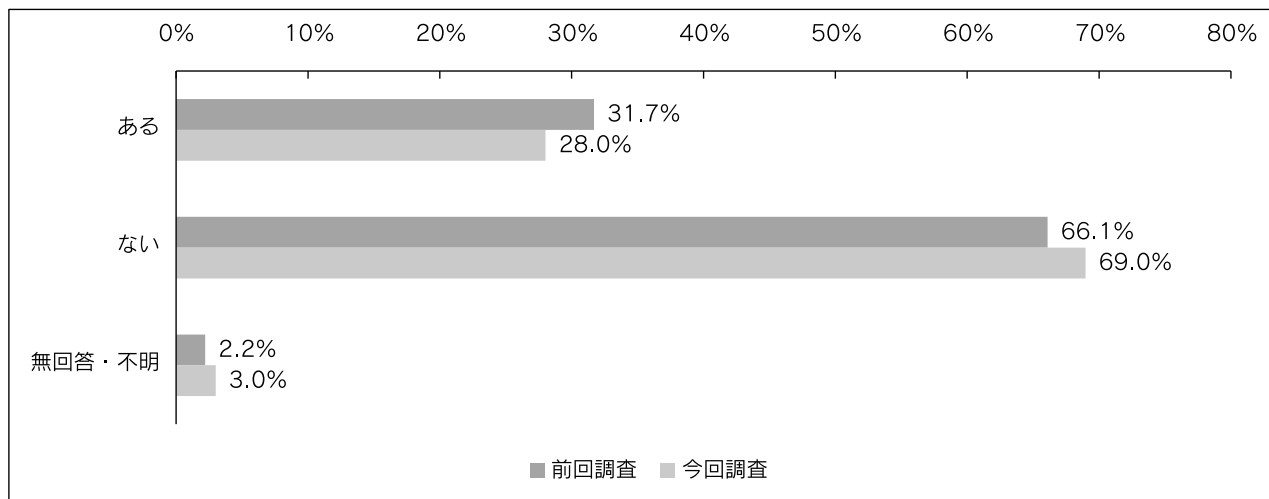
年齢別にみると、10歳代・20歳代は「わからない」が58.2%で割合が最も高く、年齢層が高くなるほど「わからない」の割合は低くなっていきますが、70歳代では52.9%と60歳代に比べて10ポイント以上高くなっています。

生まれや血縁は「本人に責任のないこと」「選べないこと」です。それを理由に起こる部落差別は、決して許されません。差別をする側が対象を主観的に判断している理不尽さに、多くの人が気づいていくことが大切です。

差別をなくすためには、差別をする側が変わっていく必要があります。

4 偏見の流布と受容

問18 あなたは、「同和地区出身者（被差別部落出身者）と関わらない方がよい」というような内容を、見たり聞いたりしたことがありますか。（○は1つだけ）



※前回調査（2015）の数値は、『あなたは「同和地区出身者（被差別部落出身者）は怖い」というような内容を、見たり聞いたりしたことがありますか』という設問に対する数値となっています。

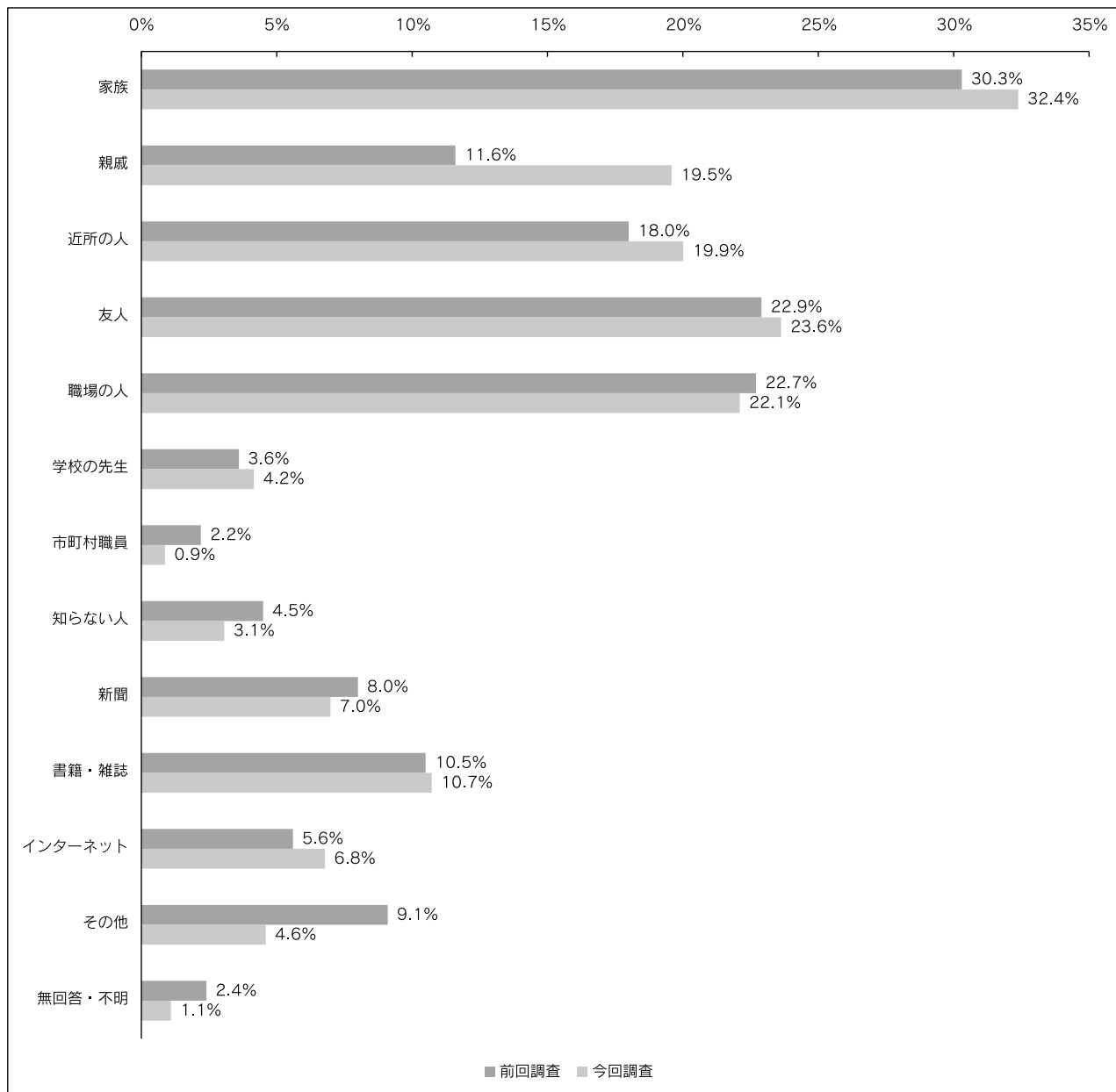
表2-43

		回答者数	ある	ない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% (100.0)	457 28.0% (31.7)	1,125 69.0% (66.1)	49 3.0% (2.2)
性 別	男 性	637 100.0% (100.0)	195 30.6% (35.8)	426 66.9% (62.1)	16 2.5% (2.1)
	女 性	983 100.0% (100.0)	259 26.3% (29.3)	693 70.5% (68.5)	31 3.2% (2.3)
	そ の 他	11 100.0%	3 27.3%	6 54.5%	2 18.2%
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	122 100.0% (100.0)	15 12.3% (13.0)	102 83.6% (87.0)	5 4.1% (0.0)
	30 歳 代	193 100.0% (100.0)	37 19.2% (23.3)	151 78.2% (75.6)	5 2.6% (1.0)
	40 歳 代	291 100.0% (100.0)	64 22.0% (31.4)	225 77.3% (67.8)	2 0.7% (0.8)
	50 歳 代	303 100.0% (100.0)	95 31.4% (36.1)	201 66.3% (59.3)	7 2.3% (4.6)
	60 歳 代	327 100.0% (100.0)	118 36.1% (37.5)	197 60.2% (60.4)	12 3.7% (2.1)
	70 歳 以上	395 100.0% (100.0)	128 32.4% (35.5)	249 63.0% (61.3)	18 4.6% (3.2)

同和地区出身者（被差別部落出身者）に関する偏見を見たり聞いたりしたことがあるかについては、前回調査と比較すると「ある」は 28.0% で 3.7 ポイント低く、「ない」は 69.0% で 2.9 ポイント高くなっています。年齢別でみると、年齢層が高いほど「ある」の割合が高く、年齢層が低いほど「ない」の割合が高くなっています。

問18 1.ある

付問（1）それは誰から、または何によって知りましたか。（〇はいくつでも）



※前回調査（2015）の数値は、『あなたは「同和地区出身者（被差別部落出身者）は怖い」というような内容を、見たり聞いたりしたことがありますか』という設問から、「それは誰から、または何によって知りましたか」の問いに対する数値となっています。

表2-44

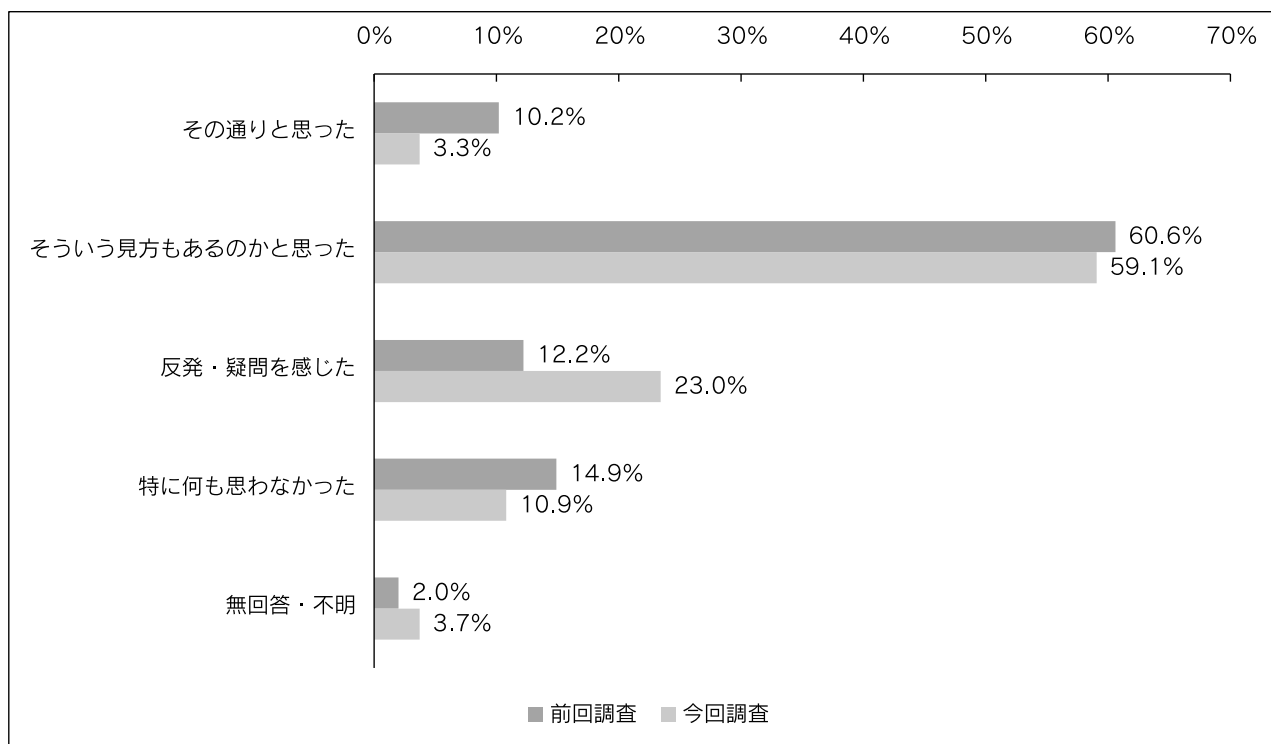
		回 答 者 数	家 族	親 戚	近 所 の 人	友 人	職 場 の 人	学 校 の 先 生	市 町 村 職 員	知 ら な い 人	新 聞	書 籍 ・ 雑 誌	イ ン タ ー ネ ッ ト	そ の 他	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		457 100.0% 100.0%	148 32.4% (30.3)	89 19.5% (11.6)	91 19.9% (18.0)	108 23.6% (22.9)	101 22.1% (22.7)	19 4.2% (3.6)	4 0.9% (2.2)	14 3.1% (4.5)	32 7.0% (8.0)	49 10.7% (10.5)	31 6.8% (5.6)	21 4.6% (9.1)	5 1.1% (2.4)
性 別	男 性	195 100.0% 100.0%	49 25.1% (25.8)	32 16.4% (12.1)	35 17.9% (18.9)	58 29.7% (25.8)	59 30.3% (34.2)	7 3.6% (2.6)	0 0.0% (2.6)	7 3.6% (4.7)	19 9.7% (7.9)	21 10.8% (9.5)	16 8.2% (5.8)	6 3.1% (8.4)	2 1.0% (2.6)
	女 性	259 100.0% 100.0%	98 37.8% (33.6)	57 22.0% (11.2)	55 21.2% (17.4)	49 18.9% (20.8)	42 16.2% (14.3)	10 3.9% (4.2)	3 1.2% (1.9)	7 2.7% (4.2)	12 4.6% (8.1)	28 10.8% (11.2)	15 5.8% (5.4)	14 5.4% (9.7)	3 1.2% (2.3)
	そ の 他	3 100.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代 20 歳 代	15 100.0% 100.0%	4 26.7% (25.0)	3 20.0% (0.0)	1 6.7% (12.5)	2 13.3% (25.0)	0 0.0% (6.3)	6 40.0% (0.0)	1 6.7% (0.0)	1 6.7% (0.0)	0 0.0% (0.0)	0 0.0% (6.3)	2 13.3% (31.3)	1 6.7% (12.5)	1 6.7% (6.3)
	30 歳 代	37 100.0% 100.0%	10 27.0% (22.2)	7 18.9% (8.9)	4 10.8% (15.6)	5 13.5% (15.6)	5 13.5% (24.4)	3 8.1% (8.9)	0 0.0% (0.0)	0 0.0% (11.1)	2 5.4% (4.4)	6 16.2% (4.4)	12 32.4% (15.6)	2 5.4% (8.9)	1 2.7% (0.0)
	40 歳 代	64 100.0% 100.0%	20 31.3% (33.8)	14 21.9% (6.5)	8 12.5% (9.1)	13 20.3% (22.1)	12 18.8% (23.4)	2 3.1% (7.8)	0 0.0% (3.9)	1 1.6% (2.6)	1 1.6% (1.3)	4 6.3% (7.8)	6 9.4% (11.7)	6 9.4% (10.4)	2 3.1% (1.3)
	50 歳 代	95 100.0% 100.0%	37 38.9% (42.5)	19 20.0% (14.9)	12 12.6% (13.8)	22 23.2% (23.0)	18 18.9% (14.9)	3 3.2% (4.6)	1 1.1% (1.1)	4 4.2% (1.1)	7 7.4% (9.2)	11 11.6% (9.2)	4 4.2% (2.3)	4 4.2% (12.6)	1 1.1% (2.3)
	60 歳 代	118 100.0% 100.0%	42 35.6% (31.5)	25 21.2% (16.9)	25 21.2% (21.0)	29 24.6% (23.4)	36 30.5% (27.4)	2 1.7% (0.0)	0 0.0% (0.8)	1 0.8% (4.0)	8 6.8% (11.3)	14 11.9% (13.7)	4 3.4% (1.6)	5 4.2% (6.5)	0 0.0% (2.4)
	70 歳 以上	128 100.0% 100.0%	35 27.3% (20.0)	21 16.4% (9.0)	41 32.0% (27.0)	37 28.9% (26.0)	30 23.4% (25.0)	3 2.3% (2.0)	2 1.6% (5.0)	7 5.5% (7.0)	14 10.9% (11.0)	14 10.9% (13.0)	3 2.3% (0.0)	3 2.3% (8.0)	0 0.0% (4.0)

偏見を見たり聞いたりしたことが「ある」人が、何によって知ったかについては、前回調査と比較すると、「親戚」は19.5%で7.9ポイント高く、「家族」は32.4%で2.1ポイント高く、「近所の人」は19.9%で1.9ポイント高くなっています。「友人」「職場の人」も2割強であることから、身近な人から偏見を見たり聞いたりしていることがわかります。

年齢別でみると、「学校の先生」が10歳代・20歳代で高くなっており、問15(2)で分析した(P.107参照)学習内容の工夫が求められます。また、「インターネット」は10歳代・20歳代で13.3%、30歳代で32.4%と割合が高く、注意が必要です。

問18 1.ある

付問（2）それを見たり聞いたりした時、どう感じましたか。（○は1つだけ）



※前回調査（2015）の数値は、『あなたは「同和地区出身者（被差別部落出身者）は怖い」というような内容を見たり聞いたりしたことがありますか』という設問から、「それを見たり聞いたりした時、どう感じましたか」の問いに対する数値となっています。

表2-45

		回 答 者 数	そ の 通 り と 思 っ た	と そ う い う 見 方 も あ る の か	反 発 ・ 疑 問 を 感 じ た	特 に 何 も 思 わ な か っ た	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		457 100.0% 100.0%	15 3.3% (10.2)	270 59.1% (60.6)	105 23.0% (12.2)	50 10.9% (14.9)	17 3.7% (2.0)
性 別	男 性	195 100.0% 100.0%	11 5.6% (13.7)	113 57.9% (58.4)	43 22.1% (10.5)	21 10.8% (15.3)	7 3.6% (2.1)
	女 性	259 100.0% 100.0%	4 1.5% (7.7)	157 60.6% (62.2)	61 23.6% (13.5)	27 10.4% (14.7)	10 3.9% (1.9)
	そ の 他	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	15 100.0%	1 6.7%	8 53.3%	3 20.0%	3 20.0%	0 0.0%
	20 歳 代	100.0%	(0.0)	(50.0)	(12.5)	(31.3)	(6.3)
	30 歳 代	37 100.0% 100.0%	1 2.7% (6.7)	18 48.6% (68.9)	13 35.1% (8.9)	4 10.8% (13.3)	1 2.7% (2.2)
	40 歳 代	64 100.0% 100.0%	2 3.1% (7.8)	42 65.6% (58.4)	16 25.0% (15.6)	3 4.7% (16.9)	1 1.6% (1.3)
	50 歳 代	95 100.0% 100.0%	1 1.1% (13.8)	62 65.3% (56.3)	22 23.2% (17.2)	10 10.5% (11.5)	0 0.0% (1.1)
	60 歳 代	118 100.0% 100.0%	4 3.4% (11.3)	67 56.8% (66.1)	27 22.9% (8.9)	14 11.9% (13.7)	6 5.1% (0.0)
	70 歳 以上	128 100.0% 100.0%	6 4.7% (11.0)	73 57.0% (57.0)	24 18.8% (11.0)	16 12.5% (16.0)	9 7.0% (5.0)

偏見を見たり聞いたりした時どう感じたかは、前回調査と比較すると、「その通りと思った」は3.3%で6.9ポイント低く、「反発・疑問を感じた」は23.0%で10.8ポイント高くなっています。年齢別でも、ほぼ全ての年齢層で「その通りと思った」の割合が低くなり、「反発・疑問を感じた」の割合が高くなっていることから、教育や啓発の効果が表れていることがうかがえます。

問18 2.ない

付問 (3) あなたは、この内容についてどう思いますか。(○は1つだけ)

※この設問は、前回調査にはありません。

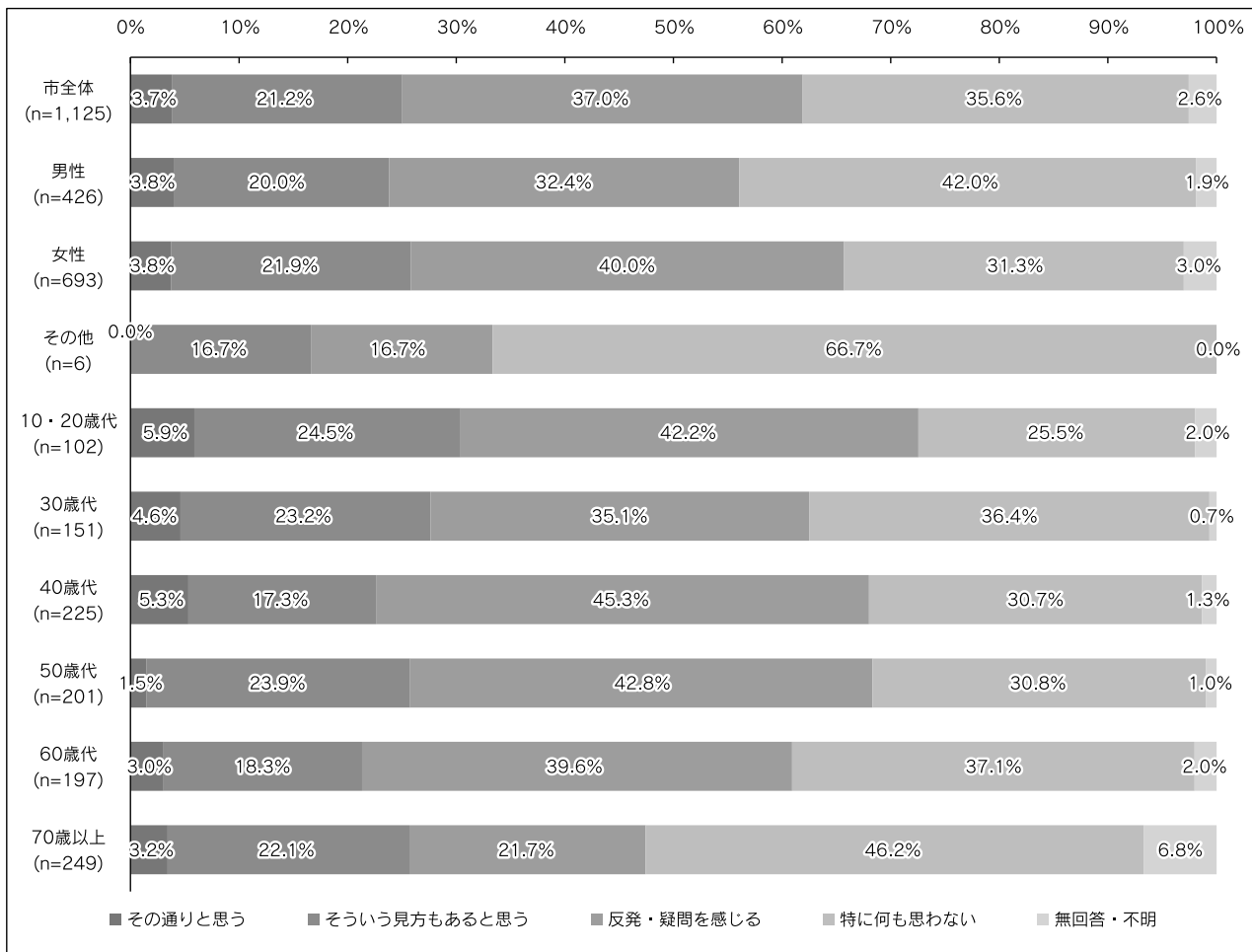


表2-46

		回答者数	その通りと 思う	そういう見方 もあると思う	反発・疑問を 感じる	特に何も思 わない	無回答・不明
市 全 体		1,125 100.0%	42 3.7%	238 21.2%	416 37.0%	400 35.6%	29 2.6%
性 別	男 性	426 100.0%	16 3.8%	85 20.0%	138 32.4%	179 42.0%	8 1.9%
	女 性	693 100.0%	26 3.8%	152 21.9%	277 40.0%	217 31.3%	21 3.0%
	そ の 他	6 100.0%	0 0.0%	1 16.7%	1 16.7%	4 66.7%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	102	6	25	43	26	2
	20 歳 代	100.0%	5.9%	24.5%	42.2%	25.5%	2.0%
	30 歳 代	151 100.0%	7 4.6%	35 23.2%	53 35.1%	55 36.4%	1 0.7%
	40 歳 代	225 100.0%	12 5.3%	39 17.3%	102 45.3%	69 30.7%	3 1.3%
	50 歳 代	201 100.0%	3 1.5%	48 23.9%	86 42.8%	62 30.8%	2 1.0%
	60 歳 代	197 100.0%	6 3.0%	36 18.3%	78 39.6%	73 37.1%	4 2.0%
70 歳 以上	249 100.0%	8 3.2%	55 22.1%	54 21.7%	115 46.2%	17 6.8%	

偏見を見たり聞いたりしていない人が、この内容についてどう感じるかは、「その通りと思う」3.7%、「反発・疑問を感じる」37.0%となっています。もし、同和地区出身者（被差別部落出身者）に関する偏見を見たり聞いたりしたとしても、うのみにせずに「反発・疑問を感じる」人が4割弱いることがわかります。

一方、年齢別でみると、70歳代以上が「反発・疑問を感じる」の割合が、他の年齢層と比べるとかなり低いことがわかります。

今後も「そういう見方もあると思う」「特に何も思わない」人たちが、反発・疑問を感じることができるような教育や啓発を充実していく必要があります。

5 現状認識

問19 あなたは、同和問題（部落差別）に関することで、現在、どのような問題が起きていると思いますか。（○はいくつでも）

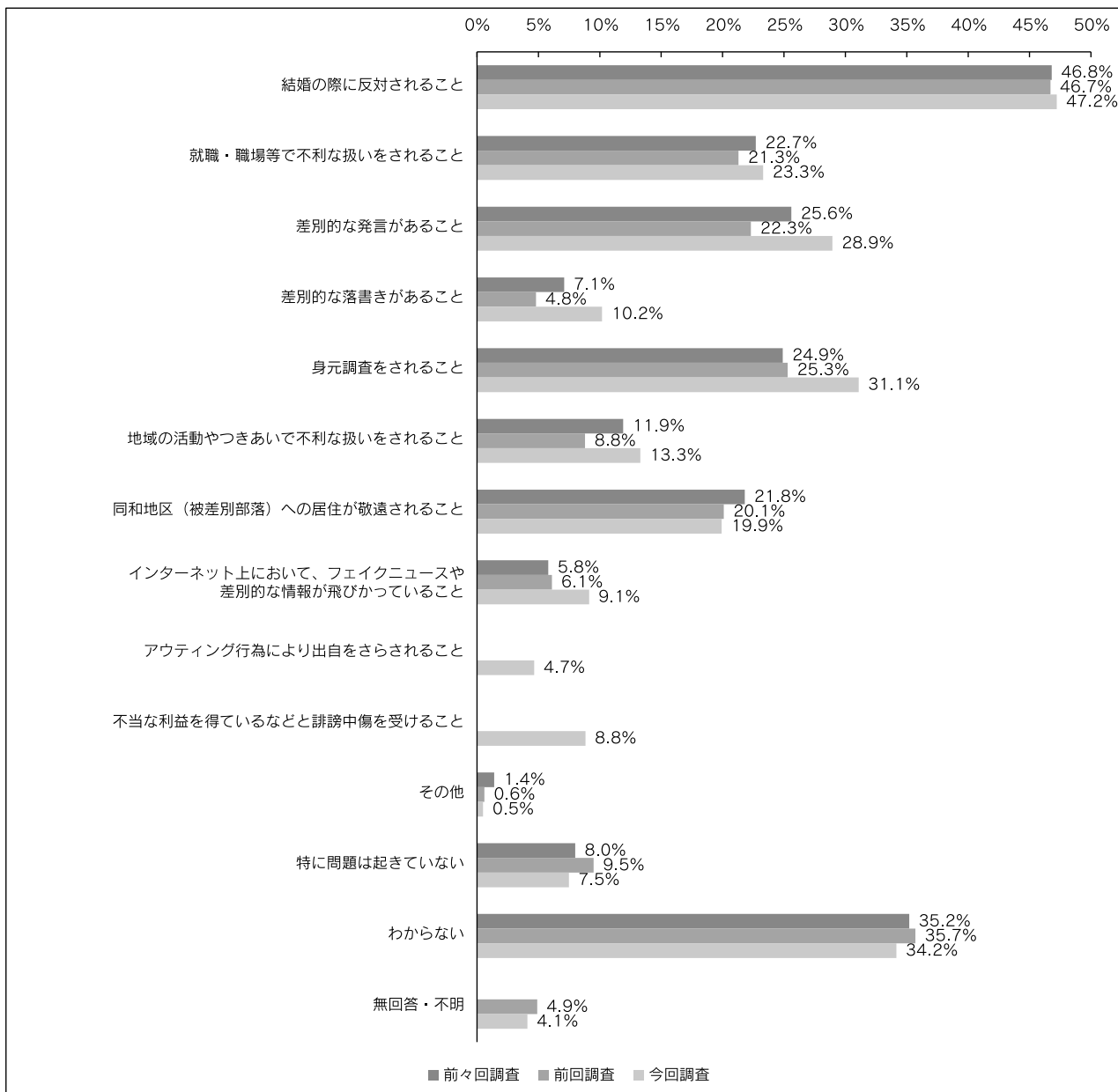


表2-47

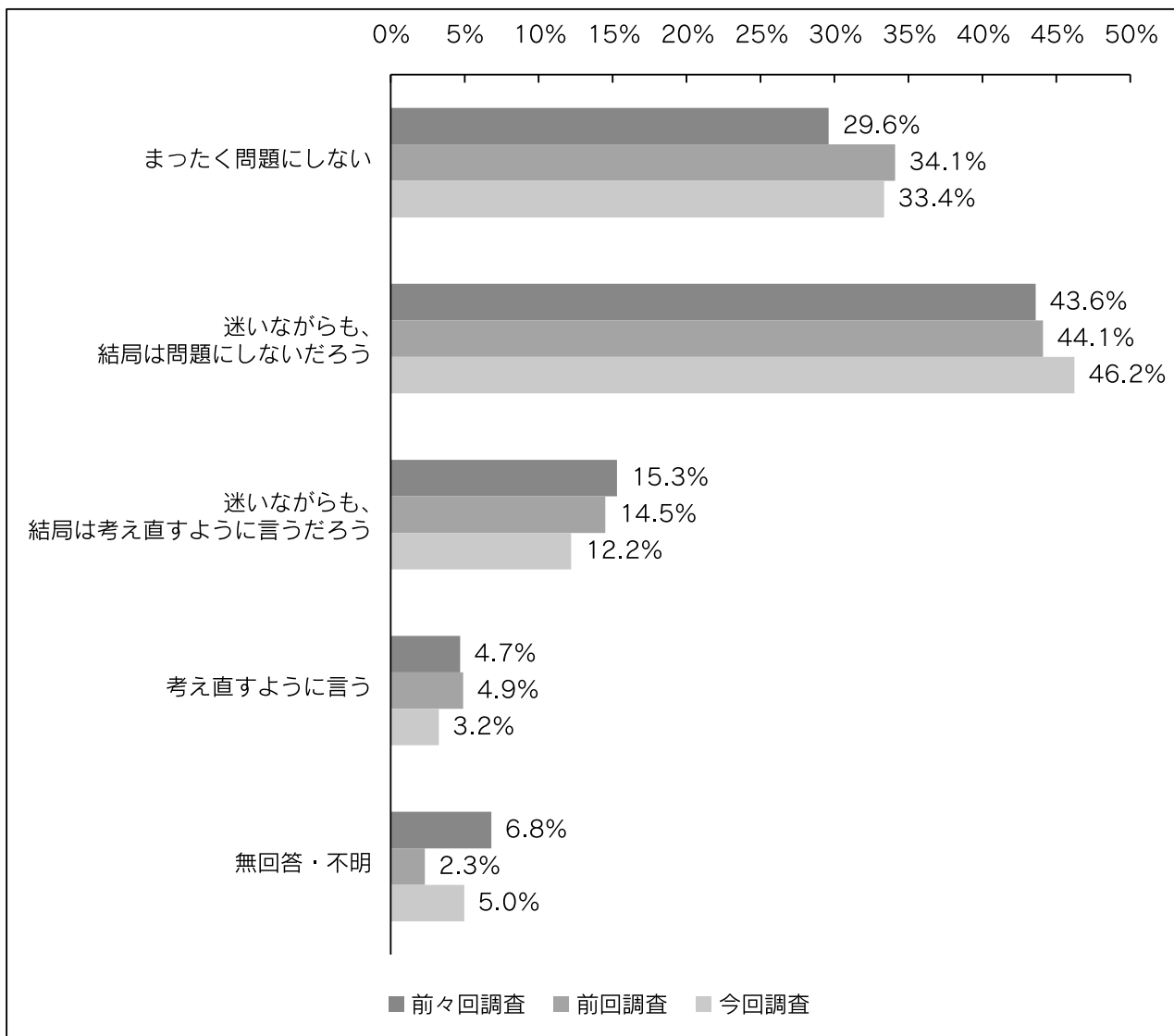
	回 答 者 数	結 婚 の 際 に 反 対 さ れ る こ と	扱 い を さ れ る こ と	就 職 ・ 職 場 等 で 不 利 な こ と	差 別 的 な 発 言 が あ る こ と	差 別 的 な 落 書 き が あ る こ と	身 元 調 査 を さ れ る こ と	地 域 の 活 動 や つ き あ い で 不 利 な 扱 い を さ れ る こ と	居 住 が 敬 遠 さ れ る こ と	同 和 地 区 (被 差 別 部 落) へ の	差 別 的 な 情 報 が 飛 び か つ て い る こ と	イ ン タ ー ネ ッ ト 上 に お い て フ ェ イ ク ニ ュ ー ス や	出 自 を さ ら さ れ る こ と	ア ウ テ ィ ン グ 行 為 に よ り	誹 謗 中 傷 を 受 け る こ と	不 当 な 利 益 を 得 て い る な ど	そ の 他	特 に 問 題 は 起 き て い な い	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明	
市 全 体	1,631 100.0% 100.0%	770 47.2% (46.7)	380 23.3% (21.3)	472 28.9% (22.3)	166 10.2% (4.8)	507 31.1% (25.3)	217 13.3% (8.8)	325 19.9% (20.1)	149 9.1% (6.1)	76 4.7%	144 8.8%	8 0.5% (0.6)	122 7.5% (9.5)	557 34.2% (35.7)	67 4.1% (4.9)						
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	304 47.7% (43.4)	161 25.3% (20.4)	183 28.7% (20.2)	79 12.4% (6.2)	207 32.5% (24.9)	90 14.1% (8.9)	128 20.1% (18.1)	70 11.0% (7.2)	34 5.3%	60 9.4% (0.9)	4 0.6% (12.5)	52 8.2% (33.8)	193 30.3% (5.5)	26 4.1% (4.1)					
	女 性	983 100.0% 100.0%	465 47.3% (48.7)	219 22.3% (21.8)	288 29.3% (23.6)	86 8.7% (4.0)	298 30.3% (25.5)	126 12.8% (8.8)	195 19.8% (21.4)	78 7.9% (5.5)	41 4.2%	84 8.5% (0.5)	4 0.4% (7.7)	68 6.9% (36.8)	358 36.4% (4.5)	41 4.2% (4.5)					
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	6 54.5%	0 0.0%					
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	61 50.0% (43.9)	44 36.1% (21.1)	44 36.1% (30.1)	25 20.5% (4.1)	36 29.5% (19.5)	29 23.8% (17.1)	26 21.3% (13.0)	14 11.5% (13.0)	10 8.2%	17 13.9% (0.0)	0 2.5% (3.3)	3 37.7% (40.7)	46 3.3% (0.8)						
	20 歳 代	193 100.0%	95 49.2% (44.6)	58 30.1% (30.6)	81 42.0% (26.4)	31 16.1% (7.3)	57 29.5% (23.8)	37 19.2% (14.0)	43 22.3% (20.2)	19 9.8% (11.4)	13 6.7%	18 9.3% (0.5)	0 4.1% (4.7)	8 32.6% (39.9)	4 2.1% (2.6)						
	30 歳 代	291 100.0%	168 57.7% (52.7)	88 30.2% (24.1)	110 37.8% (29.4)	45 15.5% (5.7)	116 39.9% (31.0)	56 19.2% (9.4)	75 25.8% (26.9)	40 13.7% (7.3)	18 6.2%	29 10.0%	1 0.3% (0.8)	17 5.8% (2.4)	82 28.2% (35.5)	1 0.3% (3.3)					
	40 歳 代	303 100.0%	160 52.8% (57.7)	80 26.4% (25.7)	90 29.7% (27.4)	34 11.2% (7.1)	103 34.0% (30.3)	42 13.9% (11.6)	68 22.4% (26.6)	37 12.2% (7.5)	17 5.6%	31 10.2%	0 0.0% (0.8)	13 4.3% (5.4)	112 37.0% (27.4)	7 2.3% (7.9)					
	50 歳 代	327 100.0%	150 45.9% (42.3)	55 16.8% (15.4)	80 24.5% (13.9)	19 5.8% (1.5)	102 31.2% (23.0)	31 9.5% (4.5)	63 19.3% (17.5)	20 6.1% (2.7)	12 3.7%	33 10.1%	4 1.2% (0.6)	35 10.7% (13.9)	101 30.9% (34.4)	14 4.3% (5.1)					
	60 歳 代	395 100.0%	136 34.4% (40.1)	55 13.9% (15.6)	67 17.0% (15.6)	12 3.0% (4.6)	93 23.5% (22.3)	22 5.6% (3.9)	50 12.7% (14.9)	19 4.8% (1.4)	6 1.5%	16 4.1%	3 0.8% (0.7)	46 11.6% (19.9)	153 38.7% (39.4)	37 9.4% (6.7)					

同和問題（部落差別）の現状認識については、「結婚の際に反対されること」は47.2%で、前々回調査、前回調査と同様5割弱の人が差別の存在を認識しています。前回調査と比較して変化があったのが、「差別的な発言があること」28.9%で、6.6ポイント高く、「差別的な落書きがあること」10.2%で、5.4ポイント高く、「身元調査をされること」31.1%で、5.8ポイント高くなっています。一方、「特に問題は起きていない」は7.5%、「わからない」は34.2%で、差別の存在を認識していない割合も一定数存在しています。また、近年インターネット上で大きな問題となっており、今回の調査で新しく項目に入れた「アウトティング行為により出自をさらされること」は4.7%で、まだまだ認識が低いことがわかります。

同和問題（部落差別）の現状は見えづらくなっていますが、多くの人が何らかの差別が存在していると認識しています。その認識を、差別の解消へ向けた行動へとつなげ、部落差別のない社会の実現を図っていくことが大切です。

6 結婚に対する意識

問20 仮に、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいと言っている相手が同和地区出身者（被差別部落出身者）だとわかった場合、
 ※お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。
 (1) あなたは、どんな態度を取るとお思いますか。（○は1つだけ）



子どもの結婚したい相手が同和地区出身者（被差別部落出身者）であるとわかった場合の態度は、「まったく問題にしない」33.4%、「迷いながらも、結局は問題にしないだろう」46.2%を合わせた割合は79.6%で、8割弱が問題にしない態度をとることがわかります。「迷いながらも、結局は考え直すように言うだろう」12.2%、「考え直すように言うだろう」3.2%と問題にすると考える人も一定数存在していますが、全体的にみると問題にしない態度をとる人が増えています。

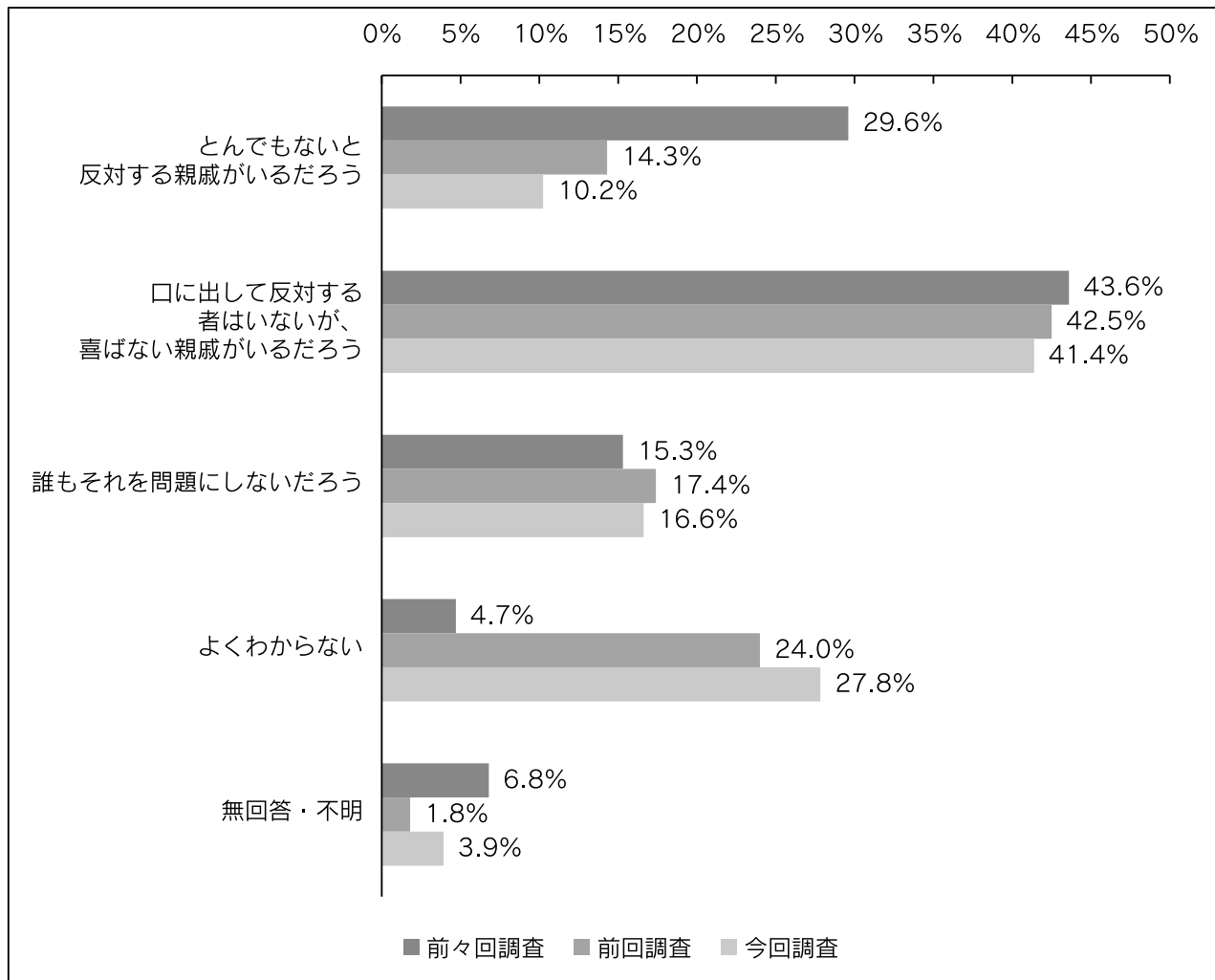
表2-48

		回 答 者 数	ま っ た く 問 題 に し な い	迷 い な が ら も 、 結 局 は 問 題 に し な い だ ら う	迷 い な が ら も 、 結 局 は 考 え 直 す よ う に 言 う だ ら う	考 え 直 す よ う に 言 う	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	544 33.4% (34.1)	754 46.2% (44.1)	199 12.2% (14.5)	53 3.2% (4.9)	81 5.0% (2.3)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	247 38.8% (40.0)	266 41.8% (37.2)	71 11.1% (15.1)	26 4.1% (6.0)	27 4.2% (1.7)
	女 性	983 100.0% 100.0%	291 29.6% (30.6)	485 49.3% (48.2)	128 13.0% (14.1)	25 2.5% (4.3)	54 5.5% (2.7)
	そ の 他	11 100.0%	6 54.5%	3 27.3%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	65 53.3%	43 35.2%	6 4.9%	2 1.6%	6 4.9%
	20 歳 代	100.0%	(56.1)	(32.5)	(5.7)	(2.4)	(3.3)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	77 39.9% (39.9)	80 41.5% (48.7)	24 12.4% (6.7)	7 3.6% (2.6)	5 2.6% (2.1)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	112 38.5% (37.1)	141 48.5% (42.9)	28 9.6% (15.1)	6 2.1% (4.1)	4 1.4% (0.8)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	89 29.4% (27.8)	160 52.8% (47.3)	37 12.2% (19.5)	5 1.7% (5.0)	12 4.0% (0.4)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	94 28.7% (29.6)	162 49.5% (46.2)	39 11.9% (14.8)	12 3.7% (7.6)	20 6.1% (1.8)
70 歳 以上	395 100.0% 100.0%	107 27.1% (28.7)	168 42.5% (41.8)	65 16.5% (18.4)	21 5.3% (5.3)	34 8.6% (5.7)	

問20 仮に、あなたのお子さんが、恋愛をし、結婚したいと言っている相手が同和地区出身者（被差別部落出身者）だとわかった場合、

※お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください。

(2) あなたの親戚は、どんな態度を取るとお考えですか。（○は1つだけ）



親戚がどのような態度をとると思うかについては、前々回調査、前回調査と比較すると、「反対する親戚がいるだろう」は割合が低く、「よくわからない」は割合が高くなっています。親戚など身内に対しても、問題にしない人が増えているとみることが出来ます。

同和対策審議会答申で乗り越えがたい最後の壁と言われた結婚差別ですが、親や周囲の人の確かな認識によって避けることができます。確かな認識を持つには、やはり教育や啓発が大切となります。問19（P.122参照）では結婚差別の現状を約5割の人が認識していましたが、今後の教育や啓発では、親や周囲の人が、確かな認識により差別をしなかった事例などを意識して内容に取り入れていくことで、結婚差別は乗り越えられるという展望を示していくことも必要です。

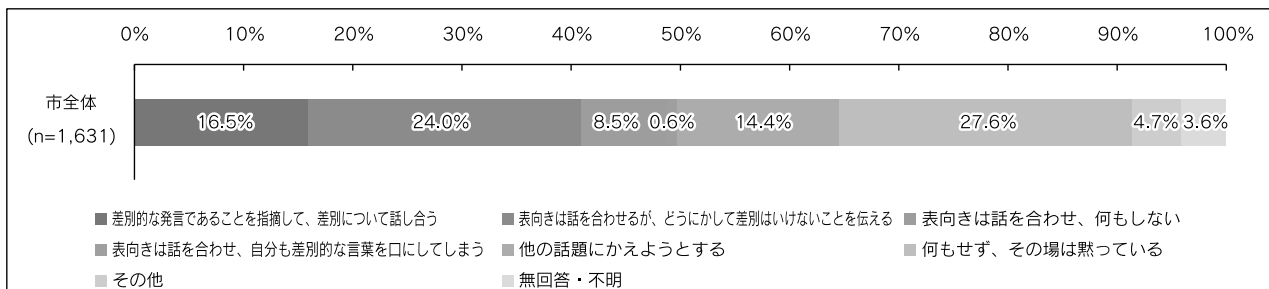
表2-49

		回 答 者 数	親 戚 が い る だ ら う と ん で も な い と 反 対 す る	親 戚 が い る だ ら う が い ない が 、 喜 ば な い	口 に 出 し て 反 対 す る	誰 も そ れ を 問 題 に し な い だ ら う	よ く わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	167 10.2% (14.3)	675 41.4% (42.5)	271 16.6% (17.4)	454 27.8% (24.0)	64 3.9% (1.8)	
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	70 11.0% (12.6)	269 42.2% (43.8)	120 18.8% (19.8)	151 23.7% (22.1)	27 4.2% (1.7)	
	女 性	983 100.0% 100.0%	97 9.9% (15.4)	404 41.1% (41.8)	148 15.1% (15.9)	297 30.2% (25.1)	37 3.8% (1.8)	
	そ の 他	11 100.0%	0 0.0%	2 18.2%	3 27.3%	6 54.5%	0 0.0%	
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	11 9.0% (9.8)	45 36.9% (34.1)	24 19.7% (16.3)	37 30.3% (38.2)	5 4.1% (1.6)	
	20 歳 代	193 100.0% 100.0%	13 6.7% (13.5)	86 44.6% (37.8)	27 14.0% (22.3)	63 32.6% (25.9)	4 2.1% (0.5)	
	30 歳 代	291 100.0% 100.0%	37 12.7% (22.4)	117 40.2% (40.8)	64 22.0% (15.9)	70 24.1% (19.6)	3 1.0% (1.2)	
	40 歳 代	303 100.0% 100.0%	26 8.6% (17.0)	130 42.9% (49.4)	51 16.8% (12.4)	87 28.7% (21.2)	9 3.0% (0.0)	
	50 歳 代	327 100.0% 100.0%	45 13.8% (13.3)	147 45.0% (45.0)	40 12.2% (17.8)	81 24.8% (21.8)	14 4.3% (2.1)	
	60 歳 代	395 100.0% 100.0%	35 8.9% (8.9)	150 38.0% (42.2)	65 16.5% (19.5)	116 29.4% (25.2)	29 7.3% (4.3)	
	70 歳 以上							

7 差別発言に対する態度

問21 学校や職場、日常生活の中で、誰かが同和地区出身者（被差別部落出身者）に対する差別的な発言をした時、あなたはこういった態度を取るとお考えですか。（○は1つだけ）

前回調査（2015）



今回調査（2020）

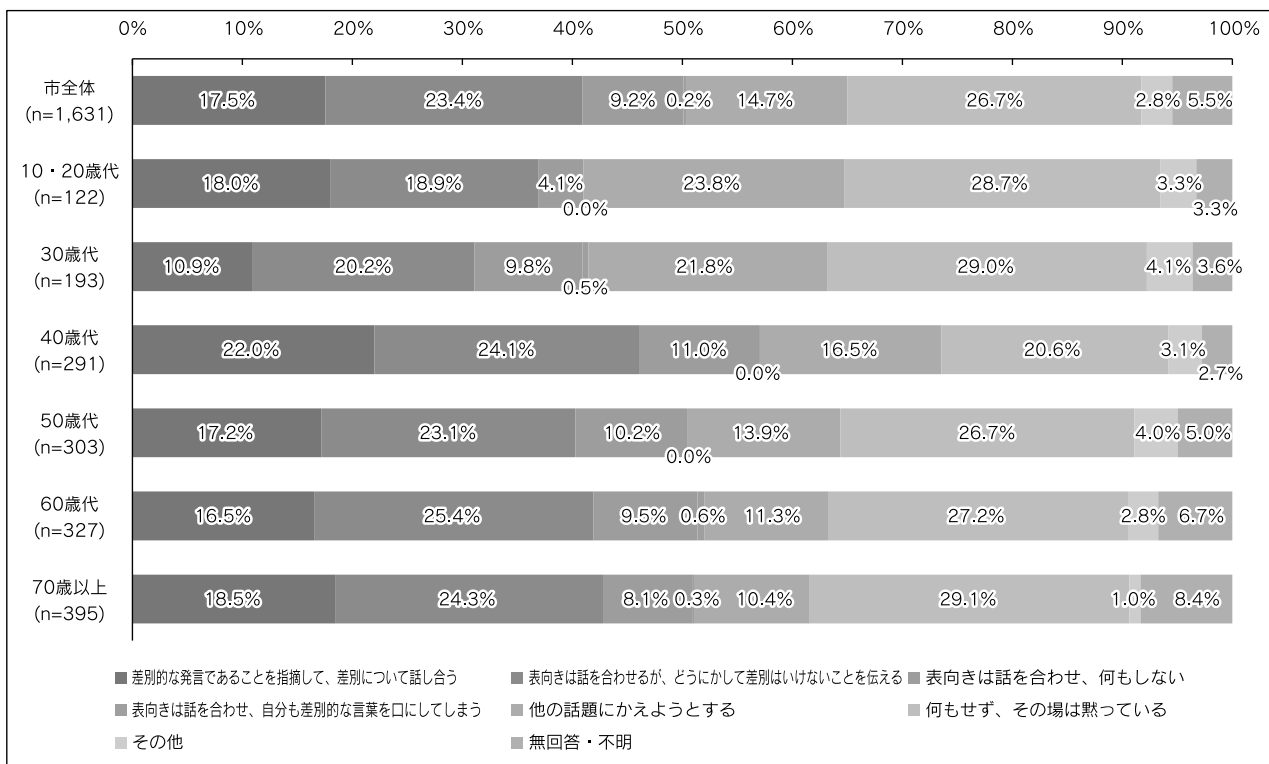


表2-50

		回答者数	差別的な発言であることを指摘して、差別について話し合う	表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える	表向きは話を合わせ、何もしない	表向きは話を合わせ、自分も差別的な言葉を口にしてしまう	他の話題にかえようとする	何もせず、その場は黙っている	その他	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	286 17.5% (16.5)	381 23.4% (24.0)	150 9.2% (8.5)	4 0.2% (0.6)	239 14.7% (14.4)	436 26.7% (27.6)	46 2.8% (4.7)	89 5.5% (3.6)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	118 18.5% (19.8)	169 26.5% (26.8)	69 10.8% (8.9)	3 0.5% (0.8)	71 11.1% (12.8)	150 23.5% (23.0)	22 3.5% (4.5)	35 5.5% (3.4)
	女 性	983 100.0% 100.0%	166 16.9% (14.6)	211 21.5% (22.3)	80 8.1% (8.2)	1 0.1% (0.6)	165 16.8% (15.4)	283 28.8% (30.4)	23 2.3% (4.9)	54 5.5% (3.7)
	そ の 他	11 100.0%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	3 27.3%	3 27.3%	1 9.1%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	22 18.0%	23 18.9%	5 4.1%	0 0.0%	29 23.8%	35 28.7%	4 3.3%	4 3.3%
	20 歳 代	100.0%	(10.6)	(21.1)	(7.3)	(0.0)	(28.5)	(25.2)	(5.7)	(1.6)
	30 歳 代	193 100.0% 100.0%	21 10.9% (11.4)	39 20.2% (23.8)	19 9.8% (7.3)	1 0.5% (0.0)	42 21.8% (19.7)	56 29.0% (30.6)	8 4.1% (5.2)	7 3.6% (2.1)
	40 歳 代	291 100.0% 100.0%	64 22.0% (15.9)	70 24.1% (22.9)	32 11.0% (8.6)	0 0.0% (1.6)	48 16.5% (15.5)	60 20.6% (30.2)	9 3.1% (4.5)	8 2.7% (0.8)
	50 歳 代	303 100.0% 100.0%	52 17.2% (18.7)	70 23.1% (20.7)	31 10.2% (9.5)	0 0.0% (0.8)	42 13.9% (17.4)	81 26.7% (26.1)	12 4.0% (5.0)	15 5.0% (1.7)
	60 歳 代	327 100.0% 100.0%	54 16.5% (17.8)	83 25.4% (29.0)	31 9.5% (8.5)	2 0.6% (0.3)	37 11.3% (9.1)	89 27.2% (27.8)	9 2.8% (4.5)	22 6.7% (3.0)
	70歳以上	395 100.0% 100.0%	73 18.5% (19.9)	96 24.3% (23.0)	32 8.1% (8.9)	1 0.3% (0.7)	41 10.4% (7.4)	115 29.1% (25.5)	4 1.0% (4.3)	33 8.4% (10.3)

同和地区出身者（被差別部落出身者）に対する差別的な発言を聞いたときの態度については、「差別的な発言であることを指摘して、差別について話し合う」17.5%、「表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える」23.4%を合わせた割合は40.9%で、4割強の人が差別を許さず、差別をなくす行動をとると考えています。

「何もせず、その場は黙っている」26.7%、「他の話題にかえようとする」14.7%を合わせた割合は41.4%であり、差別は悪いとわかっていながらも、話し合いや指摘という行動に移すとなると、様々な背景から躊躇してしまうと4割強の人が考えてしまうようです。

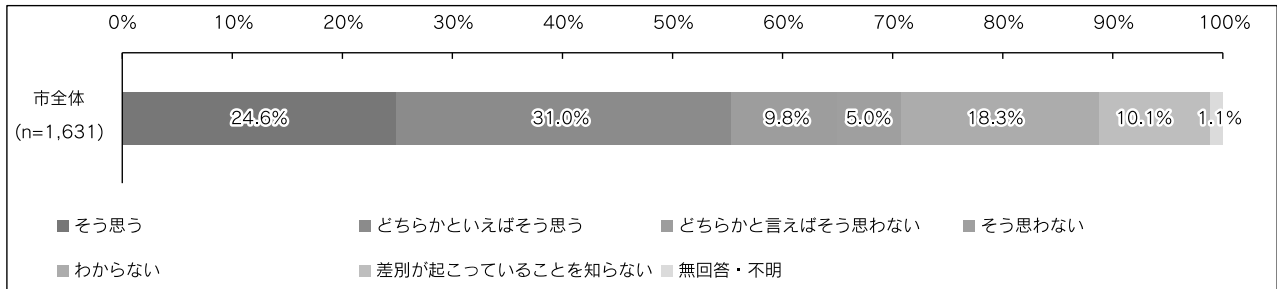
このことから、差別は悪い、差別は許せないと考えている人は、わたしたちの身近に8割強存在していると捉えることもできます。

勇気のある一人の行動は、きっと周囲を動かします。差別をなくすための行動につなげていくことが大切です。

8 解消に向けての展望

問22 あなたは、同和地区（被差別部落）の人たちに対する結婚差別や就職差別は、将来なくすことができると思いますか。（○は1つだけ）

前回調査（2015）



今回調査（2020）

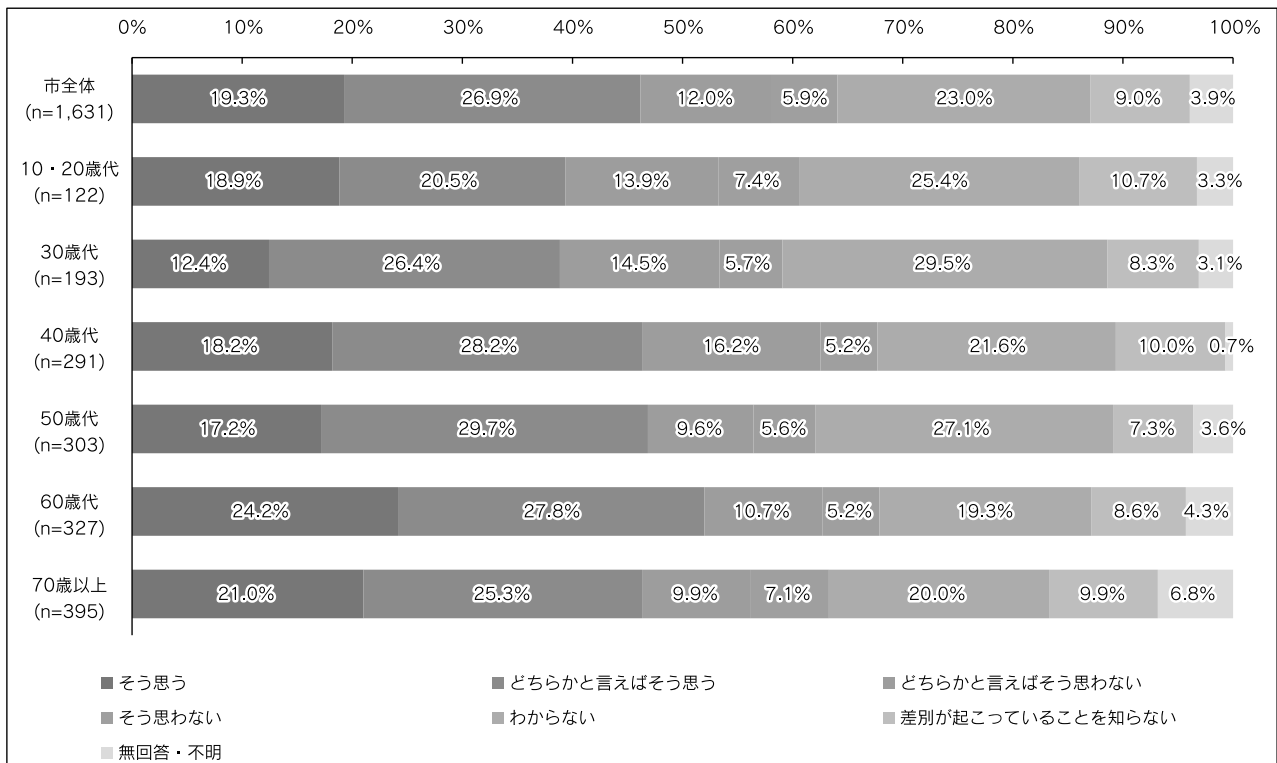


表2-51

		回答者数	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	わからない	差別が起こっていることを知らない	無回答・不明
市 全 体		1,631	314	439	195	97	375	147	64
		100.0%	19.3%	26.9%	12.0%	5.9%	23.0%	9.0%	3.9%
		100.0%	(24.6)	(31.0)	(9.8)	(5.0)	(18.3)	(10.1)	(1.1)
性 別	男 性	637	126	188	79	50	122	45	27
		100.0%	19.8%	29.5%	12.4%	7.8%	19.2%	7.1%	4.2%
		100.0%	(26.4)	(30.8)	(9.2)	(7.4)	(16.2)	(8.7)	(1.3)
	女 性	983	186	248	115	47	252	98	37
		100.0%	18.9%	25.2%	11.7%	4.8%	25.6%	10.0%	3.8%
		100.0%	(23.5)	(31.2)	(10.2)	(3.6)	(19.5)	(11.0)	(1.0)
	そ の 他	11	2	3	1	0	1	4	0
		100.0%	18.2%	27.3%	9.1%	0.0%	9.1%	36.4%	0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122	23	25	17	9	31	13	4
		100.0%	18.9%	20.5%	13.9%	7.4%	25.4%	10.7%	3.3%
		100.0%	(29.3)	(25.2)	(8.9)	(3.3)	(20.3)	(12.2)	(0.8)
	20 歳 代	193	24	51	28	11	57	16	6
		100.0%	12.4%	26.4%	14.5%	5.7%	29.5%	8.3%	3.1%
		100.0%	(20.7)	(30.1)	(12.4)	(7.8)	(18.7)	(10.4)	(0.0)
	30 歳 代	291	53	82	47	15	63	29	2
		100.0%	18.2%	28.2%	16.2%	5.2%	21.6%	10.0%	0.7%
		100.0%	(20.0)	(32.7)	(14.7)	(5.3)	(16.3)	(10.2)	(0.8)
	40 歳 代	303	52	90	29	17	82	22	11
		100.0%	17.2%	29.7%	9.6%	5.6%	27.1%	7.3%	3.6%
		100.0%	(20.7)	(37.8)	(7.5)	(5.0)	(18.7)	(9.5)	(0.8)
50 歳 代	327	79	91	35	17	63	28	14	
	100.0%	24.2%	27.8%	10.7%	5.2%	19.3%	8.6%	4.3%	
	100.0%	(26.0)	(30.8)	(9.7)	(4.2)	(18.7)	(10.0)	(0.6)	
60 歳 代	395	83	100	39	28	79	39	27	
	100.0%	21.0%	25.3%	9.9%	7.1%	20.0%	9.9%	6.8%	
	100.0%	(30.9)	(27.3)	(6.4)	(4.6)	(18.1)	(9.6)	(3.2)	

同和問題（部落差別）の解決に向けての展望は、「そう思う」19.3%、「どちらかと言えばそう思う」26.9%を合わせた割合は46.2%で、前回調査と比較すると9.4ポイント低くなっています。また、「わからない」は23.0%で、前回調査と比較すると4.7ポイント高くなっており、全体的に差別をなくすことができると考える人が減少傾向となっています。

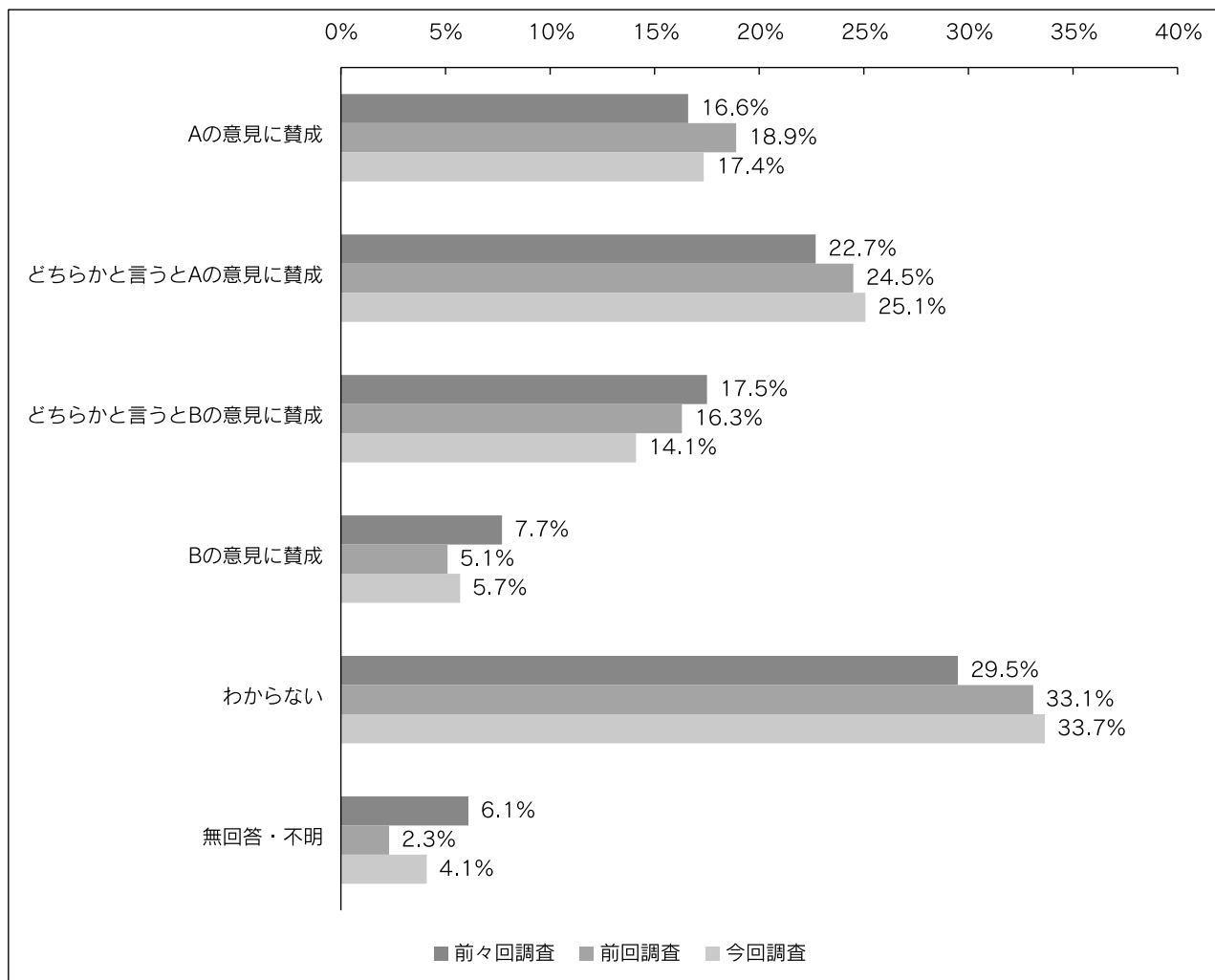
問19(P.122参照)において、同和問題（部落差別）に関しては何らかの差別が存在していると多くの人が認識していることがわかりました。厳しい差別の現状を知ることが、「差別は許されませんが、解消のための道筋が見えないから自分に何ができるかわからない」という考え方につながっているのであれば残念です。差別は、する側の問題であり、する側が変われば、解消に向かいます。自分たちが差別をなくす主体者であるとの認識を持ち、学習を積み重ねていくことがその第一歩です。今後も教育や啓発の内容を工夫していく必要があります。

問23 同和地区出身者（被差別部落出身者）に対する差別について、A・B二人の意見が次のように分かれました。

【Aの意見:今日では差別は許されない状況にあるので、差別をする人がやがて孤立してしまう。】

【Bの意見:世間では、まだまだ差別が残っているので、差別をなくそうとする人が孤立してしまう。】

あなたは、A、Bどちらの意見に近いですか。（○は1つだけ）



同和地区出身者（被差別部落出身者）に対する差別について、将来どのようになると思うかについては、「Aの意見に賛成」17.4%、「どちらかというAの意見に賛成」25.1%を合わせた割合は42.5%で、『差別をする人が孤立する』と考えている人は、4割強です。また、「Bの意見に賛成」5.7%、「どちらかというBの意見に賛成」14.1%を合わせた割合は19.8%で、『差別をなくそうとする人が孤立する』と考えている人は、2割弱となっています。

このことから、『差別をする人が孤立する』が『差別をなくそうとする人が孤立する』の2倍となっている一方、「わからない」は33.7%で、約3人に1人は、立場を決めかねていることがわかります。

社会の状況として、『差別をする人が孤立する』との考え方が広まるほど、差別をなくす行動がとりやすくなると考えられます。問22の設問と同様に、今後の教育や啓発の内容を工夫していく必要があります。

表2-52

		回 答 者 数	A の 意 見 に 賛 成	A ど ち の 意 見 に 賛 成 と	B ど ち の 意 見 に 賛 成 と	B の 意 見 に 賛 成	わ か ら な い	無 回 答 ・ 不 明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	283 17.4% (18.9)	409 25.1% (24.5)	230 14.1% (16.3)	93 5.7% (5.1)	549 33.7% (33.1)	67 4.1% (2.3)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	122 19.2% (20.6)	170 26.7% (22.3)	92 14.4% (17.5)	48 7.5% (6.4)	177 27.8% (31.3)	28 4.4% (1.9)
	女 性	983 100.0% 100.0%	158 16.1% (17.9)	239 24.3% (25.8)	136 13.8% (15.5)	43 4.4% (4.3)	368 37.4% (34.1)	39 4.0% (2.5)
	そ の 他	11 100.0%	3 27.3%	0 0.0%	2 18.2%	2 18.2%	4 36.4%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	27 22.1% (15.4)	26 21.3% (23.6)	22 18.0% (23.6)	10 8.2% (8.1)	32 26.2% (28.5)	5 4.1% (0.8)
	20 歳 代	193 100.0% 100.0%	20 10.4% (19.2)	46 23.8% (20.7)	37 19.2% (22.3)	13 6.7% (2.1)	73 37.8% (34.7)	4 2.1% (1.0)
	30 歳 代	291 100.0% 100.0%	51 17.5% (18.4)	81 27.8% (25.7)	60 20.6% (21.6)	16 5.5% (3.7)	81 27.8% (29.4)	2 0.7% (1.2)
	40 歳 代	303 100.0% 100.0%	55 18.2% (17.8)	84 27.7% (30.3)	38 12.5% (17.4)	10 3.3% (6.2)	108 35.6% (27.0)	8 2.6% (1.2)
	50 歳 代	327 100.0% 100.0%	64 19.6% (17.8)	90 27.5% (24.2)	33 10.1% (13.0)	18 5.5% (5.1)	105 32.1% (37.8)	17 5.2% (2.1)
	60 歳 代	395 100.0% 100.0%	66 16.7% (22.7)	82 20.8% (21.6)	40 10.1% (7.1)	26 6.6% (6.0)	150 38.0% (36.9)	31 7.8% (5.7)
	70 歳 以上							

9 差別の解消の方法に関する認識

問24 同和問題（部落差別）の解決に向けての次のア～キの意見について、あなたの考えに近いのはどれですか。（○はそれぞれ1つ）

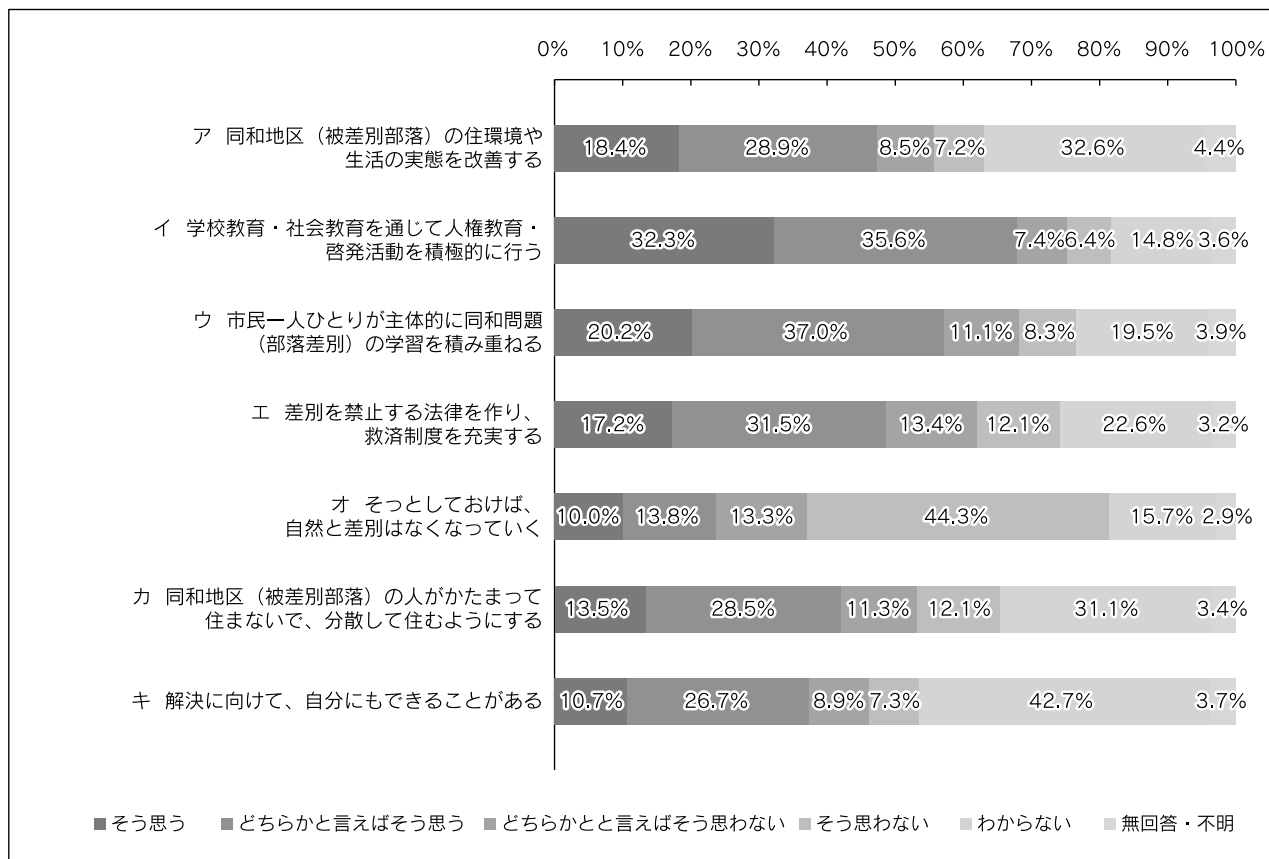


表2-53

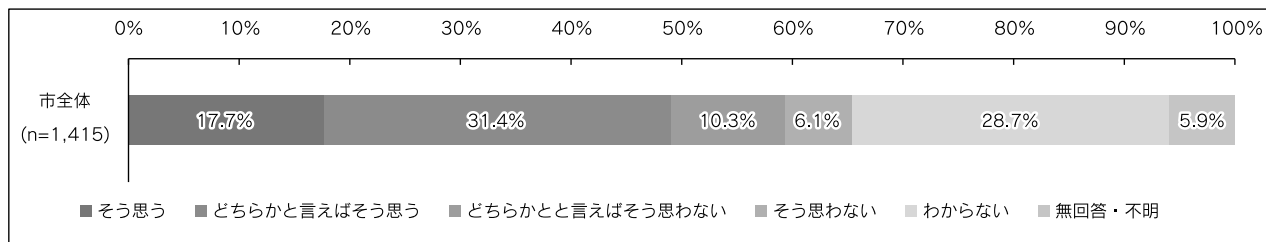
	回答者数	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わ ない	わからない	無回答・ 不明
ア 同和地区（被差別部落）の 住環境や生活の実態を改善する	1,631 100.0% 100.0%	300 18.4% (17.7)	472 28.9% (31.4)	138 8.5% (10.3)	118 7.2% (6.1)	531 32.6% (28.7)	72 4.4% (5.9)
イ 学校教育・社会教育を通じて 人権教育・啓発活動を積極 的に行う	1,631 100.0% 100.0%	527 32.3% (33.2)	580 35.6% (37.2)	120 7.4% (7.0)	105 6.4% (5.2)	241 14.8% (11.4)	58 3.6% (6.0)
ウ 市民一人ひとりが主体的に 同和問題（部落差別）の 学習を積み重ねる	1,631 100.0% 100.0%	329 20.2% (19.5)	603 37.0% (37.5)	181 11.1% (12.2)	136 8.3% (7.3)	318 19.5% (17.2)	64 3.9% (6.4)
エ 差別を禁止する法律を作り、 救済制度を充実する	1,631 100.0% 100.0%	281 17.2% (12.4)	514 31.5% (24.7)	218 13.4% (19.8)	197 12.1% (15.4)	368 22.6% (21.1)	53 3.2% (6.7)
オ そっとしておけば、自然と 差別はなくなっていく	1,631 100.0% 100.0%	163 10.0% (13.1)	225 13.8% (15.6)	217 13.3% (14.7)	723 44.3% (37.2)	256 15.7% (13.9)	47 2.9% (5.4)
カ 同和地区（被差別部落）の 人がかたまって住まないで、 分散して住むようにする	1,631 100.0% 100.0%	220 13.5% (18.2)	465 28.5% (28.7)	184 11.3% (12.0)	198 12.1% (8.9)	508 31.1% (26.8)	56 3.4% (5.4)
キ 解決に向けて、自分にも できることがある	1,631 100.0%	174 10.7%	435 26.7%	145 8.9%	119 7.3%	697 42.7%	61 3.7%

ア、イ、ウ、エ、キの考え方について、「そう思う」「どちらかと言え
ばそう思う」を合わせた割合の高い順に、「イ 学校教育・社会教育を通じて人権教育・啓発活動を積極的に行う」
67.9%、「ウ 市民一人ひとりが主体的に同和問題（部落差別）の学習を積み重ねる」57.2%、
「エ 差別を禁止する法律を作り、救済制度を充実する」48.7%となっています。続いて、「ア
同和地区の住環境や生活の実態を改善する」47.3%、「キ 解決に向けて、自分にもできることが
ある」37.4%となっています。

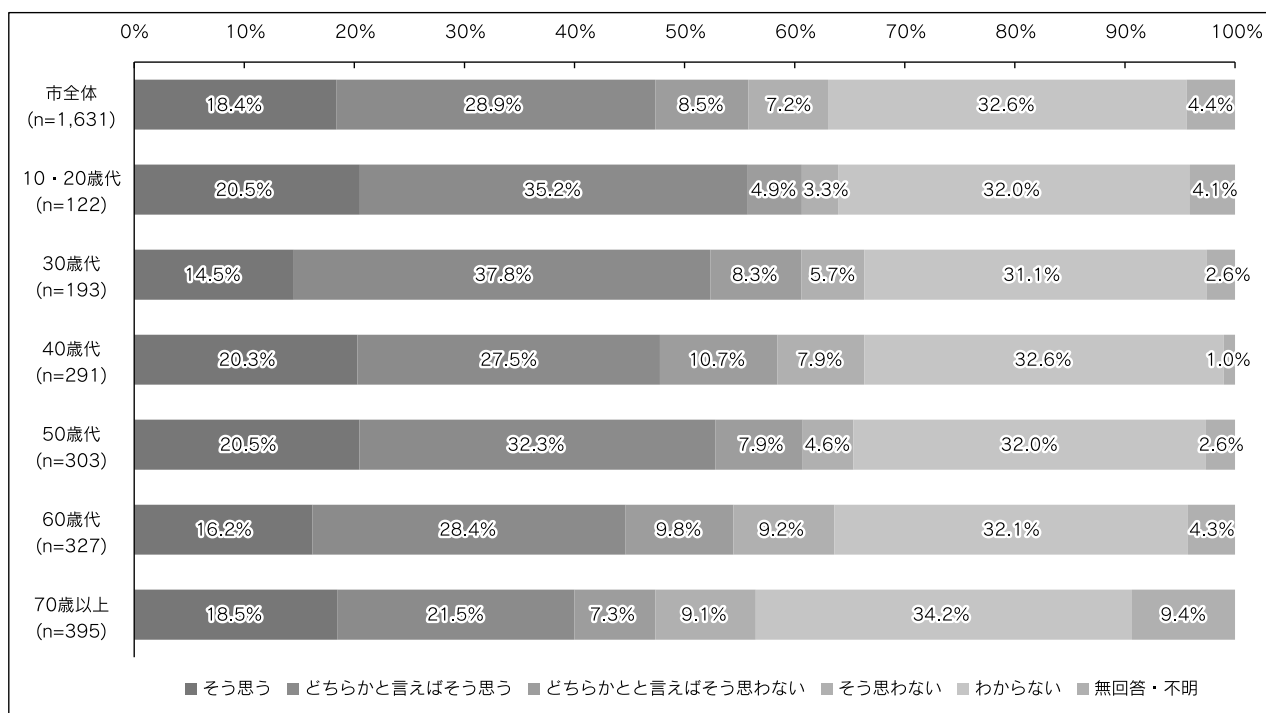
オ、カの考え方について、「そう思わない」「どちらかと言え
ばそう思わない」を合わせた割合は、「オ そっとしておけば、自然と差別はなくなっていく」57.6%、「カ 同和地区（被差別部落）の
人がかたまって住まないで、分散して住むようにする」23.4%となっています。

ア 同和地区(被差別部落)の住環境や生活の実態を改善する

前回調査(2015)



今回調査(2020)

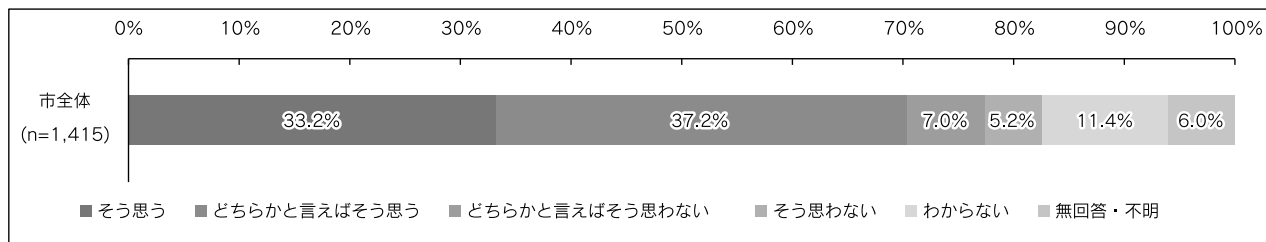


「わからない」は32.6%で、前回調査と比較すると3.9ポイント高く、約3人に1人となっています。「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は47.3%であり、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合の15.7%の約3倍となっています。

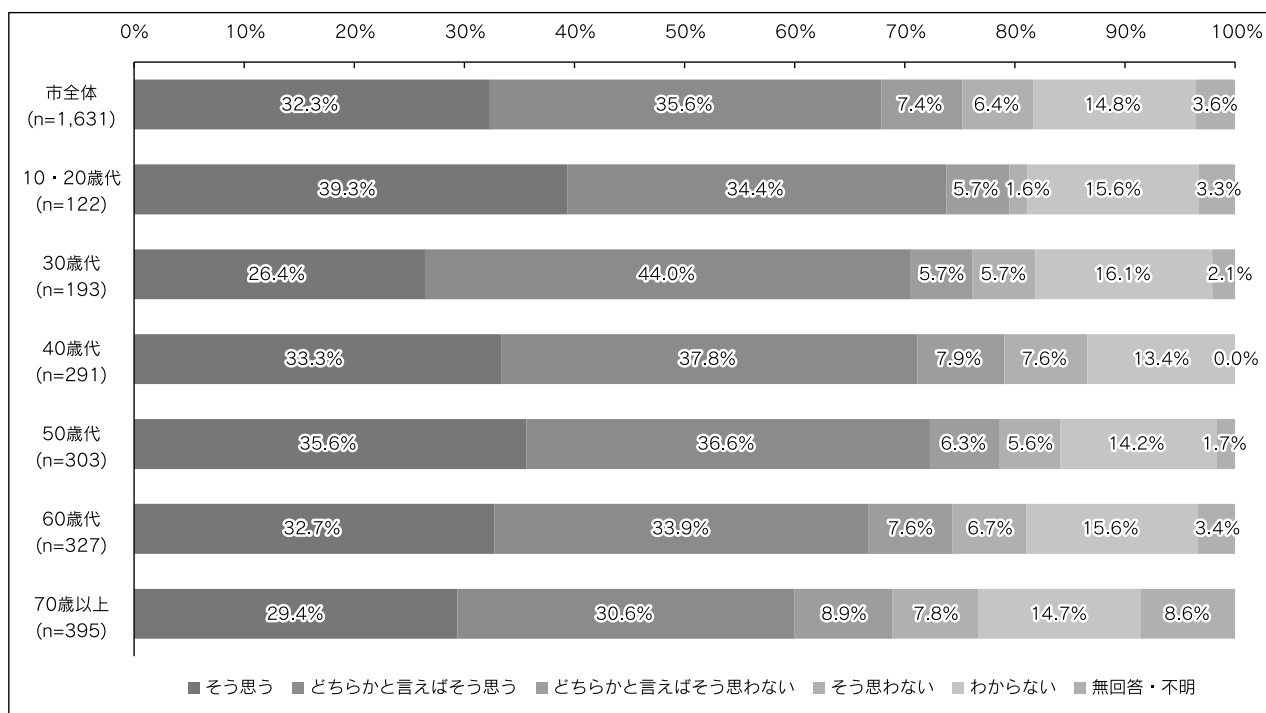
住環境や生活実態の改善の必要性を多くの人々が理解していることから、今後も、同和問題(部落差別)の解決に向けて、施策と教育を両輪で進めていくことが大切です。

イ 学校教育・社会教育を通じて人権教育・啓発活動を積極的に行う

前回調査 (2015)



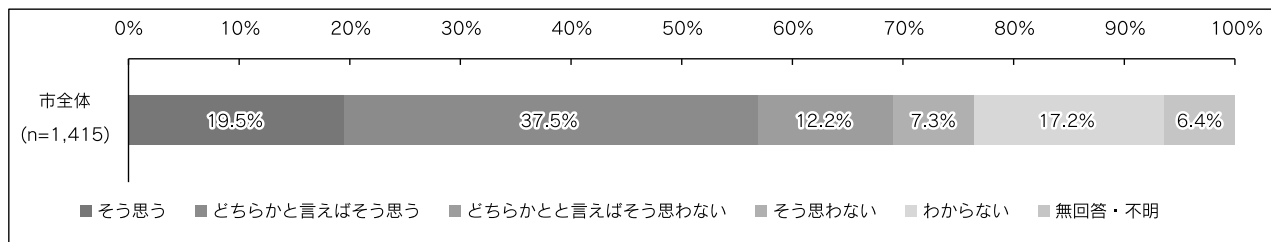
今回調査 (2020)



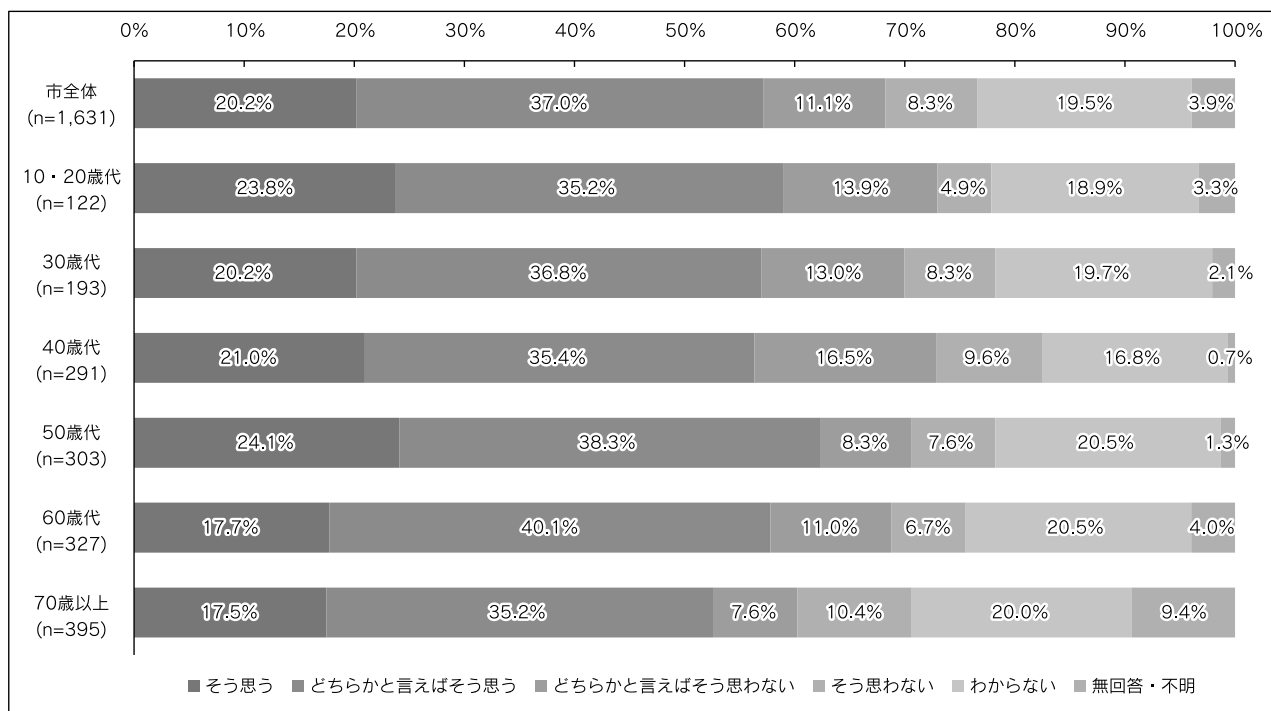
「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合の67.9%は、問24の中で、最も高い割合となっています。人権教育・啓発活動に対する期待を感じます。学校教育から社会教育、また人権啓発と継続した教育・啓発を今後も充実させていく必要があります。

ウ 市民一人ひとりが主体的に同和問題（部落差別）の学習を積み重ねる

前回調査（2015）



今回調査（2020）

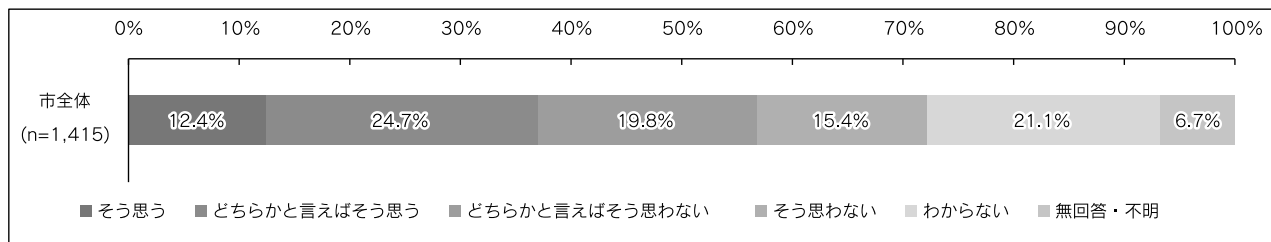


「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は57.2%で、6割弱の人が主体的な学習の必要性を認識しています。一方、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合は19.4%で、5人に1人となっています。

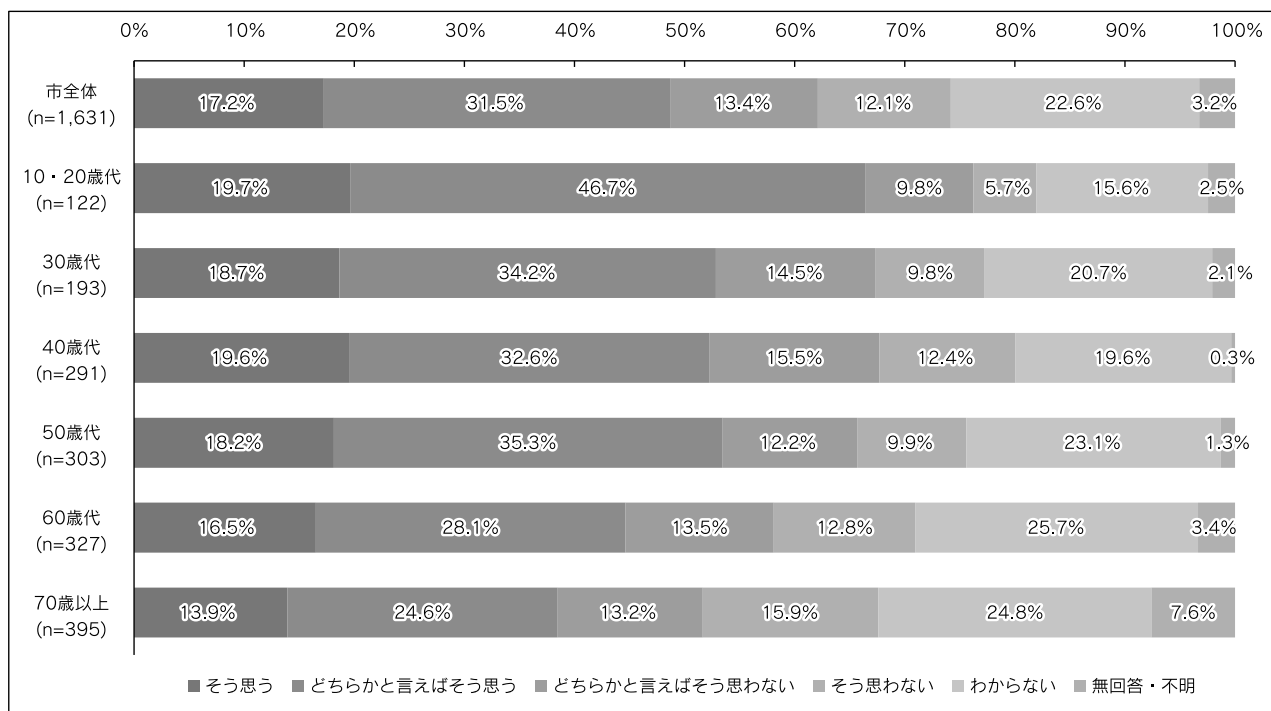
学習は、差別の解消につながる第一歩であることを、今後の教育や啓発の内容で示していく必要があります。

エ 差別を禁止する法律を作り、救済制度を充実する

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

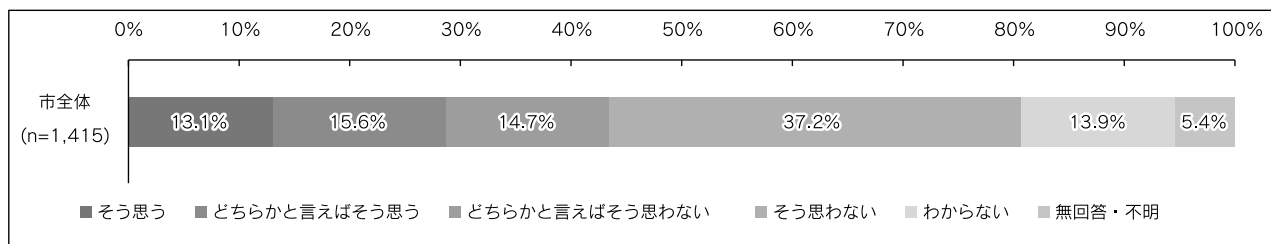


「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は48.7%で、前回調査と比較すると11.6ポイント高くなっています。法の整備を約半数の人が必要であると捉えています。また、年齢別にみると、年齢層が低いほど、肯定する考え方の割合が高いことがわかります。

法整備についての議論を注視しながら、教育・啓発においては、今後も「差別は許されない」という認識をさらに広げる取組を継続していくことが大切です。

オ そっとしておけば、自然と差別はなくなっていく

前回調査 (2015)



今回調査 (2020)

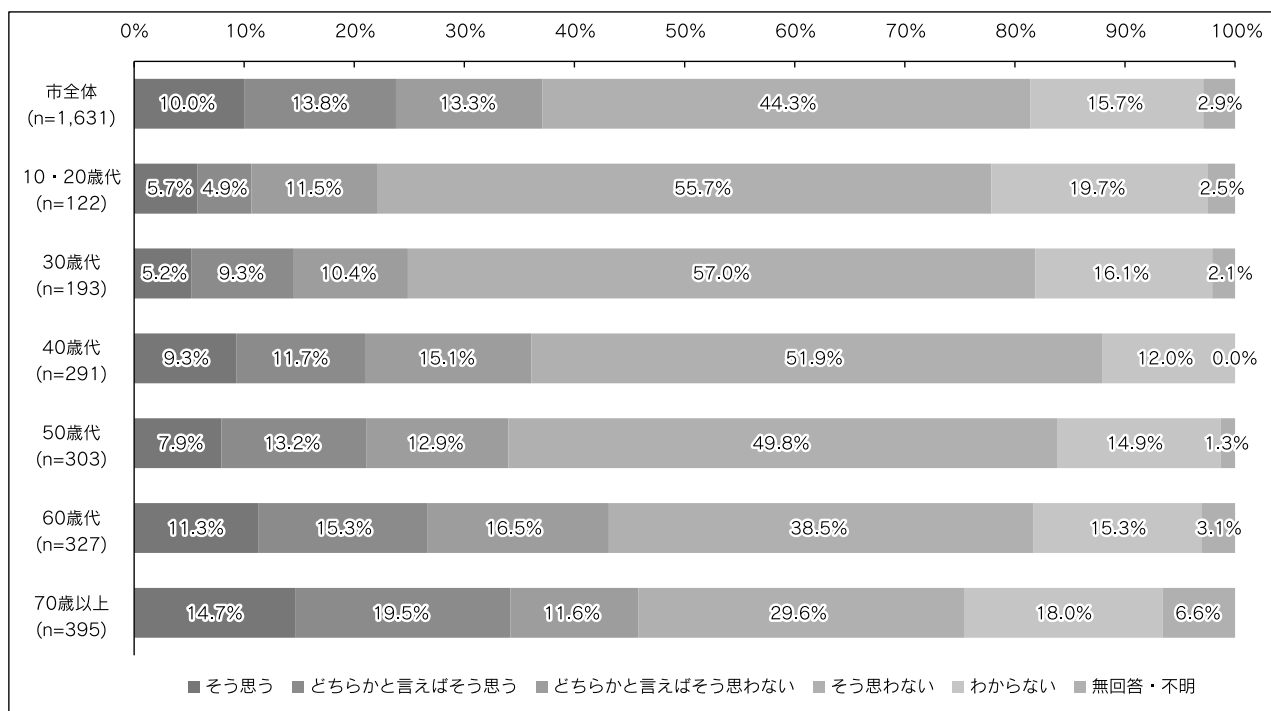


表2-54

		回答者数	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わ ない	わからない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	163 10.0% (13.1)	225 13.8% (15.6)	217 13.3% (14.7)	723 44.3% (37.2)	256 15.7% (13.9)	47 2.9% (5.4)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	69 10.8% (14.7)	98 15.4% (15.3)	90 14.1% (14.3)	271 42.5% (39.1)	94 14.8% (12.3)	15 2.4% (4.3)
	女 性	983 100.0% 100.0%	93 9.5% (12.2)	125 12.7% (15.8)	126 12.8% (14.9)	448 45.6% (36.0)	159 16.2% (14.9)	32 3.3% (6.1)
	そ の 他	11 100.0%	1 9.1%	2 18.2%	1 9.1%	4 36.4%	3 27.3%	0 0.0%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	7 5.7% (6.5)	6 4.9% (7.3)	14 11.5% (17.1)	68 55.7% (52.0)	24 19.7% (12.2)	3 2.5% (4.9)
	20 歳 代	193 100.0%	10 5.2% (7.3)	18 9.3% (13.5)	20 10.4% (13.5)	110 57.0% (50.8)	31 16.1% (13.0)	4 2.1% (2.1)
	30 歳 代	291 100.0%	27 9.3% (6.1)	34 11.7% (15.1)	44 15.1% (18.4)	151 51.9% (42.4)	35 12.0% (15.5)	0 0.0% (2.4)
	40 歳 代	303 100.0%	24 7.9% (11.2)	40 13.2% (14.9)	39 12.9% (17.0)	151 49.8% (35.3)	45 14.9% (17.4)	4 1.3% (4.1)
	50 歳 代	327 100.0%	37 11.3% (16.3)	50 15.3% (19.6)	54 16.5% (13.6)	126 38.5% (32.9)	50 15.3% (12.4)	10 3.1% (5.1)
	60 歳 代	395 100.0%	58 14.7% (24.1)	77 19.5% (17.0)	46 11.6% (10.6)	117 29.6% (23.4)	71 18.0% (12.8)	26 6.6% (12.1)
	70歳以上							

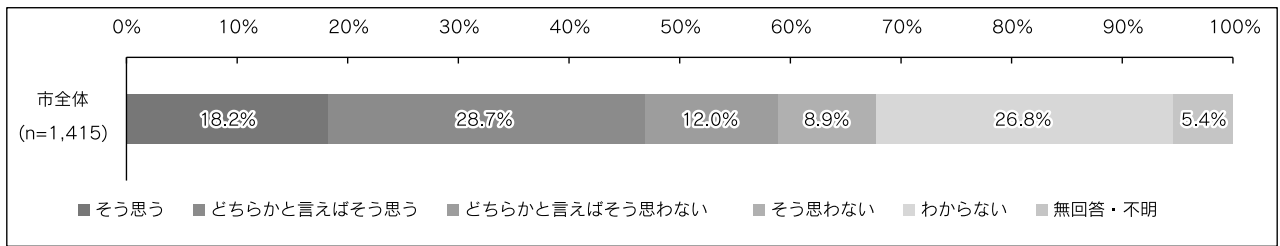
「そう思う」「どちらかと言えればそう思う」を合わせた割合は23.8%で、前回調査28.7%と比較すると4.9ポイント低くなっています。前々回調査は34.5%でした。いわゆる「寝た子を起こすな論」を肯定する人の割合は着実に減少しており、本市がこれまで何年間にもわたり、教育や啓発の課題として取り組んできた結果と言えます。

年齢別でみると、10歳代・20歳代は肯定する人の割合は10.6%で約10人に1人、70歳以上は34.2%で約3人に1人となっています。年齢層が高くなるほど割合が高くなっていきますが、前回調査と比較すると60歳代は9.3ポイント低く、70歳以上は6.9ポイント低くなっていることから、大きく改善しています。今後も、学校教育や地区公民館等主催の講演会・研修会をはじめとする社会教育の場において、継続的に教育・啓発を充実させていくことが大切です。

部落差別解消推進法では、「現在もなお部落差別が存在する」と明記されました。そっとしておくことは、差別を受けている人に我慢を強いることになります。また、偏見や悪意のある情報に出合った時にうのみにしないためには、「知る」ことは欠かせないものです。そっとしておくのではなく確かな認識をもとにした、差別をなくすための行動が求められています。

カ 同和地区（被差別部落）の人がかたまって住まないで、分散して住むようにする

前回調査（2015）



今回調査（2020）

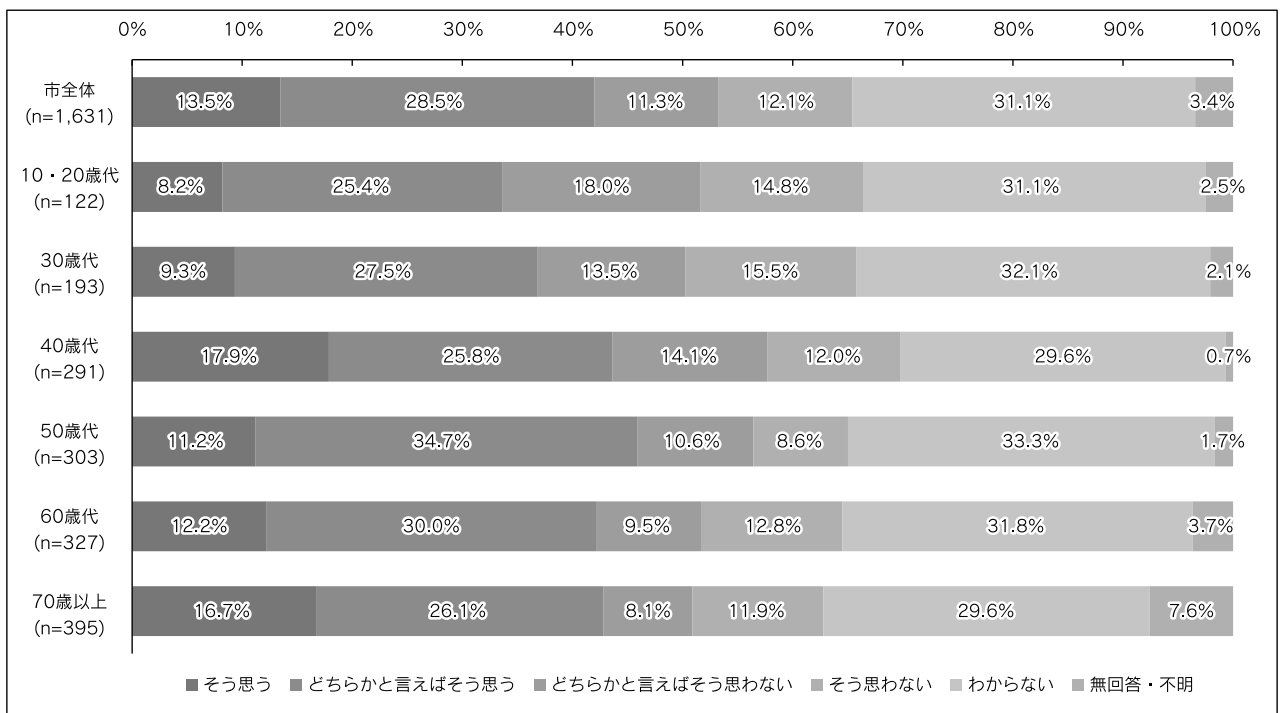


表2-55

		回答者数	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わ ない	わからない	無回答・不明
市 全 体		1,631 100.0% 100.0%	220 13.5% (18.2)	465 28.5% (28.7)	184 11.3% (12.0)	198 12.1% (8.9)	508 31.1% (26.8)	56 3.4% (5.4)
性 別	男 性	637 100.0% 100.0%	85 13.3% (15.5)	192 30.1% (32.5)	83 13.0% (13.0)	100 15.7% (10.9)	161 25.3% (23.8)	16 2.5% (4.3)
	女 性	983 100.0% 100.0%	133 13.5% (19.9)	272 27.7% (26.4)	100 10.2% (11.4)	97 9.9% (7.7)	342 34.8% (28.6)	39 4.0% (6.0)
	そ の 他	11 100.0%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%	1 9.1%	5 45.5%	1 9.1%
年 齢 別	10 歳 代	122 100.0%	10 8.2% (21.1)	31 25.4% (25.2)	22 18.0% (15.4)	18 14.8% (6.5)	38 31.1% (27.6)	3 2.5% (4.1)
	20 歳 代	193 100.0%	18 9.3% (15.0)	53 27.5% (33.2)	26 13.5% (19.2)	30 15.5% (8.3)	62 32.1% (22.8)	4 2.1% (1.6)
	30 歳 代	291 100.0%	52 17.9% (18.8)	75 25.8% (29.0)	41 14.1% (12.7)	35 12.0% (10.2)	86 29.6% (27.3)	2 0.7% (2.0)
	40 歳 代	303 100.0%	34 11.2% (19.5)	105 34.7% (29.5)	32 10.6% (12.0)	26 8.6% (7.1)	101 33.3% (27.4)	5 1.7% (4.6)
	50 歳 代	327 100.0%	40 12.2% (15.1)	98 30.0% (31.7)	31 9.5% (7.9)	42 12.8% (11.2)	104 31.8% (29.3)	12 3.7% (4.8)
	60 歳 代	395 100.0%	66 16.7% (21.3)	103 26.1% (22.7)	32 8.1% (9.9)	47 11.9% (8.2)	117 29.6% (25.2)	30 7.6% (12.8)
	70歳以上							

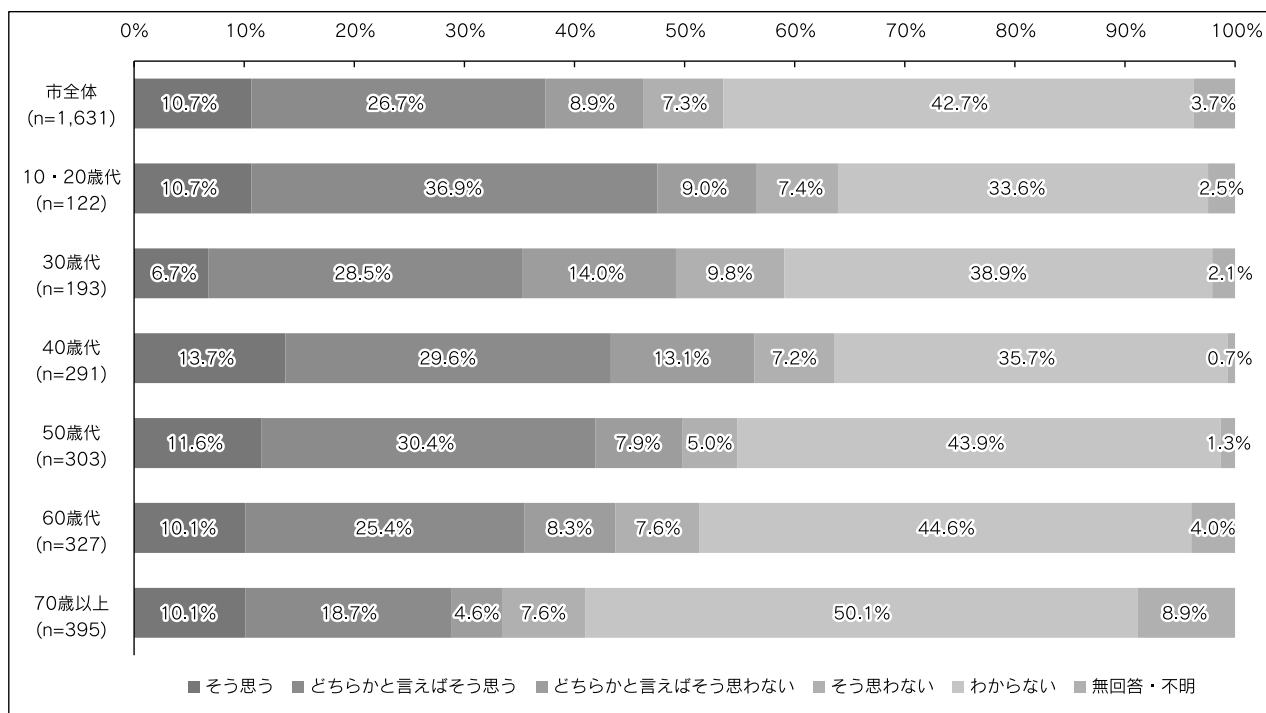
「そう思う」「どちらかと言えればそう思う」を合わせた割合は42.0%で、前回調査と比較すると4.9ポイント低くなっています。また、「そう思わない」「どちらかと言えればそう思わない」は23.4%で、前回調査と比較すると2.5ポイント高くなっており、全体的には改善の方向と言えます。

年齢別にみると、「わからない」の割合は約3人に1人で、年齢層によって大きな差異はありません。一方、「そう思わない」「どちらかと言えればそう思わない」を合わせた割合は、10歳代・20歳代と30歳代は約3人に1人、それ以外の年齢層は4～5人に1人と、年齢層によって差異があります。

同和地区（被差別部落）の人がかたまって住まないで、分散して住めば差別を受けないのではないか、という考え方は根強く存在しています。しかし、これは部落差別の存在理由を差別をされる側に押し付ける考え方であり、どこに住んでいても差別をされないのが本来の在り方はずです。また、本人に責任のない「生まれ」を否定し、「故郷を捨てるべき」と押し付けている理不尽さにも気付かなければなりません。この考え方が広がると、差別をされた人の声を奪ってしまいます。また、その結果、差別が見えにくくなり、差別をする側の人に注目することを妨げてしまいます。「差別はする側の問題である」この認識を持つことが大切です。

キ 解決に向けて、自分にもできることがある

※この設問は、前回調査にはありません。



「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は37.4%で、約4割の人が自分も解決の主体者であるとの認識をもっているということがわかります。一方、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合は、16.2%になっています。また、最も割合が高い「わからない」42.7%には、思いはありながらも具体的に何ができるのか、何をすればよいのかがわからないという意見も多く含まれていると考えられます。

講演会や研修会に参加するなど学習を積み重ねることが、解決に向けた第一歩であるということへの「気づき」が、解決の主体者であるという認識につながっていくはずです。

第5節 ご自身のことについて

問25 あなたは、自分自身のことをどのように思っていますか。（○はそれぞれ1つ）

※この設問は、前回調査にはありません。

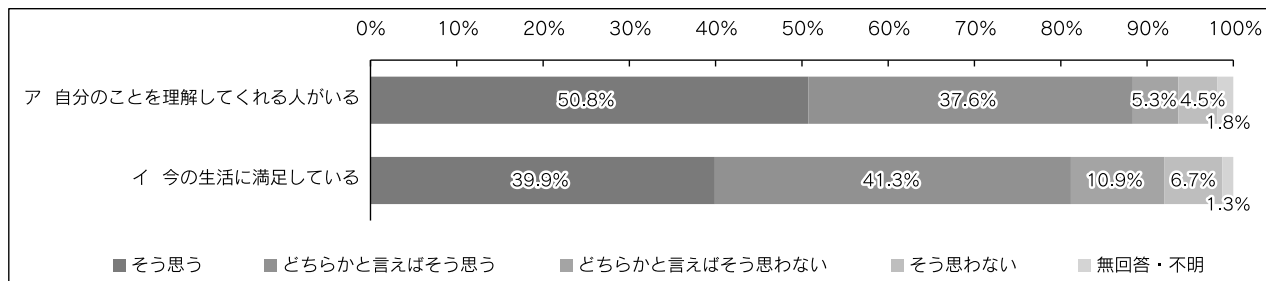


表2-56

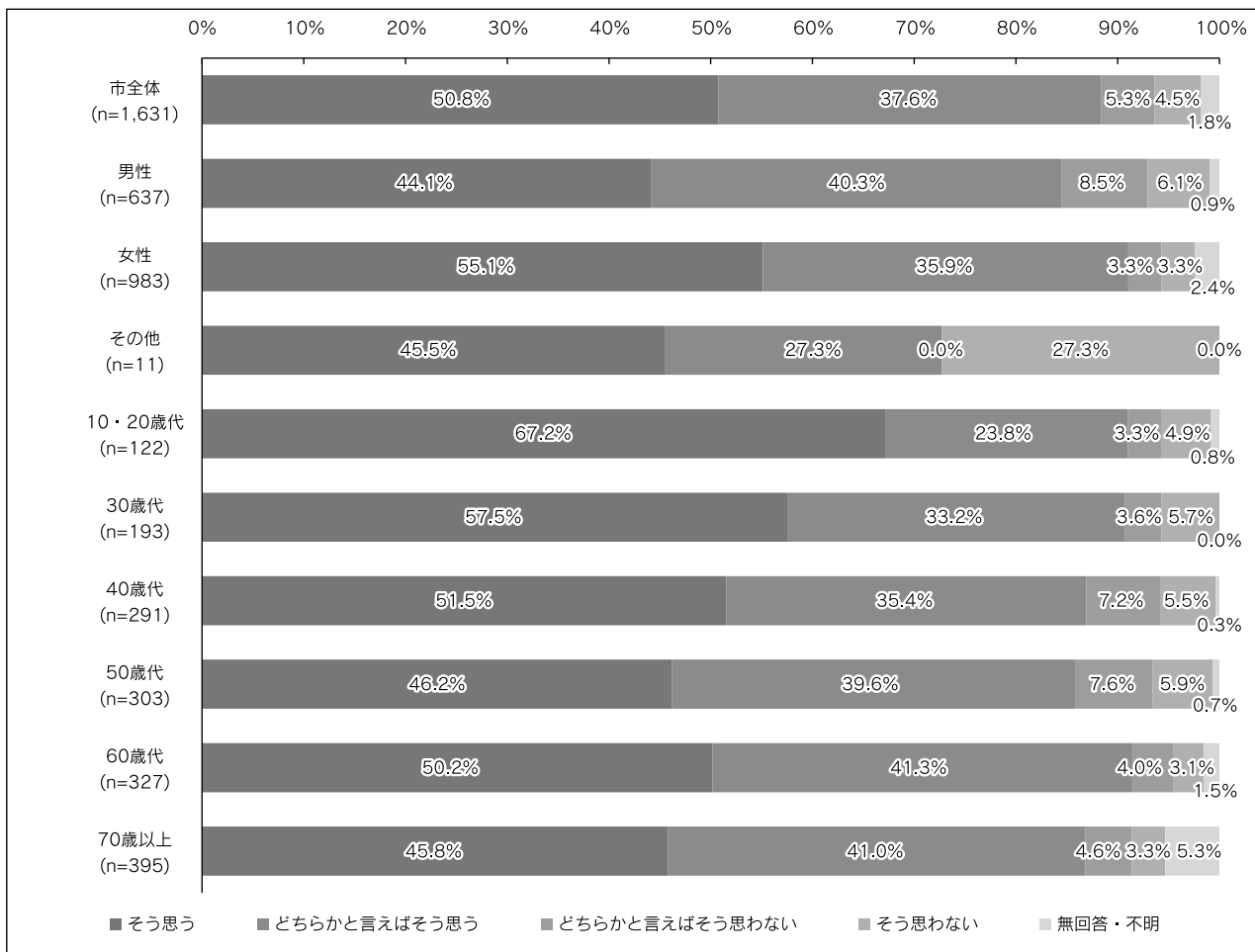
	回答者数	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない	無回答・不明
ア 自分を理解してくれる人がある	1,631 100.0%	828 50.8%	613 37.6%	86 5.3%	74 4.5%	30 1.8%
イ 今の生活に満足している	1,631 100.0%	651 39.9%	673 41.3%	177 10.9%	109 6.7%	21 1.3%

自分自身をどのように思っているかについては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、「ア 自分を理解してくれる人がある」88.4%、「イ 今の生活に満足している」81.2%となっています。

一方、「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合は、「ア 自分を理解してくれる人がある」9.8%で、約10人に1人、「イ 今の生活に満足している」17.6%で、約5人に1人となっています。

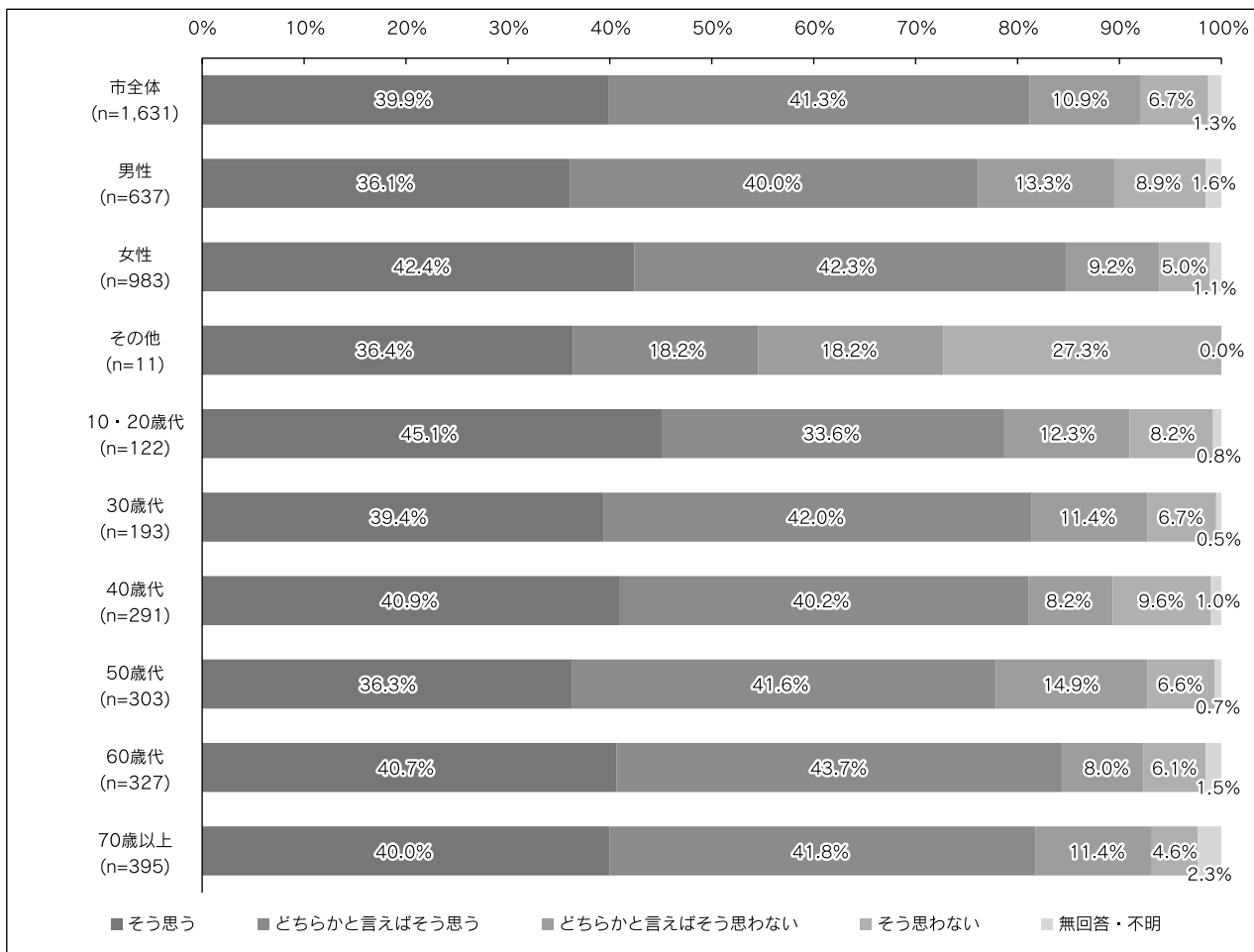
問6のアの設問では、9割強の人が差別は人間として最も恥ずべき行為であるとの認識であると示されました。しかし、現実には差別は起こっています。その背景には、ストレスや劣等感など心の状態が大きく関わっていると言われています。同和問題（部落差別）をはじめとするあらゆる人権問題を解決するためには、相談体制の充実とともに、地域等において人と人とのつながりを感じられる取組も推進していく必要があります。

ア 自分のことを理解してくれる人がある



年齢別にみると、「そう思う」の割合は、年齢層が低いほど高くなっています。性別でみると、女性の「そう思う」の割合が男性より高く、「その他」の方は「そう思わない」が27.3%であり、男性・女性と比べて非常に高くなっています。

イ 今の生活に満足している



年齢別にみると、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合は、すべての年齢層で約8割となっており、ほとんど差異はありません。一方、性別でみると、「その他」の方は「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」を合わせた割合が45.5%であり、男性・女性と比べて非常に高くなっています。

第6節 自由記述について

問27 人権教育・人権啓発について、ご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。また、最近のインターネット上の人権侵害について、ご意見などがございましたら、ご自由にお書きください。

※抜粋意見は、文意を変えない範囲で原文を一部変更しています。

- ・ 昨今では、あらゆる事が便利に情報発信できる時代になり、善き発信が可能になる一方で、個人が特定されないSNS上で、顔のみえない様々な不適切発言や、根拠のない差別を誘発する発言や嫌がらせも猛スピードで増えています。
人は産まれる場所や、親を自分で選択することはできません。産まれた環境の中で、自分を磨き、限られた人生の時間で限られた人との出逢いの中で、生きる喜びを見つけ、たくさん笑顔で過ごせるよう努めます。悲しい書き込みを見て泣く為に命を授かったわけではありません。結婚差別をされるために産まれてきたわけでもありません。
人権を尊重しあい、一人ひとりが生きる喜びを感じ、輝く未来は必ずきます。その為には、あらゆる差別の解消に向けての取組を止める事なく歩み続ける事が一番重要だと思っています。行政頼りではいけませんが、行政のリードのスキルが高い大分市は市民の意識も高く誇りのもてる自治体です。これからも共に全力で差別ゼロの市を目指し大分市から全国へ解消を推進していきましょう!!
- ・ 学校のPTAで行った講演会がすごく良かったので、もっと身近に人権問題と関わりあえたら良いと思いました。子育て中ですが、自分の事を見つめ直す事も出来て、余裕も持てるようになりました。でも、時がすぎると忘れてしまうので...また機会があれば行きたいと思います。
- ・ 私は、LGBT (Q) の当事者です。男女の交際が「普通」、「当たり前」という考えは出来るだけやめよう!!ということを経験などで機会があれば、子どもたちに教えてあげてほしいです。そして、少しでも多くの人に、LGBT (Q) のことを知ってほしいですし、私たちLGBT (Q) の当事者たちも、少しでも理解者が増えてくれたらとても嬉しいですし、今よりも、もっと生活しやすくなると思います。少しでも差別がなくなるようになってほしいです。
- ・ 小学生の子どもがいます。学校の道徳や施設などの資料を活用して学習する機会があるのは私の子どもの頃とはまた違っているかなと思います。
知る機会を持つことは大切だと思います。時代の変化に対応しながらLGBTやSNSなどの問題については子どもや若い世代よりも大人の方がもっともっと知ることが大切だと思います。難しい事ですが意識したいと思います。
- ・ ホルトホール大分にある、人権啓発センター（ヒューレおおいた）の施設は、低学年の子どもと見学しましたが、展示などととてもよくできていて勉強になりました。

- ・ 差別は、人権が守られないところから生まれる。それだけに人権教育、人権啓発は大切なことである。あらゆる時、あらゆる場でそれを試みるのが重要である。特に子どもの家庭における親の考え方が大きく左右されるが、足りない面を補っていくのが学校であり、地域であろう。それだけに大人の人権感覚が大切である。公民館、PTA、会社等を通してその機会を多くもち、啓発活動を充実してもらいたいものです。
- ・ 人権教育、啓発は、いささかも後退してはならない。緩めば、差別や人権侵害事案が増えていく可能性が高い。国や県、市が率先して、人権教育、啓発を推進していくことが大切である。
- ・ 難しい問題、判断に迷う問題も多々ありましたが、やはり、人は皆、尊い大切な人格であると思います。差別は長い歴史の中で人がつくった事ですから、人々の考えが変わっていけば、時間はかかってもなくすことができると思います。自分が差別される側に立ってみる、相手の立場に立って考えてみる“想像力”が大切だと感じます。このアンケートを通じて、考える時間を与えて頂きました。有難うございました。
- ・ 何度か、公民館主催の人権講座に参加しました。毎回、講座を聞くたびに差別について考えさせられます。人は一人一人顔が違うように、性別も生まれた場所も違うのはあたりまえのことです。一人一人がもう一度、差別の事を考え、自分がされていやな事（傷つく事）をしないように心がけていけば少しずつ差別はなくなって住みよいようになっていくと思います。
- ・ 人権問題は、市報などで目にする事が多々あるが、身近に感じる事が少なかった。いつ自分が差別する側、差別される側になるかもわからない。だからこそ、定期的に人権問題について触れ、身近な問題として向き合っていく必要があると強く感じている。
- ・ 私は県外出身で、就職のために大分市に住むようになりました。
私が住んでいた県では、大分市ほど人権についての講演会や啓発等は行われていなかったように思います。学校の授業でも少ししか教わらなかったような気がします。
差別をなくすことは簡単にできることではないと思いますが、そんな中でも啓発を続けて、一人でも多くの方が「差別をなくそう」と思い、行動していくことが大切だと思います。
- ・ ネット上の人権侵害に関しては、“表現の自由”等のからみをどの様に教えればよいか、もっと討論されるべきだと思います。また明らかに人権侵害にあたる内容に関しては、発信者の責任がきちんと問えるように法整備すべきだと思います。
- ・ 問13のようなコロナ感染者や医療従事者への差別は許されないと思います。
みんなでこういう方々を守っていくべきだと思います。

